西ノ上遺跡（2）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

2019

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第651集
西ノ上遺跡(2)
八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集
二〇一九
国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

西ノ上遺跡（2）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

2019

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

八ッ場ダムは、首都圏の利水、治水を主な目的として吾妻川の中流に建設される多目的ダムです。ダム建設に伴う発掘調査は平成６年度から始まり、本年で25年目を迎えることになります。四半世紀に及ぼうとする調査研究の積み重ねによって、この地を拓き、地域を発展させてきた先人の営みが、徐々に明らかになってきています。

本書は長野原町大字川原湯にありました西ノ上遺跡の平成27年度から29年度にかけての発掘調査に関する調査報告書であります。この地域に特徴的な遺構である天明三年浅間山噴火に伴う泥流下の畑と、この地域では比較的珍しい、縄文時代晩期末から弥生時代前期の土器を伴う土坑などが中心です。

この遺跡につきましては、平成14年度に遺跡北部を発掘調査しており、平成17年度にその成果を報告しておりますが、今回の調査を併せると、度重なる自然災害に立ち向かって郷土を発展させ続けた先人たちの力強い営みが、まさに眼前に浮かび上がって参ります。

郷土の歴史研究に、またこれからの地域発展のために、本書をご活用いただければ幸いに思います。

また、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、さらに、地元の皆様に心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成31年２月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長　　中 野 三 智 男

例　言

1　本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う西ノ上遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の第２冊である。
第１冊は国土交通省・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集・八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第４集　久々戸遺跡（２）・中棚Ⅱ遺跡（２）・西ノ上遺跡・上郷Ａ遺跡」として刊行されている。

2　遺跡の名称および所在地
西ノ上遺跡(にしのうえ　いせき)　　群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上329ほか

3　事業主体　国土交通省

4　調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　発掘調査の期間・組織
平成27年度　　期間　平成27年10月１日～ 12月31日　　面積　8,633㎡
担当　主任調査研究員　藤井義徳・小野　隆
平成28年度　　期間　平成29年３月１日～３月31日　　面積　8,002㎡（表土掘削のみ）
担当　八ッ場ダム調査事務所調査資料部長　齊藤利昭
平成29年度　　期間　平成29年４月１日～６月30日・平成30年１月９日～１月17日　　面積　13,372㎡
担当　主任調査研究員　唐沢友之・石田　真・宮下　寛　調査研究員　山本直哉　専門調査役　小野和之

6　整理等作業の期間・担当者
期間　平成30年４月１日～５月31日　専門調査役　石坂　茂　同４月１日～７月31日　専門調査役　洞口正史

7　平成30年度整理等作業の組織
整理担当　石坂　茂・洞口正史　　金属製品保存処理　専門員　板垣泰之・専門調査役　関　邦一

8　本報告書作成関係者
報告書編集　専門調査役　洞口正史
報告書執筆　第２章第６節・第３章第２節　石坂　茂　第２章第７節第２項　竹原弘展((株)パレオラボ)
その他　洞口正史
遺物観察　縄文・弥生土器　石坂　茂　　石器・石製品　資料２課長　津島秀章
土師器・須恵器　専門調査役　佐藤元彦　中・近世陶磁器　専門調査役　大西雅広
金属器・金属製品　専門員　板垣泰之
遺物写真撮影　縄文・弥生土器　石坂　茂　　石器・石製品　津島秀章　中・近世陶磁器　大西雅広
金属器・金属製品　板垣泰之

9　調査・分析委託等
埋蔵文化財遺跡掘削工事(平成27・28・29年度)
歴史の杜・吉澤建設・南波建設　吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
遺構測量　　平成27・29年度　株式会社測研　　一部縄文土器実測　(株)シン技術コンサル

10　資料保管等
本発掘調査の出土遺物のうち、本書に掲載したものおよび調査図面、写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11　謝辞

本報告書作成にあたり、下記の諸機関、諸氏にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。

国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所　群馬県教育委員会　長野原町教育委員会　川原湯区

凡　例

1　本書で使用する測量図の座標は、日本測地系による。図上の方位は座標北を示す。

2　遺構図および遺物図の縮尺は基本的に下記によるが、広域にわたる畑や長大な溝等を対象とする事が多いため、紙幅の範囲内で、遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮率を選択した。各図幅には縮尺を注記するとともに、縮尺を示すスケールを付した。また、遺物図と遺物写真は基本的に同縮尺としたが、対象の形状により異なる場合がある。また、遺構写真および遺物細部の拡大写真等は任意縮尺である。

遺構図　対象発掘区全体図　1：1500　　発掘区内部分図　1：200／1：250　同詳細図　1：80／1：100

個別遺構図　1：60　同詳細図　1：20

遺物図　石鏃・銭貨等　1：1　　石匙・石核・砥石・刀子・釘等　1：2

中型石器・土器片等　1：3　　土器・大型石器等　1：4　　大型土器等　1：6／1：8

3　遺物写真の番号は、遺物実測図および遺構図中の遺物番号と一致するが、写真のみを掲載し、出土位置の記載や実測図掲載を行っていない遺物もある。

4　一覧表中の計測値は、それが推定値あるいは残存部の実測値である場合には(　)を付した。

5　土層、土器の色調はともに「新版標準土色帳」を基準色として慣用名を使用することとしているが、必ずしも統一されていない。

6　図に使用したスクリーントーンは以下を示す。

攪乱　　焼土　　炭・炭化物

7　本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院　1：200,000地勢図「長野」　1：50,000地形図「草津」　1：25,000地形図「長野原」

目　　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　西ノ上遺跡の発掘調査 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経過 …… 1
　第２節　発掘調査の経過 …… 1
　第３節　地理的・歴史的環境 …… 2
　第４節　発掘調査の対象と方法 …… 7
　　第１項　発掘調査の対象及び方法 …… 7
　　第２項　発掘区とグリッド …… 9
　　第３項　基本土層と調査面 …… 11

第２章　調査された遺構と遺物 …… 16
　第１節　概要 …… 16
　第２節　第１面の調査 …… 16
　　第１項　第１面の概要 …… 16
　　第２項　復旧坑 …… 16
　　第３項　１号炭窯 …… 27
　第３節　第２面の調査 …… 29
　　第１項　第２面の概要 …… 29
　　第２項　畑 …… 31
　　第３項　平坦面 …… 73
　　第４項　ヤックラ・２号炭窯 …… 77
　　第５項　道・溝・石垣 …… 84
　第４節　第３面の調査 …… 97
　　第１項　第３面の概要 …… 97
　　第２項　畑 …… 97
　　第３項　土坑 …… 98
　　第４項　焼土 …… 100
　　第５項　第１～３面出土遺物 …… 102
　第５節　第１～３面遺構一覧表・遺物観察表 …… 104
　第６節　第４面の調査 …… 112
　　第１項　第４面の概要 …… 112
　　第２項　掘立柱建物とピット状遺構 …… 113
　　第３項　土坑 …… 115
　　第４項　遺構外の出土遺物 …… 137
　第７節　自然科学分析報告 …… 148

第３章　調査のまとめ …… 151
　第１節　天明泥流下畑の調査 …… 151
　第２節　縄文時代末葉～弥生時代前期の土坑群について …… 156

写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第1図　西ノ上遺跡位置図(国土地理院1/200,000地勢図「長野」使用)・・2
第2図　西ノ上遺跡と周辺の遺跡(国土地理院1/25,000地形図「長野原」使用)・・・

第126図　第４面　土坑７ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
第127図　土坑出土遺物１（１・８・12・14・17・25号土坑） ・・・・ 130
第128図　土坑出土遺物２（20・23・31 ～ 33・35 ～ 38・45・49・52・63号土坑）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
第129図　土坑出土遺物３（63・64・74・78・81・82号土坑） ・・・・ 133
第130図　遺構外出土遺物１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第131図　遺構外出土遺物２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
第132図　遺構外出土遺物３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第133図　黒曜石産地分布図（東日本） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
第134図　黒曜石山地推定判別図（１） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
第135図　黒曜石山地推定判別図（２） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
第136図　壬申地券地引絵図　西ノ上・西ノ下部分抜粋 ・・・・・・・ 152
第137図　西ノ上遺跡天明泥流下畑と壬申絵図番付けの対比想定 ・・ 153

表　目　次

第１表　西ノ上遺跡周辺遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第２表　第１面　復旧坑１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第３表　第１面　復旧坑２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第４表　第１面　復旧坑３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第５表　第１面　復旧坑４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第６表　第１面　１号炭窯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第７表　第２面　畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第８表　第２面　平坦面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第９表　第２面　２号炭窯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第10表　第２面　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第11表　第２面　石垣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第12表　第２面　ヤックラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第13表　第２面　道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第14表　第２面　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第15表　第３面　畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第16表　第３面　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第17表　第３面　焼土・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第18表　陶磁器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第19表　石製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第20表　金属製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第21表　第４面　掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第22表　第４面　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第23表　第４面　土坑１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
第24表　第４面　土坑２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
第25表　土坑出土遺物観察表１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
第26表　土坑出土遺物観察表２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
第27表　土坑出土遺物観察表３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
第28表　遺構外出土遺物観察表１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
第29表　遺構外出土遺物観察表２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
第30表　遺構外出土遺物観察表３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第31表　縄文・弥生土器の胎土分類１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第32表　縄文・弥生土器の胎土分類２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
第33表　遺構外出土剥片石材別数・重量一覧・・・・・・・・・・・・・・・ 146
第34表　土坑出土土器数量一覧（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
第35表　遺構外出土土器数量一覧（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・・・ 147
第36表　分析対象の黒曜石製剥片類一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
第37表　東日本黒曜石産地の判別群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
第38表　測定値および産地推定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
第39表　壬申絵図と真享検地帳の畑記載対比・・・・・・・・・・・・・・・ 154
第40表　壬申絵図記載畑と天明泥流下畑の面積対比・・・・・・・・・・・ 155

写真目次

PL. 1　1　遺跡遠景　平成27年度調査（５～９号復旧坑群）　北から
2　遺跡遠景　平成27年度調査　北から
3　遺跡遠景　平成27年度調査　南から
4　基本的な土壌堆積　南から
PL. 2　1　1号～４号復旧坑群　西から
2　1号～４号復旧坑群　上から南
PL. 3　1　1号・２号復旧坑群　東から
2　1号復旧坑群北部　南から
3　1号復旧坑群北部　西から
4　1号復旧坑群南部断ち割り状況　北から
5　1号復旧坑群南部断面　西から
PL. 4　1　2号・３号復旧坑群北部　南西から
2　2号・３号復旧坑群北部　西から
3　2号・３号復旧坑群南部　西から
4　3号復旧坑群北部　南から
5　2号～４号復旧坑群南部　南東から
6　2号～４号復旧坑群南部　東から
7　4号復旧坑群　東から
8　5号・６号復旧坑群　南から
PL. 5　1　7号～９号復旧坑群と第３区画畑南部　上が東
2　5号・８号復旧坑群　東から
3　5号復旧坑群と畑　東から
4　5号・６号復旧坑群と畑　西から
5　5号～８号復旧坑群　南から
PL. 6　1　8号復旧坑群と畑　西から
2　7号復旧坑群東端部断面　北から
3　7号復旧坑群断面　西から
4　8号復旧坑群断面　西から
5　1号炭窯　東から
6　1号炭窯　西から
7　1号炭窯煙道部　東から
8　1号炭窯底部　西から
PL. 7　1　第２面　平成29年度調査　上が北
2　第１～３・８・９区画畑　西から
3　第１・２区画畑　２号道　北から
4　第２区画畑東部　南東から
5　第３区画１号～３号墳　北東から
PL. 8　1　第３区画４号畑以西　北東から
2　第３区画４号畑以西　東から
3　第３区画５号畑以東・第４・５区画　西から
4　第３区画６号・７号墳　北から
5　第３区画４号～６号墳・第９区画畑　東から
6　第３区画７号墳　北から
7　第３区画７号・８号墳・第９区画　北から
8　第３区画３号墳断面　西から
PL. 9　1　第３区画４号畑断面　東から
2　第３-第10区画間断面　北から
3　第３区画８号畑断面　北から
4　第３区画８号墳断面Ａライン　東から
5　第３区画８号畑断面Ｂ　東から
6　第３区画８号墳断面Ｃ　東から
7　第３区画８号墳断面Ｄ　東から
8　第３区画８号墳断面Ｅ　西から
PL. 10　1　第３区画８号墳Ｆ・Ｇ断面調査状況　北から
2　第３区画８号墳断面Ｆ　西から
3　第３区画８号墳断面Ｇ　西から
4　第３～第７区画畑　北から
5　第３～第７区画畑　南から
6　第４区画畑　北から
PL. 11　1　第４区画畑・第５区画畑西部　上が北
2　第５区画畑東部　１号石垣・１号溝
PL. 12　1　第５区画畑東部　北東から
2　第５区画畑東部　東から
3　第５区画畑断面Ａ　東から

	4	第６区画畑断面Ａ　西から
	5	第６区画畑断面Ｂ　西から
	6	第６区画畑断面Ｃ　西から
	7	第６区画畑断面Ｄ　西から
	8	第７区画畑北部　南東から
PL.13	1	第７区画１号畑　南西から
	2	第７区画１号畑断面　南西から
	3	第７区画２号畑　北から
	4	第７区画２号畑　南西から
	5	第７区画２号畑断面　南から
	6	第７区画３号・４号畑　北から
	7	第８・９区画畑　東から
	8	第９区画畑と第３区画畑　北から
PL.14	1	第９区画３号畑　北東から
	2	第９区画４号畑　北西から
	3	第10区画１～３号畑　上空南
	4	第10区画１号畑　北から
	5	第10区画１～３号畑　南東から
	6	第10区画３号畑　南東から
	7	第10区画３号畑　南から
PL.15	1	第10区画５号畑　南東から
	2	第10区画５号畑　南から
	3	第10区画５号畑　南東から
	4	第10区画１号畑断面　西から
	5	第10区画２号畑断面　西から
PL.16	1	第10区画５号畑断面　西から
	2	第11区画畑　西から
	3	第11区画畑断面　西から
	4	第12区画畑　東から
	5	５号平坦面　南から
	6	６号平坦面　南から
	7	８号平坦面　南から
	8	９号平坦面　南から
PL.17	1	10号平坦面　北東から
	2	10号平坦面　北西から
	3	12号平坦面　北から
	4	１号ヤックラ　北から
	5	１号ヤックラ断面　西から
	6	３号・４号ヤックラ　西から
	7	３号ヤックラ　西から
	8	４号ヤックラ　西から
PL.18	1	７号ヤックラ上面　北から
	2	７号ヤックラ下面　北から
	3	７号ヤックラ断面調査状況　北から
	4	７号ヤックラ断面　西から
	5	７号ヤックラ出土遺物
PL.19	1	１号道　東から
	2	１号道　北から
	3	２号道　東から
	4	１号～３号道　西から
	5	４号道　北から
	6	５号道　北東から
	7	５号道　南から
PL.20	1	５号道断面Ａ　北から
	2	５号道断面Ｂ　北から
	3	６号道・３号石垣　北から
	4	６号道・３号石垣　東から
	5	３号石垣　北から
	6	７号道　北から
	7	８号道　北から
	8	８号道　南から
PL.21	1	10号道　西から
	2	11号道　北から
	3	12号道　東から
	4	12号道断面　西から
	5	１号溝・１号石垣　南西から
	6	１号溝・１号石垣　南西から
	7	１号溝・１号石垣　西から
PL.22	1	２号炭窯　北から
	2	２号炭窯上部　西から
	3	２号炭窯煙道部拡大　西から
	4	２号炭窯　北から
	5	３号畝畑　北から
PL.23	1	３号畝畑　北から
	2	３号畝畑　南東から
	3	３号畝畑　東から
	4	３号畝畑断面　南東から
	5	３号土坑　南から
	6	３号土坑断面　南から
	7	４号土坑　南から
	8	４号土坑断面　南から
PL.24	1	６号土坑　南から
	2	６号土坑断面　南から
	3	55号土坑　北から
	4	55号土坑断面　東から
	5	59号土坑　北から
	6	59号土坑断面　南から
	7	65号土坑　南から
	8	65号土坑断面　北から
PL.25	1	66号土坑　南東から
	2	66号土坑断面　南西から
	3	67号土坑　北から
	4	67号土坑断面　南から
	5	69号土坑　北から
	6	69号土坑断面　北西から
	7	85号土坑　北から
	8	85号土坑断面　北から
PL.26	1	91号土坑　北から
	2	91号土坑断面　北から
	3	92号土坑　西から
	4	92号土坑断面　東から
	5	94号土坑　西から
	6	94号土坑断面　東から
PL.27	1	１号焼土断面　南から
	2	１号焼土除去後　南から
	3	２号焼土断面　南から
	4	２号焼土除去後　東から
	5	３号焼土　北から
	6	３号焼土断面　西から
	7	４号焼土西部　北から
	8	４号焼土東部　西から
	9	４号焼土断面　東から
	10	５号焼土　北から
	11	５号焼土断面　西から
	12	６号焼土　北から
	13	６号焼土断面　北から
	14	７号焼土　北から
	15	７号焼土断面　西から
PL.28	1	８号焼土　北から
	2	８号焼土断面　西から
	3	第１～３面出土遺物
PL.29	1	１号掘立柱建物P1　東から
	2	１号掘立柱建物P1断面　南西から
	3	１号掘立柱建物P2　東から
	4	１号掘立柱建物P2断面　南西から
	5	１号掘立柱建物P3　南から
	6	１号掘立柱建物P3断面　南から
	7	１号掘立柱建物P4　南から
	8	１号掘立柱建物P4断面　南から
	9	１号ピット　東から
	10	１号ピット断面　東から
	11	６号ピット　西から

12　6号ピット断面　西から
13　7号ピット　東から
14　7号ピット断面　東から
PL.30　1　8号ピット断面　西から
2　9号ピット　南から
3　10号ピット　南から
4　10号ピット断面　南から
5　11号ピット　南から
6　11号ピット断面　南から
7　33号ピット断面　南西から
8　1区番号不明ピット　南から
9　1号土坑　南から
10　1号土坑断面　北から
PL.31　1　2号土坑　南から
2　2号土坑断面　南から
3　5号土坑断面　南から
4　7号土坑　南から
5　7号土坑断面　南から
6　8号土坑　東から
7　8号土坑断面　東から
8　8号土坑遺物出土状況　西から
PL.32　1　9号土坑　北から
2　9号土坑断面　東から
3　10号土坑　西から
4　10号土坑断面　南から
5　11号土坑　南から
6　11号土坑断面　南から
7　12号土坑　南西から
8　12号土坑断面　南西から
PL.33　1　13号土坑　東から
2　13号土坑断面　南西から
3　14号土坑　東から
4　14号土坑断面　東から
5　14号土坑遺物出土状況　東から
6　15号土坑　南から
7　15号土坑断面　西から
8　16号土坑　南から
PL.34　1　16号土坑断面　南西から
2　17号土坑　南から
3　17号土坑断面　南から
4　18号土坑　西から
5　18号土坑断面　西から
6　19号土坑　南から
7　19号土坑断面　南から
8　20号土坑　西から
PL.35　1　20号土坑断面　南から
2　21号土坑　南から
3　21号土坑断面　南から
4　22号土坑　南から
5　22号土坑断面　南から
6　23号土坑　西から
7　23号土坑断面　南から
8　24号土坑　南から
PL.36　1　24号土坑断面　南から
2　25号土坑　西から
3　25号土坑断面　西から
4　25号土坑遺物出土状況　西から
5　26号土坑　西から
6　26号土坑断面　東から
7　27号土坑　北から
8　27号土坑断面　東から
PL.37　1　28号土坑　北から
2　28号土坑断面　南から
3　29号土坑　西から
4　30号土坑　西から
5　30号土坑断面　南から
6　31号土坑　西から
7　31号土坑断面　西から
8　32号土坑　南から
PL.38　1　33号土坑　西から
2　33号土坑断面　南から
3　33号土坑遺物出土状況　南から
4　34号土坑　西から
5　35号土坑　北から
6　35号土坑断面　北から
7　36号土坑　西から
8　36号土坑断面　北から
PL.39　1　37号土坑　西から
2　37号土坑断面　南から
3　38号土坑　西から
4　38号土坑断面　南から
5　39号土坑　西から
6　39号土坑断面　南から
7　40号土坑　東から
8　40号土坑断面　西から
PL.40　1　41号土坑　西から
2　41号土坑断面　西から
3　42号土坑　西から
4　42号土坑断面　西から
5　43号土坑　西から
6　43号土坑断面　西から
7　44号土坑　南西から
8　45号土坑　南から
PL.41　1　45号土坑断面　南西から
2　46号土坑　南から
3　47号土坑　南から
4　47号土坑断面　南西から
5　48号土坑　東から
6　48号土坑断面　南から
7　49号土坑　南西から
8　49号土坑断面　南から
PL.42　1　50号土坑　南から
2　50号土坑断面　西から
3　51号土坑　西から
4　51号土坑断面　東から
5　52号土坑　南から
6　52号土坑断面　南から
7　53号土坑　南から
8　53号土坑断面　南から
PL.43　1　54号土坑　南から
2　54号土坑断面　南から
3　56号土坑　東から
4　57号土坑　西から
5　56・57号土坑断面　東から
6　58号土坑　西から
7　58号土坑断面　西から
8　60号土坑　南から
PL.44　1　60号土坑断面　南から
2　61号土坑　北から
3　61号土坑断面　東北から
4　62号土坑　北から
5　62号土坑断面　東から
6　63号土坑　南から
7　63号土坑断面　南東から
8　63号土坑遺物出土状況　南から
PL.45　1　63号土坑遺物出土状況　南から
2　64号土坑　西から
3　64号土坑断面　北から
4　64号土坑遺物出土状況　東から
5　68号土坑　南西から
6　68号土坑断面　南西から
7　70号土坑　南から

	8	70号土坑断面　南から
PL.46	1	71号土坑　北から
	2	71号土坑断面　南西から
	3	71号土坑礫出土状況　西から
	4	72号土坑　東から
	5	72号土坑断面　西から
	6	73号土坑　南西から
	7	73号土坑断面　南から
	8	74号土坑　西から
PL.47	1	74号土坑断面　西から
	2	75号土坑　西から
	3	75号土坑断面　西から
	4	76号土坑　西から
	5	76号土坑断面　西から
	6	77号土坑　西から
	7	77号土坑断面　西から
	8	78号土坑　西から
PL.48	1	78号土坑断面　西から
	2	79号土坑　西から
	3	79号土坑断面　西から
	4	80号土坑　西から
	5	80号土坑断面　西から
	6	81号土坑　西から
	7	81号土坑断面　西から
	8	82号土坑　西から
PL.49	1	82号土坑断面　西から
	2	83号土坑　西から
	3	83号土坑断面　北から
	4	84号土坑　西から
	5	84号土坑断面　南から
	6	86号土坑　北から
	7	86号土坑断面　西から
	8	87号土坑　北から
PL.50	1	87号土坑断面　西から
	2	88号土坑　北から
	3	88号土坑断面　西から
	4	89号土坑　北から
	5	89号土坑断面　北から
	6	90号土坑　北から
	7	90号土坑断面　北から
	8	93号土坑　東から
PL.51	1	93号土坑断面　東から
	2	95号土坑　北から
	3	95号土坑断面　東から
	4	土坑出土遺物１
PL.52	1	土坑出土遺物２
PL.53	1	土坑出土遺物３
PL.54	1	遺構外出土遺物１
PL.55	1	遺構外出土遺物２

第１章　西ノ上遺跡の発掘調査

第１節　発掘調査に至る経過

八ッ場ダムは、洪水調節、流水機能の正常な維持、都市用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムとして、吾妻川中流の群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字八ッ場および大字川原湯字金花山に建設されている。昭和24年に利根川改修改定計画の一環として立案され、昭和27年には建設準備のための調査が着手されたが、紆余曲折を経て本格的な着工は平成４年を待つことになる。

ダム建設地域内のうち、長野原町内の文化財に関しては、町教育委員会が昭和61年から文化財総合調査計画を策定し、自然環境や民俗、石造文化財、古文書、昔話等の調査を行うとともに、埋蔵文化財の詳細分布調査も行った。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査は、平成６年３月18日に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で締結された「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」により計画が決定し、建設省関東地方建設局長を委託者とし、群馬県教育委員会教育長を受託者とする発掘調査受委託契約が締結されて、以後発掘調査が実施されることとなる。この協定は現在まで４回の変更を行いつつ、継続されている。

西ノ上遺跡は　群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上329ほかに所在する。本調査は八ッ場ダム建設工事に伴う水没地区内埋蔵文化財の記録保存調査であり、平成27年度から平成29年度にかけて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。総対象面積は22,005㎡である。

なお、平成14年度に今回発掘区の北に接する部分において千歳橋下部工事事業に伴う発掘調査が行われ、今回の調査で発見された天明三年浅間山噴火に伴う泥流(以下天明泥流)と連続する遺構が調査されている。

第２節　発掘調査の経過

平成27年度発掘は調査担当者２名により、10月１日から開始された。発掘開始時点では埋蔵文化財包蔵地としての範囲が確定しない部分があったため、北東部の１区と命名した部分から着手し、遺構確認調査の進展によって順次南東部の２区から南西部の３区へと発掘を進めた。東部では天明泥流下の畑、道、石垣や平坦面、ヤックラ及び炭窯の残痕を確認した。西南部はより高位の段丘面に当たり、天明泥流が相対的に薄いためであろう、復旧坑群の掘削による耕地再建が図られた状況が広く認められた。ここではさらに下面においても畑や縄文時代のものを含む土坑、ピット群を発掘している。

平成28年度発掘は４月から５月にかけて及び翌年１月の２回に分けて行った。春期の発掘は担当者２名によって、前年発掘区に引き続く３区の残部分と遺跡北西部にあたる４区の調査を行った。３区では復旧坑群や天明泥流下面の畑、道が発掘され、４区では天明泥流下面の畑が広く見いだされ、平坦面、「ヤックラ」などが発掘された。遺跡北東部の５区でもトレンチ発掘により天明泥流下の畑を確認した。

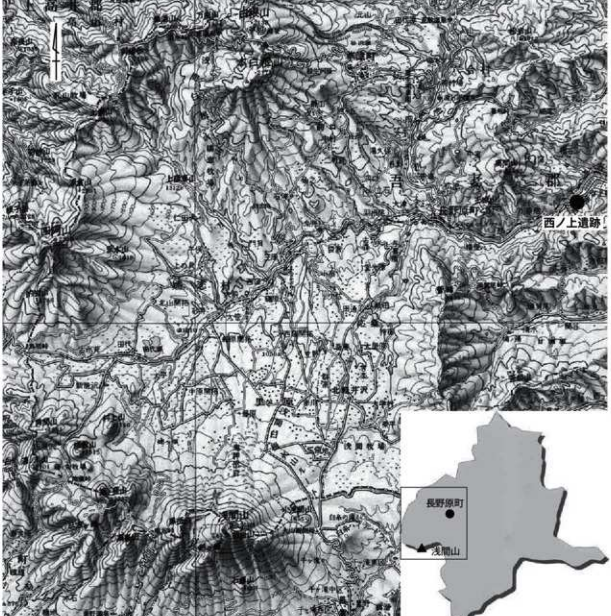
平成29年１月には、調査担当者３名により、発掘区北西部の６区を対象に発掘を行った。４区西部に連続する部分ではヤックラを、遺跡西端では天明泥流以後に築かれた炭窯を発掘したほか、３区西側の尾根上で遺構確認調査を行い、本遺跡の発掘を終了した。

調査日誌抄
平成27年
10月１日　調査開始　発掘区の設定　伐採
10月７日　１区表土掘削　天明泥流下遺構確認
10月13日　１区泥流下畑調査
10月20日　１区天明泥流下面全景空撮
10月21日　１区泥流下面畑以下トレンチ
10月27日　１区３面上坑等調査開始
10月30日　１区３面以下のトレンチ調査
11月５日　２区天明泥流下面空撮
11月６日　２区泥流下畑・ヤックラ断ち割り
　　３区表土掘削
11月13日　２区復旧坑群調査
11月20日　３区復旧坑群・天明泥流下面空撮
11月24日　２・３区泥流下畑断ち割り
12月２日　２・３区泥流下畑断ち割り

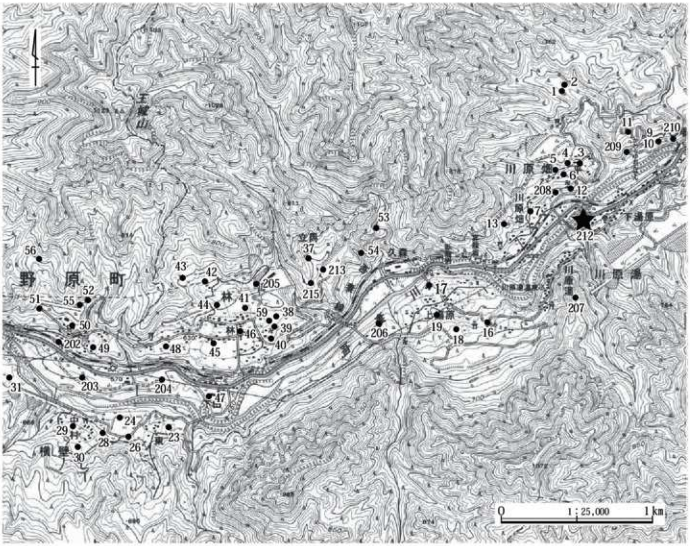
12月10日　２・３区復旧坑群・天明泥流下面空撮
12月16日　２・３区３面以下上坑等調査
　　３区３面畑調査
12月18日　２・３区３面上坑群等空撮
12月28日　調査終了
平成28年
４月３日　辞令交付
４月４日　調査現場確認
４月７日　測量打ち合わせ
４月10日　表土掘削開始
　　天明泥流下面遺構確認
４月12日　４区　天明泥流下畑調査
　　３区　復旧坑群調査
４月19日　５区　試掘トレンチ調査
４月20日　３・４区全景写真空撮
４月21日　４区　泥流下畑以下トレンチ調査
４月27日　３区　泥流下面以下の遺構確認
５月８日　３区　上坑・ピット等調査
　　４区　ヤックラ断ち割り
５月11日　３・４区３面精査　上坑等調査
５月24日　現場資材撤収
５月25日　３・４区埋め戻し開始
５月29日　５区埋め戻し
５月30日　現場事務所撤去
平成29年
１月９日　６区調査開始　トレンチ掘削開始
１月12日　炭窯・ヤックラ調査開始
１月18日　炭窯掘り方調査
　　資材撤収　調査終了

第３節　地理的・歴史的環境

西ノ上遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上にある。長野原町は群馬県の北西部、吾妻郡の南西隅に位置し、吾妻郡草津町、嬬恋村、中之条町、東吾妻町



第１図　西ノ上遺跡位置図　（国土地理院1:200,000地勢図「長野」使用）



第２図　西ノ上遺跡と周辺の遺跡(国土地理院1:25,000地形図「長野原」使用)

及び高崎市と境を接し、長野県境にもあたっていて、同県北佐久郡軽井沢町と接する。那須火山帯と富士火山帯の接点近くにあるため、周囲には火山が多く、北西の草津白根山、本白根山、南西の浅間山はともに現在も活発な活動を見せている。

町の北部を吾妻川が東流する。吾妻川は長野県境の鳥井峠付近に源を発し、東流して渋川市で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川で、町の中央付近では川幅がやや広がるが、東隣の東吾妻町にかけては第三紀層を刻んで、急峻な渓谷地形となる。「関東の耶馬渓」とも呼ばれ、国の名勝にも指定されている吾妻渓谷である。

吾妻川両岸には、４段の河岸段丘面が形成されている。西ノ上遺跡は長野原町の北東に位置し、吾妻川右岸の中位段丘上に立地する。標高約520～545mの北向きの傾斜面地であり、遺跡地内には小さな段丘が形成されていて、東西に延びる２面の狭い平坦面上に遺構が分布する。北辺は吾妻川に落ちる比高30mほどの段丘崖により画される。遺跡の西は大沢、東は打越沢に区切られ、南は急傾斜の尾根が連なっている。

周辺の遺跡および本遺跡にかかわる歴史的環境の詳細については、既刊のハッ場ダム関連各遺跡の調査報告に詳しいため、各時代の主要遺跡を第２図及び第１表に掲げ、概要を述べるに留める。旧石器時代遺跡は未確認であるが、縄文時代の遺跡は比較的濃密な分布を示し、草創期から晩期に至る各時期の遺跡が認められている。縄文時代草創期、早期の遺跡は吾妻川左岸で認められる。石畑岩陰、楡木Ⅱ遺跡では表裏縄文など草創期の土器片が出土しており、石畑岩陰は大規模な岩陰遺跡として、今後の本調査の成果が期待される。早期では楡木Ⅱ遺跡、立馬Ⅱ遺跡などで撚糸文、押型文、多縄文系土器がみら

第１表　西ノ上遺跡周辺遺跡一覧

町遺跡番号	大字	遺　跡　名	時代	報告書等
1	川原畑	温井Ⅰ遺跡	縄文・平安	
2	川原畑	温井Ⅱ遺跡	縄文	
3	川原畑	三平Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安	群理文303集2003、401集2007
4	川原畑	三平Ⅱ遺跡	縄文・平安	群理文401集2007
5	川原畑	上ノ平Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世・現代	群理文440集2008
6	川原畑	上ノ平Ⅱ遺跡	縄文・平安	
7	川原畑	西宮遺跡	縄文・近世	
9	川原畑	石畑Ⅰ岩陰	縄文	
10	川原畑	石畑Ⅱ岩陰	不明	
11	川原畑	二社平岩陰	不明	群理文303集2003
12	川原畑	三ツ堂岩陰	不明	
13	川原畑	西宮岩陰	不明	
16	川原湯	中原Ⅰ遺跡	縄文	
17	川原湯	石川原遺跡	縄文・平安・近世・近代・現代	群理文640集207
18	川原湯	川原湯中原Ⅱ遺跡	平安	
19	川原湯	川原湯中原Ⅲ遺跡	縄文・平安	
23	横壁	横壁勝沼遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
24	横壁	横壁中村遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文319集2003、355集2005、368集2006、381集2006、406集2007、436集2008、439集2008、488集2010、492集2010、526集2012、559集2013、587集2014
26	横壁	山根Ⅰ遺跡	縄文・平安	長野原町「長野原町誌」1976
28	横壁	山根Ⅱ遺跡	平安・近世	
29	横壁	山根Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文303集2003、429集2008
30	横壁	山根Ⅳ遺跡	縄文・平安	
31	横壁	西久保Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
37	林	立馬Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文388集2006
38	林	東原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅵ・Ⅶ」2006・2007、群理文502集2010
39	林	東原Ⅱ遺跡	縄文・平安・中世・近世	群理文502集2010
40	林	東原Ⅲ遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ・Ⅶ」2004・2007、群理文502集2010
41	林	上原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	群理文303集2003、長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ・ⅩⅢ」2007・2013
42	林	上原Ⅱ遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013、群理文429集2008
43	林	上原Ⅲ遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013
44	林	上原Ⅳ遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅢ」2003・2007・2010・2013、群理文429集2008、549集2012
45	林	林中原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ・ⅩⅠ」2003・2004・2005・2006・2007・2009・2011、「林中原Ⅰ遺跡Ⅳ」2010、群理文586集2014
46	林	林中原Ⅱ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ」2004・2005・2006・2007・2009・2011、群理文617集2016
47	林	下田遺跡	平安・近世	群理文303集2003
48	林	林宮原遺跡	縄文・古墳・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ」2003・2004・2005・2007・2009・2010、「林宮原遺跡Ⅱ」2004、「林宮原遺跡Ⅷ」2011、群理文604集2016
49	林	中棚Ⅰ遺跡	縄文・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013
50	林	楡本Ⅰ遺跡	縄文・平安	群理文549集2012
51	林	楡本Ⅱ遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002、群理文432集2008、458集2009
52	林	二反沢遺跡	縄文・古墳・中世・近世	群理文379集2006
53	林	久森沢Ⅰ岩陰群	不明	
54	林	久森沢Ⅱ岩陰	不明	
55	林	滝沢観音岩陰	不明	
56	林	蜂ッ沢岩陰	縄文	
59	林	林の御塚	近世	吾妻教育事務所「吾妻郡誌」1906、群理文303集2003
202	林	楡本Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文303集2003
203	林	中棚Ⅱ遺跡	縄文・弥生・近世	群理文319集2003、群理文349集2004
204	林	下原遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	群理文319集2003、群理文389集2007
205	林	花畑遺跡	縄文・平安	群理文303集2003
206	川原湯	川原湯勝沼遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003、356集2005、462集2009、466集2009
207	川原湯	金花山鹿跡	中世	
208	川原畑	東宮遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002、群理文303集2003、514集2011、536集2012
209	川原畑	二社平遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003
210	川原畑	石畑遺跡	縄文・弥生・近世	群理文303集2003
212	川原畑	西ノ上遺跡	近世	群理文349集2004　651集2019（本書）
213	林	立馬Ⅱ遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文375集2006
215	林	立馬Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安	群理文457集2009

れる。また、近年調査された居家以岩陰遺跡では埋葬人骨も発見されている。前期では立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡、三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡などで前半期の遺構、遺物がみられるが、後半期の調査例は林中原Ⅰ遺跡で竪穴建物が、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡や川原湯勝沼遺跡などで土坑が見つかっているものの、前期に比して少なくなる。中期に至ると、吾妻川を挟んで対峙するように立地する長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡など、多数の竪穴建物や列石などで構成される大集落が営まれる。林中原Ⅱ遺跡も中期後半から後期にかけての大集落である。後期後半以後になると遺跡数は激減する。横壁中村遺跡では集落が継続するものの、他では晩期に至るまで、遺構・遺物ともに少数例にとどまる。本遺跡で確認された晩期後半の遺構・遺物は、この地域では今まで知られておらず、貴重な資料となった。

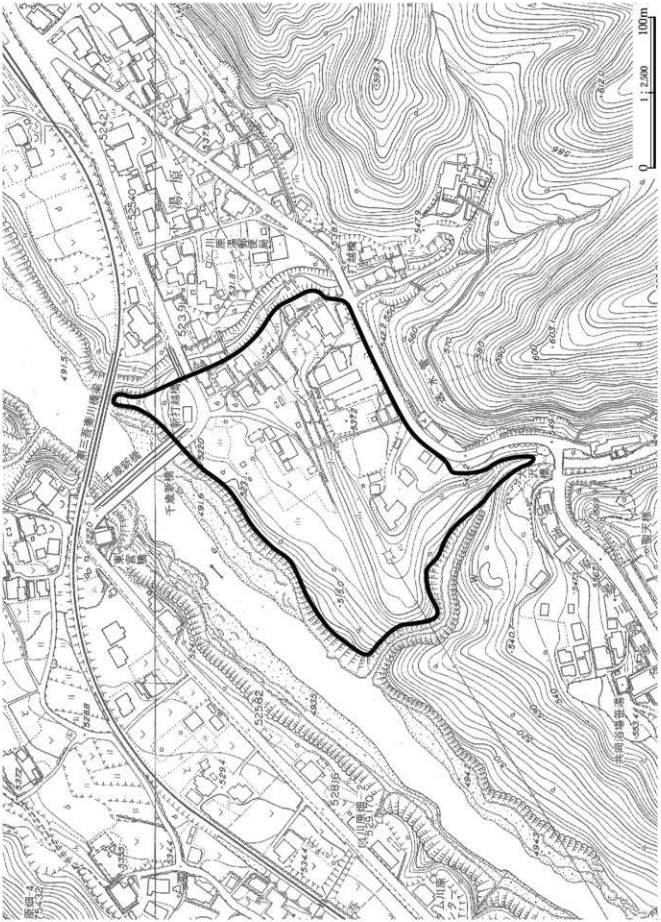
弥生時代の遺跡も引き続き乏しく、遺構としては川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の再葬墓、立馬Ⅰ遺跡の合わせ口甕棺墓、向原遺跡の土坑など、弥生時代前期から中期前葉の墓がみられるのみである。横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡では弥生土器の出土がみられ、弥生時代前期、中期前半の土器破片が散在的に認められるものの、居住にかかわる遺構は見つかっていない。弥生時代中期後半から古墳時代、奈良時代も遺跡は希薄で、古墳は認められず、上原Ⅰ遺跡で古墳時代前期のＳ字状口縁台付甕を伴う竪穴建物、上原Ⅳ遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡で後期の竪穴建物がわずかに見つかっている程度である。

集落が再びそれとして認められるようになるのは、平安時代になってからのことである。上ノ平Ⅰ遺跡、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、二社平遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅰ遺跡、山根Ⅲ遺跡、石川原遺跡等々がある。中でも楡木Ⅱ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡でそれぞれ30棟以上の竪穴建物が調査されていて、一定規模の集落が営まれたことがわかる。時期的にはどの遺跡においても９世紀後半から10世紀を中心としており、湧水をよりどころに営まれるのが一般的傾向のようである。上原Ⅲ遺跡や三平Ⅰ遺跡では鍛冶遺構も見つかっており、集落内に鍛冶工房があったことがわかる。上ノ平Ⅰ遺跡における炭化種実では、住居内からオオムギ・コムギやアワが多出し、イネはわずかしか見られないことから、イネ以外に主食穀物を求めた集落であったものと考えられた。また、陥穴の多くもこの時期に比定されていて、居住域と一体となって機能していたものとされる。中央小学校敷地内からは良い造りの瓦塔が出土しており、集落内寺院の存在も示唆される。

中世の遺跡としては城館跡がよく知られている。金花山砦跡、柳沢城跡、長野原城跡、丸岩城跡、羽根尾城跡や林城跡が交通の要衝に設けられた。川原湯温泉の起源が建久四(1193)年の源頼朝による三原巻狩りに際しての発見であったとの伝承も忘れてはならない。横壁中村遺跡でも石垣を伴う館跡が調査されていて、柳沢城との関連が考えられている。三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、林中原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、下原遺跡、二反沢遺跡、楡木Ⅱ遺跡、尾坂遺跡などでは掘立柱建物や土坑、畑が調査されている。また、二反沢遺跡では羽口や鉄滓など製鉄関連遺跡も検出されている。墓坑の中でも、宋銭のみを出土し、人骨の残りが非常に悪い墓坑は中世にさかのぼる可能性が指摘されている。

近世を代表するのは天明三(1783)年浅間山噴火に伴う火山堆積物に埋もれた遺跡である。吾妻川の段丘面中位、下位は広くこれに覆われていて、被災遺跡は枚挙にいとまない。本遺跡においても、緩斜面部には天明泥流下の畑遺構が認められた。この地域の天明泥流下畑の主要作物は麻であろうと考えられている。また、これ以前の洪水災害で埋没した畑遺構の調査例も増えていて、本遺跡でも年代決定はできないものの、天明泥流下畑の耕土下から部分的ではあるが畑遺構が見いだされている。また、当遺跡では見つからなかったが、当時の姿をほうふつとさせる屋敷跡が東宮遺跡、西宮遺跡、下田遺跡、楡木Ⅰ遺跡、尾坂遺跡、町遺跡、小林家屋敷跡、石川原遺跡などで調査されている。

貞享三(1686)年の川原湯村検地水帳によると、本遺跡の所在する大字川原湯には18町７反５畝16歩の農地があるが、田はなく、上畑２町８畝８歩、中畑３町６畝９歩、下畑４町９反６畝７歩、下々畑８町６反４畝22歩という構成で、必ずしも豊かな村ではない。さらに当遺跡の範囲にかかわると思われる「西ノ上」「西下」を見ると、上畑、中畑はなく、総耕地面積７反９畝29歩のうち、下畑４反１畝２歩、下々畑３反８畝27歩となっている。今回天明泥流下畑を発掘した面積は6,387.93㎡、平成14年度発掘分1,226.3㎡と合わせると7,614.23㎡、７反６畝24歩相



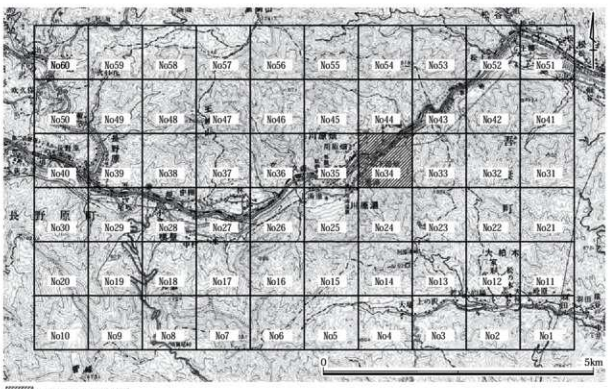
第3図　西ノ上遺跡周辺の地形と調査区

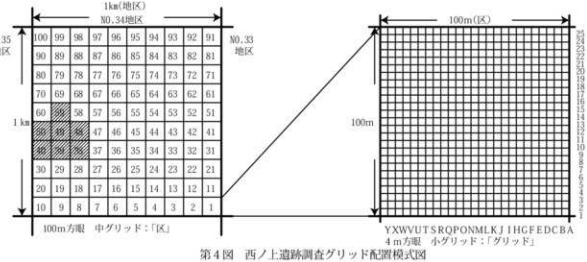
当となる。「西ノ上」「西下」の耕地96％を発掘したことになる。天明浅間山噴火については噴火・災害・復旧復興のプロセスが、八ッ場ダム地域の発掘調査成果の寄与もあって、詳細に解明されつつある。本遺跡においても、８月の大噴火に先行する小噴火がもたらした火山灰に覆われた畑を鋤き返したり、泥流災害被災後には、堆積が比較的薄い畑に溝群を掘削して復旧を図ったりするなどの活動痕跡が調査されている。

第４節　発掘調査の対象と方法

第１項　発掘調査の対象及び方法

発掘調査の対象とする埋蔵文化財の種類、年代は、「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」に従うが、浅間山天明泥流が堆積する地域であるため、同基準４－（１）－１）－②－ウ）により、近世に属する遺跡、特に浅間山天明泥流災害被災遺構、およびこの災害に対する復興の様相を示す「復旧坑」と呼ばれる土坑群等についても、発掘調査対象としている。調査における遺跡番号は、八ッ場





第４図　西ノ上遺跡調査グリッド配置模式図

ダム建設に関わる長野原町の大字５地区（１：川原畑、２：川原湯、３：横壁、４：林、５：長野原）、東吾妻町の大字３地区（６：三島、７：大柏木、８：松谷）に番号を付し、ハッ場ダムの略号（YD）に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡に対して調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。西ノ上遺跡は「YD ２－02」である。

発掘作業は、バックホーにより、表土及び天明泥流を除去した後、ジョレンや移植ゴテを用いた発掘に移行した。土層観察に当たっては試掘溝や土層観察畦を設定した。遺物は、遺構に伴うもの以外は地点別に取り上げている。出土遺物の洗浄、注記は外部業者に委託している。

遺構測量は、測量業者委託によるデジタル測量を基本として、縮率は1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。遺構写真は現場担当者により、デジタルカメラ（平成27年度：Canon EOS Kiss X5・29年度：Canon EOS 6D）と６×７版モノクロネガフィルムを使用して撮影したほか、委託業者による航空写真撮影（ラジコンヘリコプター使用）、並びにドローン使用による高所写真撮影を行った。

整理等作業は平成30年４月１日から７月31日まで、群馬県渋川市北橘町の群馬県埋蔵文化財調査事業団本部において実施した。このうち５月31日までは職員２名、６月１日からは職員１名が報告書編集作業を担当した。

遺構については、図面の修正・編集作業後デジタル編集を行い、併せて遺構写真の選定を行った。

遺物については、出土位置の確認、接合・復元、掲載遺物の選定、写真撮影、実測、トレース及び編集作業を行うとともに、観察表の執筆を行った。なお、縄文時代遺物の一部について、実測図作成及び採拓を専門業者に委託している。

これら一連の作業後、本文執筆、レイアウト作成、全体のデジタル編集および組版を行い、印刷・製本を委託して発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物及び図面・写真等の調査記録については、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

第５図　西ノ上遺跡発掘調査時の調査区

第２項　発掘区とグリッド

発掘調査に当たっての基準座標は、国家座標(2002年４月改正以前の日本測地系)に基づく平面直角座標第Ⅸ系(日本測地系)を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点(座標値X=+58000.0、Y=-97000.0)とした１km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。さらに、１km方眼を南東隅から100m方眼の１～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を１とし、東から西へ連続する10単位を南から北へ配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。「区」の100m方眼は、さらに４m方眼で625区画に分割され、その４m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には１～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としグリッドを呼称する。これに従うと西ノ上遺跡は、34地区の38～40・48～50・59区にまたがる。

先述の通り調査開始時点では埋蔵文化財包蔵地としての範囲が確定しない部分があり、その時点において埋蔵文化財包蔵地であることが確定していた北東部を１区と命名して先行着手した。調査の進行により以後の２区から６区の発掘区名称が付され、現場採取図面、写真、遺物取り上げに際してはこの発掘区が基本単位とされている。しかし、遺構名や番号が区をまたいで通番で付けられている場合と、区ごとに新たな番号を付与している場合、あるいは遺構名称が付されていない場合とが混在していることや、発掘区界が地形や遺構内容と関係せず、同一畑面が複数区にまたがる場合などがあるため、本書での位置表示に当たっては発掘区名を用いずにグリッド表示とした。なお、遺構図や本文中の記載においては、特に混乱が予想されない場合は地区及び区の番号を略している。これに伴って遺構番号等の付け替えも行った。出土遺物、写真、図面等の注記やデータ名称については発掘時点での発掘区名称が使用されているため、発掘区名称を第５図に示し、遺構一覧表に発掘時の遺構名称を付記した。

また、今回報告部分は平成14年度調査区と接するため、必要に応じてこの時の調査成果である遺構図面等を参照・掲載しつつ記載を行った。

第６図　西ノ上遺跡の土層図・高低図採取位置図

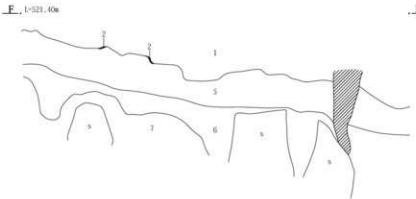
第７図　天理泥流下面高低図１

第８図　天明泥流下面高低図２

第３項　　基本土層と調査面

この地域の地質・土壌を特徴付けるのが天明三年浅間噴火に伴う堆積物である。尾根上にある断面Ｎ～Ｒラインを除いて、表土直下には天明泥流が堆積する事が観察されている。平成14年度調査では、泥流が吾妻川上流から下流に向けて流下していること及び、場所により10cmから180cmまで堆積厚の差があることが報告されている。今次の調査における泥流の層厚記載を見ると、北側の下段部に設けられたＬラインでは115cm、南側の上段に設けられたＪラインでは35～40cmとなっている。Ｍラインでは上位の攪乱が激しいため、泥流厚の評価が難しいが、現地表までを見ても35cmほどである。参考に平成14年度発掘区における堆積状況をＦ・Ｇ・Ｈラインとして示したが、これを併せてみると、下段でも吾妻川上流に当たる西側がやや薄く、東側に厚い堆積が見られること、吾妻川から南に離れるに従って薄くなることが観取される。

調査の実施に当たっては、現表土(Ⅰ層)から上記天明泥流層(Ⅱ層)までを掘削重機により一括除去し、泥流下面を露出させることを第１段階とし、発掘区第１面としてカウントしている。この面には泥流に覆われていた泥流到達直前の旧地表面と、明らかに後出の遺構である、天明泥流被災後に耕地復旧を行った痕跡である復旧坑群との２者が混在する事になるため、本報告書では天明泥流流下後の遺構を第１面として扱う。

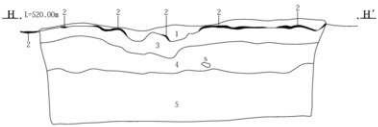


平成14年度調査報告書より転載　（図49　１号畑断面V-V'）

F-F'
1　天明泥流(層厚70～90cm)
2　As-A軽石(径１～２mm白色軽石。久々戸・中耀遺跡などで検出された軽石に比べ粒径がやや小さい)
5　灰褐色土　やや砂質。径１～５cmの亜角礫を少量含む。鉄分の沈着が若干見られる。
6　暗黄褐色土　砂質強い。径３～20cmの亜角礫を少量含む。炭化物を少量含む。
7　黄褐色土　砂質強い。径30～39cmの亜角礫をやや多く含む。

平成14年度調査報告書より転載　（図52　５号畑断面I-I'）

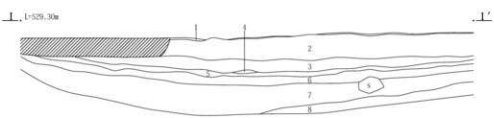
G-G'
1　天明泥流(層厚80cm)
2　As-A軽石
3　暗灰色土　やや粘性あり。径１～３cmの円礫を少量含む。鉄分の著しい沈着が板状に見られる。
4　灰褐色土　やや砂質。径３～30cmの円礫を多く含む。
5　暗黄褐色土　やや砂質。径５～30cmの円礫を非常に多く含む。



平成14年度調査報告書より転載　（図59　11号畑断面U-U'）

H-H'
1　天明泥流(層厚1.6m)
2　As-A軽石
3　褐灰色土　やや砂質。鉄分の沈着が著しい。
4　灰褐色土　やや砂質。径１～２cmの亜角礫を少量含む。
5　黒褐色土　径１～５cmの亜角礫を少量含む。

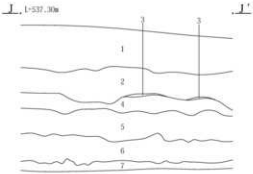
0　1:20　50cm



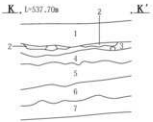
0　1:60　2m

I-I'
1　As-A軽石
2　暗褐色土　10YR3/4　小礫が少量混じる。締まり強く粘性あり。
3　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色粒を１％含む。径５～10mmの礫を２％含む。締まり強い。
4　にぶい黄褐色土　10YR5/4　粗い砂質。水流の痕跡か。
5　黒褐色土　10YR1/3　黄褐色粒を１％含む。締まり強い。
6　暗褐色土　10YR3/3　径５～20mmの礫を５％含む。締まり強くやや粘性あり。
7　黒褐色土　10YR2/2　径５～20mmの礫を３％含む。硬く締まる。
8　にぶい黄褐色土　10YR4/3　締まり強く粘性あり。

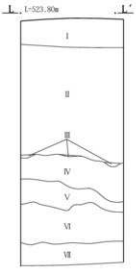
第９図　調査区の土層堆積状況１



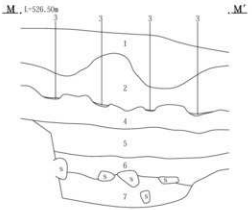
J-J'
1　灰黄褐色土　10YR4/2　現代の耕作土
2　暗褐色土　10YR3/3　天明泥流
3　As-A軽石
4　褐色土　10YR4/4　径５～10mmの礫を５％含む。山崩れか洪水起源と思われる。下層の３面畑を埋めた土で、もろく崩れやすい。
5　灰黄褐色土　10YR4/2　３面畑の耕作土。径５～10mm程度の礫を３％含む。締まりやや強い。
6　黒褐色土　10YR2/2　５層が少量混じる。締まりやや強く粘性あり。
7　黒褐色土　10YR3/2　にぶい黄褐色土と６層の混土。締まり強くやや粘性あり。



K-K'
1　黒褐色土　10YR3/2　天明泥流下畑の耕作土。黄褐色粒を僅かに含む。硬く締まる。
2　黒褐色土　10YR3/2　にぶい黄褐色砂粒を30％含む。締まり強い。
3　黒色土　10YR1/2　黄褐色粒を僅かに含む。締まりやや強く粘性あり。
4　黒褐色土　10YR2/2　径５mmの黄褐色ブロックを２％含む。５～10mm程度の礫を１％含む。締まり強い。
5　黒色土　黄褐色粒を２％含む。締まり強くやや粘性あり。縄文時代遺物包含層。
6　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粒を２％含む。締まり強い。
7　黒褐色土　10YR3/2　明黄褐色土を20％、５～10mmの礫を３％含む。



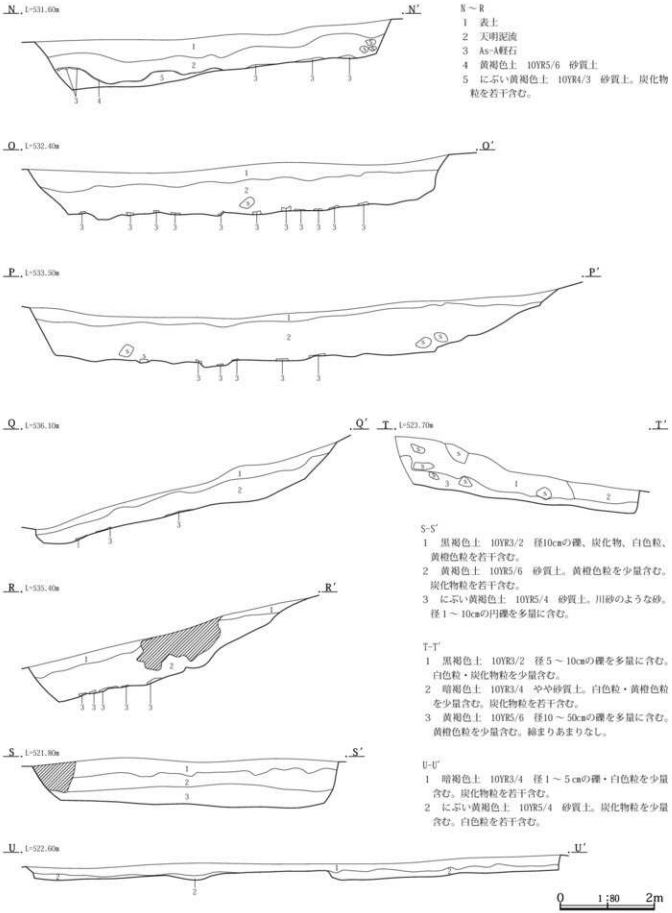
L-L'
1　黒褐色土　表土
2　黒褐色土　天明泥流
3　灰白色土　As-A軽石
4　暗褐色土　若干の小礫を含む。鉄分凝集がみられる。締まりあり。
5　明灰褐色土　若干の鉄分凝集がみられる。粘質土。
6　黄褐色土　若干の礫を含む。締まりあり。
7　明黄褐色土　若干の礫を含む。VI層に似るがやや明るい色調。締まりあり。



M-M'
1　黒褐色土　10YR3/1　径10～80mm程度の礫を多く含む。ややもろい。現耕作土
2　天明泥流
3　As-A軽石
4　暗褐色土　10YR3/3　径５～10mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘質。天明畑耕作土
5　黒褐色土　10YR3/3　径３～８mm程度の礫を少量含む。強く締まる。やや粘質。
6　暗褐色土　10YR3/3　径30～200mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。
7　黄褐色土　10YR5/6　径10～100mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。

0　1:40　1m

第10図　調査区の土層堆積状況２



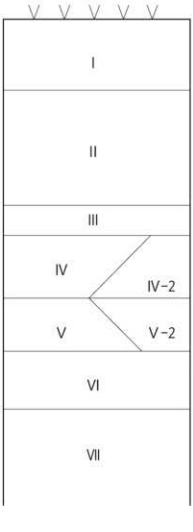
第11図　調査区の土層堆積状況３

天明泥流下には白色のAs-A軽石(Ⅲ層)が堆積する。粒径１～５㎜程度のものが多いが、大きなものでは径15㎜前後のものもある。層厚は５㎜前後であるが、畑の畝間溝内には堆積が顕著に見られる部分がある。As-A軽石下は、暗褐色から黒褐色土の畑耕作土が主体となる(Ⅳ層)。発掘区上段では礫混じりの黒褐色土や締まりの弱い褐色土で、降雨等による斜面の崩壊土と考えられる層もある(Ⅳ-2層)。下段では部分的に鉄分凝集が見られる。平成14年度調査では、畑土壌が褐灰色から灰褐色土で、グライ化や板状の強い鉄分凝集がみられること、また、畑土壌下にAs-A軽石を挟む部分があり、軽石降下と泥流の到達の間に畑の再耕作が行われたこと、また畑土壌内にごく薄い灰白色火山灰層があって、８月の大噴火以前の降灰後にも土壌堆積や耕作行動があったものと想定されている。本書では、これら天明泥流及びAs-A軽石に覆われた遺構を第２面として扱う。

第２面の畑耕作土下は、発掘区下段では黒褐色から暗褐色土が主体となる(Ⅴ層)。上段の斜面崩落土を主体とする褐色土を泥流下畑の耕土とする部分があって、この下では灰黄褐色土層が下層の畑遺構を覆っている(Ⅴ-2層)。この畑を第３面の遺構とする。発掘区東部の断面図１ラインでは黒褐色土中に流水痕跡を示すにぶい黄褐色の砂層が認められている。沢に挟まれた傾斜地にあるために、斜面崩落や、洪水による堆積が繰り返されていたのであろう。出土遺物には近世の陶磁器の他、宋銭も見られるため中世から近世に相当しよう。

この下層には小礫を含む暗褐色～黒褐色土が堆積している(Ⅵ層)。下段では粘質の明黄褐色土や砂質の灰褐色土が見られる場所もあって、安定した土壌環境ではなかったかもしれない。土坑、ピットが調査されている。時期を確定しがたい物も多いが、縄文時代から弥生時代の遺物を含むものがある。これらを第４面の遺構とした。

以下は礫を含む黄褐色～暗黄褐色土が堆積する地山である。(Ⅶ層)。旧石器時代の遺物は確認されていない。



第12図　標準土層模式図

第２章　調査された遺構と遺物

第１節　概要

本書で報告する遺構は、第１面の復旧坑９群236基、炭窯１基、第２面畑12区画32面、平坦面12か所、ヤックラ12か所、道12条、溝１条、溝状遺構１条、石垣３か所、第３面の畑１区画１面、土坑13基、焼土８か所、第４面の掘立柱建物２棟、ピット状遺構23基、土坑82基である。

第１面、天明泥流上面の復旧坑は発掘区南側の上位面にのみあり、比較的泥流堆積の薄い部分を対象に行われた復旧行動の痕跡として捉えられる。狭い範囲ながら坑の長短、広狭が異なるものがある点が注目される。

第２面の天明泥流下面では発掘区のほぼ全面に畑が広がり、地形に沿って作られた道や石垣でこれが区切られる。畝幅には広狭２者があり、畑面には円形の平坦面や畝・畝間溝が認められない部分があって、それぞれ何らかの作業痕跡を示すものと考えられる。畑の隅には開墾時や耕作中に除いた礫を集積したヤックラが作られている。先述の通り、今回報告する発掘区の北接地が平成14年度に発掘され、本報告の第２面畑に連続する畑が調査されている。この調査では耕作土とAs-A降下軽石及び火山灰の堆積状況の詳細な観察によって、降灰から泥流に埋没するまでの農作業の経過が追われている。また、畑面の一部に残された植物遺体の観察から、作物としてアワ、ヒエなどの雑穀を想定している。

１面の復旧坑、２面の畑面や耕土中、ヤックラの集石内などからは中・近世の陶磁器、石臼や塔婆などの石造物等が出土しているが、遺構に伴うものではない。

第３面の畑は上位発掘区の第２面畑耕土下で確認されたものだが、確認された範囲が狭く、２面畑と対比することは難かしい。時期を判定する材料にも乏しいが、中世末から近世初期の所産と考えられる。土坑・ピットには、この時期に帰属するものと、縄文時代・弥生時代に帰属するものの両者が見られる。周辺遺跡でも確認例の乏しい、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器の出土が目を引く。

第２節　第１面の調査

第１項　第１面の概要

ここでは浅間山天明噴火からの復興・復旧にかかる遺構として、「復旧坑」と通称される土坑群及び泥流上面に築かれた炭窯を報告する。

復旧坑は耕地などを覆った泥流等の上面から、溝状あるいは土坑状に掘削を行い、覆土下の旧表土、旧耕土を覆土上の地表面に掘り上げて新たな耕土とする一方、掘削した土坑中に覆土である泥流等の土砂を埋め込むことによって土壌改良を行った耕地復旧の痕跡である。噴火による泥流災害に限らず、厚い降灰、あるいは洪水等を原因とする土砂の被覆からの耕地復旧にあたって、広く採用された方法である。

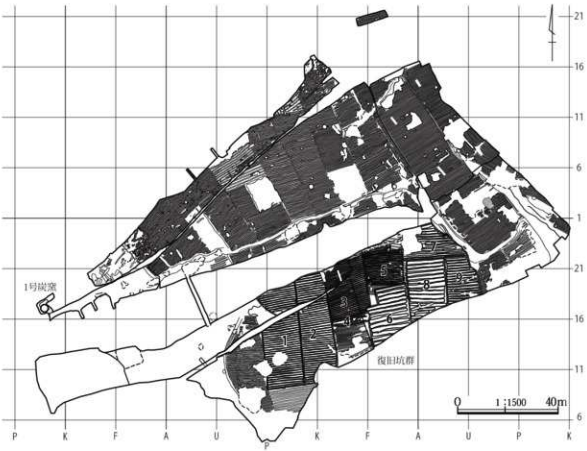
前橋市から伊勢崎市、玉村町にかけての利根川沿いの遺跡では、天明泥流災害への対応として掘削された復旧坑が整然と、一面に広がる光景が見られる。計画的、組織的に行われた復旧事業の遺跡である。一方、本遺跡およびその周辺では、天明泥流が厚く堆積しているためであろうか、広域に渡る耕地をこの方法によって復旧するという状況は、さほど顕著には認められない。本遺跡における復旧坑の特徴も、泥流堆積が薄い、発掘区上位部に限って限定的に見られるにとどまることにある。また、比較的狭い範囲であるにもかかわらず、復旧坑の幅に広狭があるなど統一性を欠く。さらに、この地域での天明噴火被災後の耕地復旧は、被災前の地割りを踏襲して行われたことが知られていて、本遺跡においてこれが当てはまるものと見られるが、隣接畑でありながら復旧坑が見られない部分もある。

第２項　復旧坑

発掘区の南部は天明泥流下面での標高532.6～542.63ｍほどあって、北部より３ｍほど高い。泥流の堆積厚については記載がないが、北部に比すれば泥流は比較的薄かったものと思われるこの部分に、復旧坑群が見られる。

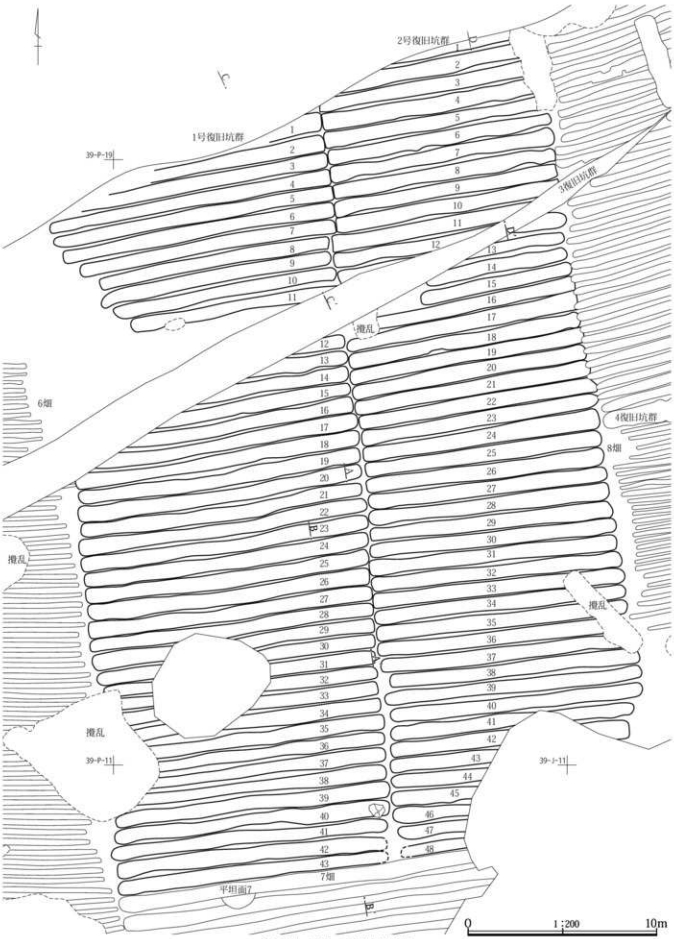
確認された西端は39区Ｐライン、東端は38区Ｔライン、南端は39区９ライン、北端は38区25ラインにある。各復旧坑は長軸を東西に置いた狭長な土坑状を呈する。これが南北に連続して一群を形成する。この復旧坑群が東西に並ぶ。西から東に向かって１号から９号復旧坑群として記載を進める。なお、後述の通り４号復旧坑群は性格を異にするものと考えている。

各復旧坑の天明泥流下面における幅には広狭があり、１号・２号及び８号・９号復旧坑群が0.8m前後であるのに対し、３号・５号復旧坑群では0.5m前後、６号・７号復旧坑群では1.3～1.4mを示している。深さ、断面形状に関する記載は乏しいが、断面形状は上部がやや開いた箱形ないし鍋形で、耕土獲得のために底部を掘り広げるなどの行為は見られない。なお、各復旧坑の計測値は第２～５表にまとめた。天明泥流下畑との関係を見ると、１号復旧坑群の西には第10区画２号畑があって、この畑の畝間溝東端は復旧坑群に切られずに完結し、かつ畝間溝の方向と復旧坑の方向がほぼ等しい。ただし、この部分の復旧坑群南辺は第10区画３号畑の北端の畝間溝と平行して接するように、１号復旧坑群と２号復旧坑群をつなぐかのような長い復旧坑が掘られるように表現されており、かつこれが平坦面７のちょうど半分ほどを切っている。10区画３号畑は西に接する同区画２号畑とは畝幅が異なっているので、復旧坑が破壊した泥流下畑とは異なる地割りを構成していたものと考えられる。こうしたことから、１号復旧坑群は第10区画畑の地割りと畝方向を踏襲しつつ形成されたものと思われる。３号復旧坑群が南にある10区画４号畑に達しないのも、４号畑が４号復旧坑群を介して以北とは異なる地割りに属していたことによるものであろう。一方、５号、７号復旧坑群部分では溝間に残った痕跡から泥流下面畑と復旧坑の方向が大きく異なることが観取される。また、同じく第10区画５号畑の上面に当たってこの畑を切っている５号復旧坑群と６号復旧坑群は、幅も、長軸方位も異なる。

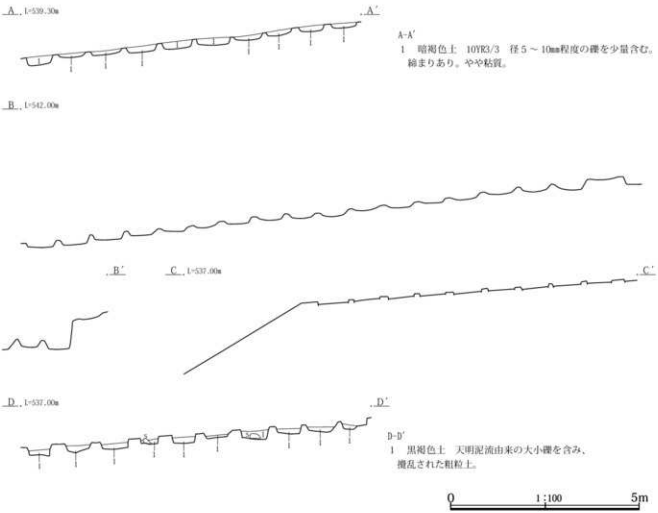


第13図　第１面遺構位置図

0
1:400
20m
第14図　復旧状況図



第15図　１号・２号復旧坑群

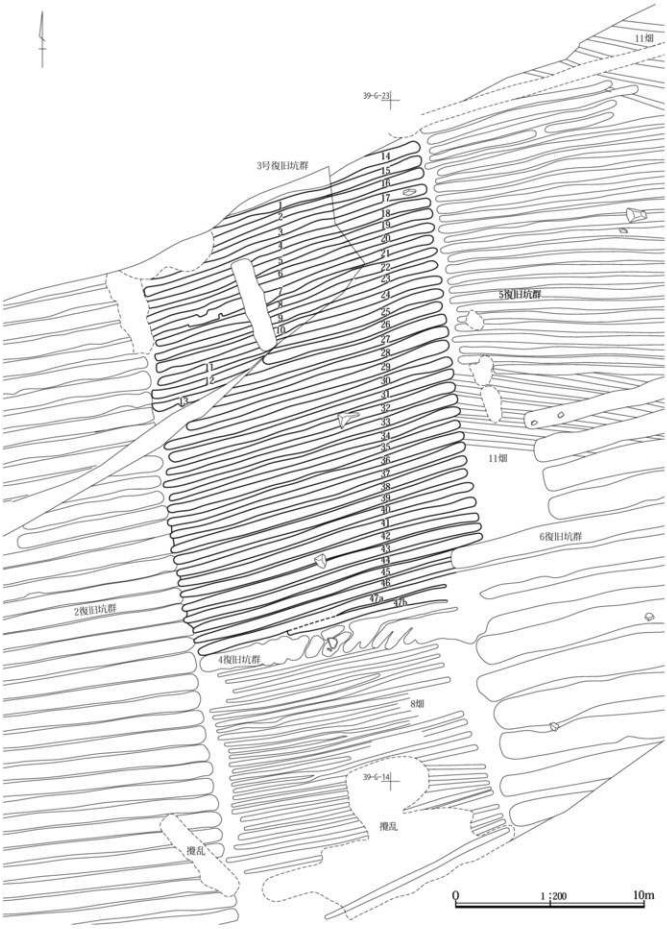


第16図　１号・２号復旧坑群断面図・高低図

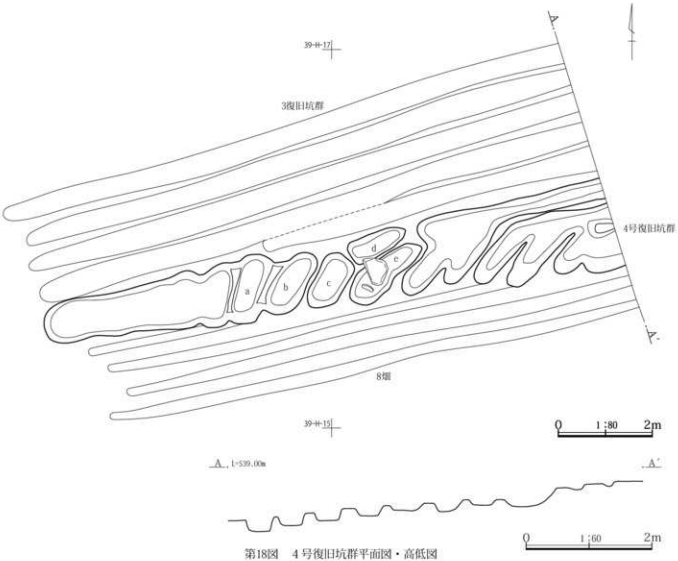
ここでは泥流下地割りと復旧坑群が必ずしも一致しない。比較的狭い範囲でありながら、復旧坑のあり方には差違があり、復旧坑掘削の方法や手順、作業の単位や労働力編成に何らかの違いがあったものとも想定される。

１号復旧坑群　39-Ｌ～Ｐ-９～23グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあって一部明瞭さを欠くが、南北40.6m間に、長軸方位をN-79～85°-E前後とほぼ東西に置く44条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は15.45m。最南端の44号復旧坑は２号復旧坑群に連続し、東部が攪乱に切られて全景は不明であるが残存長は19mを越える。西辺は10区画２号畑に接するが、同畑の畝間溝はこの復旧坑群に切られずに完結する。東は２号復旧坑群と接する。１号復旧坑群の各復旧坑の東端と２号復旧坑の各復旧坑西端がほぼ接しているが、切り合わない。北辺は崖線に達して確認できなくなる。南辺は44号復旧坑で10区画３号畑と画されることになるが、44号復旧坑は12号平坦面の北半を切る。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長15.45m、幅0.82mであり、想像をたくましくすれば、掘り込み上面で幅３尺(90cm)の標準形が意識されていたものかもしれない。泥流下の旧地表面から15～35cmほどの深さまで掘り込まれており、断面形状は上部がやや開いた箱形ないし鍋形で、攪乱された泥流で埋まっている。下位の畑痕跡は認められない。

２号復旧坑群　39-Ｉ～Ｌ-10～20グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあるが、各復旧坑の連続性は確認されている。南北43.4m間に、長軸方位をN-82°-E前後とほぼ東西に置く48条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は13.6m。西辺は１号復旧坑群と接するが切り合わない。東辺は北部が３号・４号復旧坑群と接し、南部は第10区画４号畑とやや間隔を置いて接する。写真を見ると２号復旧坑群と３号



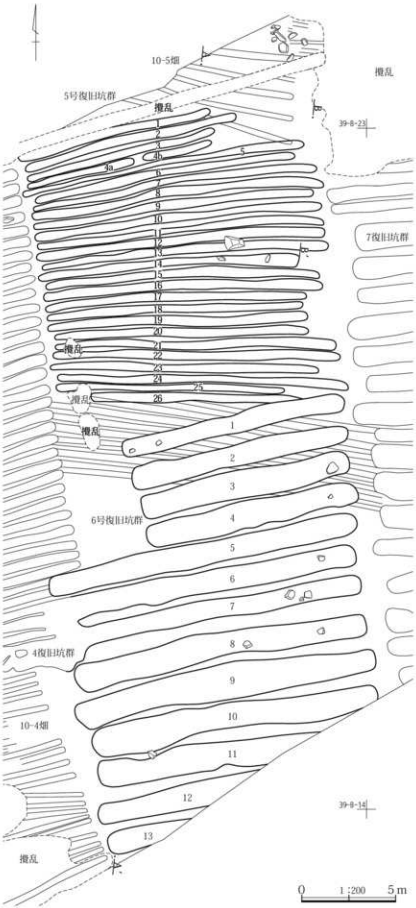
第17図　３号・４号復旧坑群



第18図　４号復旧坑群平面図・高低図

復旧坑群の間には小さな段差があって、相互の切り合いを確認することができないが、図では２号復旧坑群35号～46号復旧坑が２号復旧坑群15号～23号復旧坑を切るように表現される。南辺は過半が発掘区外となるが、西部では西から連続する１号復旧坑群44号復旧坑に画される。北辺は崖線に達して確認できなくなる。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長12.74m、幅0.83mを測る。泥流下の旧地表面から10～27cmほどの深さまで掘り込まれており、断面形状は上部がやや開いた浅い箱形。攪乱された泥流で埋まっている。１号復旧坑群よりやや短いものの、規模、形状、方位ともによく似ている。下位の畑痕跡は認められない。

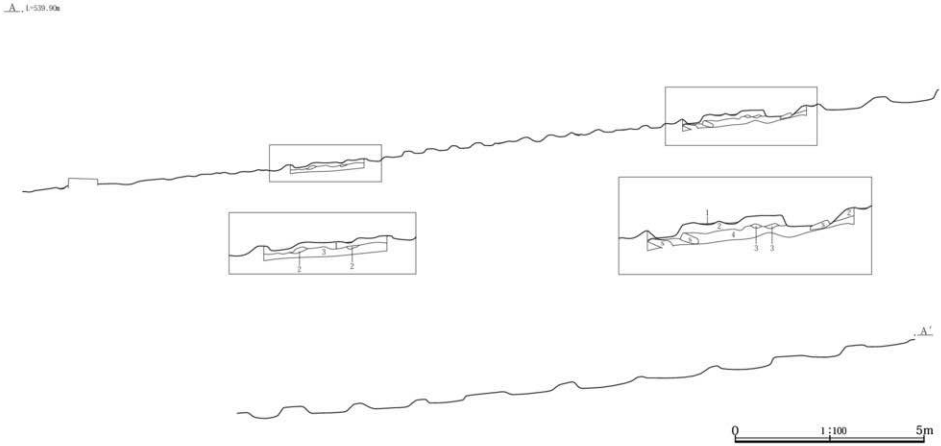
３号復旧坑群　39-Ｅ～Ⅰ-15～22グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあるが、各復旧坑の連続性はほぼ確認されている。南北23.85m間に、長軸方位をＮ-73°-Ｅ前後とほぼ東西に置く47条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は16.4m。西辺は２号復旧坑群と接し、先述の通り、35号～46号復旧坑が２号復旧坑群15号～23号復旧坑を切るものとされる。東辺は北部が５号復旧坑と切り合わずに接する。南部では６号復旧坑群と接する。６号復旧坑群１号～４号復旧坑は短いためやや間隔を置くが、６号復旧坑群５号～７号復旧坑は３号復旧坑群46号、47ａ・ｂ号復旧坑を切る。南辺は４号復旧坑群と接する。47号復旧坑は南端の47ｂ復旧坑とその西半を切る47ａ復旧坑が重複するが、ともに４号復旧坑群とは切り合わない。北辺は崖線に達して確認できなくなる。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長16.4m、幅0.52mを測る。泥流下の旧地表面から11～25cmほどの深さまで掘り込まれている。断面形状は上部が開いた浅い逆台形。覆土の記載を

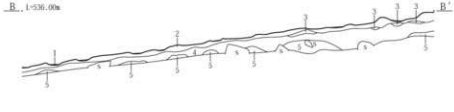


第19図　５号・６号復旧坑群

欠く。１号・２号復旧坑群とは角度が異なり、幅が狭い。上端幅２尺が意識されたものとも思われる。

４号復旧坑群　平成27年度発掘区２区と３区の境界にあって、３区側でのみ確認されている。39-Ｆ～Ｉ-15･16グリッドにある。他の復旧坑群とは異なり、南北方向に長軸を持つ短い土坑状凹地が東西に連続する。西部では土坑状凹地の単位がはっきりしなくなり、連続して東西に長い溝状の凹地を形成するように見える。発掘区界から西へ12.15m延びる。幅は西部の溝状部で0.88m、グリッドＧライン部分で1.85mほどある。中央部の輪郭が明瞭な凹地をａ～ｅとして計測値を示した。西は２号復旧坑群に接し、東は発掘区界に切られて以東が把握されない。北は３号復旧坑群に接する。南は10区画４号畑の最北部の畝間溝を切る。断面形や覆土に関する記録を欠くが、調査時点で復旧坑と判断されているため、天明泥流が入っていたものと思われる。編集者として調査時点での所見を尊重すべきであるが、他の復旧坑とは全く異なる形状には違和感を感じざるを得ない。10区画４号畑北端と３号復旧坑部分南端の天明泥流下地表面には４号復旧坑群を挟んで20㎝ほどの段差が認められる。また、４号復旧坑群東部で天明泥流下面における538.4mの等高線が大きく北にはらみだしていて、ここで地形変換があったことが示される。また、３号復旧坑群が10区画４号畑に及んでいないことから見て、４号復旧坑群が地境部にあったことも想定される。これらの状況と遺構の形状を併せると、４号復旧坑群は復旧坑としての機能を果たしたものではなく、地境の石列が泥流によって引きはがされ、その空隙を泥流が充填したものと考える事も可能だろう。復旧坑は地表切削の痕跡、石列の痕跡は圧迫・圧縮によるもので両者は全く異なるが、整理段階の所見とし





A-A'

1　As-A経石

2　褐色土　10YR4/4　径10～15mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。

3　黄褐色土　10YR5/6　黄色粒を微量含む。もろい。粘質。

4　黒褐色土　10YR3/2　径2～5mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性。

B-B'

1　As-A経石

2　にぶい褐色土　10YR4/3　白色粒子を微量含む。径5～10mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。

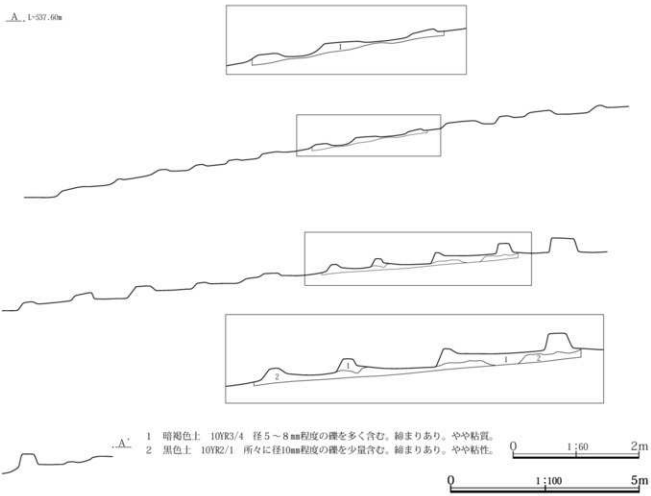
3　黄褐色土　10YR5/6　径10mm程度の礫を含む。締まりあり。粘性あり。

4　暗褐色土　10YR3/3　径5～15mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。

5　暗褐色土　10YR3/3　白色粒子を少量含む。ロームブロックを含む。締まりあり。粘性あり。

第20図　5号・6号復旧坑群断面図・高低図

第21図　７号・８号・９号復旧坑群



第22図　７号・８号復旧坑群断面図・高低図

て示しておく。

５号復旧坑群　39-Ｂ～Ｆ-19～23グリッドにある。南北15.35m間に、長軸方位をＮ-85°-Ｅ前後とほぼ東西に置く26条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は16.5m。西辺は３号復旧坑群と接するが切り合わない。東辺は不揃いで、それぞれの復旧坑に長短があり、７号・８号復旧坑群とやや間隔を置いて接する。南辺は６号復旧坑群と接するが、長軸方位が異なるため三角形の空白域ができている。北辺は攪乱されているが、攪乱の北側には復旧坑が見られず、崖線に達せずに完結するものと思われる。各復旧坑の長さは10.2～16.5m、幅0.4～0.75mで、平均0.52mは３号復旧坑群に近い。泥流下の旧地表面から６～18cmほどの深さまで掘り込まれている。断面形状は上部が開いた浅い逆台形。覆土の記載を欠く。10区画５号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面や６号～８号復旧坑群との間でその痕跡が確認できる。畑の畝間溝方向はＮ-97～105°-Ｅで復旧坑の長軸方位とは一致しない。復旧坑の掘削範囲、方位ともに下位の畑とは一致しない。

６号復旧坑群　39-Ａ～Ｆ-13～19グリッドにある。南北22.65m間に、長軸方位をＮ-80°-Ｅ前後とほぼ東西に置く13条の復旧坑が掘られている。東辺が揃うが、北部４条は11.2～12mと短く、南部で計測可能な６条は15.3～16.6mと長い。東辺は８号復旧坑群とやや間隔を置いて接する。西辺は北部４条は３号復旧坑との間に3.5mほどの空白域を持つが、５号復旧坑は３号復旧坑46号復旧坑を切るように表現される。６号・７号復旧坑は西端が開放され、７号復旧坑西端は４号復旧坑群と連続するように表現される。南辺は発掘区外となる。北辺は三角形の空白域を持ちつつ、５号復旧坑群と接する。各復旧坑の幅は1.1～1.95mと幅広で、８号復旧坑群に近い。上記にならえば４～７尺の標準形が考えられることになるが、７号復旧坑群４号・６号復旧坑のように２単位が並列して掘り込まれたものかもしれない。泥流下

の旧地表面から10～30cmほどの深さまで掘り込まれているものらしい。断面形状は上部が開いた浅い逆台形ないし皿形。覆土の記載を欠く。北部に10区画５号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面や５号・８号復旧坑群との間でその痕跡が確認できる。５号復旧坑群とは長軸方位が異なるが、やはり畑の畝間溝方向とは一致しない。

７号復旧坑群　38-U～39-B-22～25グリッドにある。南北12.6m間に長軸方位をN-85～90°-E前後とほぼ東西に置く10条の復旧坑が掘られている。地形の制約を受けて、南辺を下底とする台形状をなしていて、底辺に当たる最長の10号復旧坑の長は25.3mある。北西部が大きく攪乱されているが、南西隅の状況から見ると西辺は５号復旧坑群と切り合わずに接する。東辺は崖線で画される。南辺は８号・９号復旧坑群と接する。北辺は崖線に至る。北部の１号～３号復旧坑は幅0.95～1.2mと他に比して広い。４号復旧坑は東端でａ・ｂ２条が連続し、６号・７号復旧坑も連続しないものの７号復旧坑西端が６号復旧坑と接するように幅広になる。５号および８号～10号は幅0.75～0.83mとやや狭い。泥流下の旧地表面からの掘り込み深さは10cmほどと浅く、断面形状は上部が開いた浅い皿形。覆土の記載を欠く。10区画６号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面でその痕跡が確認できる。畑の畝間溝方向はN-98～107°-Eで復旧坑の長軸方位とは一致しない。また、この畑は９号復旧坑群下でも確認されており、復旧坑の掘削範囲、方位ともに下位の畑とは一致しない。

８号復旧坑群　38-W～39-B-15～22グリッドにある。南北25.5m間に長軸方位をN-86°-E前後とほぼ東西に置く18条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は北辺にあたる１号復旧坑の16.55mであるが、後述の通りこの復旧坑は７号復旧坑群の一部をなすかもしれない。これを除くと８号復旧坑の16.5mが最長となる。西辺は５号・６号復旧坑群とやや間隔を置いて接し、東辺は９号復旧坑群と接する。南辺は発掘区外となるが、３号復旧坑以南の５条は4.7～7.4mと短く、長軸方位も乱れていて、遺構の性格あるいは形成形態が他とは異なる可能性がある。地境に近いことを示すものかもしれない。北辺は７号復旧坑群と接する。１号復旧坑は２号復旧坑以南と揃う長さで、９号復旧坑１号復旧坑と対応するところからこの群に属するものとしたが、幅が0.6mしかなく、以南の平均1.39mに比して狭く、どちらかといえば７号復旧坑群に近い事を見ると、この群と連続性を持つものかもしれない。９号復旧坑は中間で途切れ、10号復旧坑と重複するかのような形状を示す。16号復旧坑も西部で途切れている。14号復旧坑はN-72°-Eと他とは異なる長軸方位を示し、13号復旧坑に切られる。泥流下の旧地表面から５cm前後の深さしかない。断面形状は上部が開いた浅い皿形。覆土の記載を欠く。西端部が10区画５号畑を切るが、畑の畝間溝方向はN-97°-E前後で、復旧坑の長軸方位とは一致しない。

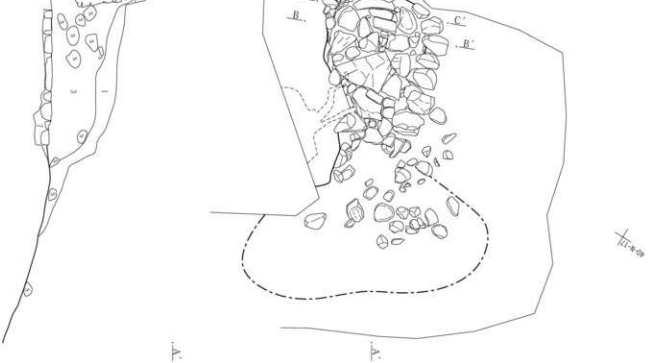
９号復旧坑群　38-S～W-17～22グリッドにある。南19.1m間に長軸方位をN-86°-E前後とほぼ東西に置く19条の復旧坑が掘られている。北部の１号～６号復旧坑までは0.65～0.9mと短く、以南は11.45～13m以上を測る。西辺は８号復旧坑群と接し、東辺北部は崖線に達する。東辺南部は攪乱されているが、端部が確認できる７号・８号復旧坑では11区画１号畑に接するがこれを切らない。北辺は７号復旧坑群に接する。南辺は発掘区外となる。北辺とした１号復旧坑は８号復旧坑群１号復旧坑と同様に７号復旧坑に連続する可能性がある。各復旧坑の幅は0.65～1.0mで、８号復旧坑群より狭く、７号復旧坑群に近い。11号復旧坑は中間で途切れる。深さ、断面形状に関する記載が乏しいが、深さ14cmほどで断面形は浅い鍋状を呈する。覆土に関する記載はない。下位に10区画６号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面でその痕跡が確認できる。直近の畑畝間溝方向はN-107°-Eで、復旧坑の長軸方位とは一致しない。

第３項　１号炭窯

40-L・M-16・17グリッドにある。標高519.5～521.1mの北西向き傾斜面を掘り込んで作られた石組みの炭窯である。焚き口を北西に、煙道を南東に持ち、主軸方位はN-30°-Wを示す。卵形の窯体に短い焚き口を設け、奥壁底部の煙道口から急傾斜で煙道を立ち上げる。焚き口から煙道先端までの全長3.24m、窯体長1.98m、窯体最大幅1.48m、煙道水平長0.6mである。焚き口、窯体、煙道ともにすべて石組みである。天井は残っておらず、覆土中にその残痕かと思われる礫が含まれる。焚き口前には斜面に沿って北へ2.2m、最大幅3.8mほどの範囲で炭化物の広がりが見られる。

焚き口は卵形の頂部に設けられ、幅0.56m、長0.48mで、角礫が４段に積まれている。門石間の底面には石が敷かれる。窯体は地山を掘り割った中に角礫、亜角礫が持ち送り気味に積まれており、最大で９石が数えられる。床面から残存石頂部までは1.5mほどある。壁石は火を受けて赤化している。底面には平坦な石が敷き詰められて均平に仕上げられており、焚き口側と奥壁部の高低差はほとんどない。断面図には表現されていないが、写真資料では床面が赤化していて、中央部がやや窪んで炭化物の集中が見られる。除湿のために木炭を設置するなどの造作がなされていた可能性がある。煙道は平板な礫を縦位で用いており、煙道口は幅10cm、高さ30cmほどである。煙道の立ち上がり角は20°で、煙道口と煙道上端までの水平距離0.6m、窯体底部と煙道上端までの高低差1.68m、煙道の延長1.84mである。

石組みで小型の窯であるところから、白炭の製造が行われた窯であったものと思われる。操業時期を示す遺物等はないが、天明泥流を切って煙道が構築されており、これ以後の所産である。



1　暗褐色土　10YR3/4　表土
2　天明泥流
3　暗褐色土　10YR3/4　締まりなし、明赤褐色土(5YR5/8)のブロックを大量に含む。径30cmほどの、炭窯を構築していたと考えられる石も含まれる。炭窯の天井崩落土と表土の混土か。
4　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭窯掘り方の土。
5　黒褐色土　10YR3/2　締まりなし。やや赤色味のある土。４層の掘り方土が焼けて変色したものか。煙道付近の５層土は黒色に近い。
6　赤褐色土　5YR4/8　炭窯構築粘土が焼けた土か。炭窯構築石の近くほさらに明るい。
7　地山

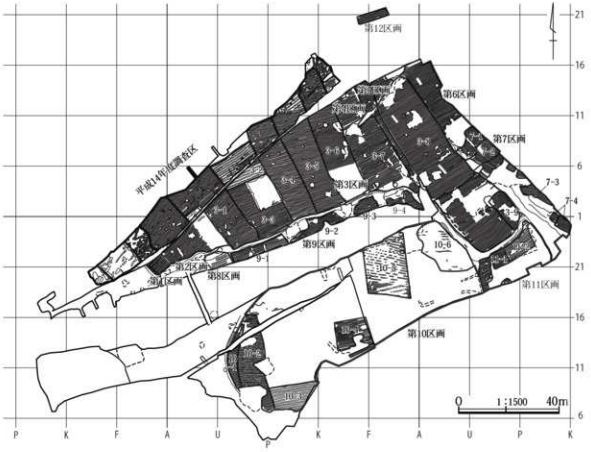
第23図　１号炭窯

第３節　第２面の調査

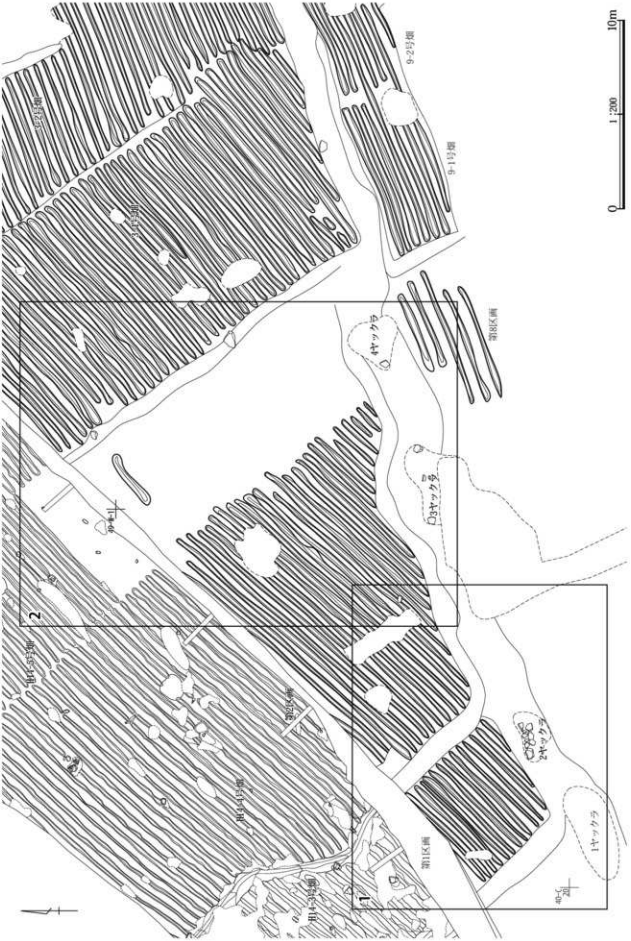
第１項　第２面の概要

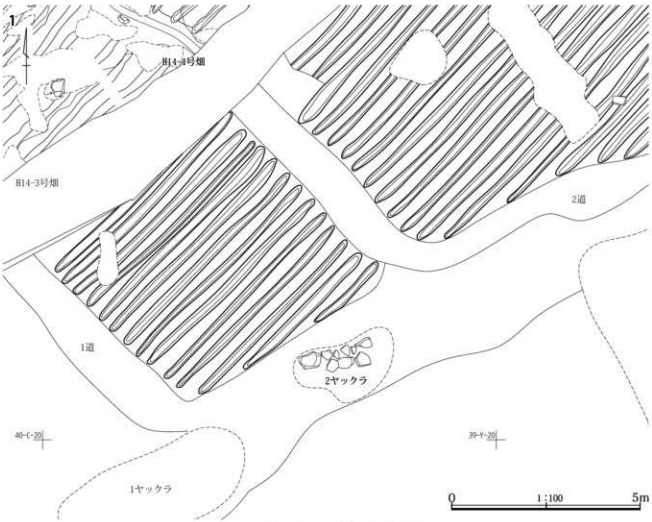
本節では天明三(1783)年に起こった浅間山噴火による火山堆積物下の面で確認された遺構を扱う。天明浅間山噴火の火山活動は新暦の５月から８月のクライマックスを経て９月頃まで、およそ５か月間に及ぶ長いものであった。この間に様々なイベントが断続的に生じており、本遺跡で顕著に見られる堆積物であるAs-A軽石降下と天明泥流の到達にも時間差がある事が知られている。平成14年度調査の際には泥流到達前にAs-A軽石を畑土壌への鋤き込んだ痕跡が捉えられている。また、この時の調査では噴火活動のごく初期に噴出されたものと思われる火山灰の薄層を畑土壌中で確認していて、降灰後、軽石降下前に行われた耕作行動も把握されている。ここではこれらを併せて扱い、記載上の必要に応じてそれぞれの記載を行うこととする。

第２面はこの地域の遺跡を特徴付けるものであり、本遺跡でも主要調査遺構の多くがこの面に含まれる。発掘区の上段では前節で見た復旧坑群に攪乱された部分も少なくないものの、全体として天明泥流の流下による削剥が比較的少なく、比較的残りの良い遺構が発掘区全面に広がっている。発掘区内の緩傾斜部では、畝間溝内にAs-A軽石が堆積した状態で確認される畑が広がる。畑区画は地形に従って上下段に分かれ、また道や石垣で区切られる。畑内には所々に円形の平坦面があり、また上下段を分ける段の下部に沿って開墾時や耕作中に出た礫を集積したヤックラが点々と作られている。畑は畝間溝の間隔に広狭二種がある。発掘区南東端では炭窯の残痕が確認されている。発掘した遺構は畑11区画29面、平坦面12か所、ヤックラ10か所、道12条、石垣３か所、溝１条、炭窯１基である。畑の各区画については、1/200図を基本とし、特に注意すべき情報を有する部分および区間については適宜1/100・1/80・1/60等の図を用いて示した。



第24図　第２面　畑区画図


9-2号畑
9-1号畑
第1区画
第1区画
第1区画



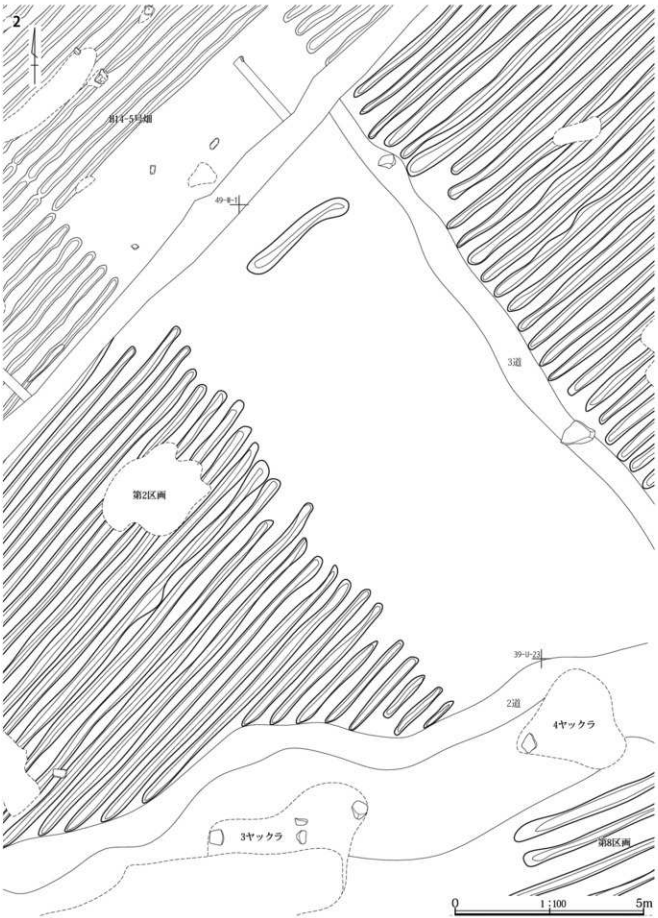
第26図　第２面　第１・第２区画畑部分図１

なお、土層断面図は1/60を基本として、分層の状況に応じて縮尺を変更している。平面図の縮尺とは必ずしも対応しない場合がある。

畑面にある「平坦面」については、畑図中に位置を示したほか、各平坦面の個別記載を別項で行い、1/60図を示した。畑を区画する道、溝、石垣等についても1/200・1/100図を基本とし、要所を1/60から1/80図で個別に記載した。畑を中心とする遺構の性格上、使用や設置の状況を示すという意味での遺構に伴う遺物は無いため、遺物については節末にまとめた。

第２項　畑

天明泥流流下後の復旧坑に破壊された部分もあるが、緩傾斜部のほぼ全面に畑が作られていることが確認されている。畑は、畝間溝内にAs-A軽石が堆積した状態で確認される。畑は本来、作付け面である畝が主役たるべきではあるが、遺構としての記載は畝を盛り上げ、維持する機能を持って、脇役を演じるべき畝間溝を中心とした図が中心とならざるを得ない。畝間溝と畝間溝の間が畝であり、畝・畝間溝の繰り返しが並列して畝群を形成するという見方になる。これらの畝群は畑は地形に従った段差や道、石垣を境界として区切られる。ここではこれを「区画」とした。畝間溝が、食い違う部分はあるものの、ほぼ端部を突き合わせるように次の畝間溝と直列する場合もある。１号道、２号道に挟まれた第１区画は、区画内が同一方向に揃ったひとまとまりの畝・畝間溝群で完結する。一方第３区画は、３号・８号道と５号～７号道に囲まれた広い領域を占め、その中に、畝間溝の境界によって区分された単位がある。１号～９号畑としたが、これが耕作の基本単位となるものと思われる。本調査では第24図に示した12区画30面の畑が確認され、以下における畑の記載はこの区画を単位として行う。

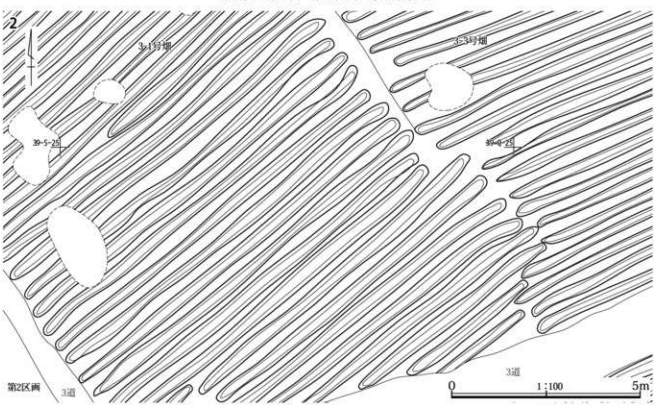


第27図　第２面　第１・第２区画畑部分図２

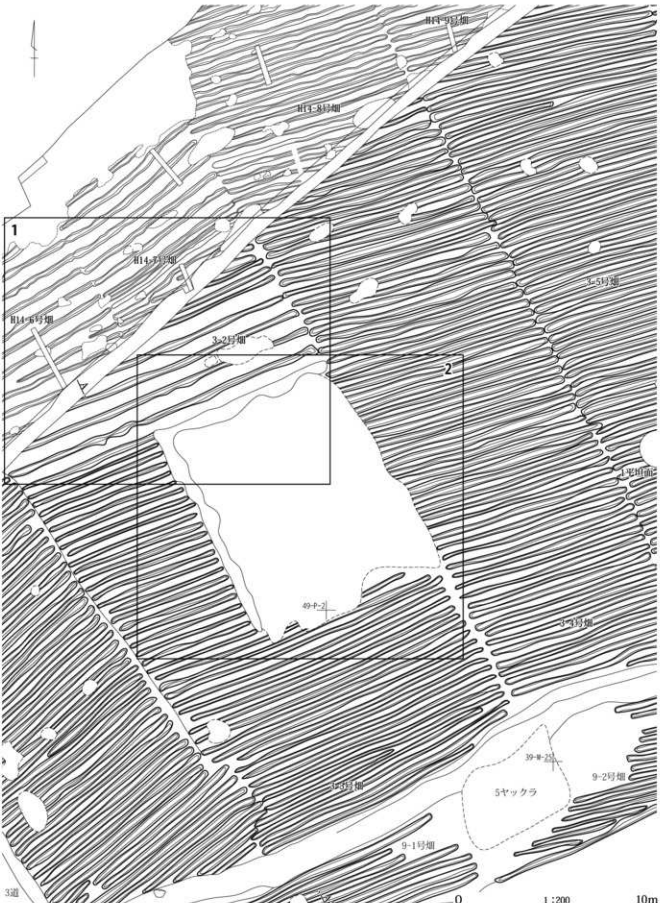
第28図　第２面　第３区画畑

第29図　第２面　第３区画１号畑

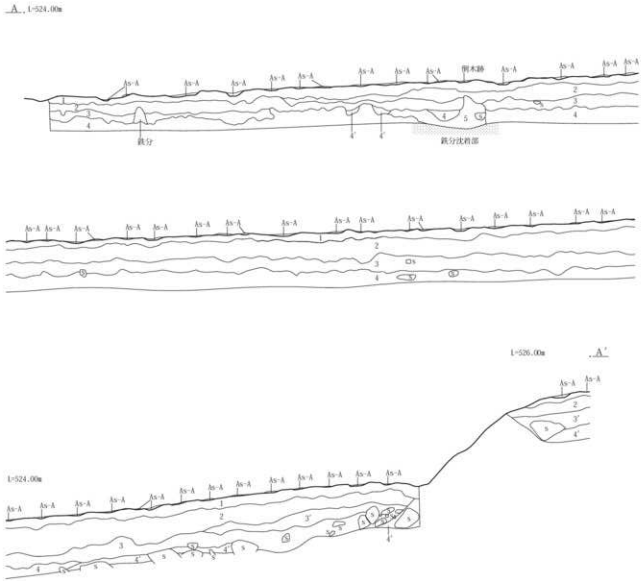
第30図　第２面　第３区画１号畑部分図１



第31図　第２面　第３区画１号畑部分図２



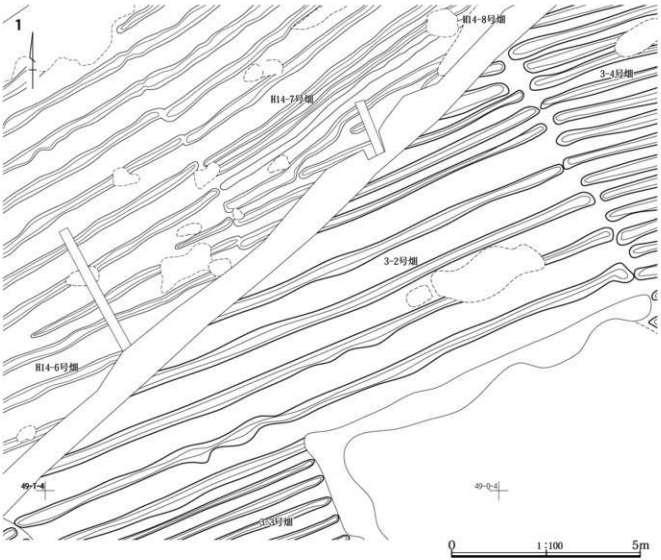
第32図　第２面　第３区画２号・３号・４号畑



1　暗褐色土　7.5YR3/3　砂質。締まり強い。天明泥流下畑耕作土。
2　黒褐色土　7.5YR3/2　数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5％含む。流入土。
3　黒褐色土　5YR3/1　砂質。締まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5％含む。川側では軽石が少なくなる。鉄分の沈着が目立つ。
3'　黒褐色土　5YR3/1　砂質。締まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を3層より多く含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5％含む。
4　褐色土　7.5YR4/3　粘質土。粘り強く、締まり強い。ところどころに鉄分沈着が見られる。川側に向かうほど礫が少なくなる。
4'　褐色土　7.5YR4/3　砂質。締まり強い。十数cmから数十cmの大型の礫を含む。土層下部に鉄分の沈着(2.5YR5/6)が見られる。
5　黒色土　10YR2/1　粘土質土。粘り、締まり強い。まばらに数cmの角礫を含む。

0　1:60　2m

第33図　第2面　第3区画2号・3号畑・第9区画1号畑断面図

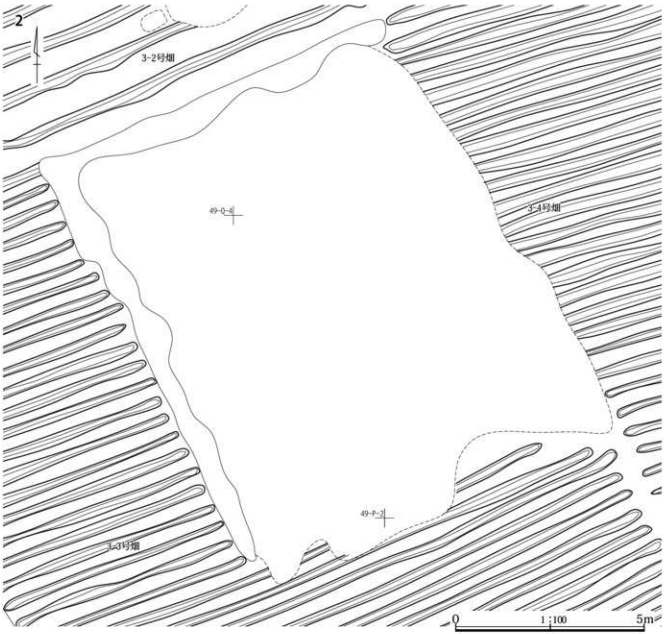


第34図　第２面　第３区画２号・３号・４号畑部分図１

畝・畝間溝は、地形に合わせて東西方向に延びるものが主体であるが、７号畑は南北方向を、第10区画５号・６号畑は北西-南東方向を示す。また、多くの畑は畝間溝-畝-畝間溝の間隔が狭く、密に作られているが、第３区画２号畑は例外的に間隔が広い。平成14年度調査においても第３区画２号畑の北延長部に当たる６号畑が同様であるほか、７－１号畑、10－１・２号畑も間隔の広い畝構成を有していた。

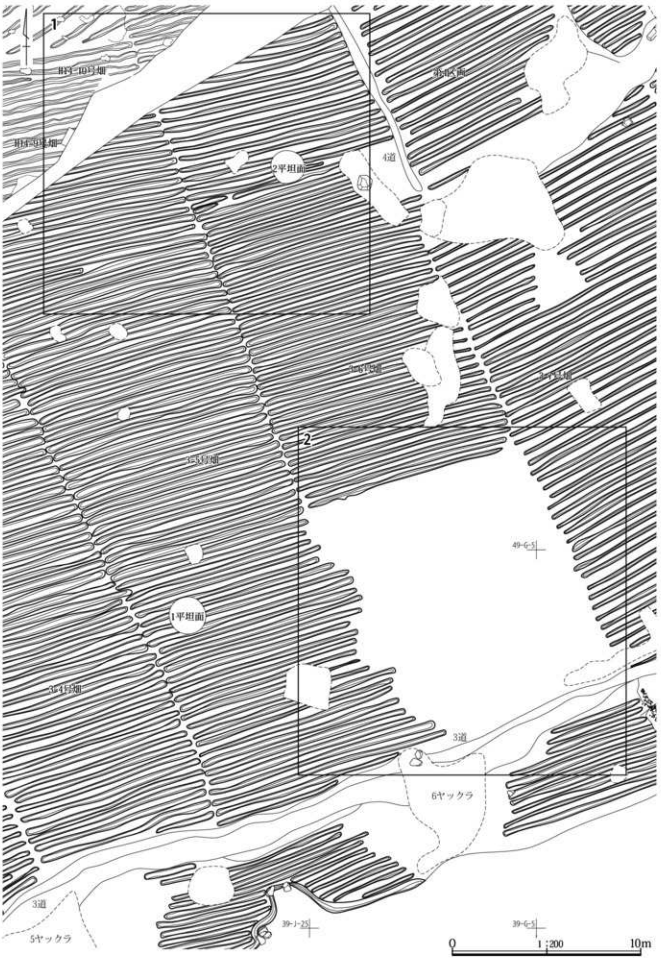
第２区画の東部、第３区画３号畑の北東部、同６号畑の南部では、畝間溝が認められない空白域がある。２区画東部の空白域につながる平成14年度調査部分では、この部分についてAs-A軽石降下後に畝を崩したものと考えられている。今次調査の第３区画６号畑南部の空白部でもAs-A軽石降下後に耕作が行われた事を示す断面観察所見が得られている。そうすると、これらの部分ではAs-A軽石降下時点で畑としての機能が停止していたものと考えられる。収穫が終わっていた、あるいはAs-A軽石降下という災害によって放棄せざるを得なかった等の状況が想定される。なお、第10区画畑の西部では畑遺構が確認されていないが、この部分の東端、11号道に接して11号平坦面がある事から見ると、同様の状況を想定することもできる。

平成14年度の発掘では、畑面の一部に作物由来と想定される植物遺体の痕跡が残されていた。鉄分に置換されて印象化したものであるが、線形の葉身と円形の茎を持ち、葉鞘が茎を抱くように認められることからイネ科であることが想定されている。また、穂が確認できないこと、点播であること、分蘖痕跡が認められないことか

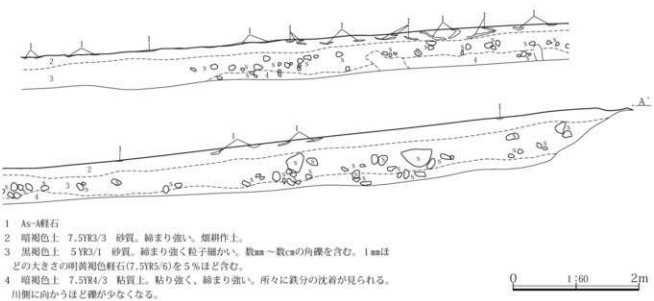


第35図　第２面　第３区画２号・３号・４号畑部分図２

ら、アワ、ヒエが候補に挙げられている。植物痕の分布域に関する記載や、専門家による植物学的な記載、同定がなされておらず、直接的な根拠となり得たであろう植物珪酸体の分析等もなされていないため評価が困難であるが、この場合は、As-A軽石降下により、結実前の作物を放棄した事になろう。一方、植物痕跡が認められた畑は、比較的狭い畝・畝間溝が密に形成された部分に当たる。八ッ場ダム地区の泥流下畑に多く認められる形状であり、文献資料や民俗例から見て大麻栽培がなされていたものと考えられることが多い。発掘調査成果から見ても、東宮遺跡などでは建物内で容器に保存された状態で大麻種子が見つかり、また尾坂遺跡では畑土壌内の埋土にこれが含まれる。本遺跡と類似した状態で植物痕跡が確認された久々戸遺跡では、大麻との断定には至らないものの、植物組織学的な所見により双子葉類で木質構造を持つ草本であり、麻と類似した構造を持つとの所見が得られている。大麻の収穫期は梅雨明け後の７月下旬から８月初であることが多く、この場合は収穫後の大麻畑を後作のために耕作したものと考えることができる。こうしたことから、今次の調査では、同時に埋没した同一形状と判断される畑が異なる作物の栽培圃であるか否かの判断が問われたのであるが、残念ながらこれに対して



第36図　第２面　第３区画５号・６号畑



1　As-A軽石
2　暗褐色土　7.5YR3/3　砂質。締まり強い。畑耕作土。
3　黒褐色土　5YR3/1　砂質。締まり強く粒子細かい。数mm～数cmの角礫を含む。１mmほどの大きさの明黄褐色軽石(7.5YR5/6)を５％ほど含む。
4　暗褐色土　7.5YR4/3　粘質土。粘り強く、締まり強い。所々に鉄分の沈着が見られる。川側に向かうほど礫が少なくなる。

第37図　第２面　第３区画５号畑断面図

答えうる調査成果は得られなかった。

（１）第１区画

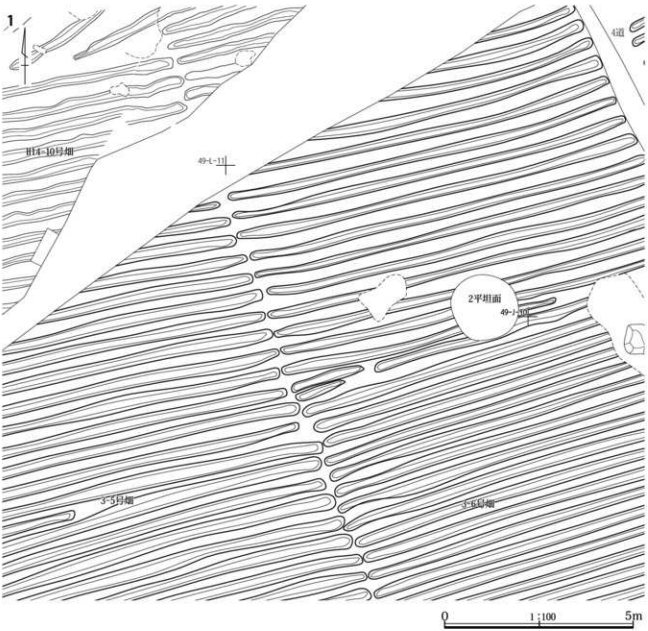
39～40-Y～B-20～22グリッド　東辺は２号道で画され、第２区画畑が隣接する。西から南にかけて１号道が囲む。１号道以西は泥流による削剥が著しく、畑の存在を捉えられていないが、平成14年度調査においては以西でも畑痕跡の連続が見られている。南辺の１号道を挟んで南側に２号ヤックラがある。北は平成14年度調査３号畑と連続する。この畑は泥流による攪乱を受けているが、全面をAs-A軽石が覆っている状態であるのに、畝-畝間溝の高低差が少ない事が指摘されているが、今次調査範囲は、東西7.2m、南北5.8m、面積36.06㎡だが、平成14年度の３号畑を含めると東西最大長8.8m南北確認長は21.2m、合計面積129.43㎡ある。東西長は他の畑に比して狭い。畝間溝は12条がおよそN-45°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面はない。

（２）第２区画

39～40-S～A-21～１グリッド　西部に畝、畝間溝が明確な畑部分があり、東部に畝・畝間溝の記載がない空白部がある。東辺は３号道を介して第３区画１号畑と隣接する。西から南にかけて２号道が囲み、西辺は２号道を挟んで第１区画畑と隣接する。南辺東半は２号道を挟んで第８区画畑と接する。第８区画畑西部は攪乱されていて不明瞭であるが、第２区画西端には及ばない。２号道を挟んで南辺中央南側に３号ヤックラ、東部に４号ヤックラがある。北は平成14年度発掘区と接する。畑部分は14年度４号畑に連続し、空白部は14年度調査５-３号畑に連続する。

今次調査では３号道が第３区画を囲む道として存在するため、畑部分と空白部を併せて第２区画に含めたが、３号道は平成14年度発掘区には達していない。平成14年度調査の畑区画と併せて考えると、空白部Ａは隣接する第３区画１号畑と合わせて５-３号、５-４号畑と連続するものと見ることも可能である。

畑部分は39～40-U～A-21～25グリッド　東辺は空白部に接する。畝間溝の東端は完結している。西辺、南辺は２号道に画される。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区４号畑と連続する。14年度４号畑は畝の中央が窪んでいて、両側の畝間溝からの作土掻き上げが行われていたことを示すものと判断されているものである。今次発掘区では東西長13.2m、南北長16.9m、面積149.07㎡。畝間溝は地割りに沿って長短があるが、26条がおよそN-42°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.65mとなる。なお、平成14年度発掘区を併せると、東西最大長18.4m、南北確認長30.4m、合計面積は390.33㎡あ



第38図　第２面　第３区画５号畑部分図１

る。平成14年度発掘区４号畑南東部に円形の平坦面があるが、今次発掘区内では平坦面は確認されていない。

空白部は39-Ｓ～Ｘ-39-22～49-１グリッドに掛けてあり、東西長6.6m、南北長19m、面積99.17㎡の範囲で遺構が確認できない部分として表現されている。北部に東西長3.2m、幅0.45mの溝状の凹みがあるのみで、畝、畝間溝等は確認されていない。東は３号道を挟んで第３区画１号畑と隣接する。西は畑部分と接するが、畑部分東端は完結しており、切り合う等の関係は認められていない。南は２号道に画され、この南に３号ヤックラがある。北は平成14年度調査５-３号畑と接する。この畑は畝や畝間溝が認められていないが、耕土内にAs-A軽石が含まれていて、軽石降下後に畝を崩したものとされている。また、後述の第３区画６号畑でも耕土内にAs-A軽石が塊状に含まれる事が確認されている。今次調査では平面、土層断面ともに観察記載がなく判断できないが、同様の作業痕跡をとどめる畑跡である可能性がある。今次調査の空白部と14年度調査５-３号畑を合わせると、123.41㎡となる。

（３）　第３区画

38-Ｐ～49-Ｖ-38-22～49-14グリッド　発掘区下段の多くを占める大きな区画である。地形に沿って、東側

第39図　第２面　第３区画５号畑部分図２

が南に張り出してＬ字状の平面形を呈する。東は５号～７号道と段差によって第７区画畑と画される。西部では西辺から南辺が３号道に囲まれ、第２区画畑、第９、第10区画畑と隣接する。東部では８号道が３号畑に連続して中段斜面下を縫り、西辺と南辺を画する。北辺は西部が平成14年度発掘区に連続し、東部では４号道、１号溝を介して第４、第５区画畑と隣接する。東西最大長131.2m、南北最大長80mの範囲に、畝間溝９群と空白部２か所が認められた。

第３区画１号畑　39・49-Ｐ～Ｖ-21～３グリッド　東辺は２号・３号畑と接する。南部で両畑の畝間溝が入り組むが、お互いに切り合うことはない。西辺から南辺にかけて３号道が囲む。西は第２区画の空白部と接し、南には第９区画１号畑がある。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区５-４号畑と連続する。今次発掘区では東西長12.3m、南北長23.4m、面積247.06㎡。畝間溝は44条が

第40図　第２面　第３区画７号畑

およそN-48～52°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.53mほどとなる。なお、平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は37.2m、合計面積は370.87㎡ある。北の平成14年度発掘区に円形平坦面があるが、今次調査範囲には平坦面はない。

第３区画２号畑　49-Ｐ～Ｔ-３～８グリッド　東辺は１号畑、西辺は４号畑と接し、畝間溝端はお互いに切り合わない。南辺は３号畑及び同畑内の空白部と接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区６号畑及び７-２号畑と連続する。今次発掘区では東西最大長17.5m、南北長6.6m、面積74.42㎡。平成14年度発掘区の６号・７-１・２号畑と合わせると、213.16㎡ある。畝間溝９条およそN-67°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.73mだが、14年度発掘区７-２号畑と連続する東北隅

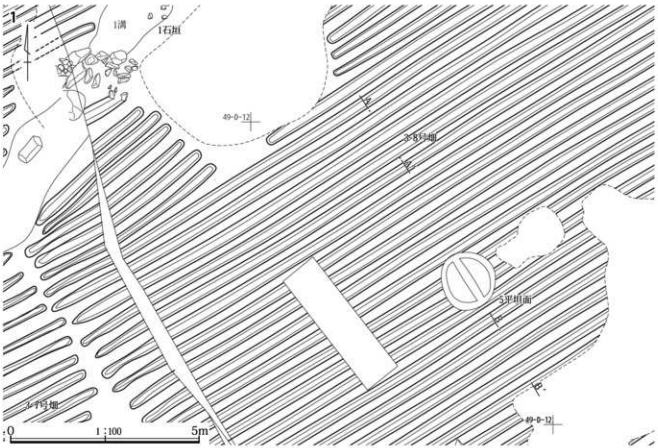
第41図　第２面　第３区画７号畑部分図１

がやや狭く、以南は0.9mほどの幅広の畝が続く。北に接する平成14年度発掘区６号畑及び同７－１号畑もやや広い畝を持ち、６号畑では中棚Ⅱ遺跡におけるサトイモの塊茎の印象と思われる空洞を確認した畑との類似が指摘され、７－１号畑では畝上に残された小凹地を株列の痕跡としている。また、耕土中に灰白色火山灰層があって、軽石降下に先立つ旧暦６月25日の噴火による降灰が鋤き込まれたものとの判断を行っている。同７－２号畑は畝幅が狭いが、やはり株跡とみられる凹地が畝のほぼ中央にあるとされる。

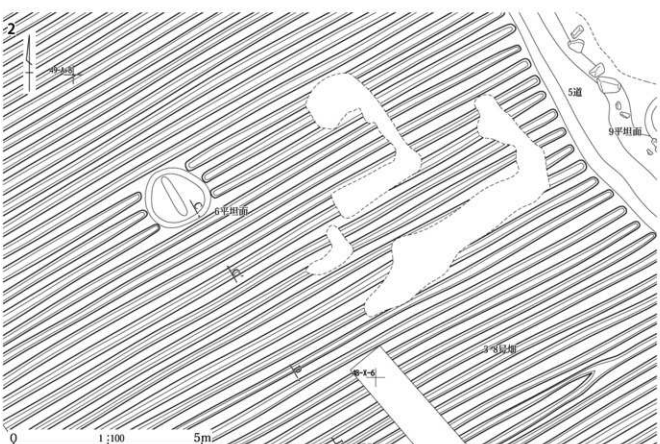
第３区画３号畑　39・49-M～S-23～４グリッド　東辺は４号畑、西辺は１号畑と接し、畝間溝端はお互いに切り合わない。南には３号道を挟んで第９区画２号畑、５号ヤックラがある。北は２号畑と接する。東西長6.4～15.6m、南北長22.7m、畝・畝間溝の確認できる部分の面積252.47㎡。畝間溝44条がおよそN-66～67°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.52mとなる。平坦面はない。

東北部には空白部がある。49-N～R－１～５グリッドに掛けて、東西長10.6m、南北長12.4mの範囲で遺構が確認できない部分として表現されている。、面積は124.91㎡ある。北辺から西辺に掛けて溝が巡る。北辺は２号畑南端の畝間溝がこの溝に切られているが、西辺を見ると３号畑の畝間溝はこの溝の直前で完結していて、切り合いは生じていない。空白部の東辺は４号畑畝間溝の西端を切っており、南辺も３号畑の畝間溝を侵食する

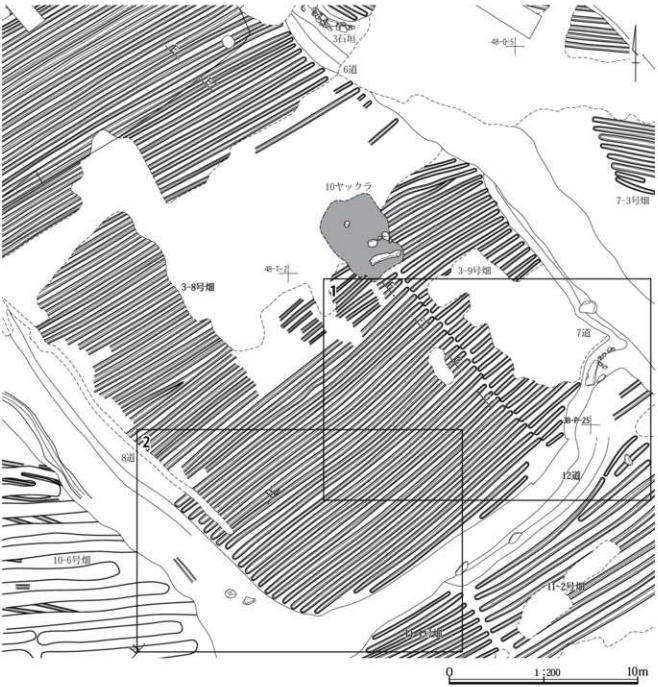
第42図　第２面　第３区画８号畑１



第43図　第２面　第３区画８号畑１部分図１



第44図　第２面　第３区画８号畑１部分図２

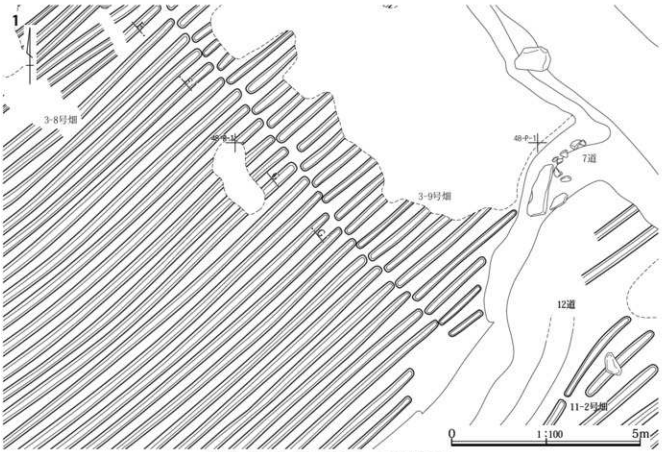


第45図　第２面　第３区画８号畑２・９号畑

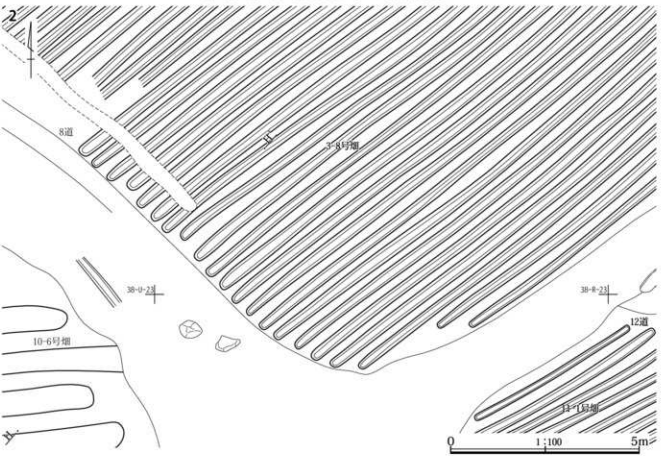
ように切る。平成14年度調査所見を引けば、本来は独立した畑面を形成していたものが、As-A軽石降下後に西側を除く３方にやや広げながら再耕作されたと見ることもできる。

第３区画４号畑　39・49-K～R-25～８グリッド　東辺は５号畑と接するが切り合わない。西辺は３号畑に接し、３号畑空白部に畝間溝西端が切られるが、以南では切り合わない。南辺は３号道を挟んで、第９区画３号畑と隣接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区８－２号畑と連続するが、本畑の畝間溝間の距離がやや狭く表現されている。今次発掘区では東西11.8m、南北31.6m、面積320.97㎡。畝間溝には若干長短があるが、57条がおよそN-71～75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.55mとなる。５号、６号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。なお、平成14年度発掘区８－１号・８－２号畑を併せると、南北確認長は44.8m、面積は471.73㎡ある。平坦面はない。

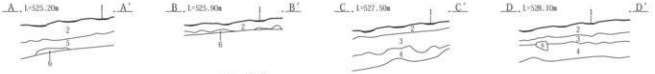
第３区画５号畑　49-H～O-１～10グリッド　東辺は



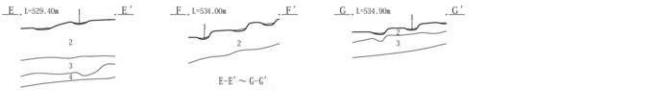
第46図　第２面　第３区画８号・９号畑部分図１



第47図　第２面　第３区画８号・９号畑部分図２



A-A′～D-D′
1　As-A軽石
2　暗褐色土　10YR3/3　径５～10mm程度の礫を少量含む。締まりあり、やや粘質。
3　黒褐色土　10YR3/3　径３～８mm程度の礫を少量含む。強くしまる。やや粘質。
4　暗褐色土　10YR3/3　径30～200mm程度の礫を大量に含む。締まりあり、やや粘質。
5　暗褐色土　10YR3/3　所々に黄褐色土混じる。径50mm程度の礫を多く含む。締まりあり、やや粘質。
6　黄褐色土　10YR5/6　10～100mm程度の礫を多く含む。締まりあり、やや粘質。



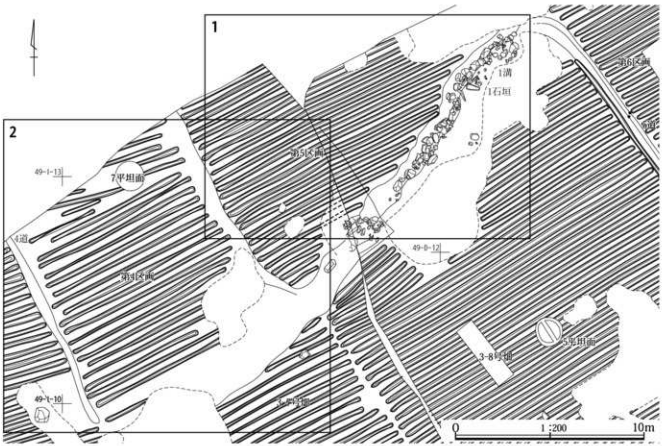
E-E′～G-G′
1　As-A軽石
2　暗褐色土　10YR3/3　径10～30mm程度の礫を少量含む。締まりあり、やや粘質(耕作土)。
3　黒褐色土　10YR3/2　径５～６mm程度の黄色粒を含む。締まりあり、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土　10YR4/3　径30～100mm程度の礫を含む(地山)。

H-H′
1　As-A軽石
2　黒褐色土　10YR3/2　やや硬化し黄褐色粒を１％含む。
3　暗褐色土　10YR3/3　小礫を僅かに含む耕作上。締まりやや強く、粘性あり。
4　黒褐色土　10YR2/2　１cm程度の礫を１％含む。締まりやや強く、粘性あり。
5　暗褐色土　10YR3/4　４層ににぶい黄褐色ブロックが混じる。締まり強く、粘性あり。
6　黒褐色土　10YR3/2　１～３cm程度の礫を５％、にぶい黄褐色粒を僅かに含む。やや粘性あり。
7　灰黄褐色土　10YR4/2　１～３cm程度の礫を２％、にぶい黄褐色粒を僅かに含む。締まり強い。
8　暗褐色土　10YR3/3　１～３cm程度の礫を僅かに含む。締まり強い。

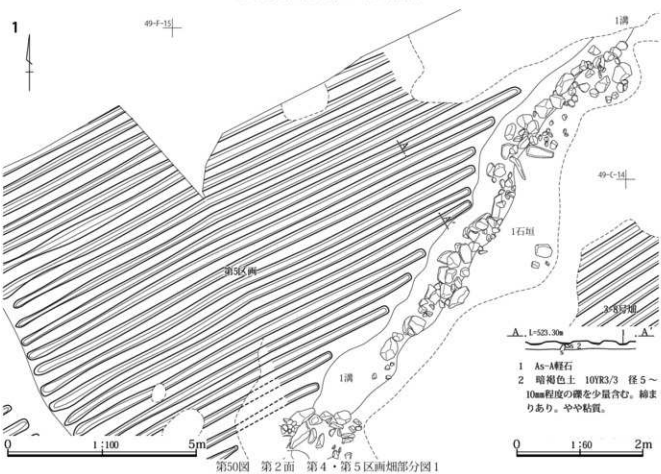
第48図　第２面　第３区画８号畑２・９号畑断面図

６号畑及びその南の空白部に接する。空白部との境界では畝間溝端部が揃わずに蛇行するが完結しており、切り合わない。西辺は４号畑と接し、畝間溝は切り合わない。南辺は３号道を挟んで第９区画３号畑、６号ヤックラと隣接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区９号畑と連続する。今次調査部の畝間溝間距離のほうがやや狭く表現されているものの、本畑と14年度９号畑が連続して１面の畑を形成していたものと思われ、両者を併せて畑面全体が把握できる数少ない例となる。今次発掘区では東西長12.9m、南北長36.5m、面積404.97㎡。北に連続する平成14年度調査９号畑を併せた南北長は45.2m、面積498.79㎡ある。畝間溝は長短があるが、70条がおよそN-71～75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.52mとなる。４号、６号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。南西部に円形の１号平坦面がある。

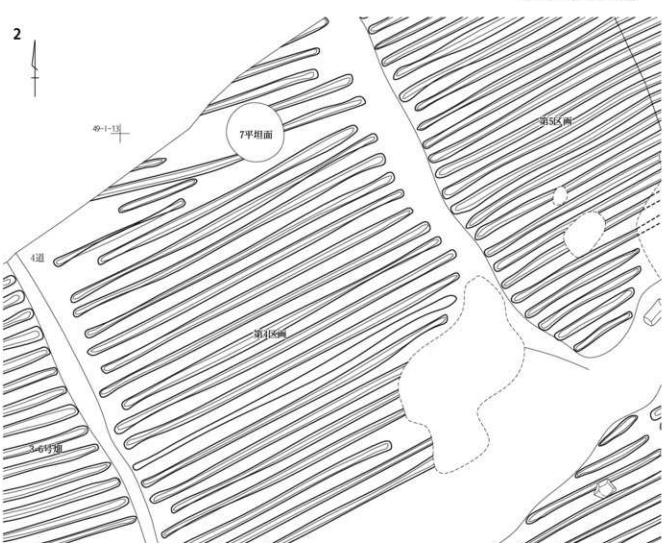
第３区画６号畑　49-G～J-５～12グリッド　東辺北部は４号道を挟んで第４区画畑と隣接し、南部は７号畑と接しているが、双方の畝間溝端部は切り合わない。西辺は５号畑と接し、畝間溝端部はやはり切り合わない。南部には畝や畝間溝が確認できない空白部があり、３号道を挟んで第９区画４号畑が隣接する。また、３号道を挟んで５号畑との境界部に６号ヤックラ、７号畑との



第49図　第２面　第４・第５区画畑



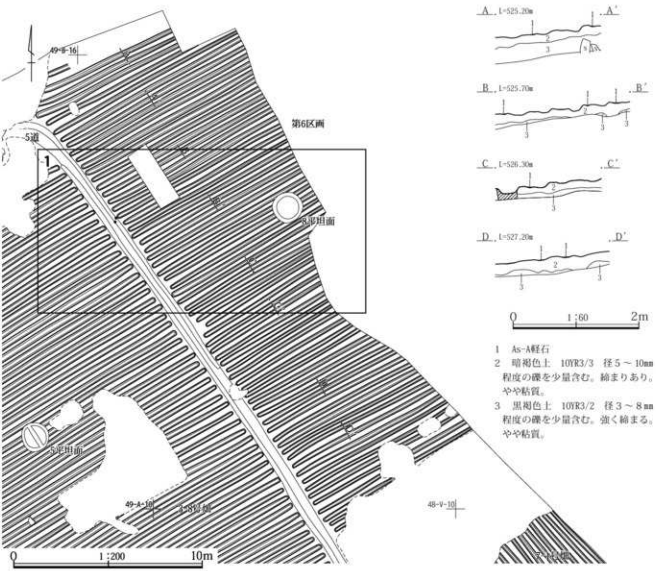
第50図　第２面　第４・第５区画畑部分図１



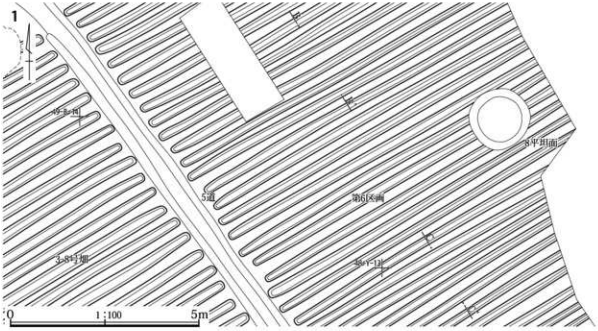
第51図　第２面　第４・第５区画畑部分図２

境界部に７号ヤックラがある。北にはやや広い発掘区界を挟むが、14年度発掘区11号畑と連続するものと見られる。今次発掘区では東西長11.9m、南北長24.7m、面積265.57㎡。畝間溝51条がおよそN-73～74°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなるが、中央北寄りに円形の２号平坦面があって、これ以北は畝間溝間隔が僅かに広くなる。４号、５号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。なお、平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は41.2mある。

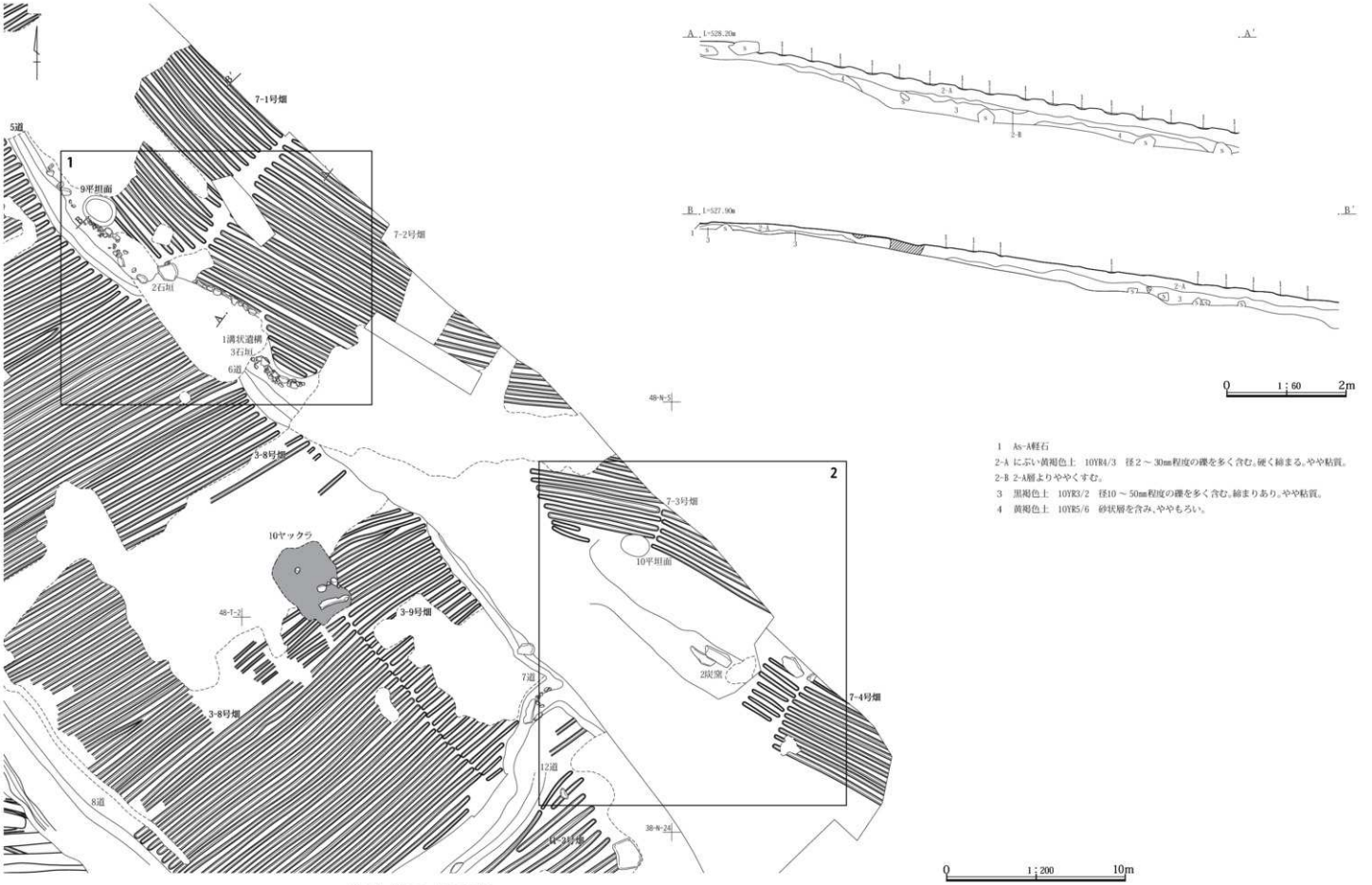
空白部は畑の南、49-F～I-２～６グリッドにある。東西長12m、南北長14.4m、面積152.85㎡ほどの範囲で、畝・畝間溝が認められない部分として表現されている。土層断面の観察所見によると、砂質で締まりの強い暗褐色の耕作土の上面にはAs-A軽石がなく、耕作土中に軽石が鍬状の断面を呈して含まれる。耕土中にAs-A軽石塊が含まれる堆積状況は、平成14年度調査部における所見と同様であり、As-A軽石降下後にこれを鋤き込む耕作行動がなされたものと考えられる。７号畑は空白部手前で畝間溝端部が完結しており、また良く揃っている。西の５号畑の畝間溝東端は、先述の通り揃わずに蛇行するが完結しており、切り合わない。北の畑畝間溝もこの影響を受けていない。３号畑の空白部が周囲の畝間溝を切って



第52図　第２面　第６区画畑

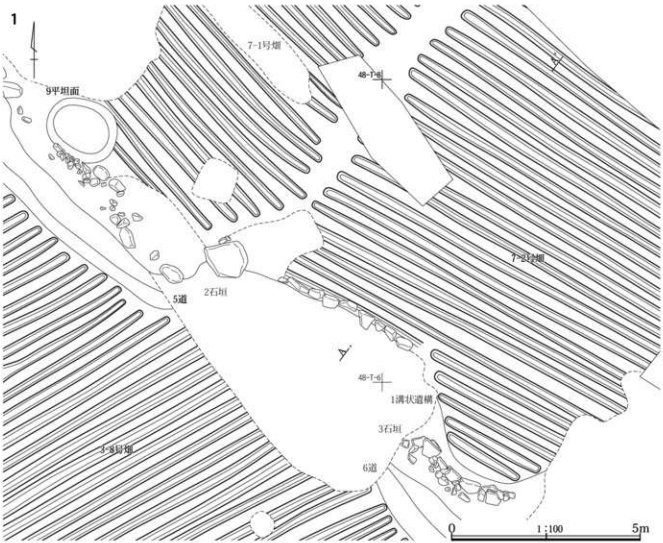


第53図　第２面　第６区画畑部分図１



1　As-A軽石
2-A にぶい黄褐色土　10YR4/3　径2～30mm程度の礫を多く含む。硬く締まる。やや粘質。
2-B 2-A層よりややくすむ。
3　黒褐色土　10YR3/2　径10～50mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。
4　黄褐色土　10YR5/6　砂状層を含み、ややもろい。

第54図　第2面　第7区画畑

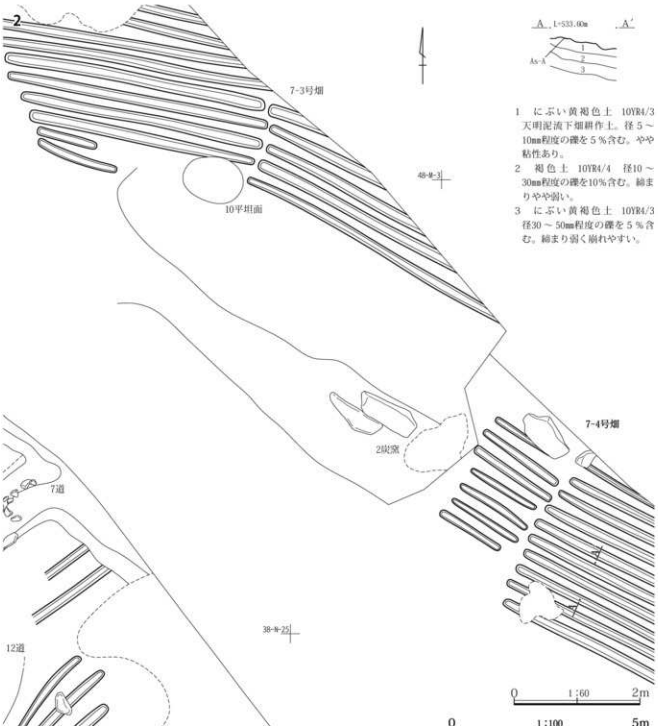


第55図　第２面　第７区画畑部分図１

いるのとは異なる状態が見られる。

第３区画７号畑　49-Ｂ～Ｈ-３～11グリッド　東辺は８号畑と接するが切り合わない。西辺は６号畑及びその南部の空白部と接する。南辺は３号道で画されるが、南端には畝・畝間溝が認められない部分が僅かに残される。ここには円形の４号平坦面が確認されているため、As-A軽石降下後の耕作行動による空白部とは性格が異なる。３号道を挟んで南には第９区画５号畑、８号ヤックラがある。北辺は西部が攪乱されて不明瞭であるが、１号溝で画され、第４区画畑と隣接する。東西長15.3m、南北長28m、面積470.28㎡。畝間溝55条がおよそＮ-61°-Ｅを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.51mとなる。南西部に３号平坦面、南端東部に４号平坦面がある。

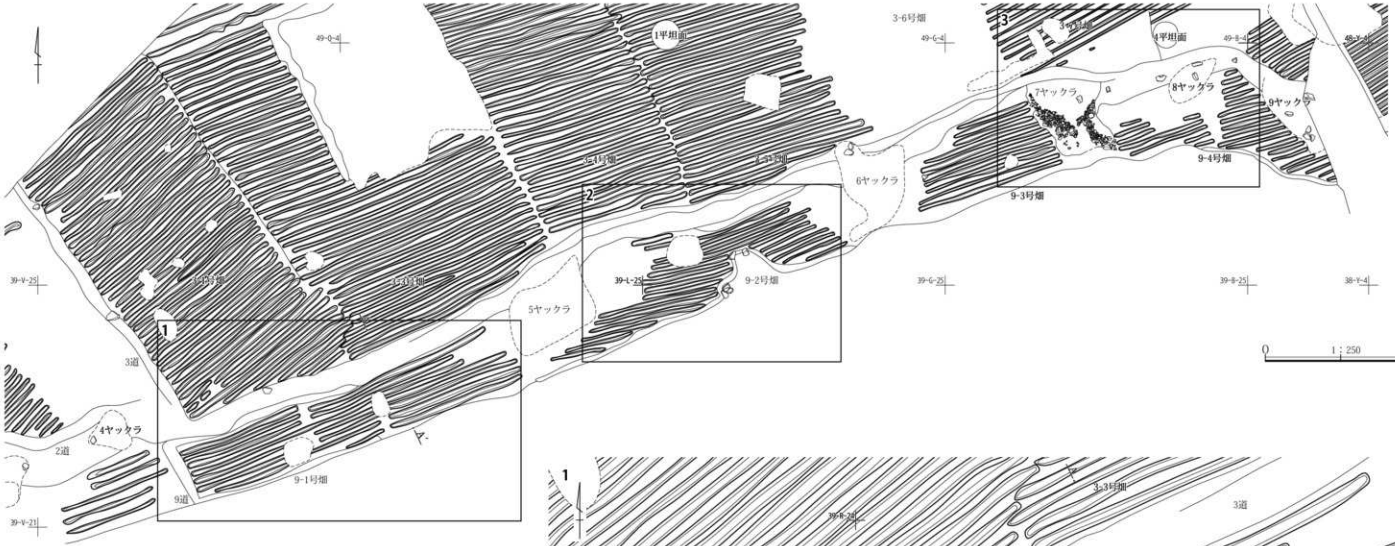
第３第区画８号畑　38・39・48・49-Ｏ～Ｅ-２～14グリッド　東辺は５号～７号道に画され、北部は第６区画畑、南部は第７区画畑が隣接する。西辺北部は７号畑と接し、切り合わない。西辺南部から南辺にかけては３号道の延長となって小崖下を縁るように延びる８号道で画される。西辺南部の上位には第10区画６号畑、南辺上位には第11区画畑がある。北辺は１号溝、１号石垣で画され、第５区画畑と隣接する。東部は大きく攪乱されるが、攪乱部南部では畝間溝の端部が攪乱手前で完結するように表現されていて、何らかの施設が存在したものかもしれない。非常に大きな区画で、東西19.8m、南北74.9m、面積1,442.41㎡を測る。南東隅部に畝間溝が切れて独立した群をなす部分があり、これを９号畑としたほか、さらにいくつかの区分が可能かもしれないが、明確に分界できるような指標は見出しがたい。南部に攪乱があるため、全体の畝間溝条数が確定しがたいが、150条以上があると見られ、北部でＮ-59～60°-Ｅ、南部



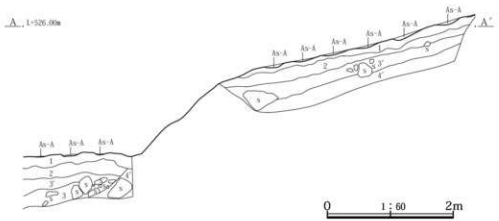
第56図　第２面　第７区画畑部分図２

ではN-49°-Eを示して並ぶ。残存の良い部分を採ると、畝間溝間の平均距離はおよそ0.5mである。中央北部に５号平坦面、中央やや北寄りに６号平坦面がある。また、南東部の９号畑との境界に10号ヤックラがある。

第３区画９号畑　38・48-O～R-24～３グリッド　東辺は南辺から続いて東の小崖上を縦る８号道で画され、崖下に第７区画畑がある。西辺は第８区画畑と接しているが、双方の畝間溝端部は切り合わない。南辺は８号道で画される。北は攪乱されていて、８号畑との境界が捉えられない。東西長6.2m、南北確認長15.5m、面積86.18㎡。中央部から南東部に掛けて大きく攪乱されていて全体を把握しがたいが、畝間溝は34条が数えられ、北端ではかなり乱れるものの、南部ではおよそN-57°-Eを示して並ぶ。畝間溝間の平均距離は0.46mとなる。

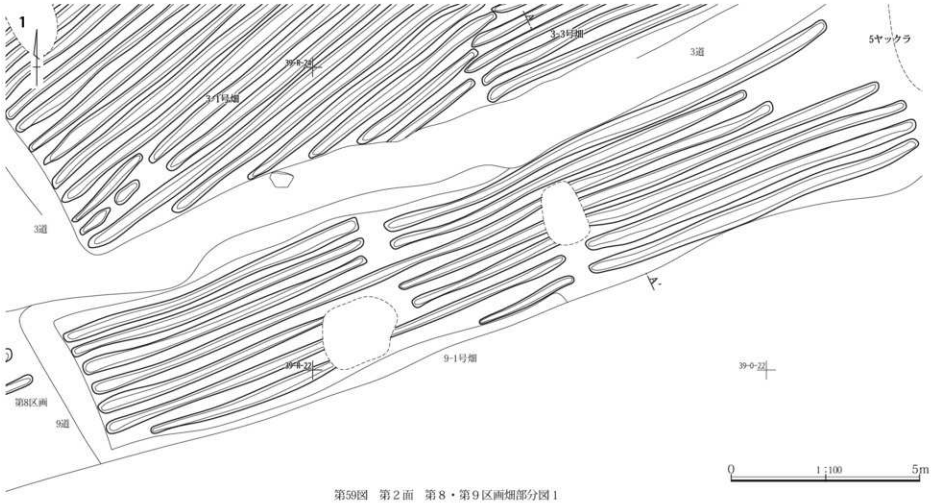


第57図　第２面　第８・第９区画畑

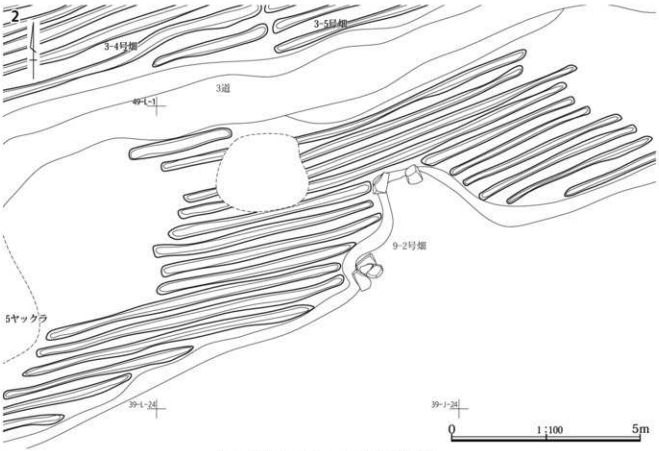


1　暗褐色土　7.5YR3/3　砂質。締まり強い。天明泥流下畑耕作上。
2　黒褐色土　7.5YR3/2　数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を５％含む。流入土。
3　黒褐色土　5YR3/1　砂質。締まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を３層より多く含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を５％含む。
4　褐色土　7.5YR4/3　砂質。締まり強い。十数cmから数十cmの大型の礫を含む。上層下部に鉄分の沈着(2.5YR5/6)が見られる。

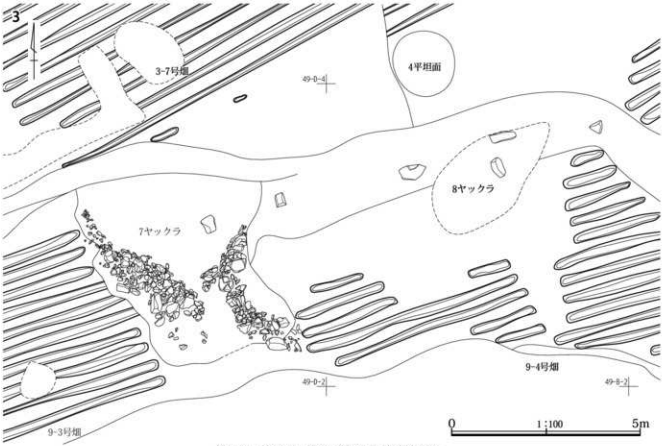
第58図　第２面　第９区画１号畑断面図



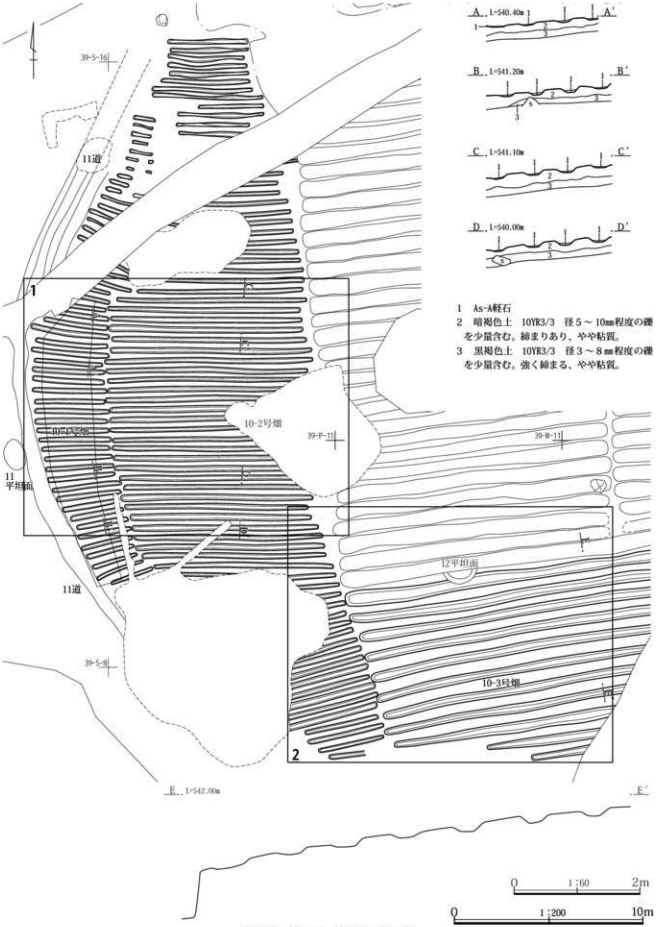
第59図　第２面　第８・第９区画畑部分図１



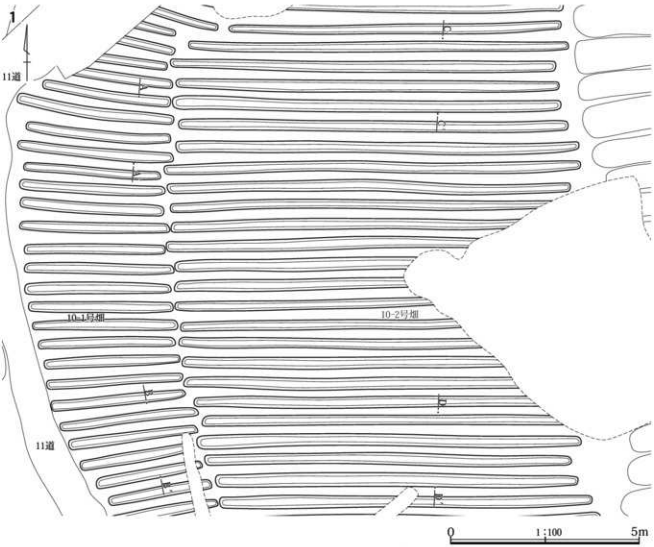
第60図　第２面　第８・第９区画畑部分図２



第61図　第２面　第８・第９区画畑部分図３



第62図　第２面　第10区画畑西部



第63図　第２面　第10区画畑西部部分図１

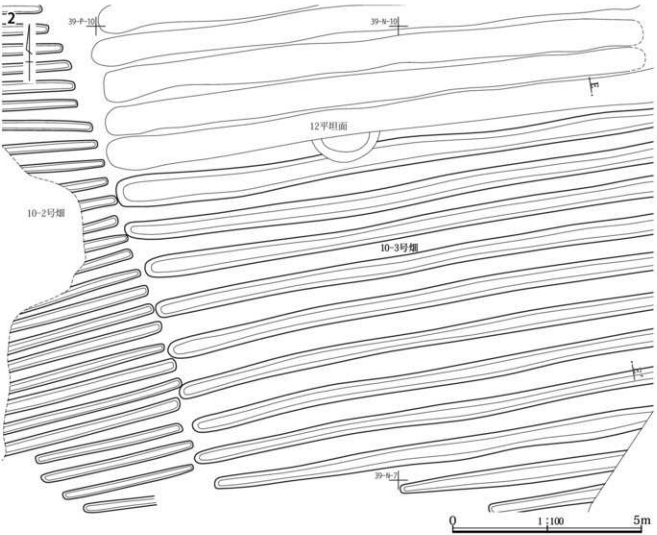
平坦面は確認されていない。北西隅に10号ヤックラがある。

（４）　第４区画

48-Ｆ～Ｉ－９～13グリッド　北部数条の畝間溝が他と方位を異にするが、明確に分界する事ができないため、１面の畑として扱う。東辺は小さな段差を以て第５区画畑と区切られる。西辺は４号道に画され、第３区画６号畑と隣接する。南端の畝間溝と１号溝との間には若干の間隔があり、また西部を攪乱されていて４号道との交点など詳細を把握しがたいが、南辺東部は１号溝を挟んで第３区画７号畑と隣接する。北は発掘区界で区切られるが、14年度発掘区12号畑と連続するものと思われる。14年度12号畑は全面を薄いAs-A軽石が被覆していて、泥流到達時には耕作が行われていなかったものとされている。今次発掘区では東西長10.3m、南北確認長11.9m、面積126.24㎡。畝間溝23条がおよそＮ-52°-Ｅを示して並ぶ。北部にはＮ-75°-Ｅ方向を示す畝間溝が数条見られる。畝間溝間の平均距離は0.52mほどである。平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は31mある。北部の東寄りに７号平坦面がある。

（５）　第５区画

48-Ｃ～Ｇ-11～14グリッド　東辺は攪乱され、北辺は発掘区界に切られる。西辺は小さな段差を以て第４区画畑と区切られる。南辺は１号溝、１号石垣に画され、上位の第３区画８号畑に隣接する。中央部に平成27年度発掘区と28年度発掘区の境界がある。東西長15m、南北長10.9m、面積103.6㎡。畝間溝24条がおよそＮ-62°-Ｅを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.45mとなる。平坦面は確認されていない。



第64図　第２面　第10区画畑西部部分図２

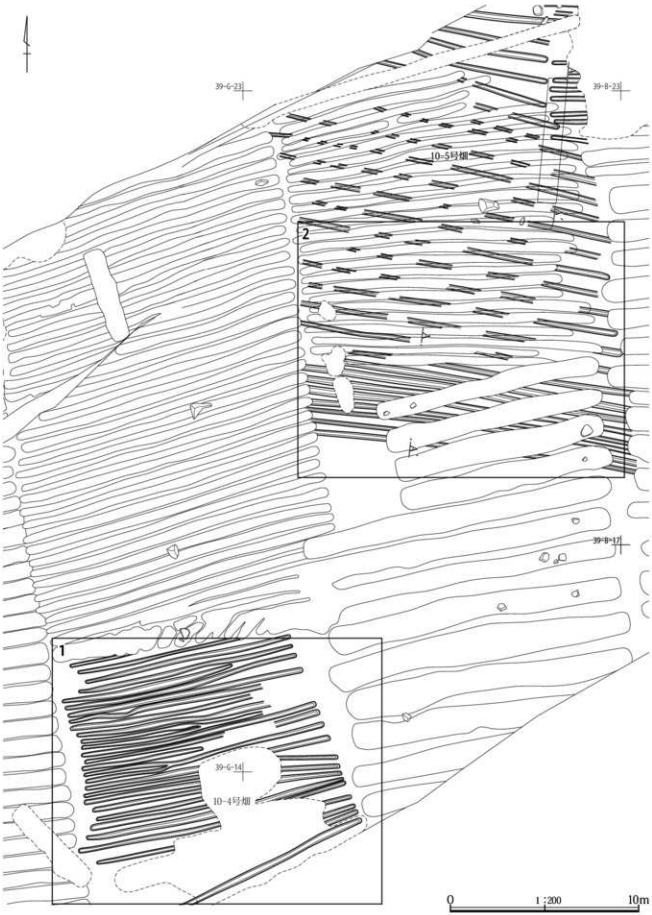
（６）　第６区画

48・49-Ｕ～Ｂ－９～16グリッド　発掘区東北端にあり、東辺と北辺は発掘区外となる。西辺は５号道に画され、第３区画８号畑に隣接する。南部が大きく攪乱されていて南辺の状況はわからない。東西確認長11.1m、南北確認長28.6m、面積253.59㎡。畝間溝63条が確認され、およそＮ-61°-Ｅを示して並ぶ。南東から北西に下る斜面にあって、畝間溝は傾斜と斜行する。畝間溝間の平均距離は0.45mとなる。東部北寄りに円形の８号平坦面がある。

（７）　第７区画

38・48-Ｊ～Ｕ-24～９グリッド　発掘区の南東端にあたる。東辺と南辺は発掘区外となり、西は５号から７号道で画される。南部は第３区画８号・９号畑と隣接し、９号畑との境界近くからは比高が大きくなって小崖を介する。南は第６区画畑と接するはずであるが、攪乱されて境界がわからない。南北58mにわたる細長い区画である西から東へと下る地形で、これにほぼ平行するように南北ないし北西-南東方向に畝間溝が切られている。地形の制約を受けてか、狭い範囲で畝間溝が途切れており、この境界を単位として１号から４号畑に区分した。

第７区画１号畑　48-Ｓ～Ｕ－７～８グリッド　東辺は発掘区外、西辺は２号石垣と５号道を挟んで、やや高い位置にある第３区画８号畑と隣接する。南辺は２号畑と接する。両畑の畝間溝端部は若干離れていて、切り合わない。北は第６区画畑と接するはずであるが、攪乱されて境界がわからない。東西確認長9.9m、全長のわかる畝間溝は無く、南北確認長7.5m、面積67.71㎡。畝間溝21条がおよそＮ-135°-Ｅを示して並ぶ。西から東へと下る地形で、これにほぼ平行するように畝間溝が切られて



第65図　第２面　第10区画畑中部

1　As-A軽石
2　にぶい黄褐色土　10YR4/3　白色粒を微量含む。径５～10mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。
3　黄褐色土　10YR5/6　径10mm程度の礫を含む。締まりあり。粘性あり。
4　暗褐色土　10YR3/3　径５～15mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。
5　暗褐色土　10YR3/3　白色粒を少量含む。ロームブロックを含む。締まりあり。粘性あり。

第66図　第２面　第10区画５号畑断面図

いる。畝間溝間の平均距離は0.47mとなる。写真記録では特に東側部分が、畝間溝内のAs-A軽石が不明瞭で、また、２号畑との間も含め、畝上にも同軽石が分布しているように見える。北西隅に円形の９号平坦面がある。

第７区画２号畑　48-O～U-４～８グリッド　東辺は発掘区外。西辺北部は攪乱されて不明瞭だが、１号溝状遺構、２号石垣、４号道を挟んで第３区画８号畑と隣接する。南半で２号石垣が小さな円弧状に張り出すが、この内部にも、これを充填するように短い畝間溝が切られている。南部は大きく攪乱されている。北は１号畑と接する。両畑の畝間溝端部は若干離れていて、切り合わない。東西確認長11.1m。全長のわかる畝間溝は無く、南北確認長は10.8mほどである。面積86.59㎡。残りの良い部分では畝間溝23条がおよそN-120°-Eを示して並ぶ。畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。なお、南部の３号畑との間に畝間溝の部分的な残存が見られる。このうち北側の畝間溝群はN-102°-E前後を示していて２号畑に比較的近い。

第７区画３号畑　48-L～O-２～４グリッド　東及び南は発掘区外、西辺は小崖を隔てて第３区画９号畑が隣接する。北は攪乱を受けている。東西確認長5.4m、南北確認長15.7m、面積40㎡ほどの範囲にあるが、中央近くに畝間溝の境界がある。北部は畝間溝の最大確認長7.4m、およそN-94°-Eを示す畝間溝が4.8m間に11条並び、畝間溝間の平均距離は0.44mとなる。北のO・P-４・５グリッドにある畝間溝はN-92°-Eを示していて、この群に近い。南部は畝間溝の最大確認長7.3m、およそN-110°-Eを示す畝間溝が2.2m間に５条並び、畝間溝間の平均距離は0.44mとなる。南西から北東へ傾斜地にあるため、畝間溝は等高線に対してやや斜行気味に切られていることになる。南北溝群の境界の西に接して円形の10号平坦面がある。また、南西にある４号畑との間の傾斜地中段に２号炭窯がある。

第７区画４号畑　38・48-J～L-24～１グリッド　東から南にかけて発掘区外となる。西辺は急傾斜の崖部を隔てて上段に第11区画２号畑がある。北に２号炭窯の乗る小段があって、３号畑とは直接接しない。東西長4.3m、南北確認長9.6m、面積34.4㎡の範囲にあるが、畝間溝の境界で２群に分かれる。北側は最も長いものでも2.5mほどの短い畝間溝が、３m間に７条切られるもので、方位はN-147°-E、畝間溝間の平均距離は0.43m。南側の群は東西確認長4.3m、南北確認長6.9m。およそN-152°-Eを示す畝間溝が10条並び、畝間溝間の平均距離は0.43mとなる。平坦面は確認されていない。

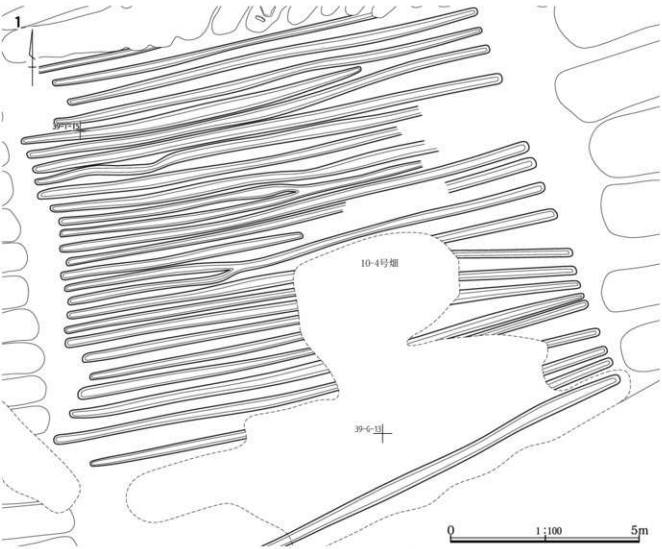
（８）　第８区画

39-S～U-20～22グリッド　東辺は９号道を挟んで第９区画畑と隣接する。西辺境界は特別な施設、構造は無い。畝間溝西端からやや離れた位置に３号ヤックラがある。南辺は上段に続く斜面で画される。北は小段とそこに形成されたを４号ヤックラを介して第２区画１号畑の空白部よりに隣接する。東西長7.6m、南北長3.5m、面積25.52㎡。畝間溝５条がおよそN-69°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.7mとやや幅が広い。平坦面は確認されていない。

（９）　第９区画

39・48・49-Y～S-21～３グリッド　第３区画１号～７号畑の南にある、３号道と上段に続く傾斜面との間の狭長な場所を占める。東西は82.4mあるが、南北最大幅は８mほどしかない。斜面に寄せて作られた５号～９号ヤックラを境界として、１号～５号畑に区分した。

第９区画１号畑　39-M～S-21～24グリッド　東辺は５号ヤックラを挟んで２号畑と隣接する。西辺は９号道



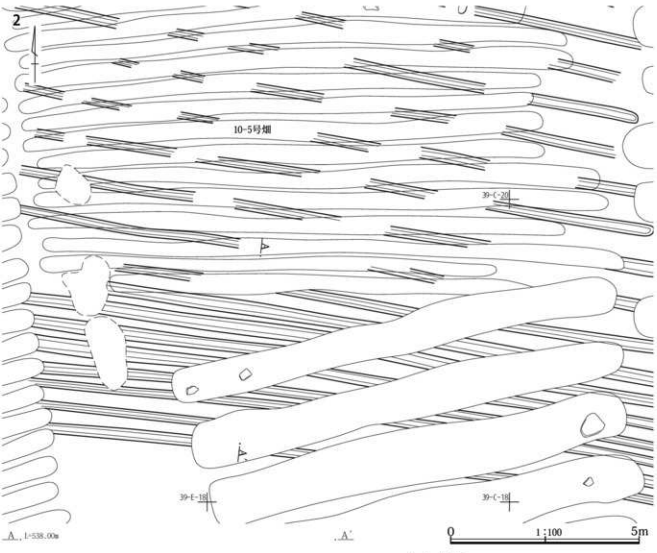
第67図　第２面　第10区画畑中部部分図１

を挟んで第８区画畑と、北辺は３号道を挟んで第３区画１号・３号畑と隣接する。南辺は上段との境となる傾斜面である。東西長22.8m、南北長4.1m、面積85.08㎡。畝間溝７条がN-64～68°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.56～0.59mとなる。平坦面は確認されていない。

第９区画２号畑　39・49-H～M-23～１グリッド　東辺は６号ヤックラを挟んで３号畑、西辺は５号ヤックラを挟んで１号畑と隣接する。ヤックラ周辺が乱された部分が多いが、５号ヤックラの南部はヤックラ背面まで回り込むように畝間溝が切られる。南辺は上段との境となる傾斜面で、中央部は斜面が張り出し、崩落したと思われる礫が見られる。北は３号道を挟んで第３区画４号・５号畑と隣接する。東西長22.8m、南北長5.8m、面積70.33㎡。各畝間溝には長短があって、最も長いものでは10.9mほどある。14条がおよそN-69°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.41mとなる。平坦面は確認されていない。

第９区画３号畑　49-E～G-１～３グリッド　東辺は７号ヤックラを挟んで４号畑に隣接し、西辺は６号ヤックラを挟んで２号畑に隣接する。南辺は上段との境となる傾斜面で、北辺は３号道を挟んで第３区画６号畑南の空白部分と隣接する。東西長10.1m、南北長4.8m、面積37.4㎡。畝間溝は北部が短く南部が長い。10条がおよそN-72°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。

第９区画４号畑　48・49-Y～D-１～３グリッド　東辺は９号ヤックラ及び発掘区界で画される。西辺は７号ヤックラを挟んで３号畑と隣接する。南辺は９号ヤックラ背面に回り込むように畝間溝が切られるが、上段との



1　As-A軽石
2　褐色土　10YR4/4　径10 ～ 15mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。
3　黄褐色土　10YR5/6　黄色粒を微量含む。もろい。粘質。
4　黒褐色土　10YR3/2　径２～５mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性。

第68図　第２面　第10区画畑中部部分図２

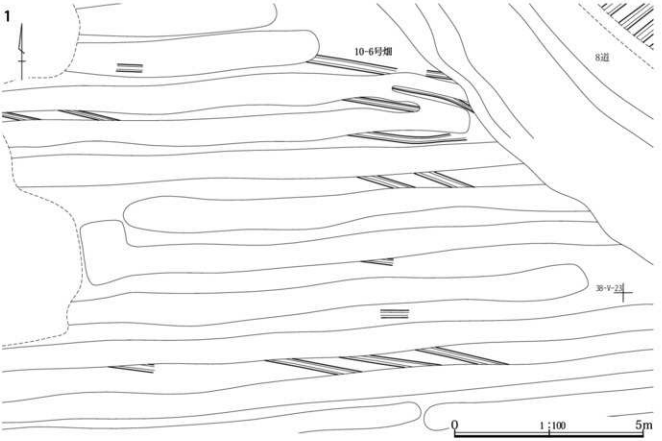
境となる傾斜面で画される。北は３号道を挟んで第３区画７号畑と隣接する。南辺中央部に８号ヤックラがあって、その周囲はやや広く乱れる。東西13.6m、南北6.6m、面積40.27㎡ほどの範囲を占めるが、中央部を境に東西に二分される。東部は最長確認長4.9m畝間溝19条がおよそN-75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.45m。西部は途切れるものが多いが、最長5.9mの畝間溝７条がおよそN-70°-Eの方向で並び、畝間溝間の平均距離は0.42mである。平坦面は確認されていない。

(10)　第10区画

38-T～39-S-６～23グリッド　発掘区上段の緩傾斜部の西部を占める。東辺は第11区画畑と接するが、明確な境界施設はない。西辺は11号道で区切られ、以西では畑遺構は確認されない。南辺は発掘区界に達し、北は下段との境界となる傾斜面に至る。東西長111.2m、南北長53.6mの広い区画であるが、中央部は泥流到達後の復旧坑群に大きく攪乱されていて、詳細が把握できない。特に東部は復旧坑間に僅かに畝間溝の痕跡が残るにとどまる。

第10区画１号畑　39-R・S-９～15グリッド　東辺は２号畑と接するが、畝間溝端は切り合わない。西辺は４号道で画される。南端は大きく攪乱される。弧状を描く

第69図　第２面　第10区画畑東部



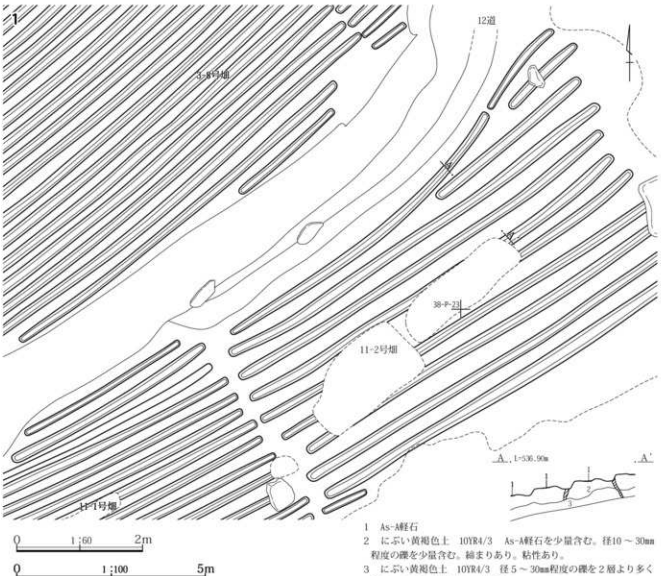
第70図　第２面　第10区画畑東部部分図１

第71図　第２面　第11区画畑

道に沿って、中央がやや長く、南北に向かって短くなる畝間溝が切られていて、弓形の平面形状を呈する。北部はやや攪乱されていて、端部が明確に捉えられない。東西最大長4.4m、南北長24m、面積83.13㎡。中間に発掘区界があって全体を確実に捉えることができないが、畝間溝51条がおよそN-92°-Eを示して並び、残りの良い部分での畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。

第10区画２号畑　39-O～R-６～16グリッド　東辺は南部で３号畑と接するが、畝間溝端部は切り合わない。東辺北部は１号復旧坑群と接するが、畑の畝間溝が復旧坑に切られる状況は見られない。西辺は１号畑と接していて、11号道の弧線に揃うように中央部が西に膨らむ。畝間溝端は切り合わない。南辺は特別の境界施設がないが、発掘区界手前で畝間溝が確認できなくなる。南西部は大きく攪乱を受けている。北辺も特別の境界は見られないが、下段に続く傾斜部のやや手前で畝間溝が確認できなくなる。東西最大長11.02m、南北長31.82m、面積330.74㎡。畝間溝43条が、４号畑に接する部分より北部ではおよそN-89°-E、南部ではN-75°-E前後を示して並ぶ。畝間溝間の平均距離は0.5mほどである。平坦面は確認されていない。

第10区画３号畑　39-K～O-６～９グリッド　東辺は調査区界に達して、全長がわかる畝間溝はない。畝間溝東端は１号復旧坑群を越えて２号復旧坑群の中部近くに達する。西辺は２号畑と接するが切り合わない。南辺は特別の境界施設がないが、発掘区界手前で畝間溝が確認できなくなる。北辺は１号・２号復旧坑群に切られて把



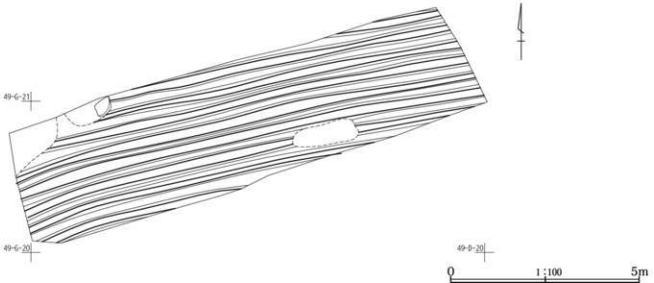
1　As-A軽石
2　にぶい黄褐色土　10YR4/3　As-A軽石を少量含む。径10～30mm程度の礫を少量含む。締まりあり。粘性あり。
3　にぶい黄褐色土　10YR4/3　径５～30mm程度の礫を２層より多く含む。２層より締まり、粘性あり。

第72図　第２面　第11区画畑部分図１

握できないが、最北端の畝間溝は復旧坑に切られていない。北辺西寄りに12号平坦面があって、これは１号復旧坑群の最南端溝に半切される。おそらく更に北までこの畑が伸びていたものと思われる。東西確認長20m、南北長10.1m、面積147.78㎡。畝間溝11条がおよそN-81°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.92mと幅広である。

第10区画４号畑　39-E～I-12～15グリッド　東辺は６号復旧坑群、西辺は２号復旧坑群に接する。両辺ともにやや不規則で畝間溝の長短が揃わない。復旧坑端部との間にも若干の空隙があって切り合わない。南辺には攪乱部があって不明瞭だが、１条のみ明確に方位を異にする畝間溝があって、これが境界をなしたかと思われる。北は４号復旧坑群に画される。東西長13.95m、南北長13.2m、面積166.87㎡。畝間溝29条が数えられ、およそN-77°-Eを示して並ぶが、最南端の畝間溝のみN-64°-Eを示す。畝間溝間の平均距離は0.41mとなる。平坦面は確認されていない。

第10区画５号畑　39-A～F-18～24グリッド　南西の一部を除いて５号復旧坑群下に当たって、復旧坑間に畝間溝痕跡が断続的に残される。東辺北部は攪乱されているが、７号復旧坑と接し、南部は８号復旧坑群と接する。両復旧坑群に切られている。西辺は３号復旧坑群に切られる。南端の畝間溝以南では畝間溝が見つかっていないため、以南は畑ではない、あるいは軽石降下後の耕作域と考えられる。南は６号復旧坑群北端を超えて広がりが



第73図　第２面　第12区画畑

ある。北東隅部は畝間溝の方位や間隔がやや異なる。東西確認長16.7m、南北確認長25.8m、面積369.12㎡。畝間溝34条が数えられる。北東部ではおよそN-75～77°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.8mほど、以南はN-79～83°-Eで、南西部の残りの良い部分では畝間溝間の平均距離0.51mほどである。平坦面は確認されていない。

第10区画６号畑　38・39-U～A-20～24グリッド　７号・９号復旧坑群の復旧坑間に畝間溝痕跡が点々と残るもので、全容及び細部は把握できない。東西16.8m、南北15.4m、面積372.87㎡の範囲で痕跡が認められ、N-73～82°-E方向に延びる畝間溝であったものと思われる、畝間溝間距離も捉えがたいが、0.2～0.4mほどかと思われる。平坦面はない。

(11)第11区画

38-N～T-18～25グリッド　発掘区の東南角部にあたる。東辺は斜面を介して第７区画畑に隣接する。西辺は９号復旧坑群と接するが、間に細長い攪乱があって切合い関係などは把握できない。畝間溝西端部は攪乱に切られる。また、９号復旧坑群の復旧坑東端も攪乱に切られている。南部は発掘区界まで大きく攪乱されているが、発掘区界まで畝間溝が認められる。北は斜面を介して第３区画８号・９号畑と隣接するが、12号道が東部の上段にあり、傾斜面下を８号道が縦る。東西確認長31.2m、南北確認長18.7mほどの範囲を占めるが、中央部で二分され、西部は畝間溝間隔が狭く、東部はやや広い。

第11区画１号畑　38-Q～T-18～22グリッド　東辺は２号畑と接するが、畝間溝未端はお互いに切り合わない。西辺は細長い攪乱部を隔てて９号復旧坑群と隣接する。南辺は大きく攪乱されているが、発掘区界まで畝間溝が認められる。北は急傾斜を介して、1.4mほど下の第３区画８号畑と隣接する。東西13m、南北12.2m、面積86.27㎡。26条ほどの畝間溝が数えられ、およそN-65°-Eを示す。畝間溝間の平均距離0.47mほどである。平坦面は確認されていない。

第11区画２号畑　38-N～Q-21～24グリッド　東部は東向き傾斜部の上縁に沿って攪乱されるが、畝間溝の多くは攪乱部よりやや西で端部が完結する。傾斜下は第７区画３号畑となる。西辺は１号畑と接するが切り合わない。南辺は攪乱されて把握できない。北は12号道で画され、南向きの傾斜面下に第３区画８号・９号畑がある。東西長14m、南北長7.4m、面積71.94㎡。畝間溝11条がおよそN-58°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.67mとなる。平坦面は確認されていない。

(12)　第12区画

48-D～G-20・21グリッド　他の発掘区とは離れて吾妻川寄りの位置にある。標高521.34～520.86m。東西長12.6m、南北長3.4m、面積39.02㎡のトレンチ内に、畝間溝９条が確認された。畝間溝の端部は確認されておらず、各溝の長はこれより長い。方位ははおよそN-78°-Eを示し、畝間溝間の平均距離は0.42mとなる。平坦面は確認されていない。

第３項　平坦面

畑面に残された、円形ないし四角形の平面形を呈して内部に凹凸の少ない部分を「平坦面」として調査している。八ッ場ダム地域の天明泥流下畑にあっては通有かつ特徴的に見られるものである。直径1.5 ～ 2.5mで、平面形が円形／方形、周囲を囲む溝（平坦面溝）がある／ない、畑の畝間溝が平坦面を切る／切らない、中央に溝がある／ないなどによっていくつかの類型が考えられている。作物種子と堆肥を混ぜ合わせる、播種前の作業の場などの性格が想定されている。

本遺跡では平成14年度発掘区で３か所、今次調査で12か所で円形平坦面が確認されている。14年度発掘区例はいずれも発掘区東寄りの部分にあり、今次発掘区に合わせると、第２区画畑の西部、第３区画１号畑にそれぞれ連続する畑内及び第２区画畑の空白部の北に接する畑内に１か所認められている。畝・畝間溝が明確な畑内にあって、畝間溝が平坦面に食い込むように表現されている。直径1.2m前後と、今次調査のものと比べるとかなり小さく、平坦面溝や中央溝はない。As-A軽石が平坦面上にもあり、As-A軽石降下前に行われた行為の痕跡であることがわかる。

今次調査範囲においては、第３区画西部、第４区画、第６・７区画及び第10区画にある。第６・７区画では畑ごとにあるように認められるが、第３区画３号・４号畑は畑面全域が調査されているが、平坦面はない。一方、第３区画７号畑では２か所の平坦面が確認されている。11号平坦面は、畑の項でも触れたが、畝や畝間溝の痕跡が捉えられていない部分にある唯一例である。12号平坦面は復旧坑で半裁されている。こうしてみると、平坦面は畝・畝間溝で示される耕作単位とは必ずしも対応しないことがわかる。断面記録のある５・６・９・10号平坦面ではいずれも、As-A降下軽石が平坦面上に乗る。

個々の平坦面を見ると、径1.37 ～ 1.95m、平均1.68m、中央値1.64mの円形平面形のもので、方形のものはない。畝間溝を切り、平坦面溝や中央部の溝がない１号～４号および７号・10号・11号平坦面、周囲を囲む溝が畝間溝を切り。中央溝がない８号・９号・12号平坦面、平坦面

第74図　第２面　平坦面位置図

溝が畝間溝を切り、中央溝が周囲の溝と連続する５号平坦面、畝間溝が平坦面溝の手前で止まり、中央溝が平坦面溝まで達せずに完結する６号平坦面という４類型が認められる。明確に掘削・削平されたものではなく、荷重による変形ともとれるような微弱な痕跡であるため、この類型が異なる行為や用具の痕跡であるのか、同じ行為・用具の痕跡の強弱、保存環境を示すものであるのか判断できない。

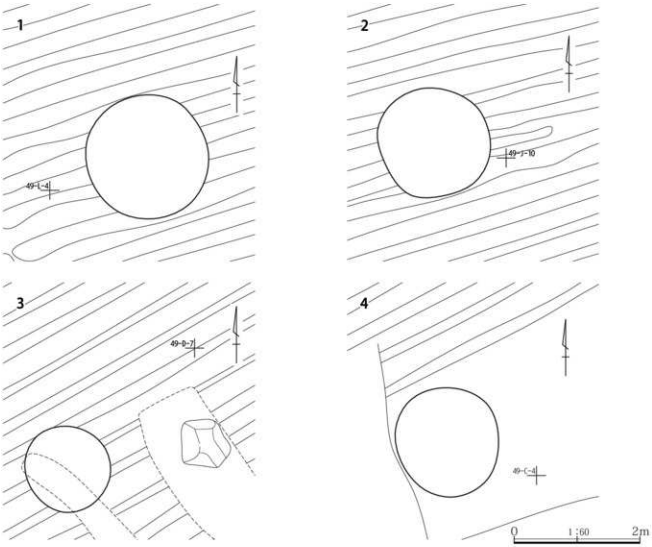
１号平坦面　49-Ｋ-３・４グリッド　標高523.8m前後にある。円形の平面形で、外径は195cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第３区画５号畑の南部西辺近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

２号平坦面　49-Ｊ-９・10グリッド　標高522.31m前後にある。円形の平面形で、外径は178cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第３区画６号畑の北寄り中央近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

３号平坦面　49-Ｄ-６グリッド　標高525.32m前後にある。円形の平面形で、外径は137cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第３区画７号畑の南部中央近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

４号平坦面　49-Ｃ-３・４グリッド　標高526.34m前後にある。円形の平面形で、外径は172cmほど。平坦面溝はない。中央溝ない。第３区画７号畑の南端中央にあり、畝・畝間溝が確認できない部分に当たる。

５号平坦面　49-Ｂ-10・11グリッド　標高525.5m前後にある。円形の平面形で、外径は155cmほど。平坦面溝は幅18～20cmで全周し、内形は117cmほど。深さ２～５cm。中央溝はＮ-124°-Ｅと北西-南東方向間溝を示し、幅20cm、深さ７cm。平坦面溝、中央溝内にはAs-A降下軽石が堆積する。第３区画８号畑北部中央にあり、周囲の



第75図　第２面　平坦面１

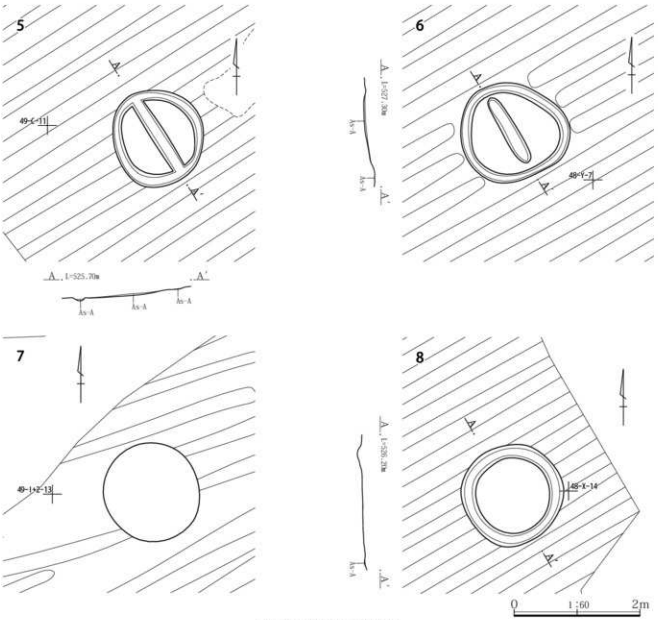
畝間溝を切る。

６号平坦面　48-Y-６・７グリッド　標高527.1m前後にある。南東がやや膨らむ下ぶくれの円形平面形で、外径は165cmほど。平坦面溝は幅18cm前後で全周し、内形は132cmほど。深さ１～３cm。中央溝は幅24cmほどで、５号平坦面とほぼ同じN-124°-Eを示す。深さ３～５cmで、両端は平坦面溝まで達せずに完結する。平坦面溝、中央溝内にはAs-A降下軽石が堆積する。第３区画８号畑中央やや北寄りの中央部にあり、周囲の畝間溝は平坦面溝直前で完結する。

７号平坦面　49-G・H-12・13グリッド　標高521.75m前後にある。円形の平面形で、外径は160cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第４区画畑の北発掘区画近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

８号平坦面　48-X-13・14グリッド　標高525.92m前後にある。円形の平面形で、外径は162cmほど。平坦面溝は幅24cm前後で全周し、内径は1.14mほど、深さ２～３cm。中央溝はない。第６区画畑やや北寄りの発掘区東端にあり、周囲の畝間溝を切る。

９号平坦面　48-U・V-７グリッド　標高527.72m前後にある。東西にやや長い長円形の平面形で、外側長軸径は182cmほど。平坦面溝は幅18～24cm前後で全周し、内側長軸径は153cm。中央溝はない。第７区画１号畑の北西隅にあたる。北側が攪乱されるが、東側では畝間溝



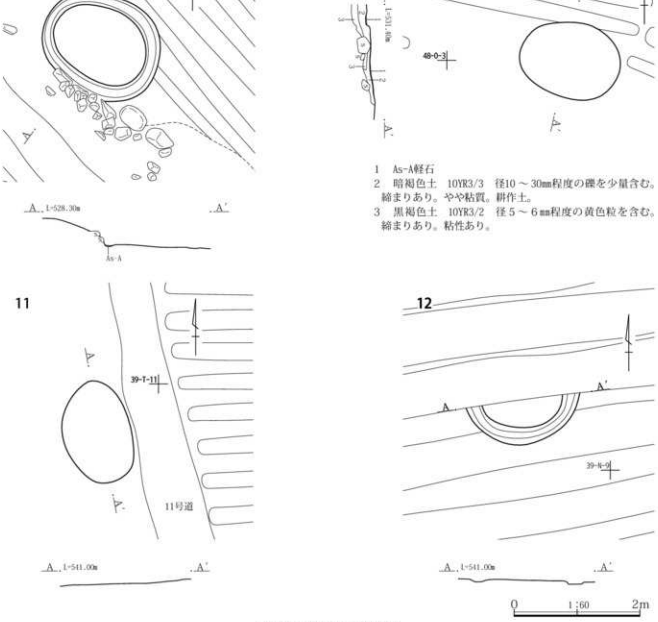
第76図　第２面　平坦面２

を切る。西側は２号石垣に接して、石垣の礫が平坦面溝上に崩落している。平坦面溝内にAs-A降下軽石が堆積する。

10号平坦面　48-Ｎ-２・３グリッド　標高531.16m前後にある。東西に長軸を持つ長円形の平面形で、長軸長は160cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第７区画３号畑にあって、周囲の畝間溝を切る。平坦面内部がやや窪み、As-A降下軽石が堆積する。

11号平坦面　39-Ｔ-10・11グリッド　標高540.8m前後にある。南北に長い偏円形の平面形で、長軸長は162cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。高低図を見ても周囲との比高はほとんどなく、痕跡的なあり方を示す。11号道に接していて、道の東には第10区画１号畑があるが、平坦面周辺では畝や畝間溝は確認されていない。

12号平坦面　39-Ｎ-９グリッド　標高540.85m前後にある。円形の平面形であったと思われるが、北半を復旧坑に切られる。外径は185cmほど。平坦面溝は25cm前後で巡る。深さ２～９cm。中央溝はない。第10区画３号畑にあって、周囲の畝間溝を切る。



第77図　第２面　平坦面３

第４項　ヤックラ・２号炭窯

畑地内あるいは畑地の片隅の斜面に寄せかけるように、人為的に礫が集められ、積み上げられた場所が見られる。従前の調査では、周囲に比較的大ぶりの礫を巡らした中に中小の礫が集積されている例が多く、開墾時に発生した礫を処理する場所であり、その後の耕作時に出た礫などが順次積み上げられていったものと考えられている。現在でも遺跡周辺から、耕作中に出た礫などをまとめ置く部分を「ヤックラ」と呼んでいるが、これに相当するものであろう。西ノ上遺跡では、10か所が見つかっているが、うち９か所が下段の南側、１号～３号道と上段との境界斜面の間に、斜面に寄せ付けるように設けられる。第８・第９区画畑はこの隙間を耕すような状態にある。10号ヤックラのみが斜面から離れて、第３区画８号畑と９号畑の境にある。

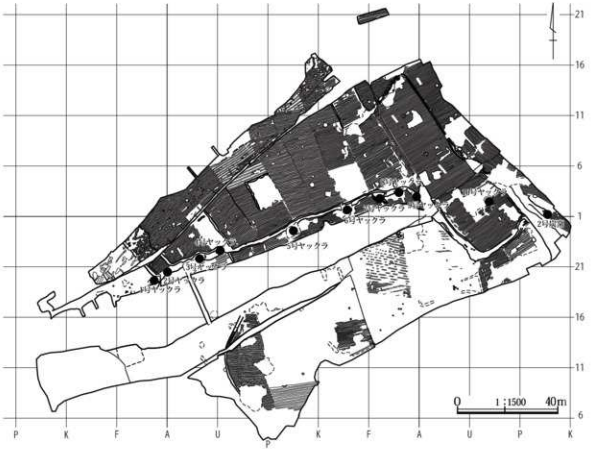
炭窯は発掘区東端近くに作られたもので、写真記録では煙道や灰原が見られる。

１号ヤックラ　40-A・B-19・20グリッド　標高522.8～533.6m。東2.2mに２号ヤックラがある。以西には遺構が認められていない。東西5.24m、南北2.08m。平面形は東西に長軸を持つ長円形で、東部がやや膨らむ。南側の斜面を削り込み、また底面もやや掘り下げて掘り方を構築する。下部にやや小ぶりの礫が多く、斜面下方に大ぶりの礫が多く見られる。

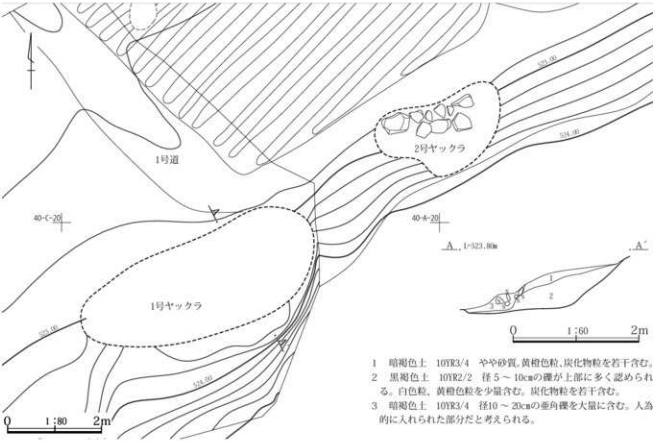
２号ヤックラ　39・40-Y・A-20グリッド　標高522.8～5523.9m。東10.5mに３号ヤックラ、西2.2mに１号ヤックラがある。東西2.8m、南北1.6m。平面形は北辺が膨らむ不整長円形。北部に大型の礫が集中する。

３号ヤックラ　39-V・W-21・22グリッド　標高523～524.3m。東4.2mに４号ヤックラ、西10.5mに２号ヤックラがある。東西4.32m、南北2.88m。平面形は不整形で、南西部が乱されて全体が把握できない。南側にやや大ぶりの礫が散在する。

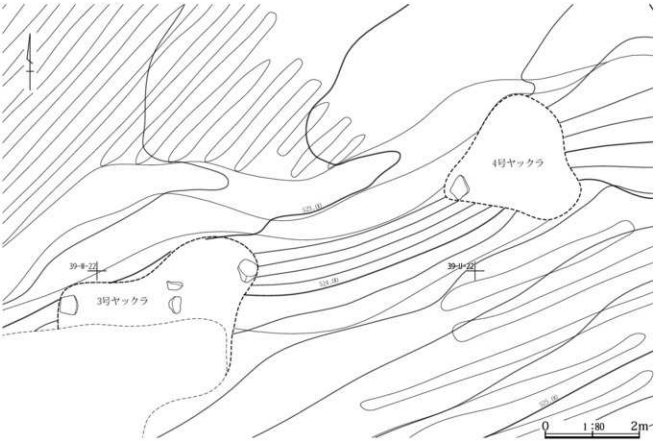
４号ヤックラ　39-T・U-19・20グリッド　標高522.8～524.4m。東25.9mに５号ヤックラ、西4.4mに３号



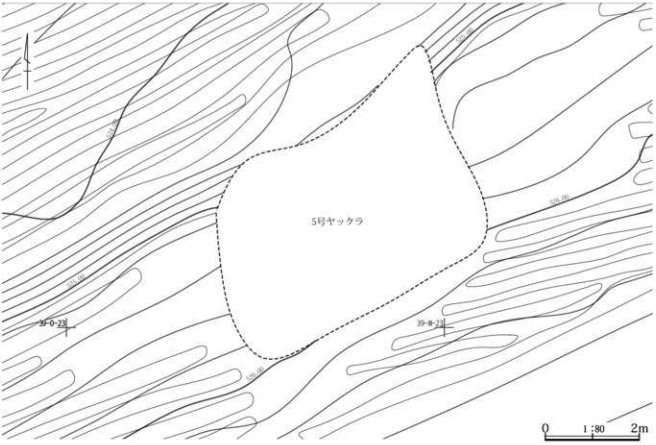
第78図　第２面　ヤックラ・炭窯位置図



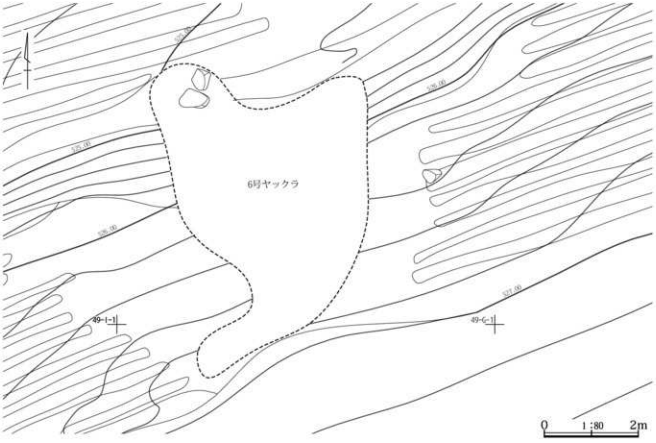
第79図　第２面　１号・２号ヤックラ・１号ヤックラ断面図



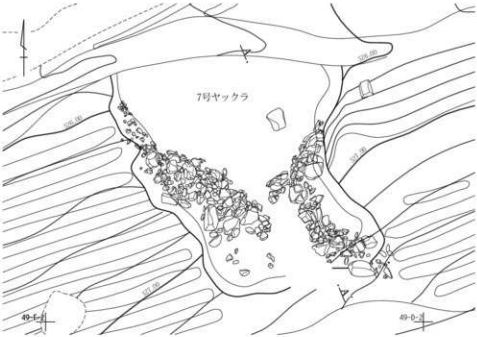
第80図　第２面　３号・４号ヤックラ

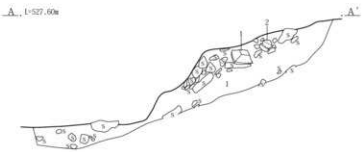


第81図　第２面　５号ヤックラ



第82図　第２面　６号ヤックラ

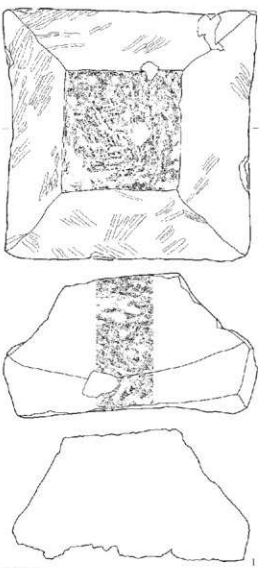




1　黒色土　上層部に礫を含み、全体に攪乱を受ける。
　下部は礫少なく締まる。

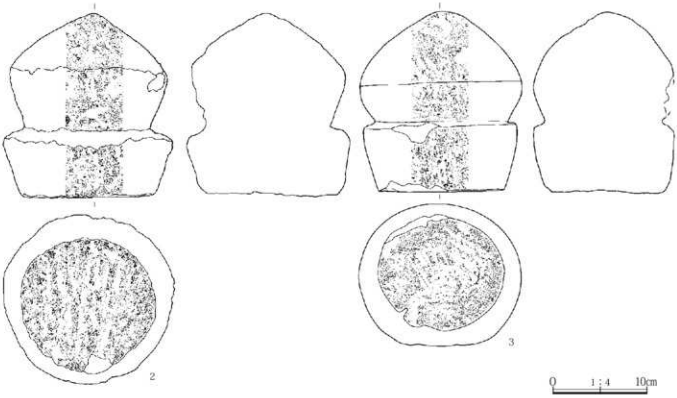
0　1:60　2m

第83図　第２面　７号ヤックラ

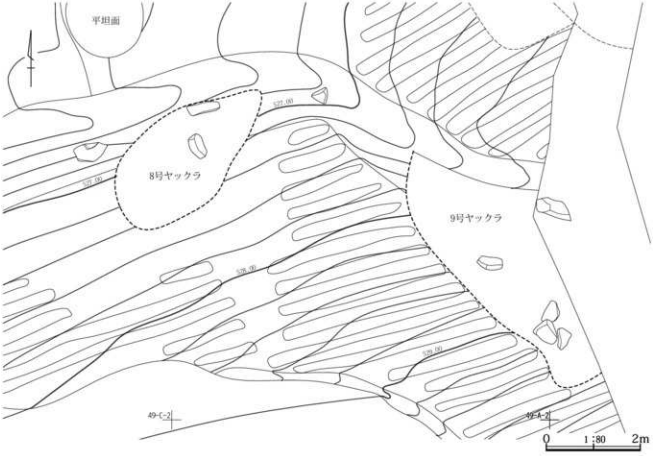


0　1:4　10cm

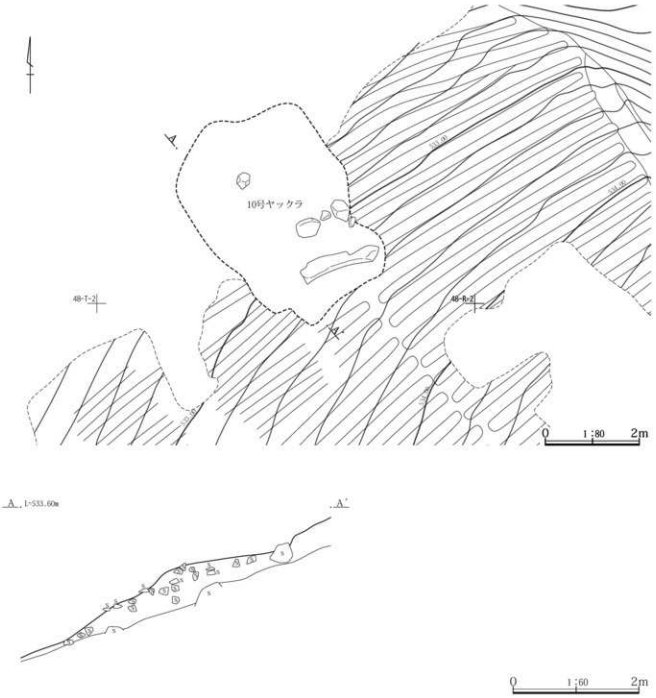
第84図　第２面　７号ヤックラ出土遺物１



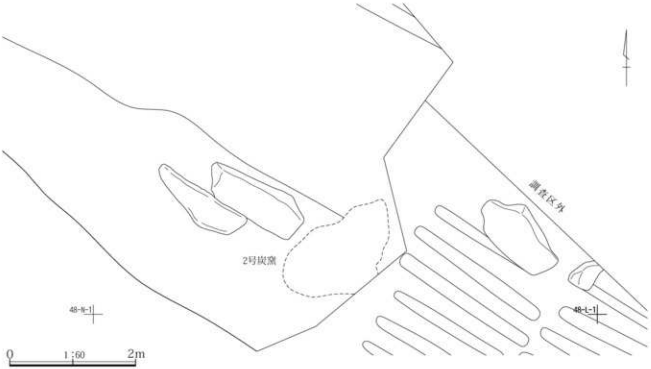
第85図　第２面　７号ヤックラ出土遺物２



第86図　第２面　８号・９号ヤックラ



第87図　第２面　10号ヤックラ



第88図　第２面　２号炭窯

ヤックラがある。東西2.68m、南北2.76m。平面形は隅丸のゆがんだ三角形状を呈する。西部にやや大ぶりの礫がある。

５号ヤックラ　39-L～N-23～25グリッド　標高524.6～526m。東18mに６号ヤックラ、西25.9mに４号ヤックラがある。東西6.64m、南北4.48m。平面形はゆがんだ隅丸の平行四辺形に近い形状を呈する。

６号ヤックラ　39・49-G・H-25～２グリッド　標高525～527m。東8.9mに７号ヤックラ、西18mに５号ヤックラがある。東西4.48m、南北6.68m。平面形は北部が大きく膨らみ、北辺がやや窪むようなゆがんだ涙滴状を呈する。北東端にやや大ぶりの礫が見られる。

７号ヤックラ　49-D・E-２・３グリッド　標高525.76～527.3m。東4.3mに８号ヤックラ、西8.9mに６号ヤックラがある。東西5.96m、南北7.52m。平面形は北部がやや広い隅丸の台形に近い形状を呈する。南側斜面を掘り込み、底面もやや深く掘り下げて掘り方を構築する。黒色土と礫で埋められるが、上層部及び掘り方南部外縁に特に大型の礫が多い。この中に五輪塔空風輪、火輪が含まれる。北部中央は礫・土の集石が少なく、相対的に窪んだような状態にある。

８号ヤックラ　49-B・C-２・３グリッド　標高526.8～527.5m。東3.36mに９号ヤックラ、西4.3mに７号ヤックラがある。東西3.88m、南北1.96m。平面形は西部が膨らんだ涙滴状を呈する。北は３号道の半ばまで張り出す。

９号ヤックラ　48・49Y・A-２・３グリッド　標高527.66～529.6m。東は発掘区界で切られる。西3.36mに８号ヤックラがある。東西4.12m、南北6.24m。平面形は東部が発掘区界に切られるため全形はわからない。７号ヤックラに近い隅丸台形状の平面形かと思われる。

10号ヤックラ　48-R・S-１・２グリッド　標高532.2～533.4m。第３区画８号畑と９号畑の境界にある。東西3.24m、南北4.68m。平面形は隅丸方形に近い形状を呈する。南東寄りに比較的大ぶりの礫がある。

２号炭窯　48-M-１グリッド　図上では大型の角礫２個が標高532.4～533mにかけて並ぶようにあり、その東南に破線で囲まれた領域があって、炭窯との注記がある。写真資料を見ると、破線部が灰原で、破線部の南端に石組みの煙突が作られていたらしい。規模や形状に関する記載はない。調査時には攪乱と判断された可能性もあり、天明泥流下面のものか、上位から掘り込まれたものであるかも確定しがたい。

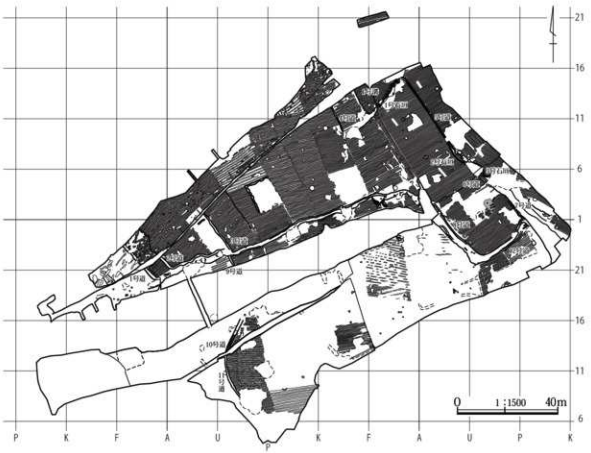
第５項　道・溝・石垣

ここでは、天明泥流直下で確認された道、溝、石垣に関する記載を行う。今次調査記録においては、溝状の窪みとして図上表現される遺構の中に、道としての遺構番号を付されているもの、溝とされているもの、溝状遺構とされているものに加え、遺構名や遺構番号が付与されずに図示されるものが混在する。一部高低や底面以下の土層に関する記載はあるものの、特に発掘時に４区とされた発掘区での、命名されていない遺構については、地表面の状況や硬度に関する記載も欠いているため、編集時点においてこれら遺構の性格を確定することはできない。流水を示す記載がないことや、浅く、皿状の断面形を示すこと、また２号道とした遺構については、平成14年度調査において道としての記載がなされている遺構と連続することから、３号道、４号道とともに、それぞれ道として記載することとした。

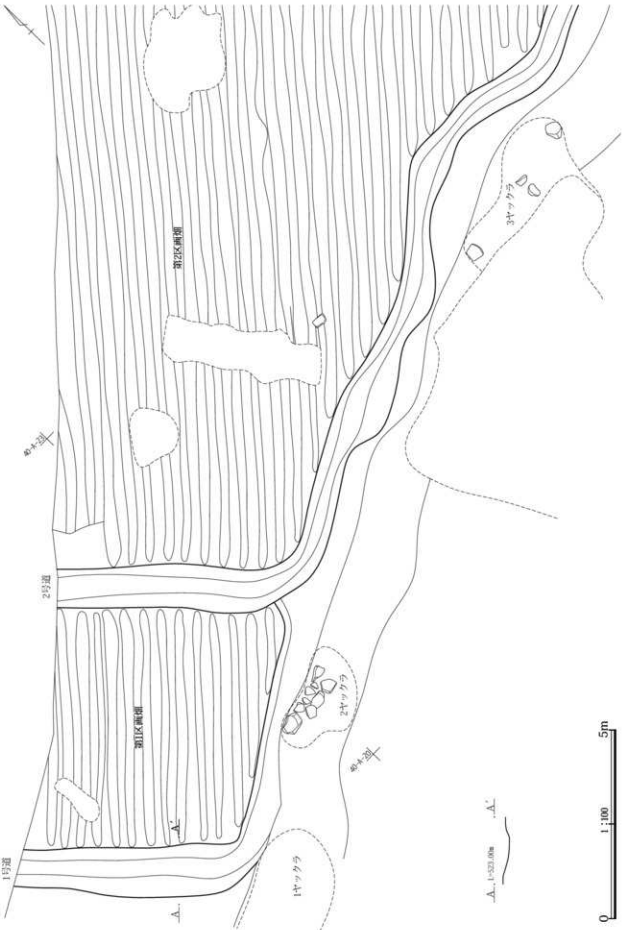
西部の１号～３号道はそれぞれＬ字状に屈曲し、２号道は１号道に切られるように表現される。しかし道としての機能を考えると、１号～３号道の東西走部110m余が一連の道であり、同道の南北走部が北からこれに接続し、９号道は南からこれに接続する個別の道と見ることもできよう。平成14年度調査では１号道の西にも南北走する道が認められているので、東西走する道は更に西に延びていた可能性もある。東部の５号～７号道は、攪乱に切られているが延長76mほどの一連の道であり、西から北に回り込む８号道もこれに連続するであろう。発掘区境界のわずかな空白を挟むが、１号～３号道の東西走部と８号道も連続するものと考えられる。

４号道は第４区画畑西端を画する。第４区画畑の南辺は第５区画畑南辺の１号溝の延長にあたる。おそらく１号溝も道として機能していたもので、これが連続して、両区画の外周を巡る道であろう。

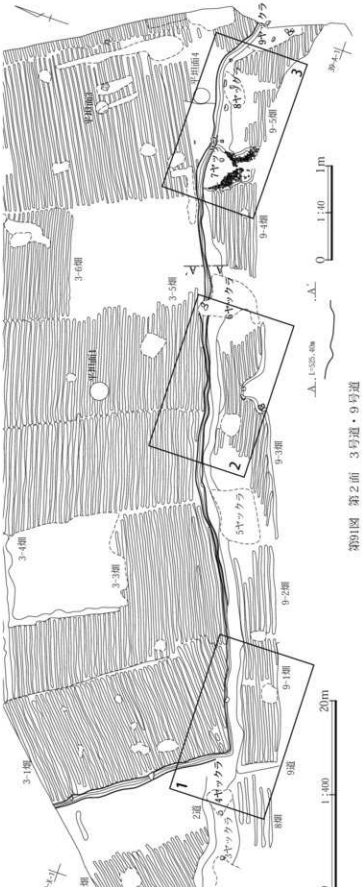
上段では西部の第10区画畑西端を弧状に囲む11号道とこの途中から西に延びる10号道、東部にあって７号道の東西走部と平行する12号道がある。11号道は南北両端が



第89図　第２面　道・溝・石垣位置図



第90図　第２面　１号・２号道



第91図　第２面　３号道・９号道

わかっていないが、北側では上下段中間の斜面を下って９号道とつながるように思える。

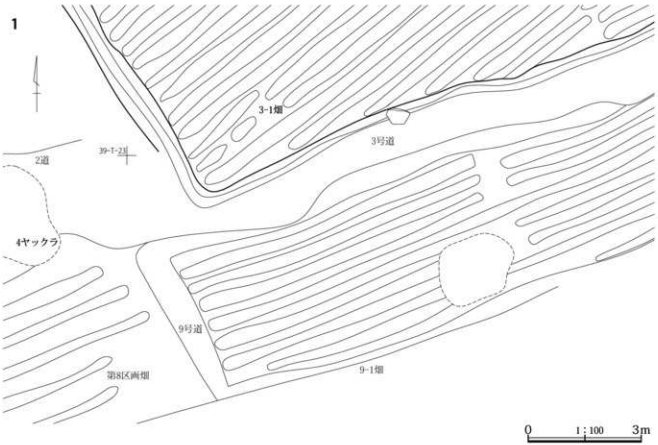
こうすると、１号～３号道東西走部と８号～５号道が連続して、発掘区の上下段を分かつ斜面の裾を巡り、これに西部では１号～３号道南北走部や９号道、北東部では４号道・１号溝がとりつく。９号道は上下段を繋いで、上段西辺を画する11号道、以西に連続する10号道に続くという動線が考えられる。

これらの道はいずれも微弱な窪みとして捉えられるもので、日常の農作業に伴って形成された道であろう。

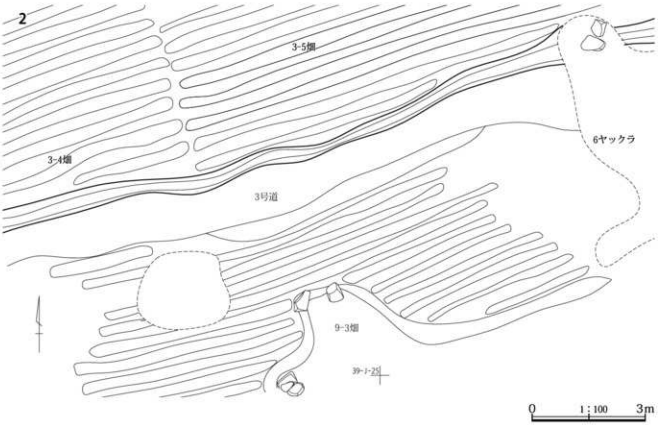
１号道　39・40-Ｙ～Ｃ-20～21グリッド　西部の南北走部はＮ-135°-Ｅ方向で北西-南東方向に延びる。幅100～150㎝、確認長６ｍほど。地形の傾斜に従って東側がやや深く窪んでいて、浅い皿状の断面形を呈する。写真記録では両側に溝状の窪みを伴い、中央部には波板状の構造があるようにも見える。40-Ｂ-20グリッドで東に折れ、Ｎ-62°-Ｅ方向で上段との境界斜面の下端を綴るように東西走する。屈曲点から7.5ｍほど東で２号道に切られるが、斜面際の平坦面は連続する。屈曲点近くに１号ヤックラ、東西走部分の中間より東寄りに２号ヤックラがある。なお、北部は平成14年度調査２号道と連続する。この道は長10.5ｍが調査されており、幅150㎝で東側がやや深く窪んだ断面形を呈し、底面は平坦だが、特に硬化した面は確認されていない。

２号道　39・40-Ｔ～Ａ-21～22グリッド　西部の南北走部はＮ-138°-Ｅで北西-南東方向に延びる。幅100～120㎝、確認長6.5ｍほど。39-Ｙ-21グリッドで東に折れ、Ｎ-70°-Ｅ方向で上段との境界斜面の下端を綴るように東西走する。屈曲点から22ｍほどで道としての輪郭は捉えられなくなる。なお、北部は平成14年度調査の３号道と連続する。この道は幅100㎝、長12.5ｍが調査されている。浅いＶ字状の断面形で、緩やかに蛇行している。

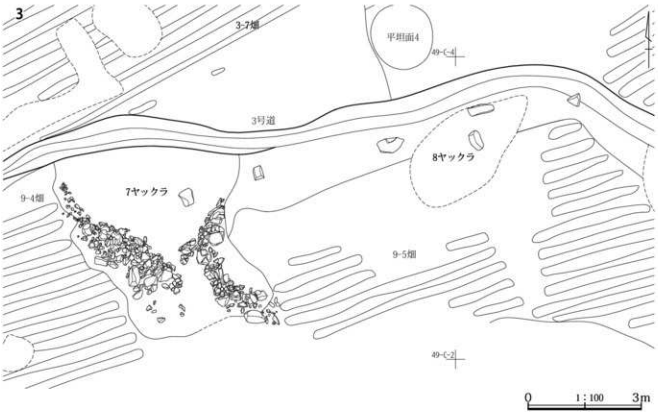
３号道　39・40・49-Ａ～Ｖ-22～３グリッド　西部の南北走部はＮ-135°-Ｅ方向で北西-南東方向に延びる。幅40～110㎝、確認長19.8ｍほど。９-Ｓ-22グリッドで東に折れ、第３区画畑と第９区画畑の間を、７号ヤックラまではＮ-70°-Ｅ方向で、



第92図　第２面　３号道部分図１・９号道



第93図　第２面　３号道部分図２



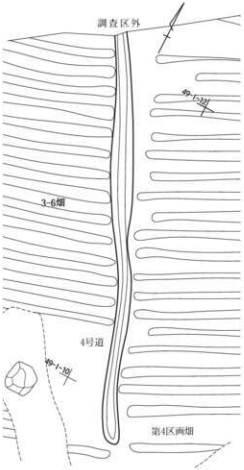
第94図　第２面　３号道部分図３

以東はN-93°-E方向で東西走する。南北走部は第３区画の西辺にあたり、第２区画東部の空白部との間を画す。北の平成14年度発掘区では５-１・３号畑と５-２・４号畑の境界に当たるが、道として延びることは確認されていない。東西走部は第３区画畑の南辺を画し、南の第９区画畑北端との間にある小段の下端を綴る。５号～９号ヤックラが道の南側に、この小段を切ってはみ出すように作られるが、６号ヤックラを除いて道上にまで達することはない。幅35～72cmほどで、小さく蛇行しながら東端は発掘区界に達し、確認長30mを測る。

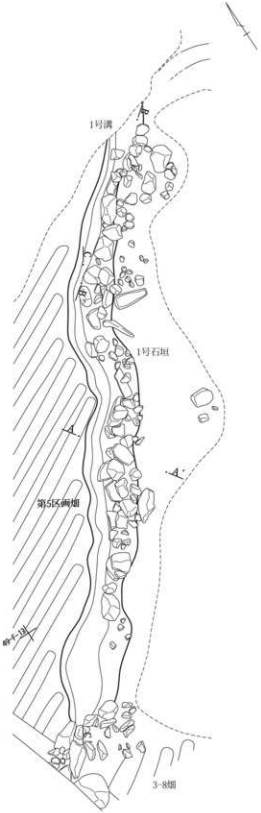
９号道　39-S-21グリッド　N-28°-W方向で北西-南東方向に延びる。確認長６m、上端幅90cm。断面形状等に関する記載はないが、溝状の窪みとして図示される。東は第９区画１号畑、西は第８区画畑。北端は３号道が南北走から東西走に屈曲する部分近くに当たって、南の斜面と３号道との間の平坦面に接続する。南は斜面下端で東に折れ、第９区画１号畑の南辺に回り込むかに見える。

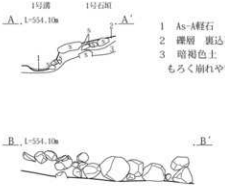
４号道　49-H・I-９～12グリッド　N-155°-E方向で北西-南東方向に延びる。確認長10.8m、幅28～60cm。断面形状等に関する記載はないが、浅い溝状の窪みとして図示される。北端は発掘区界に達し、平成14年度発掘区では11号畑と12号畑の境界線がこの延長上にあたるが、道は確認されていない。東の第４区画畑、西の第３区画６号畑との境界となっていて、第４区画畑南端で溝状窪みが完結する。

１号溝・１号石垣　１号溝：49-C～F-11～14グリッド　１号石垣：49-C～E-12～14グリッド　調査時点では溝とされているためにこれを踏襲するが、石垣と並行すること以外は道との差を見いだしがたい。１号石垣は１号溝の南壁に組まれている。東端は発掘区界にかかるが、５号道とごく近接していて、何らかの形で接続していたものと思われる。１号石垣は平成27年度発掘区内にのみあって、確認長14.24m。１号溝とともにN-35°-Eで北東-南西に延びる。北の低い位置にある第５区画畑と南の高い位置にある第３区画８号畑との比高は33～55cmほどあり、この段差を大小の角礫・亜角礫を乱雑な横積み風に２～３石積み上げて覆う。控え積みや裏込めは見られない。平成29年度発掘区では認められていない。１号溝はこれより3.5mほど西に延びて、49-



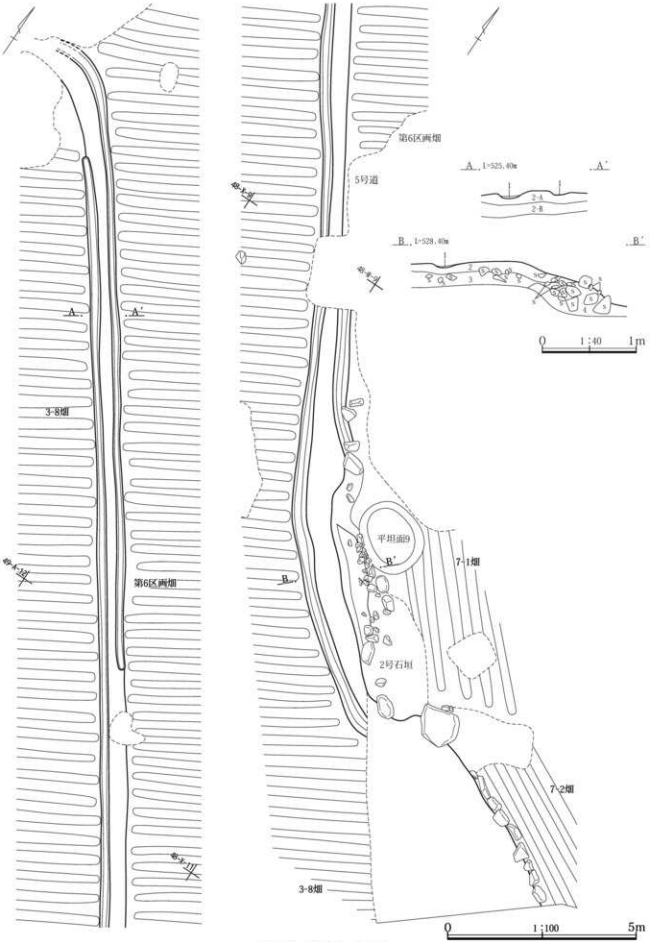
第96図　第２面　４号道



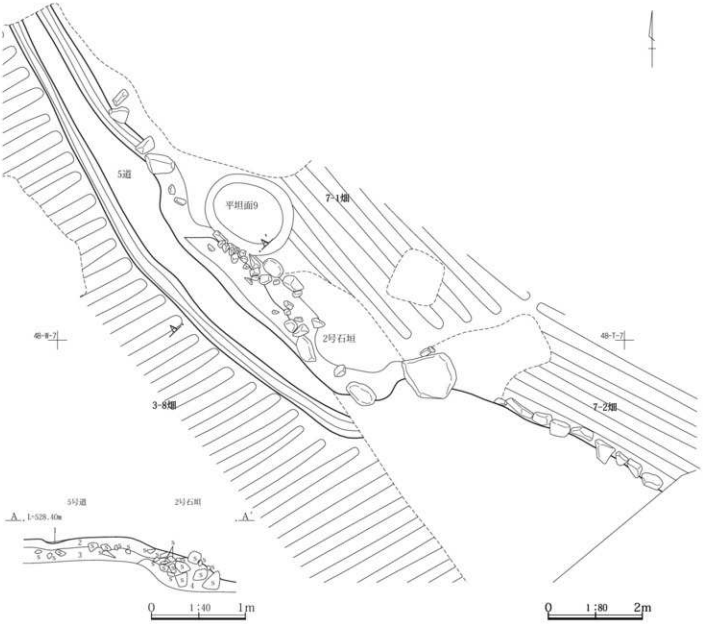


1　As-A軽石
2　礫層　裏込石、石垣の石。
3　暗褐色土　10YR3/3　非常にもろく崩れやすい。

第95図　第２面　１号溝・１号石垣

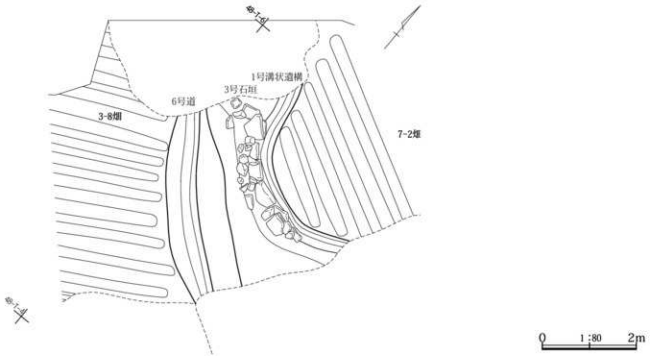


第97図　第２面　５号道



1　As-A軽石
2　暗褐色土　10YR3/4　径10 ～ 50mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。
　やや粘性あり。
2A　暗褐色土　10YR3/4　径10 ～ 20mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。
　やや粘性あり。
2B　2A層よりややわらかい。くすんでいる。
3　褐色土　10YR4/4　径10 ～ 70mm程度の礫を大量に含む。締まりは弱い。
　やや粘性あり。
4　褐色土　10YR4/6　径10 ～ 20mm程度の礫を少量含む。締まり弱い。粘
　質。

第98図　第２面　２号石垣



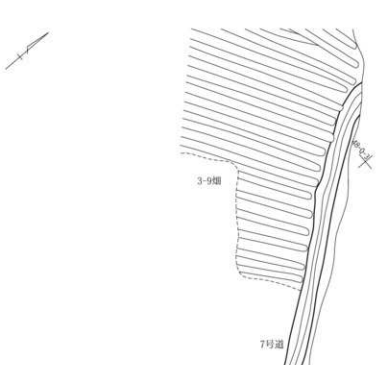
第99図　第２面　６号道・３号石垣・１号溝状遺構

E-11グリッドで北に折れ、第５区画畑を取り巻く。幅50～135cm、深さ10cmほどである。南北走部はN-155°-Eを示し、確認長12.5mで北の発掘区界に達する。第３区画７号・８号畑の北端の小段が１号溝南壁の延長に当たるとすれば、西に延びて４号道と連続する可能性もある。

５号道・２号石垣　５号道：48・49-U～B-６～15グリッド　２号石垣：48-T～V-６～８グリッド　５号道はN-155°-E方向で北西-南東方向に延びる。東は第６区画畑及び第７区画１号・２号畑、西は第３区画８号畑と接する。北端は西にカーブし、発掘区界で途切れるために直接把握することはできないが、１号溝に接続するものと思われる。南部は攪乱に切られているが、東辺が２号石垣で画された部分で小さなクランク状に屈曲し、攪乱以南の６号道に連続するものと思われる。確認長43.6m。東西を浅い溝によって区画される硬化面として把握される。両側溝ともに底部にAs-A降下軽石が堆積する。東側溝は幅20～32cm、深さ２～３cmほどで、北端から16.5mほどまで南に延び、Y-11グリッドでいったん途絶える。２号石垣の北にあたるW-８グリッドから再び確認され、２号石垣の下部に連続する。西側溝は幅20～40cm、深さ１～８cm。北端が不明瞭であるものの、南端の攪乱まで連続する。南端では２号石垣の屈曲を追うように、やや東に曲がる。両側溝間は硬く締まっており、幅20～45cm、２号石垣部では60～96cmほどある。

２号石垣は第７区画１号畑の西辺にあたる斜面を縁る位置にある。西は５号道を挟んで第３区画８号畑がある。石垣の始点近くで５号道東側の側溝が途切れて東西両畑間に段差が生じるようになる。北端の高低差は８cmほどだが、南端近くでは７区画畑の方が50cm以上低くなる。北部は扁平な角礫がやや乱れた状態で斜面に貼り付けられたように並び、９号平坦面付近では小ぶりの角礫を交えた角礫や亜角礫が数段積まれる。U-６グリッドでいったん東北に折れ、次いでの南東に折れてクランク状の屈曲を示す。攪乱により屈曲部西北辺の詳細が把握できないが、屈曲部に比較的大きな亜角礫が孤立的に置かれる。南部は上位が攪乱されて基部だけが確認されている。面をそろえた亜角礫が一列並んだもので、裏込め等の造作は認められない。南端は発掘区界及び攪乱に切られているが、南の３号石垣に連続するものであろう。

６号道・３号石垣・１号溝状遺構　６号道：45-S・T-４・５グリッド　３号石垣：45-S-５グリッド　１号溝状遺構：45-R・S-５グリッド　６号道はN-134°-E方向で北西-南東方向に延びる。北西・南東両端が攪



第100図　第２面　７号道

乱されていて、４ｍほどの長さしか確認されないが北は５号道、南は７号道に連続するものと思われる。東は３号石垣、１号溝状遺構を挟んで一段低い第７区画２号畑と接し、西は第３区画８号畑と接していて、両畑の比高は109cmほどある。５号道南部では西側溝と斜面上端との間が道として捉えられているが、ここでの調査所見では上端幅55～70cm、深さ24cmほどの溝状部が道として捉えられている。５号道側溝に比して上端幅がやや広いこと、また斜面上端と溝状部の間が北端では16cmほどとごく狭くなっていることから判断されたものであろうと思われる。断面や硬化状況に関する記載はない。

３号石垣は６号道下の斜面の裾部を縦るように作られている。小ぶりの角礫を裏込めとし、扁平な亜角礫を斜面に貼り付けるように並べている。礫の形状によって、複数の礫を積む部分も見られる。１号溝状遺構は３号石垣の下端にそって弧状に巡るもので、確認長3.4m、幅35cm前後、深さ５cmほどある。断面や硬化状況に関する記載はないが、１号溝と１号石垣と同様、石垣下端の踏み分け道として捉えられるのではないか。

７号道　38・48-O～Q-24～３グリッド北部はN-128°-Eで北西-南東方向に延びる21.4m分が確認されている。第７区画３号畑に至る斜面の上端にあたる。北端は東側斜面に切られて確実な延長を捉えられないが、６号道に連続するものと想定される。西は第３区画９号畑の東辺を画する。48-O-１グリッドで屈曲し、N-24°-Eで5.9mほど南西方向に延びる。屈曲部南東側には列状に礫集中が認められ、上位斜面を押さえる石列の残痕であるかもしれない。傾斜面上位には12号道や第11区画２号畑がある。７号道西端は12号道東端部と僅かながら並行することが確認されていて、両者は連続しない。第３区画９号畑の南辺にあたるが、末端は南の傾斜面に突当たって以西が捉えられない。やや間隔が開くが、８号道と連続して傾斜部下端を巡るものと見たい。幅60～80cm、西側畑面からの６～９cm、東側では１～２cmほどの深さで浅い溝状を呈する。

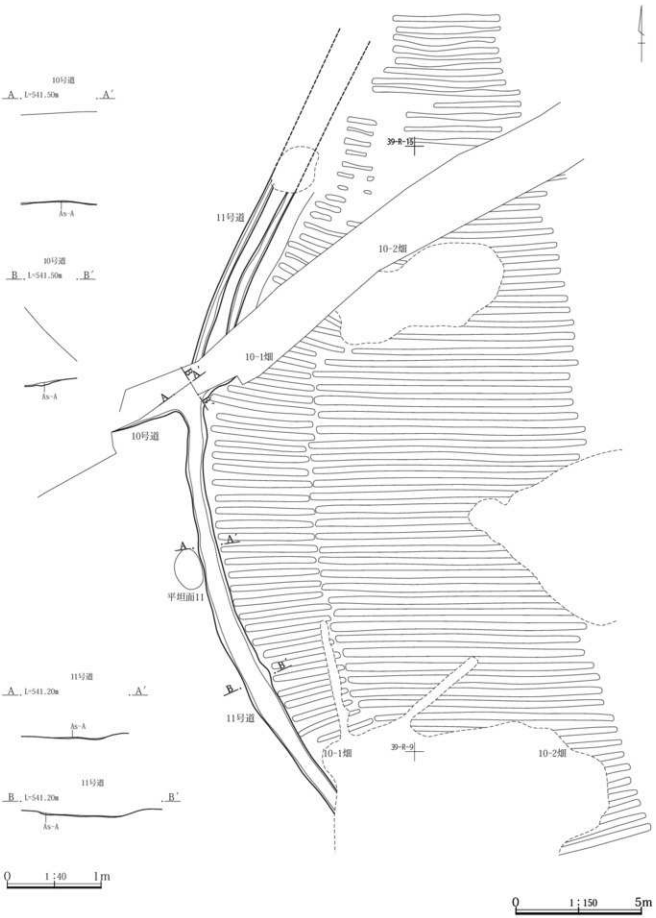
８号道　38・48-P～X-22～２グリッド第３区画８号畑南部の西辺及び南辺を画する。発掘区上下を画する斜面の下端を縦る。38-P-22グリッドからN-47°-E方向で13.6mほど延び、S-22グリッドで緩く屈曲してN-37°-W方向に転じ、発掘区界まで延長29.8mが確認されている。南部の北東-南西

走部は第11区画畑北の傾斜面下端に、等高線に沿うように、上端幅30㎝内外の僅かな窪みが連続する状態で確認されるもので、北側の第３区画８号畑の畑面からは１～２㎝ほど低くなるに過ぎない。東端は第３区画８号畑と９号畑の境界近くで確認できなくなる。南東-北西方向に延びる北部では斜面下端を上端幅50～60㎝ほど切り込んでいて、第３区画８号畑との比高も最大５㎝ほどある。北端は発掘区界となるが、３号道に連続するものであろう。なお、第３区画８号畑と第10区画６号畑の間の斜面には、38-U-22～23グリッドに長1.6m、上端幅25～30㎝、N-23°-W方向の、38-V・W-24・25グリッドには長7.8m、上端幅40～76㎝、蛇行しているがおよそN-35°-Wの溝状の窪みがある。遺構名称を付されていないため、道と同様の行動痕跡であるか、あるいは自然地形であるのか判断できない。

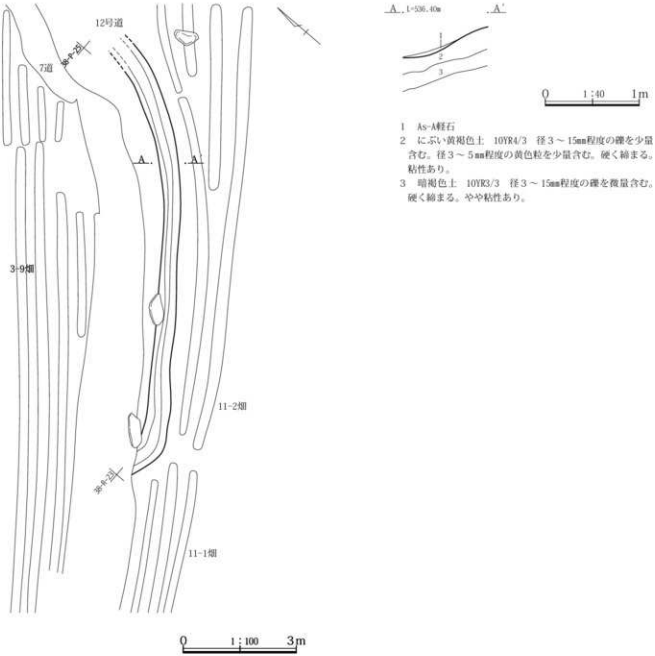
10号道　39-T-12グリッド　11号道の中央やや北寄りから西に分岐する。北部及び西部が発掘区界に当たって切られており、南辺の一部のみが確認されている。N-70°-E方向で西に延び、確認長2.5m、上端幅50㎝以上。断面形状等に関する記載はないが、As-A軽石の堆積する深さ２㎝ほどの窪みとして図示される。南北ともに畑遺構が確認されていない部分に当たる。

11号道　39-R～T-８～15グリッド　第10区画１号畑の西端を弧状に巡る道で、弦方向はN-１°-W。確認長26.2m。南北で構造が異なる。北部は上端幅30～45㎝の溝を両側に持つ、幅50㎝ほどの平坦面が道として捉えられている。南部は上端幅70㎝ほど、深さ０～３㎝ほど

第101図　第２面　８号道



第102図　第２面　10号・11号道



第103図　第２面　12号道

のごく浅い帯状の窪みとして図示される。北はさらに延びるものと想定されているが、下段発掘区との境界斜面へのとりつき方は不明。南端は攪乱に切られる。東は第10区画１号畑で、畑面は路面より僅かに低い。西には畑遺構が認められていないが、南部では道に接して11号平坦面がある。

12号道　38-O～Q-22～24グリッド　第11区画２号畑の北辺、第３区画８号・９号畑との間の傾斜面上端にあって、N-46°-E 方向で北東-南西方向に延びる。12mほどが確認されている。東端近くでは地形に沿ってやや北に曲がり、西部では斜面を下るかのように北西方向に屈曲する。土層観察所見によると、断面形は浅い皿状を呈し、地山全体が硬く締まっている。

第４節　第３面の調査

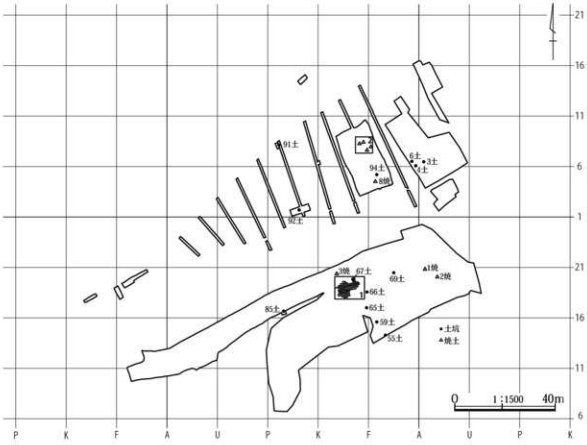
第１項　第３面の概要

本節では平成27年度調査においては、第２面、第３面として調査され、平成29年度調査においては第２面として調査された、天明泥流下面以下で確認された遺構、遺物のうち、縄文時代に属するもの以外を扱う。

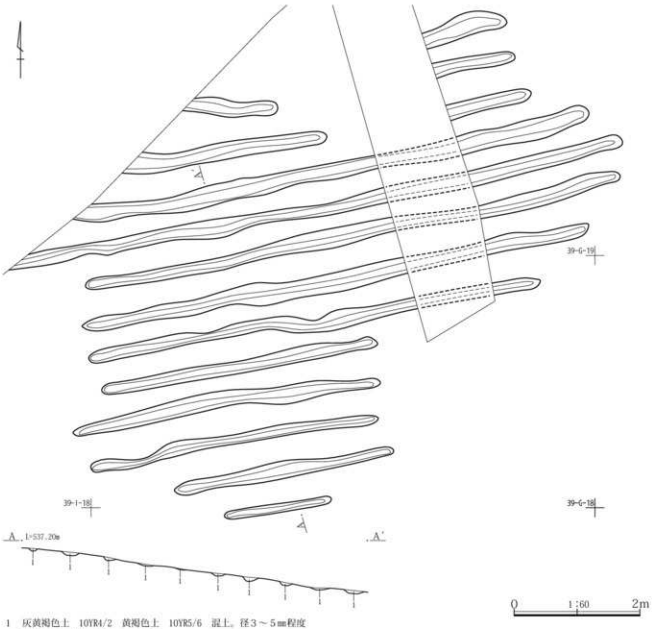
発掘区下段の天明泥流下面の畑耕土下は、黒褐色から暗褐色土層で、部分的に流水痕跡を示すにぶい黄褐色の砂層が認められている。発掘区上段ではより上位からの斜面崩落土を主体とする褐色土・灰黄褐色土層がある。沢に挟まれた傾斜地にあるために、斜面崩落や、洪水による堆積が繰り返されていたのであろう。第３面ではこれに埋没した畑遺構が部分的に認められたほか、土坑13基、焼土８か所を調査した。いずれも年代決定の根拠を欠くが、本遺跡には平安時代に属する遺構遺物がないことと、出土遺物には近世の陶磁器の他、宋銭も見られることから、中世以降に相当するものと見られる。土坑は多くが次節で扱う縄文時代に属するものであるが、覆土がこれらとは異なって灰褐色土や茶褐色土であったり、締まりが弱いものなどは、ピット、焼土遺構とともに、より新しい時代の所産として本節で取り扱った。

第２項　畑

39-Ｆ～Ｉ-17～20グリッド　標高536.2～537.0mにかけて、東西10m、南北7.5mほどの間に、およそＮ-78°-Ｅ方向で13条の畝間溝痕跡が並ぶ。畝間溝間の距離は平均0.56mほどで揃う。畝間溝の方向、畝間距離ともに揃っていて同一耕作面であろうと思われる。畝間溝の覆土は硬く締まった灰黄褐色土と黄褐色土の混土及びもろい黄褐色土である。各畝間溝は長短様々で、途中途切れるものもあるが、最大長で9.75m以上、幅12～33cm、深さ１～10cmほどを測る。



第104図　第３面遺構位置図



1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土　10YR5/6　混土。径３～５㎜程度の礫を含む。硬く締まる。粘性あり。
2　黄褐色土　10YR5/6　径３～５㎜程度の礫を含む。ややもろい。粘性あり。

第105図　第３面　部分図１　畑

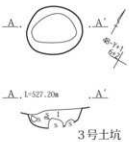
第３項　土坑

３号土坑　48-Y-６グリッド　長軸長88㎝、短軸長75㎝、深さ31㎝、長軸方位N-57°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、ロームブロックや径10～25㎝の礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

４号土坑　49-A-５・６グリッド　長軸長78㎝、短軸長74㎝、深さ29㎝、長軸方位N-42°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、径２～10㎝の礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

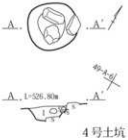
６号土坑　49-A-６グリッド　長軸長72㎝、短軸長65㎝、深さ21㎝、長軸方位N-８°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、径３～５㎜の礫を少量含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

55号土坑　39-D-14グリッド　長軸長126＋㎝、短軸長82㎝、深さ25㎝、長軸方位N-84°-W。平面形は隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、下層は黄褐色土ブロックを含み、締まりが弱い。上層に径１㎝程度の礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。



3号土坑

1　暗褐色土　10YR3/3　径100～250㎜程度の礫を数個含む。所々にロームブロックを含む。

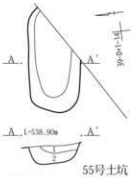


4号土坑

1　暗褐色土　10YR3/3　白色粒を微量含む。径20～100㎜程度の礫を少量含む。締まりあり。粘性あり。

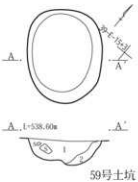
6号土坑

1　暗褐色土　10YR3/3　径３～５㎜程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。



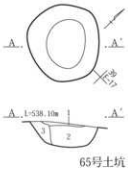
55号土坑

1　黒褐色土　10YR3/2　径10㎜程度の礫を２％含む。締まりやや強く粘性あり。
2　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色ブロックを２％含む。やわらかく締まりやや弱い。粘性あり。



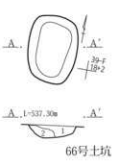
59号土坑

1　黒褐色土　10YR3/2　径10㎜程度の礫を１％含む。やわらかく、締まりやや弱い。
2　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色粒を３％、径10㎜程度の礫を僅かに含む。締まり強い。



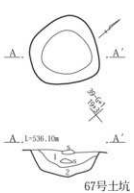
65号土坑

1　褐色土　10YR4/4　黄褐色土混じりで土質もろい。
2　黒褐色土　10YR3/2　径50～100㎜程度の礫を10％含む。締まりやや弱い。
3　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色粒を５％、径50㎜程度の礫を２％含む。締まりやや弱い。



66号土坑

1　暗褐色土　10YR3/3　径10～20㎜程度の礫を１％含む。締まりやや強い。
2　褐色土　10YR4/4　明黄褐色土と１層との混土。締まり強い。

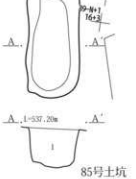


67号土坑

1　黒褐色土　10YR2/3　土質均質でややわらかい。やや粘性あり。
2　暗褐色土　10YR3/3　にぶい黄褐色土を20％含む。締まり強い。

69号土坑

1　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色粒を２％含む。締まり弱い。

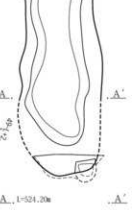


85号土坑

1　黒色土　若干の炭化物、小礫含み粗粒。

91号土坑

1　暗褐色土　褐色粒、小岩片多く含み、鉄分凝集塊点在。
2　黒褐色土　黒味強く若干の褐色粒含む、粘性あり。

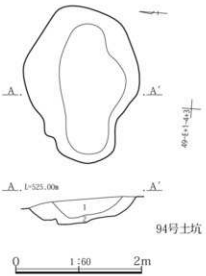


92号土坑

1　灰褐色土　炭化物を少量含む(畑耕作土類似)
2　黒褐色土　炭化物を少量含む。径３～５㎝の角礫を少量含む。
3　暗褐色土　やや砂質
4　黒褐色土　径３～５㎝の角礫を少量含む。

0　1:60　2m

第106図　第３面　土坑１



1　茶褐色土　砂質。締まり強い。黄色軽石、径数mm～２cmの角礫を含む、炭化物も少量含む。
2　やや黄色掛った茶褐色土　砂質、締まり強い、数cm～十数cmの角礫、黄色軽石径数mmを多数含む。

第107図　第３面　土坑２

59号土坑　39-Ｅ-15グリッド　長軸長148cm、短軸長119cm、深さ37cm、長軸方位Ｎ-39°-Ｗ。平面形は円形、断面形は碗状。覆土は黒褐色土を主体とし、径１cm程度の礫を含む。軟らかく、締まりが弱い。遺物はない。

65号土坑　39-Ｆ-16・17グリッド　長軸長148cm、短軸長119cm、深さ37cm、長軸方位Ｎ-39°-Ｗ。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、径５～10cm程度の礫を含む。締まりやや弱い。遺物はない。

66号土坑　39-Ｆ-18グリッド　長軸長106cm、短軸長78cm、深さ20cm、長軸方位Ｎ-０°。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とし、下層には明黄褐色土が混ずる。上位に径１～２cm程度の礫を含む。遺物はない。

67号土坑　39-Ｇ-19グリッド　長軸長115cm、短軸長114cm、深さ44cm、長軸方位Ｎ-21°-Ｗ。平面形は円形、断面形はややや深い碗状。覆土は下層ににぶい黄褐色土を含む暗褐色土、上層は軟らかい黒褐色土を主体とする。遺物はない。

69号土坑　39-Ｃ-20グリッド　長軸長93cm、短軸長73cm、深さ30cm、長軸方位Ｎ-66°-Ｗ。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色粒を含む締まりの弱い黒褐色土を主体とする。遺物はない。

85号土坑　39-Ｎ-16グリッド　長軸長188cm、短軸長85cm、深さ62cm、長軸方位Ｎ-６°-Ｗ。平面形は隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は炭化物や小礫を含む粗粒の黒褐色土を主体とする。遺物はない。

91号土坑　49-Ｎ・Ｏ-８グリッド　長軸長108cm、短軸長62cm、深さ32cm、長軸方位Ｎ-42°-Ｗ。平面形は隅丸長方形、断面形は上部の開く逆台形に近い。覆土は下層に粘性のある黒褐色土があり、上層には小岩片を含み鉄分凝集が点在する暗褐色土が乗る。遺物はない。

92号土坑　49-Ｌ・Ｍ-１グリッド　長軸長365cm、短軸長132cm、深さ121cm、長軸方位Ｎ-78°-Ｅ。平面形は隅丸長方形、断面形は上部の開く逆台形に近いが、北側に中段を持つ。覆土は下層に礫を含む黒褐色土やや砂質の暗褐色土、上位に炭化物や礫を含む黒褐色土がある。最上層の灰褐色土は２面畑の耕作土に類似する。遺物はない。

94号土坑　49-Ｄ・Ｅ-４・５グリッド　長軸長252cm、短軸長180cm、深さ56cm、長軸方位Ｎ-75°-Ｅ。平面形は不整形、断面形はやや深い皿状。覆土は下層にやや黄色掛った茶褐色土、上層は炭化物や黄色軽石、角礫を含む茶褐色土を主体とする。遺物はない。攪乱土の誤認か。

第４項　焼土

１号焼土　38-Ｙ-20グリッド　長軸長112cm、短軸長49cm、深さ５cmの範囲で、ブロック状の焼土が地山の暗褐色土に混じる。東側に赤化の強い明赤褐色のブロックがあるが、加熱方向は判断できない。出土遺物はない。下位に縄文時代の31号土坑があるが、直接の関係は認められず、帰属時期は不明。

２号焼土　38-Ｘ-19・20グリッド　長軸長60cm、短軸長45cm、深さ15cmの範囲で、地山の暗褐色土に小ブロック化、粒状化した焼土が混ざる。明るい色調で強く被熱したブロックも見られるが、加熱方向は判断できない。下位の64号土坑に帰属すると思われる縄文土器片が出土しているが、土坑覆土には焼土が及んでいない。帰属時期は不明。

３号焼土　39-Ｉ-20グリッド　長軸長44cm、短軸長30cm、深さ11cmの範囲で、地山の暗褐色土に小ブロック化、粒状化した焼土が混ずるが、黄色みを帯び、焼土化は弱い。写真では面状に焼土が広がる部分もあり、これが植物の根による攪乱を受けたかと思われる。加熱方向

は判断できない。下層から土器片が出土しているが、この層までは焼土粒が及んでおらず、関係はうかがえない。帰属時期は不明。

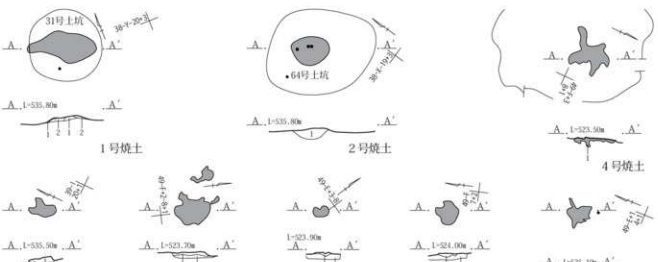
４号焼土　49-Ｆ-８グリッド　長軸長130㎝、短軸長86㎝、深さ15㎝の範囲で弱く焼土化した暗赤褐色から黄褐色のロームブロック、炭化物片などが暗褐色土中に混じる。図は明確なブロックが残された部分を示している。加熱方向は判断できない。下位に縄文時代の95号土坑があるが、直接の関係は認められず、帰属時期は不明。

５号焼土　49-Ｆ-８グリッド　長軸長90㎝、短軸長70㎝、深さ５㎝の範囲で弱く焼土化した暗赤褐色から黄褐色のロームブロック、炭化物片などが礫を多く含む暗褐色土中に混じる。出土遺物はない。

６号焼土　49-Ｅ-７・８グリッド　長軸長25㎝、短軸長15㎝、深さ５㎝の範囲で焼土化した暗赤褐色から黄褐色のロームブロックが礫を多く含む暗褐色土中に混じる。下位の方が赤化が強いものの、焼土化は弱い。加熱方向は判断できない。出土遺物はない。

７号焼土　49-Ｆ-７グリッド　長軸長40㎝、短軸長40㎝、深さ５㎝の範囲で暗赤褐色から黄褐色の、比較的大きなロームブロックがまとまって見られる。中央部が円形に攪乱されている。焼土化は弱い。加熱方向は判断

第108図　第３面　部分図２　焼土



1号焼土　1　明赤褐色土　2.5YR5/6　焼土　暗褐色ブロックを含む。締まりあり。やや粘性あり。
　　2　暗褐色土　10YR3/4　焼土を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。
2号焼土　1　暗褐色土　7.5YR3/3　焼土粒、焼土ブロックを15%含む。締まり強く粘性あり。土器片を多く含む。
3号焼土　1　黒色土　やや黄色味を帯びた焼土ブロックを斑に含む。
　　2　黒褐色土　地山土。
4号焼土　1　暗赤褐色土　10R3/3　焼土　径１㎜程の炭化物を約１%含む。締まり強い。粘質土。
5号焼土　1　暗赤褐色土　10R3/3　焼土　径１㎜程の炭化物を約１%含む。締まり強い。粘質土。
　　2　暗褐色土　数㎜～数㎝の角礫を含む。１%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石１%程含む。締まり強い。砂質。
6号焼土　1　暗赤褐色土　10R3/3　焼土　径１㎜程の炭化物を約１%含む。締まり強い。粘質土。
　　2　暗褐色土　数㎜～数㎝の角礫を含む。１%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石１%程含む。締まり強い。砂質。
7号焼土　1　暗赤褐色土　10R3/3　焼土　径１㎜程の炭化物を約１%含む。締まり強い。粘質土。
　　2　暗褐色土　数㎜～数㎝の角礫を含む。１%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石１%程含む。締まり強い。砂質。
8号焼土　1　暗赤褐色土　10R3/3　焼土　径１㎜程の炭化物を約１%含む。締まり強い。粘質土。
　　2　暗褐色土　数㎜～数㎝の角礫を含む。１%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石１%程含む。締まり強い。砂質。

0　1:60　2m

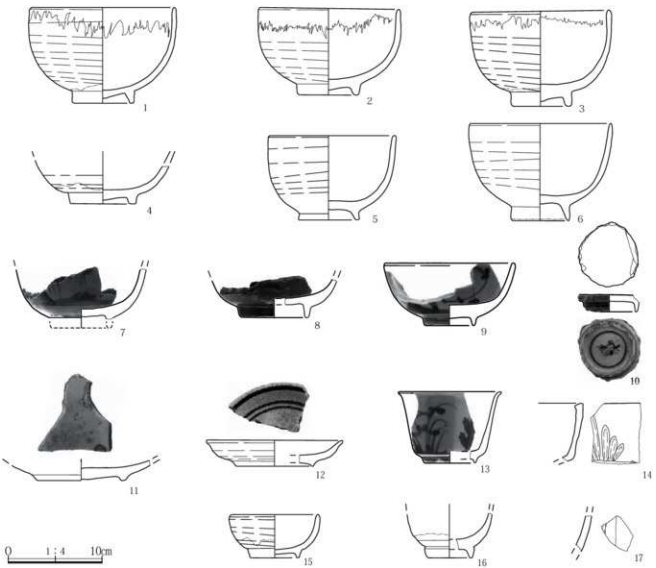
第109図　第３面　焼土

できない。出土遺物はない。

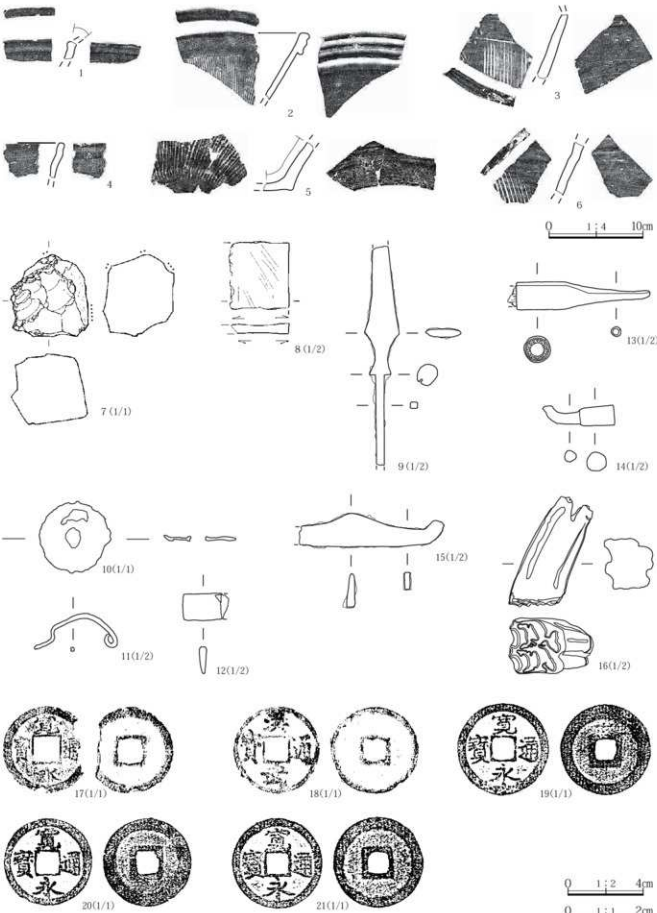
８号焼土　49-E-４グリッド　長軸長50cm、短軸長40cm、深さ８cmの範囲で暗赤褐色から黄褐色のロームブロックがまとまって見られる。東部には周辺地山に含まれる礫より大きな方形厚板状の亜角礫があって、焼土はこの上にも広がっている。焼土化は弱い。加熱方向は判断できない。出土遺物はない。

第５項　第１～３面出土遺物

本遺跡は畑遺構を中心とするため、７号ヤックラ内遺物以外には遺物と遺構の間に関連を持つ遺物はない。また、復旧坑内から出土した遺物を含め、発掘記録からは帰属面を判別することが困難であったため、出土位置に特定の意味を求められない。このため、本節では３面までで出土した遺物を一括して扱った。碗・皿を中心とする陶磁器のほか、煙管、小柄、火打ち金、火打石、砥石、寛永通寶、洪武通寶、馬歯などが出土している。



第110図　第１～３面出土遺物１



第111図　第１～３面出土遺物２

第５節　第１～３面遺構一覧表・遺物観察表

第2表　第１面　復旧坑１

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	1	39-M-19	2.7+	0.95		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	2	39-M～O-18・19	11.7+	0.9		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	3	39-M～P-18・19	13.85+	0.85		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	4	39-M～P-18	15	0.8		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	5	39-M～P-17・18	14.9	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	6	39-M～P-17・18	14.5	0.85		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	7	39-M～P-17・18	13.6	0.7		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	8	39-M～P-17	12.2	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	9	39-M～P-17	12.35	0.8		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	10	39-M～O-16・17	11.88	0.75		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	11	39-M～O-16・17	11+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	12	39-L・M-16	2.8+	0.69		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	13	39-L～N-16	5.55+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	14	39-L～O-15・16	9.2+	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	15	39-L～O-15・16	10.6+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	16	39-L～O-15	12.1+	0.85		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	17	39-L～P-14・15	14.1+	0.85		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	18	39-L～P-14・15	15.2	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	19	39-L～P-14・15	15.05	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	20	39-L～P-14	15.2	0.9		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	21	39-L～P-14	15	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	22	39-L～P-13・14	15.45	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	23	39-L～P-13・14	15.35	0.8		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	24	39-L～P-13・14	15.2	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	25	39-L～P-12・13	15.15	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	26	39-L～P-12・13	15	1		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	27	39-L～P-12・13	15.05	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	28	39-L～P-12・13	15.15	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	29	39-L～P-12	15.1	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	30	39-L～P-11・12	14.7	0.75		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	31	39-L～P-11・12	14.4	0.7		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	32	39-L～O-11・12	13.4+	0.8		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	33	39-L～O-11・12	13.5+	0.75		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	34	39-L～O-11	12.95+	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	35	39-L～O-11	13.5+	0.8		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	36	39-L～O-10・11	12+	0.72		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	37	39-L～O-10・11	12.5+	0.8		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	38	39-L～O-10・11	13.25+	0.85		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	39	39-L～O-10	14.58	0.9		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	40	39-L～O-9・10	14.6	0.9		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	41	39-L～P-9・10	14.62	0.75		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	42	39-L～O-9・10	14.25	0.9		N-85°-E	15	3	1号復旧坑
	43	39-L～O-9	14.3	0.8		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
2	1	39-J～L-20	6.52+	0.5+		N-77°-E	15	2・4	2号復旧坑
	2	39-J～M-19・20	10.45+	0.9		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑
	3	39-J～M-19・20	10.92+	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	4	39-J～M-19・20	11.02+	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	5	39-J～M-19	11.4+	0.83		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	6	39-J～M-18・19	11.95	0.8		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	7	39-J～M-18・19	12.05	0.95		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	8	39-J～M-18・19	11.85	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	9	39-J～M-18	11.95	0.8		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	10	39-J～M-18	11.95	0.8		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	11	39-J～M-17・18	10.7+	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	12	39-J～M-17・18	12.5	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	13	39-J・K-17・18	12.15	0.65		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	14	39-J・K-17	7.6	0.8		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	15	39-I～K-17	8.15	0.7		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑

第３表　第１面　復旧坑２

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
	16	39-I ～ L-16・17	10.65+	0.75		N-78°-E	15	2・4	2号復旧坑
	17	39-I ～ L-16・17	12.45	1		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑
	18	39-I ～ L-16	12.5	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	19	39-I ～ L-16	12.65	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	20	39-I ～ L-15・16	12.6	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	21	39-I ～ L-15・16	12.65	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	22	39-I ～ L-15・16	12.8	0.8		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	23	39-I ～ L-15	12.8	0.8	0.27	N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	24	39-I ～ L-15	12.65	1	0.24	N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	25	39-I ～ L-14・15	12.7	0.9	0.25	N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	26	39-I ～ L-14・15	12.72	0.9	0.1	N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	27	39-I ～ L-14	12.75	0.8	0.24	N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑
	28	39-I ～ L-14	12.85	0.9		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑
	29	39-I ～ L-13・14	12.95	0.95		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	30	39-I ～ L-13・14	13.15	0.9		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	31	39-I ～ L-13・14	13.2	0.85		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑
2	32	39-I ～ L-13	13.3	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	33	39-I ～ L-13	13.45	0.85		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	34	39-I ～ L-12・13	13.4	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	35	39-I ～ L-12・13	13.35	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	36	39-I ～ L-12	11.9+	0.8		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑
	37	39-I ～ L-12	12.2+	0.8		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑
	38	39-I ～ L-12	13.25	0.85		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑
	39	39-I ～ L-11・12	13.6	0.7		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	40	39-I ～ L-11・12	13.35	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	41	39-I ～ L-11	12.85	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑
	42	39-I ～ L-11	12.6	1		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑
	43	39-J ～ L-10・11	5.7+	0.75		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑
	44	39-K・L-10	5.2+	0.75		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑
	45	39-K・L-10	4.6+	0.8		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑
	46	39-K・L-10	4.1+	0.9		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑
	47	39-K・L-10	3.65+	0.7		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑
	48	39-K・L- 9・10	3.4+	0.6		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	1	39-G ～ I-21	5.5+	0.5		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	2	39-G ～ I-21	6.1+	0.45		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
	3	39-G ～ J-20・21	9.8+	0.48		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
	4	39-G ～ J-20・21	10.45+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
	5	39-G ～ J-20・21	10.4+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
	6	39-G ～ J-20・21	10.8+	0.4		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
	7	39-G ～ J-19・20	10.75+	0.6		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
	8	39-G ～ J-19・20	10+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
	9	39-H ～ J-19・20	8.8+	0.45		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
	10	39-H ～ J-19・20	7.6+	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	11	39-H ～ J-19	5.75+	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	12	39-H ～ J-19	5.3+	0.45		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	13	39-I・J-18・19	3.9+	0.45		N-78°-E	17	4	3号復旧坑
	14	39-F・G-21・22	5.5+	0.6		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
	15	39-F・G-21・22	5.4+	0.6		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
3	16	39-F・G-21・22	5.25+	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	17	39-F・G-21	5.15+	0.6	0.26	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	18	39-F・G-21	5.1+	0.55	0.18	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	19	39-F・G-21	5+	0.5	0.3	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	20	39-F・G-20・21	4.9+	0.5	0.21	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	21	39-F・G-20・21	4.15+	0.5	0.23	N-70°-E	17	4	3号復旧坑
	22	39-F・G-20・21	4.65+	0.45	0.15	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	23	39-F・G-20	6.4+	0.5	0.12	N-71°-E	17	4	3号復旧坑
	24	39-F ～ H-20	7.6+	0.5	0.25	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	25	39-F ～ H-19・20	9.5+	0.55	0.29	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	26	39-F ～ H-19・20	9.9	0.55	0.25	N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	27	39-F ～ I-19・20	11.9+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	28	39-F ～ I-19・20	13.1+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	29	39-F ～ I-18・19	14.55+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	30	39-F ～ I-18・19	15.9	0.5		N-73°-E	17	4	3号復旧坑

第４表　第１面　復旧坑３

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	傾斜	PL.	発掘時名称
3	31	39-F ～ I-18・19	15.7	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	32	39-F ～ I-18・19	15.9	0.6		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
	33	39-F ～ I-17 ～ 19	15.95	0.55		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	34	39-F ～ I-17・18	16.05	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	35	39-F ～ I-17・18	16.15	0.45		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
	36	39-F ～ I-17・18	16.35	0.55		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	37	39-F ～ I-17・18	16.3	0.5		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	38	39-F ～ I-17・18	16.35	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	39	39-E ～ I-16 ～ 18	16.2	0.48		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	40	39-E ～ I-16・17	16.35	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	41	39-E ～ I-16・17	16.35	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	42	39-E ～ I-16・17	16.3	0.55		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	43	39-E ～ I-16・17	16.4	0.58		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	44	39-E ～ I-16・17	16.4	0.43	0.23	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	45	39-F ～ I-16・17	14.2+	0.55	0.2	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	46	39-F ～ I-15・16	14.2+	0.55	0.19	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	47a	39-F ～ I-15・16	13.6+	0.5	0.16	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	47b	39-F ～ I-15・16	8.7+	0.65	0.11	N-75°-E	17	4	3号復旧坑
4	a	39-H-15	1.53	0.62	0.09 ～ 0.29	N-12°-E	17	4	4号復旧坑
	b	39-H-15	1.53	0.68	0.16 ～ 0.28	N-38°-E	17	4	4号復旧坑
	c	39-G・H-15	1.28	0.69	0.03 ～ 0.2	N-38°-E	17	4	4号復旧坑
	d	39-G-15	1.25	0.54	0.07 ～ 0.14	N-66°-E	17	4	4号復旧坑
	e	39-G-15	1.88	0.68	0.13 ～ 0.23	N-44°-E	17	4	4号復旧坑
5	1	39-D ～ F-22・23	10.5	0.5		N-77°-E	19	4・5	5号復旧坑
	2	39-C ～ F-22・23	11.4	0.5		N-76°-E	19	4・5	5号復旧坑
	3	39-D ～ F-22	10.2	0.4		N-75°-E	19	4・5	5号復旧坑
	4a	39-E・F-22	5.8	0.45		N-76°-E	19	4・5	5号復旧坑
	4b	39-D-22	3.75	0.4		N-77°-E	19	4・5	5号復旧坑
	5	39-B ～ F-22	15	0.5		N-80°-E	19	4・5	5号復旧坑
	6	39-B ～ F-22	13.88	0.55		N-79°-E	19	4・5	5号復旧坑
	7	39-B ～ F-22	15.1	0.45		N-81°-E	19	4・5	5号復旧坑
	8	39-B ～ F-21・22	16.5	0.5	13	N-84°-E	19	4・5	5号復旧坑
	9	39-B ～ F-21・22	14.85	0.5	10	N-83°-E	19	4・5	5号復旧坑
	10	39-B ～ F-21・22	15.2	0.5	15	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	11	39-B ～ F-21	15.15	0.45	7	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	12	39-B ～ F-21	15.25	0.55	6	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	13	39-B ～ F-21	15.1	0.45	18	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	14	39-B ～ F-20・21	13.8	0.75	17	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	15	39-B ～ F-20・21	14.4	0.6	13	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	16	39-B ～ F-20・21	14.7	0.75	18	N-88°-E	19	4・5	5号復旧坑
	17	39-B ～ F-20	13.8	0.5	12	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	18	39-B ～ F-20	13.5	0.5	15	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	19	39-B ～ F-20	13.75	0.55	13	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	20	39-B ～ F-20	13.4	0.5		N-88°-E	19	4・5	5号復旧坑
	21	39-B ～ F-20	14.85	0.6		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
	22	39-B ～ F-19・20	15.2	0.55		N-90°-E	19	4・5	5号復旧坑
	23	39-B ～ F-19	14.2	0.55		N-90°-E	19	4・5	5号復旧坑
	24	39-B ～ F-19	15.35	0.58		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
	25	39-C ～ F-19	12.1	0.45		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
	26	39-B ～ E-19	11.2+	0.55		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
6	1	39-B ～ E-18・19	12	1.1		N-77°-E	19	4・5	6号復旧坑
	2	39-B ～ E-18・19	11.65	1.3		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	3	39-B ～ D-17・18	11.2	1.5		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	4	39-B ～ D-17・18	11.35	1.5		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	5	39-B ～ F-16・17	16.6	1.3		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	6	39-B ～ E-16・17	16.25+	1.4		N-79°-E	19	4・5	6号復旧坑
	7	39-B ～ E-16・17	16.15+	1.1		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	8	39-A ～ E-15・16	15.65	1.5		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑
	9	39-A ～ E-15・16	16.15	1.95		N-79°-E	19	4・5	6号復旧坑
	10	39-A ～ E-14・15	15.3	1.8		N-81°-E	19	4・5	6号復旧坑
	11	39-B ～ E-14・15	12+	1.55		N-84°-E	19	4・5	6号復旧坑
	12	39-C ～ E-13・14	8.8+	1.4		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑
	13	39-D・E-13	4.6+	1.2		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑

第５表　第１面　復旧坑４

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
7	1	38・X・Y・24・25	4.6+	1.2		N-77°-E	21	5・6	7号復旧坑
	2	38・X・Y・24	5.2+	0.95		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
	3	38・X・Y・24	6.5+	1		N-87°-E	21	5・6	7号復旧坑
	4a	38・39・W～A-24	12.8+	0.85		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	4b	38・39・W～A-23・24	13.55+	0.75		N-89°-E	21	5・6	7号復旧坑
	5	38・39・V～A-23	13.5+	0.83		N-89°-E	21	5・6	7号復旧坑
	6	38・V～Y-23	12.3+	0.95		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	7	38・V～Y-23	14.3+	0.75		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	8	38・V～Y-22・23	13.8+	0.85		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
	9	38・39-E～A-22	21.3+	0.7		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
	10	38・39-E～B-22	25.3+	0.75		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
8	1	38・39・W～B-21・22	16.55	0.6		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑
	2	38・39・W～B-21・22	15.35	1.28		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	3	38・39・W～B-21	14.85	1.3		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	4	38・39・W～B-20・21	15.1	1.25		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	5	38・39・W～B-20	15.5	1.3		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	6	38・39・W～B-19・20	15.3	1.4		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	7	38・39・W～A-19・20	14.85	1.5		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	8	38・39・W～B-19	16.5	1.9		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	9a	38・39-Y・A-18・19	5.2	0.7		N-88°-E	21	5・6	8号復旧坑
	9b	39-W～Y-18・19	7.4	1.4		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑
	10	38・39・W～A-18	14.25	1.58		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	11	38・39・W～A-18	14.2	1.7		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	12	38・39・W～A-17・18	13.75	1.7		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	13	38・39・W～A-17	14.85	1.2		N-89°-E	21	5・6	8号復旧坑
	14	38・39-Y・A-16・17	5.7+	1.05		N-72°-E	21	5・6	8号復旧坑
	15	38・39-X～A-16・17	6.75	0.9		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	16a	39-A-16	1.65	1.3		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	16b	38・39-X～A-16	5.7	0.9		N-82°-E	21	5・6	8号復旧坑
	17	38・39-Y・A-16	4.7	1		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑
	18	38・39-Y・A-15・16	3.2+	0.7+		N-78°-E	21	5・6	8号復旧坑
9	1	38-U～W-22	7.7	0.65		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	2	38-U～W-21・22	8.35	0.7		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	3	38-U～W-21	8.6	0.9		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	4	38-T～W-21	8.8	0.85		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	5	38-T～W-21	9.05	0.85		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	6	38-T～W-20・21	9.25	0.85		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	7	38-T～W-20	11.45	0.98		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	8	38-T～W-20	11.6	0.9		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	9	38-T～W-19・20	11.7+	1		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	10	38-T～W-19	11.85+	0.8		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	11a	38-U～W-19	5.35	0.9		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	11b	38-T・U-19	5.2	0.7		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	12	38-T～W-19	12.5	0.95		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	13	38-S～W-18・19	12.75	0.85		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	14	38-S～W-18・19	13	0.85		N-88°-E	21	5	9号復旧坑
	15	38-S～W-18	13.1	0.7		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	16	38-S～W-18	13.2	0.85		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	17	38-T～W-18	8.7	0.65		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	18	38-U～W-17・18	72	0.8		N-90°-E	21	5	9号復旧坑
	19	38-V・W-17	4.5	0.8		N-90°-E	21	5	9号復旧坑

第６表　第１面　１号炭窯

番号	グリッド	全長(m)	窯体長(m)	窯体幅(m)	残存高(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	40-L・M-16・17	3.24	1.98	1.48	1.5	N-30°-W	23	6	1号炭窯

第７表　第２面　畑

区画	番号	グリッド	東西長	南北長	条数	畝溝間幅	面積(㎡)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	1	39 ～ 40-Y ～ R-20 ～ 22	7.2	5.8+	12+	0.48	36.06	N-45°-E	25 ～ 27	7	
2		39 ～ 40-S ～ A-21 ～ 1	13.2	16.9+	26+	0.65	149.07	N-42°-E	25 ～ 27	7	
3	1	39・49-P ～ Y-21 ～ 3	12.3	23.4+	44+	0.53	247.06	N-48-52°-E	28 ～ 48	7 ～ 10	
	2	49-P ～ T-3 ～ 8	17.5	6.6+	9+	0.73 ～ 0.9	74.42	N-67°-E			
	3	39・49-M ～ S-23 ～ 4	15.6	22.7	44	0.52	252.47	N-66-67°-E			
	4	39・49-K ～ R-25 ～ 8	11.8	31.6+	57+	0.55	320.97	N-71-75°-E			
	5	49-H ～ O-1 ～ 10	12.9	36.5+	70+	0.52	404.97	N-71-75°-E			
	6	49-G ～ J-5 ～ 12	11.9	24.7+	51+	0.48	265.57	N-73-74°-E			
	7	49-B ～ H-3 ～ 11	15.3	28	55+	0.51	470.28	N-61°-E			
	8	38・39・48・49-O ～ E-2 ～ 14	19.8	74.9	150+	0.5	1442.41	N-49/50-60°-E			3号畑
	9	38・48-O ～ R-24 ～ 3	6.2	15.5	34	0.46	86.18	N-57°-E			3号畑
4		48-F ～ I-9 ～ 13	10.3	11.9+	23+	0.52	126.24	N-52/75°-E	49 ～ 51	10・11	
5		48-C ～ G-11 ～ 14	15	10.9+	24+	0.45	103.6	N-62°-E	49 ～ 51	11・12	4号畑
6		48・49-U ～ R-9 ～ 16	11.1+	28.6+	63+	0.45	253.59	N-61°-E	52・53	12	2号畑
7	1	48-S ～ U-7 ～ 8	9.9+	7.5+	21+	0.47	67.71	N-135°-E	54 ～ 56	12・13	1号畑
	2	48-O ～ U-4 ～ 8	11.1+	10.8+	23+	0.48	86.59	N-120°-E			1号畑
	3	48-L ～ O-2 ～ 4	5.4+	15.7+	16+	0.44	40	N-92/94°-E			5号畑
	4	38・48-J ～ L-24 ～ 1	4.3+	9.6+	17+	0.43	34.4	N-147/152°-E			9号畑
8		39-S ～ U-20 ～ 22	7.6	3.5	5	0.7	25.52	N-69°-E	57 ～ 61	13	
9	1	39-M ～ S-21 ～ 24	22.8	4.1	7	0.56 ～ 0.59	85.08	N-64-68°-E	57 ～ 61	13・14	
	2	39・49-H ～ M-23 ～ 1	22.8	5.8	14	0.41	70.33	N-69°-E			
	3	49-E ～ G-1 ～ 3	10.1	4.8	10	0.48	37.4	N-72°-E			
	4	48・49-Y ～ D-1 ～ 3	13.6	6.6	26	0.45/0.42	40.27	N-75/70°-E			
10	1	39-R・S-9 ～ 15	4.4	24	51+	0.48	83.13	N-92°-E	62 ～ 70	14 ～ 16	6号畑
	2	39-O ～ R-6 ～ 16	11.02	31.82+	43+	0.5	330.74	N-89/75°-E			6号畑
	3	39-K ～ O-6 ～ 9	20+	10.1+	11+	0.92	147.78	N-81°-E			7号畑
	4	39-E ～ I-12 ～ 15	13.95	13.2+	29+	0.41	166.87	N-77/64°-E			8号畑
	5	39-A ～ F-18 ～ 24	16.7	25.8	34	0.51	369.12	N-75-77/89-83°-E			11号畑
	6	38・39-U ～ A-20 ～ 24	16.8	15.4		0.2 ～ 0.4	372.87	N-73-82°-E			
11	1	38-Q ～ T-18 ～ 22	13	12.2+	26+	0.47	86.27	N-65°-E	71・72	16	10号畑
	2	38-N ～ Q-21 ～ 24	14	7.4+	11+	0.67	71.94	N-58°-E			10号畑
12		48-D ～ G-20・21	12.6+	3.4+	9+	0.42	39.02	N-78°-E	73	16	

第８表　第２面　平坦面

番号	グリッド	標高(m)	平面形	径(cm)	平坦面溝		中央溝			挿図	PL.	発掘時名称
					幅(cm)	深(cm)	幅(cm)	深(cm)	方位			
1	49-K・3・4	523.80	円	195						75		12号平坦面
2	49-J・9・10	522.31	円	178						75		11号平坦面
3	49-D-6	525.32	円	137						75		9号平坦面
4	49-C・3・4	526.34	円	172						75		10号平坦面
5	49-B-10・11	525.50	円	155	18 ～ 20	2 ～ 5	20	7	N-124°-E	76	16	4号平坦面
6	48-Y-6・7	527.10	円	165	18	1 ～ 3	24	3 ～ 5	N-124°-E	76	16	3号平坦面
7	49-G・H-12・13	521.75	円	160						76		8号平坦面
8	48-X-13・14	525.92	円	162	24	2 ～ 3				76	16	2号平坦面
9	48-U・V-7	527.72	長円	182	18 ～ 24					77	16	1号平坦面
10	48-N-2・3	531.16	長円	160						77	17	5号平坦面
11	39-T-10・11	540.80	偏円	162						77		6号平坦面
12	39-N-9	540.85	円か	185	25	2 ～ 9				77	17	7号平坦面

第９表　第２面　２号炭窯

番号	グリッド	全長(m)	窯体長(m)	窯体幅(m)	残存高(m)	方位	備考	挿図	PL.	発掘時名称
1	48-M-1						礫２のみ	88	22	炭窯

第10表　第２面　溝

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-C ～ F-11 ～ 14	30.3	0.5 ～ 1.35	0.1	35/155	95	21	1号溝

第11表　第２面　石垣

番号	グリッド	確認長(m)	高(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-C ～ E-12 ～ 14	14.24	0.33 ～ 0.55	35	95	21	1号石垣
2	48-T ～ V-6 ～ 8	13.8	～ 0.5	155	98		2号石垣
3	45-S-5	4		28	99	20	3号石垣

第12表　第２面　ヤックラ

番号	グリッド	標高(m)	東西幅(m)	南北幅(m)	遺物	挿図	PL.	発掘時名称
1	40-A・B-19・20	522.8 ～ 533.6	5.24	2.08		79	17	1号ヤックラ
2	39・40-Y・A-20	522.8 ～ 5523.9	2.8	1.6		79		
3	39-V・W-21・22	523 ～ 524.3	4.32	2.88		80	17	
4	39-T・U-19・20	522.8 ～ 524.4	2.68	2.76		80	17	
5	39-L ～ N-23 ～ 25	524.6 ～ 526	6.64	4.48		81		
6	39・49-G・H-25 ～ 2	525 ～ 527	4.48	6.68		82		
7	49-D・E-2・3	525.76 ～ 527.3	5.96	7.52	五輪塔空風輪、火輪	83	18	4区1号ヤックラ
8	49-B・C-2・3	526.8 ～ 527.5	3.88	1.96		86		
9	48・49-Y・A-2・3	527.66 ～ 529.6	4.12	6.24		86		4区2号ヤックラ
10	48-R・S-1・2	532.2 ～ 533.4	3.24	4.68		87		2区1号ヤックラ

第13表　第２面　道

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	39・40-Y ～ C-20 ～ 21	13.5	1 ～ 1.5	N-135/62°-E	90	19	平成14年度2号道と連続
2	39・40-T ～ A-21 ～ 22	28.5	1 ～ 1.2	N-138/70°-E	90	19	平成14年度3号道と連続
3	39・40・49-A ～ Y-22 ～ 3	49.8	0.4 ～ 1.1/0.35 ～ 0.72	N-135/70/93°-E	91～94	19	
4	49-H・I-9 ～ 12	10.8	0.28 ～ 0.6	N-155°-E	96	19	
5	48・49-U ～ B-6 ～ 15	43.6	60/96	N-155°-E	97	19・20	1号道
6	45-S・T-4・5	4	0.55 ～ 0.7	N-134°-E	99	20	2号道
7	38・48-0 ～ Q-24 ～ 3	27.3	0.6 ～ 0.8	N-128/24°-E	100	20	3号道
8	38・48-P ～ X-22 ～ 2	43.4	0.3 ～ 0.6	N-47/37°-E	101	20	7号道
9	39-S-21	6	0.9	N-28°-W	91・92		
10	39-T-12	2.5	0.5+	N-70°-E	102	21	5号道
11	39-R ～ T-8 ～ 15	26.2	1.1 ～ 1.4/0.7	N-1°-W	102	21	4号道
12	38-0 ～ Q-22 ～ 24	12	0.6 ～ 0.8	N-46°-E	103	21	6号道

第14表　第２面　溝状遺構

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	45-R・S-5	3.4	0.35	0.05		99		1号溝状遺構

第15表　第３面　畑

番号	グリッド	東西長	南北長	条数	畝・畝間溝幅	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	39-F ～ I-17 ～ 20	10+	7.5+	13+	0.56	N-78°-E	105	22・23	13号畑

第16表　第３面　土坑

番号	グリッド	平面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	挿図	PL.	発掘時名称
3	48-Y-6	不整形	88	75	31	N-57°-E	108	23	1区3号土坑
4	49-A-5・6	不整形	78	74	29	N-42°-E	108	23	1区4号土坑
6	49-A-6	不整形	72	65	21	N-8°-E	108	24	1区6号土坑
55	39-D-14	隅丸長方形	126+	82	25	N-84°-W	108	24	2区55号土坑
59	39-E-15	円形	148	119	37	N-39°-W	108	24	2区59号土坑
65	39-F-16・17	円形	148	119	37	N-39°-W	108	24	2区65号土坑
66	39-F-18	楕円形	106	78	20	N-0°	108	25	2区66号土坑
67	39-G-19	円形	115	114	44	N-21°-W	108	25	2区67号土坑
69	39-C-20	楕円形	93	73	30	N-66°-W	108	25	2区69号土坑
85	39-N-16	隅丸長方形	188	85	62	N-6°-W	108	25	3区12号土坑
91	49-N・0-8	隅丸長方形	108	62	32	N-42°-W	108	26	4区１号土坑
92	49-L・M-1	隅丸長方形	365	132	121	N-78°-E	108	26	4区２号土坑
94	49-D・E-4・5	不整形	252	180	56	N-75°-E	109	26	4区４号土坑

第17表　第３面　焼土

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	時期	備考	挿図	PL.	発掘時名称
1	38-Y-20	112	49	5	不明		109	27	２区１号焼土
2	38-X-19・20	60	45	15	不明		109	27	２区２号焼土
3	39-I-20	44	30	11	不明		109	27	３区１号焼土
4	49-F-8	130	86	15	不明		109	27	４区１号焼土
5	49-F-8	90	70	5	不明		109	27	４区２号焼土
6	49-E-7・8	25	15	5	不明		109	27	４区３号焼土
7	49-F-7	40	40	5	不明		109	27	４区４号焼土
8	49-E-4	50	40	8	不明		109	28	４区５号焼土

第18表　陶磁器観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				色調	成形・整形の特徴	備考
第110図 PL.28	1	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	2区14トレンチ 口縁一部欠	口径	11.7	器高	7.5	灰白	外面口縁部以下回転篦削りの後、高台貼付。内面から高台脇に飴釉。高台脇以下は釉を丁寧に拭う。口縁部に墨灰釉か。	18世紀前葉～中葉
				底径	4.7					
第110図 PL.28	2	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	2区泥流下層 1/2	口径	11.2	器高	6.9	灰白	体部上位以下は回転篦削り。底部は回転篦削りの後、高台貼付。内面から高台脇に飴釉施釉の後、口縁部に墨灰釉。	10片接合。18世紀中葉
				底径	4.7					
第110図 PL.28	3	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径	11.0	器高	7.5	灰白	体部外面上位以下は回転篦削り。底部は回転篦削りの後、高台部分の回転撫で。内面から体部外面下位に飴釉。口縁部に墨灰釉。飴釉はやや薄く現状に白濁。	14片接合。18世紀中葉
				底径	4.6					
第110図	4	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗か	復旧1区第7群 体部下位以下 1/2	口径	-	器高	-	灰白	外面回転篦削りの後、高台貼付。内面から体部下位に飴釉。体部別れ口の外側半分に釉が付着する箇所があり、焼成時にヒビが入っていた。	18世紀前葉か
				底径	(5.2)					
第110図 PL.28	5	瀬戸・美濃陶器 碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径	9.8～10.4	器高	6.5	灰白	高台端部を除き灰釉。貫入入る。高台端部やや摩滅。	18世紀中葉か
				底径	4.5～4.8					
第110図 PL.28	6	肥前陶器 呉器手碗	2区14トレンチ 口縁一部欠	口径	11.2	器高	7.8	灰白	高台内中央は兜巾状を呈する。高台端部を除き貫入が入る透明釉。	14片接合。17世紀末から18世紀前葉
				底径	4.5					
第110図	7	肥前陶器 陶胎染付碗	4区7トレンチ 体部下位1/4	口径	-	器高	-	灰	外面に染付。高台丁寧に打ち欠いて使用か。	18世紀前葉～中葉
				底径	-					
第110図	8	肥前陶器 陶胎染付碗	3区復旧溝 1/3	口径	-	器高	-	灰～灰白	外面染付。高台端部を除き透明釉。文様不鮮明。貫入入る。	18世紀前葉～中葉
				底径	(5.3)					
第110図 PL.28	9	肥前磁器 染付碗	49-J-1 口縁部一部、底部1/2	口径	(10.3)	器高	5.0	灰白	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	18世紀中葉から後葉。2片接合
				底径	4.0					
第110図 PL.28	10	肥前磁器 染付碗	復旧1区第8群 底部	口径	-	器高	-	白	高台内1重圏線内に「大明年製」崩れ銘。高台脇を叩打により円形に成形。	二次加工品。江戸時代
				底径	(3.6)					
第110図	11	肥前磁器 染付皿	3区復旧溝 底部1/3	口径	-	器高	-	灰白	内面染付。高台端部を除き透明釉。高台外面は内傾し、端部を削り断面逆台形に成形。	17世紀前葉～中葉
				底径	(7.1)					
第110図	12	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	2区3面 1/4	口径	(10.8)	器高	2.1	灰白	口縁部内面に幅広の圏線。底部内面2重圏線内に不明文様。施文は鉄絵具。高台端部を除き長石釉。貫入入る。	17世紀前葉～中葉
				底径	(6.1)					
第110図 PL.28	13	肥前磁器 小杯	4区7トレンチ 1/5	口径	(8.2)	器高	5.7	灰白	手描きによる植物文とコンニャク印版による若松文。内面無文。	18世紀前葉～中葉
				底径	(4.0)					
第110図	14	瀬戸・美濃陶器 筒形香炉	1区 1区1面部から体部片	口径	-	器高	-	灰白	外面に若松状の文様。内面から残存部外面に飴釉。口縁部外面端部に器表の微細剥離あり。	18世紀
				底径	-					
第110図 PL.28	15	瀬戸・美濃陶器 小碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径	7.0	器高	3.5	灰白	外面は口縁部以下回転篦削り。内面から高台脇に飴釉。	18世紀
				底径	4.0					
第110図	16	製作地不詳陶器 碗	復旧1区第6群 1/3	口径	-	器高	-	灰	内面から体部外面に鉄釉。識別部ははにふい褐色。	時期不詳
				底径	(4.1)					
第110図	17	龍泉窯系青磁 碗	39-J-19 2面 体部片	口径	-	器高	-	灰白	外面鎬蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀
				底径	-					
第111図 PL.28	1	製作地不詳陶器 すり鉢	1区表採 口縁部片	口径	-	器高	-	淡黄	内面にすり目密に施し、口縁部回転横撫でにより上端を撫で消す。口縁部内面から外面に鉄釉。片口の押さえは弱く、僅かに突き出るのみ。	19世紀前葉以降
				底径	-					
第111図	2	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	39-J-19 2面 口縁部下位片	口径	-	器高	-	灰白	口縁部下位片の上部別れ口を撫って平坦かつ平滑とする。用途不明。	二次加工。江戸時代
				底径	-					
第111図	3	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	復旧1区第6群 口縁部下位片	口径	-	器高	-	灰白	口縁端部付近欠損。口縁下部の屈曲部以下の外面は回転篦削り、内面はすり目。内面側から見て左下の割れ口は撫られて平滑となる。	二次加工
				底径	-					
第111図	4	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	復旧1区第7群 口縁部下位片	口径	-	器高	-	灰白	口縁端部付近欠損。口縁下部の屈曲部以下の外面は回転篦削り、内面はすり目。内面側から見て左上の割れ口の2/3は、撫られて平滑となる。	二次加工
				底径	-					
第111図	5	丹波陶器か すり鉢	1区 体部下位から底部	口径	-	器高	-	褐灰	内面器表は浅黄橙色、外面器表はにぶい橙色。内面のすり目は密に入り、使用による摩滅著しい。	3片接合。江戸時代
				底径	-					
第111図	6	在地系上器 内耳鍋か	4区5トレンチ 口縁部片	口径	-	器高	-	にぶい褐、外面器表黒灰	口縁部横撫で。	中世か
				底径	-					

第19表　石製品観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.18	2	五輪塔 空風輪	7号ヤックラ 完形	長	19.5	厚	17.9	溶結凝灰岩	成形は均質、表面は丁寧な整形を施す。側面のくびれ部は明瞭である。底面の加工は比較的粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
				幅	18.1	重	5478.0			
第85図 PL.18	3	五輪塔 空風輪	7号ヤックラ 完形	長	19.1	厚	15.1	粗粒輝石安山岩	成形は均質、表面は丁寧な整形を施す。側面のくびれ部は明瞭である。底面の加工は比較的粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
				幅	17.1	重	3698.6			
第84図 PL.18	1	五輪塔 火輪	7号ヤックラ ほぼ完形	長	26.6	厚	15.4	粗粒輝石安山岩	丁寧な成整形。上面はほぼ平坦であり棒状あるいは平ノミ状の工具痕が明瞭に認められる。隅棟の反りは認められず、屋だるみはわずかに認められる。軒の上辺は曲線を呈するが下辺はほぼ直線である。底面の加工は全体的に粗い。	
				幅	26.8	重	6700.0			
第111図 PL.28	7	石製品 火打石	北5号トレンチ 完形	長	2.2	厚	1.9	流紋岩	縁辺部の稜上に微細剥離痕とつぶれ痕が認められる。左側面には自然面が認められ円礫を利用している可能性が高い。	
				幅	2.1	重	11.6			
第111図 PL.28	8	石製品 砥石	49-F-7 不明	長	(3.7)	厚	0.8	珪質粘板岩	表裏面の全体に非常に滑らかな面が認められ砥面と判断した。	
				幅	(3.2)	重	13.3			

第20表　金属製品等観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				成形・整形の特徴	備考
第111図 PL.28	9	鉄製品 鏃	38-X-18 一部欠損	縦	11.55	厚	1.1	鉄鏃。鋲通し。鋒、茎の端部が欠損している。中世以降の鏃と見られる。	
				横	1.85	重	16.6		
第111図 PL.28	10	銅製品 雁首銭	1区3面 一部欠損	縦	1.95	厚	0.1	雁首銭。全体に劣化が見られ、一部欠損している。煙管の火皿部分をつぶしたもの。	
				横	1.9	重	9		
第111図 PL.28	11	銅製品 銅線	2区3面 不明	縦	4.38	厚	0.2	詳細は不明。片方が丸まっており、もう一方はやや細くなる。	
				横	1.9	重	1.6		
第111図 PL.28	12	銅製品 小柄柄部	38-Y-20 1/2	縦	2.4	厚	0.4	細かい傷が右上から左下方向に多数ある。中心部と思われるところから中心から両側に折り返されるように破損している。	
				横	1.45	重	3.2		
第111図 PL.28	13	銅製品 キセル(吸口)	復旧坑第7群 ほぼ完形	縦	7.5	厚	1.4	内部に雌字が残存する。全体が銅で覆われており、一部剥離も見られる。	
				横	1.5	重	11.8		
第111図 PL.28	14	銅製品 キセル(雁首)	1区3面 一部欠損	縦	3.8	厚	1.0	全体が細かい砂を含む銅に覆われている。火皿部分が欠損。	
				横	1.1	重	4.9		
第111図 PL.28	15	鉄製品 火打ち金	2区3面 2/3	縦	7.7	厚	0.6	山形の火打ち金。銅の針金が付随している。針金は端部が丸く収められており、もう一方の端部の直前で曲がり、欠損している。	
				横	1.85	重	21.1		
第111図 PL.28	16	馬歯	39-W-23 完形	縦	6.1	厚	2.6	馬の上の歯。後臼歯と見られる。歯冠高が1.6cmと見られ、高齢の馬の可能性がある。	
				横	2.5	重	53.5		
第111図 PL.28	17	銭貨 寛永通寶	2区 一部欠損	縦	2.294	厚	0.103	面、背ともにやや彫は浅いが、字、輪、郭は明瞭。	
				横	-	重	1.4		
第111図 PL.28	18	銭貨 洪武通寶	復旧坑第7群 完形	縦	2.332	厚	1.47	面の彫は深く、字、輪、郭が明瞭。背の彫は浅いが、輪、郭は明瞭。背の郭がゆがんでおり、いびつな形をしている。	
				横	2.303	重	2.1		
第111図 PL.28	19	銭貨 寛永通寶	48-R-22 完形	縦	2.427	厚	1.3	古寛永。面、背ともに彫が深く字、輪、郭が明瞭。	
				横	2.422	重	3.2		
第111図 PL.28	20	銭貨 寛永通寶	3区3面 完形	縦	2.370	厚	0.122	古寛永。面の彫が深く、字、輪、郭が明瞭。背はやや彫が浅いが、輪、郭は明瞭。面より背の郭が太い。	
				横	2.379	重	2.3		
第111図 PL.28	21	銭貨 寛永通寶	3区3面 完形	縦	2.412	厚	0.127	古寛永。面、背ともに彫が深く、字、輪、郭ともに明瞭。	
				横	2.407	重	2.4		

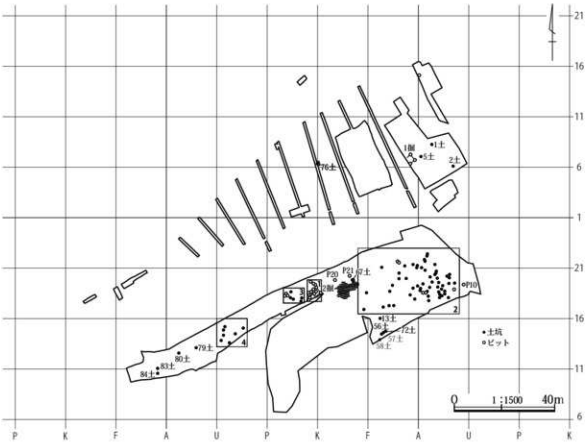
第６節　第４面の調査

第１項　第４面の概要

本節では平成27年度調査においては、第２面、第３面として調査され、平成29年度調査においては第２面として調査された、天明泥流下面以下で確認された遺構、遺物のうち、縄文時代、弥生時代に属するものを扱う。

遺構の検出にあたっては、縄文・弥生時代遺物を包含する黒褐色土のⅥ層内と二次堆積ロームのⅦ層上位面において精査作業を行い、掘立柱建物２棟、ピット状遺構23基、土坑82基などの遺構を調査した。各遺構の帰属時期については、伴出遺物の無い掘立柱建物やピット状遺構の同定が困難であるが、20点の縄文土器片を出土した９基の土坑は縄文時代前期～後期に、条痕文を施した深鉢や甕の胴部破片を主体に183点を出土した20基の土坑は、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期に属すると考えられる。また、併せてⅥ層の包含層調査を実施し、弥生時代中期の土器片７点や石鏃１点と、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器片401点、縄文時代前期～後期の土器片424点や土偶片２点および、僅少ながら石鏃３点・削器１点・剥片34点等の石器類を検出した。その他に人為的な遺構ではないが、Ⅶ層上面において13基の風倒木痕や攪乱土痕を検出している。

当遺跡内では各期竪穴建物(住居)の存在は確認されず、上記遺構のみで構成されると考えられるが、居住施設については時期不明ながら掘立柱建物がその機能を有する可能性もある。以下、遺構種別を単位として、その詳細を記述する。



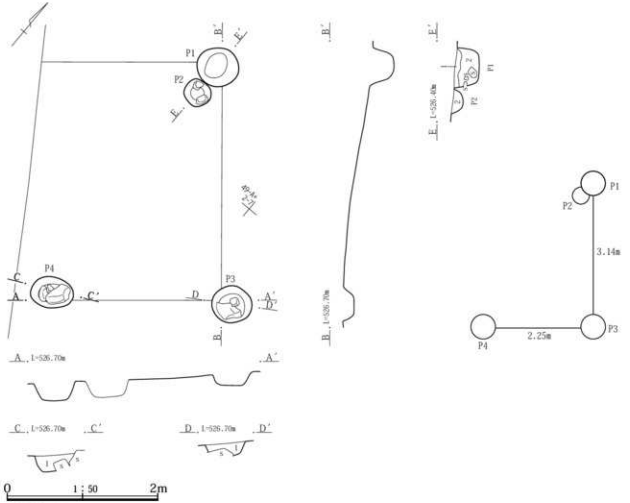
第112図　第４面遺構位置図

第２項　掘立柱建物とピット状遺構

掘立柱建物については、調査段階ではその存在を明確には把握し得なかったが、報告書作成に関わる基礎整理段階で、下記のピット状遺構群の全体平面図上において柱間の間隔やその配列方向などの相関性から掘立柱建物の存在を認定し、第113・114図のように１・２号掘立柱建物の２棟を想定復元したものである。ただし、両者ともに建物の一部が調査区境界との関連で不明瞭となっており、間取りや全体規模に関しては確定できない。

一方、ピット状遺構に関しては、第21表に掲示したように23基が確認されているが、実際には１・２号掘立柱建物の柱穴として復元した９基のピットを含めれば、合計32基となる。従って、間取りの復元には至らなかった23基についても、元来は他の掘立柱建物を構成するピットであった可能性もある。また、各ピットの深度を見ると、25cm以下の浅いものが17基と全体の74%を占めているが、このような低深度状況は掘立柱建物の柱穴についても同様に認められる。その要因としては、調査確認面が当時の構築面からかなり下位のⅦ層上面であるために、本来の壁面高をかなり削り込んでしまっていることが考えられる。従って、第21表に示した深さについては、こうした点を勘案する必要がある。

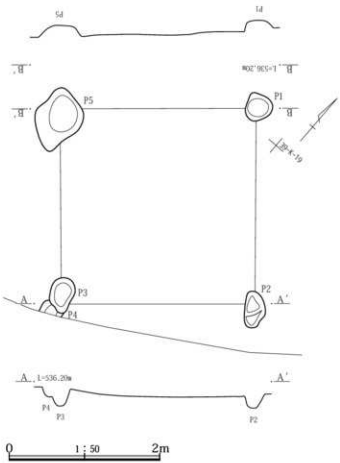
掘立柱建物とピット状遺構の分布状況は、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土坑(墓)が集中的に存在する38-U～39-G-14～22グリッド地点から北方や西方に約40～50m離れた49-A-６・７グリッドと39-K-18・19グリッドの２地点に分散しており、掘立柱建物と墓坑



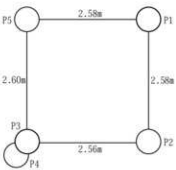
１号掘立柱建物

P1・P2　1　暗褐色土　10YR3/3　白色粒を微量含む。締まりあり。やや粘性あり。
　　2　黒褐色土　10YR3/2　径５～20mm程度の礫を含む。白色粒を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。
P3　　1　暗褐色土　10YR3/3　白色粒及び径３～20mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘質。
P4　　1　暗褐色土　10YR3/3　径３～５mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。

第113図　１号掘立柱建物



第114図　２号掘立柱建物



群とは互いに占地場所を違えていることが窺える。

１号掘立柱建物

位置　49-A-６・７グリッド　**方位**　N-40°-W

区画内面積　(8.14)㎡　**重複**　無し

形状　西半部が調査区境界により不明瞭となっているために確定できないが、２号と同様に梁行１間×桁行１間の正方形状を呈する側柱建物の可能性がある。この場合、斜面地の等高線にほぼ並行するように、長軸あるいは短軸が配置されると考えられる。上記の方位は、P1とP3を結んだ軸線の方位である。

規模　南北軸に相当するP1とP3の芯々間を結んだ距離は、3.14mを測る。また、これと直交する東西軸のP3～P4の距離は2.25mであるが、共に2.6m前後の柱間を基本とする２号とは大きな差異がある。

柱穴　各柱穴の規模(直径×深さ)はP1：55cm×34cm、P2：36cm×16cm、P3：52cm×18cm、P4：55cm×24cmを測る。P3・P4内の中位に長径40cmの亜角礫各１点が出土しており、柱の沈下を防止する根太石の可能性もある。また、P2は建て替え等に伴う柱穴であろう。なお、各柱穴内での柱痕の存在は確認できなかった。

所見　帰属時期については、柱穴内からの出土遺物が皆無なため確定できない。当掘立柱建物が居住等に係る施設と仮定した場合、南方に50m離れて存在する縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の墓坑群とは占地場所を明確に違えていることにも留意する必要があろう。この点を重視すれば、ともに同一時期の所産とみなすこともできよう。

２号掘立柱建物

位置　39-K-18・19グリッド　**方位**　N-49°-E

区画内面積　(13.3)㎡　**重複**　無し

形状　斜面地の等高線にやや斜行して、長軸を北東-南西方向にもつ梁行１間×桁行１間の正方形状を呈する側柱建物として復元した。

規模　長軸方向の桁行では東辺2.58m・西辺2.60m、短軸方向の梁行では北辺2.58m・南辺2.56mを測る。

柱穴　長軸・短軸ともに２本の４本側柱構造であり、各柱穴の規模(直径×深さ)P1：37cm×14cm、P2：48cm×19cm、P3：46cm×22cm、P4：31cm×21cm、P5：85cm×19cmを測る。他のピットに比べてP2やP5の長径が大振りとなっているが、建て替えに伴う抜柱等により拡張された可能性が高い。同様に、P4もP3の建て替えに関わる柱穴であろう。なお、各柱穴内での柱痕の存在は確認できなかった。

所見　帰属時期については、柱穴内からの出土遺物が皆無なため確定できない。ただし、１号と同様に縄文時代

第21表　第４面　掘立柱建物

番号	グリッド	長軸長（cm）	短軸長（cm）	方位	挿図	PL.	
1	49-A-6・7	3.12	2.48	N-40°-W	113		
ピット	グリッド	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-A-7	55	52	34	113	29	1区5号ピット
2	49-A-7	36	34	16	113	29	1区4号ピット
3	49-A-6	52	49	18	113	29	1区2号ピット
4	49-A-6	55	41	24	113	29	1区3号ピット

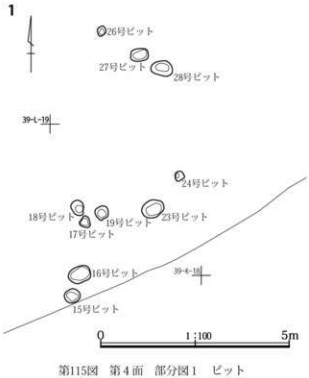
番号	グリッド	長軸長（cm）	短軸長（cm）	方位	挿図	PL.	
2	39-J・K-18・19	2.64	2.58	N-49°-W	114		
ピット	グリッド	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	挿図	PL.	発掘時名称
1	39-K-19	37	37	14	114		3区18号ピット
2	39-J-18	48	28	19	114		3区19号ピット
3	39-K-18	46	32	22	114		3区11号ピット
4	39-K-18	31	18+	21	114		3区10号ピット
5	39-K-18	85	64	19	114		3区9号ピット

晩期の墓坑群とは西方に50m離れて立地しており、当該期に比定される可能性もある。

ピット

前述したように、各ピットは49-A-６・７グリッドと39-K-18・19グリッドの２地点を中心に23基が存在し、構造物としての復元は困難であるが、同地点に併存する１・２号掘立柱建物とも密接な関係性を有すると想定される。

第21表に示した各ピットの形状・規模に関しては、その確認・調査面が必ずしも当時の掘削・構築面に限定されないことから、基本的に「参考値」である点に留意する必要がある。先ず形状については、円形を基調とするものが６・７・９・10・15・18・19・31号の８基、楕円形状が１・８・11・13・16・23・25・27・28号の９基、不整円形状が12・14・17・24・26・32号の６基である。また、規模の点では直径が①30cm未満：３基、②30～39cm：３基、③40～49cm：９基、④50～59cm：４基、⑤60～70cm：４基であり、③グループが全体の４割弱を占める。形状と規模との有意な関係性はさほど明確ではないが、直径50cm以上は楕円形状が６割強を占めている。また、⑤グループには円形状の31号のように長径が70cmを超えるものも存在し、ピットではなく土坑に分類される可能性もある。



第115図　第４面　部分図１　ピット

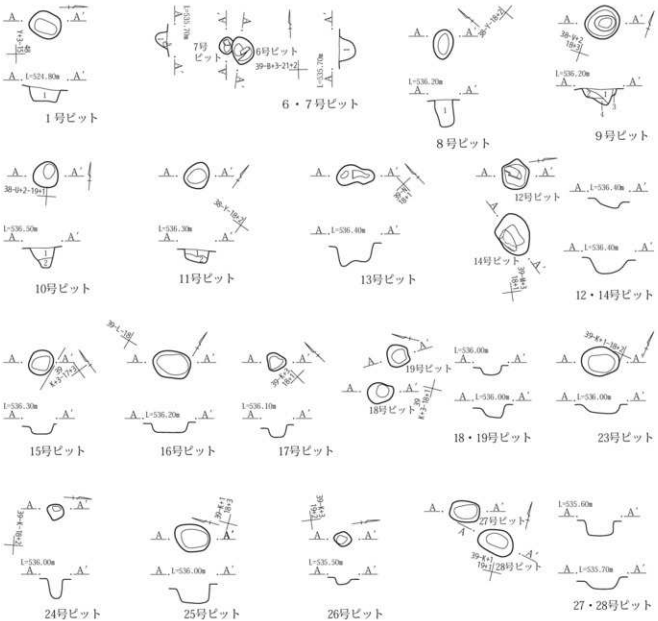
埋没土の状況は、多少に関わらずローム相当の黄褐色土や暗褐色土のブロックを含むが、確認し得る残存深度が浅いため人為的な埋項の有無を見分けるのは難しく、同様に柱痕等の痕跡が確認されたピットも皆無である。

帰属時期については、土器等の伴出遺物は皆無であることから、明確にすることは困難である。ただし、掘立柱建物で述べたように、晩期末葉～弥生時代前期の墓坑群との関連性が想定できるとすれば、当該期に比定される可能性もある。

第３項　土坑

第23・24表に掲示したように82基を検出したが、その分布状況は標高535～539mの38-U～39-G-14～22グリッド（座標値X＝61352～61368、Y＝-100785～100825）の範囲に、全体の７割に相当する60基が集中している。

帰属時期については、第34表に示したように総計220



1号ピット　1　黒褐色土　10YR3/2　径３～20mm程度の礫を少量含む。ロームブロックを少量含む。やや粘性あり。

6号ピット　1　暗褐色土　10YR3/3　径５～10mm程度の礫を少量含む。ロームブロック混じり。締まり弱い。やや粘性あり。

7号ピット　1　暗褐色土　10YR3/3　径100mm程度の礫を１個含む。ローム土混じり。締まりあり　粘性あり。

8号ピット　1　暗褐色土　10YR3/4　径10～100mm程度の礫を含む。炭化物片を少量含む。硬く締まる。粘性あり。

9号ピット　1　黒褐色土　10YR3/2　径３～80mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。
　　2　暗褐色土　10YR3/3　締まりあり。粘性あり。
　　3　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム土混土。締まりあり。粘質土。
　　4　黄褐色土　10YR5/6　にぶい黄褐色土混土。締まりあり。粘質土。

10号ピット　1　暗褐色土　10YR3/3　褐色粘質土混じり、径５～10mm程度の礫を少量含む。ややもろい。やや粘性あり。
　　2　黒褐色土　10YR3/2　径３～５mm程度の礫を少量含む。とてももろい。やや粘性あり。

11号ピット　1　黒褐色土　10YR3/1　黄色粒を微量含む。締まりあり。やや粘性あり。
　　2　暗褐色土　10YR3/3　径３～10mm程度の礫を少量含む。締まりあり。粘質土。

第116図　第４面　ピット

第22表　第４面　ピット

番号	グリッド	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	備　考	挿図	PL.	発掘時名称
1	48-Y-15	長円形	48	40	24		116	29	1区1号ピット
6	39-B・C-21	偏円形	43	33	26	7ピットを切る	116	29	2区6号ピット
7	39-C-21	不整円形	27	19+	21	6ピットに切られる	116	29	2区7号ピット
8	38-Y-18	長円形	97	31	42	34・35土坑を切る	116	30	2区8号ピット
9	38-V-18	不整円形	55	52	24		116	30	2区9号ピット
10	38-U-19	不整円形	41	39	34		116	30	2区10号ピット
11	38-Y-18	円形	43	37	20		116	30	2区11号ピット
12	39-N-18	五角形	48	43	15		116		3区1号ピット
13	39-N-18	双円状	60	31	35		116		3区2号ピット
14	39-M・N-18	長円形	68	52	23		116		3区3号ピット
15	39-K-17	円形	42	37	13		116		3区4号ピット
16	39-K-17・18	長円形	59	42	15		116		3区5号ピット
17	39-K-18	不整形	31	27	24		116		3区6号ピット
18	39-K-18	偏円形	41	32	21		116		3区7号ピット
19	39-K-18	不整円形	38	35	14		116		3区8号ピット
23	39-K-18	長円形	60	46	13		116		3区12号ピット
24	39-K-18	不整円形	28	26	31		116		3区13号ピット
25	39-K-18	長円形	58	45	26		116		3区14号ピット
26	39-K-19	不整円形	28	24	11		116		3区15号ピット
27	39-K-19	長円形	47	35	23		116		3区16号ピット
28	39-K-19	長円形	57	40	17		116		3区17号ピット
31	39-I-19	円形	70	63	20		116		3区20号ピット
32	39-G-20	不整形	39	30	17		116		3区21号ピット

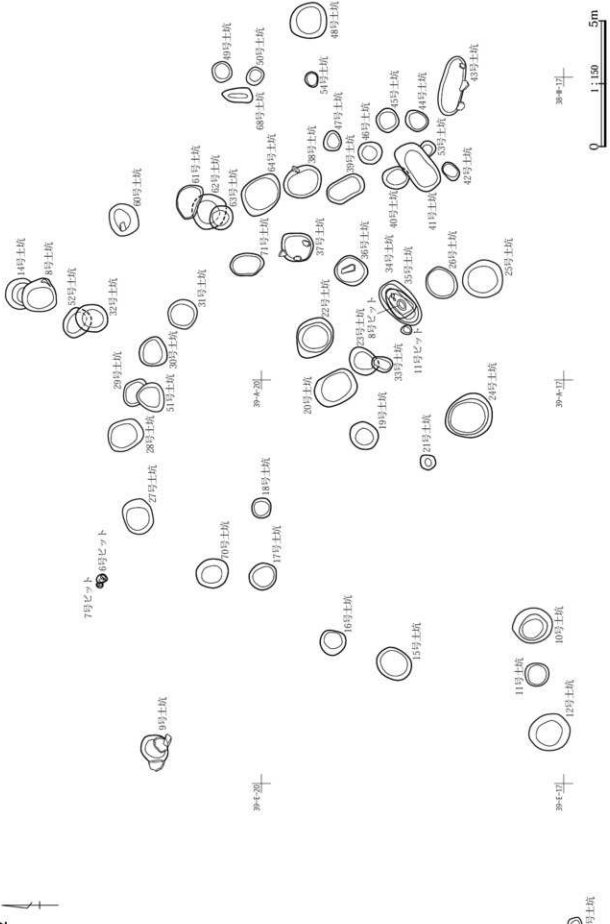
点を数える土器片等の伴出遺物により、ある程度判定可能なものが29基にとどまるが、それらとの重複関係によりある程度時期判定可能な土坑３基を含めれば、合計32基を数える。その内訳は縄文時代前期２基、中期５基、後期２基を数えるが、晩期未葉～弥生時代前期が23基と最多数を占めている。

形態としては、掘り込み確認面での平面形状が円形のものが62基と全体の76％を占め、次いで楕円形を基調とするものが15基(18％)、隅丸方形状２基(２％)と不整形状３基(４％)となる。円形状土坑の中で、いわゆる袋状の形態を持つものは皆無であるが、これについてはその調査確認面がローム相当層のⅦ層に近接したⅥ層下位であるために、当時の本来の壁面高をかなり削り込んでしまっていることが影響を及ぼしている可能性も考慮する必要があろう。また、Ⅶ層が火山灰を主体とした土層ではなく、多数の大小亜角礫を含む二次堆積ローム層であることから、当時においては高深度の掘削が困難であり、実態として低深度の土坑とならざるを得なかった点も加味すべきと思われる。ちなみに、壁高が50cm未満のものは88％の71基を数えるが、例外的に壁高が80cmを超えるものは、攪乱痕の可能性が高い84号を除けば14・35・78号の３基にとどまり、それらはいずれもⅦ層内の亜角礫混入が希薄な地点に構築されている。

規模に関しては、円形状の場合、直径が①50～74cm以下：14基、②75～99cm：14基、③100～124cm：15基、④125～149cm：12基、⑤150～199cm：７基であり、③グループが最多となる。仮に直径100cm未満の①・②グループを小形、同150cm未満の③・④グループを中形、同150cm以上の⑤グループを大形に分類すれば、小形：28基(45％)、中形：27基(44％)、大形：７基(11％)であり、小・中形がほぼ拮抗して円形土坑全体の89％を占める。楕円形状では、長軸が100cm未満は皆無であり、①100～149cm：５基、②150～199cm：７基、③200cm以上：３基であり、200cm未満の①・②グループを主体とする傾向が明瞭である。規模の面でみれば、円形土坑よりもやや大形であると言えよう。また楕円形に近似するが、方形状の平面形を企図したと想定される隅丸長・正方形状のものは、長軸が①100～149cm：１基、②250～299cm：１基である。方形状土坑の場合、時期も不明で全体的な傾向を云々できるほどの数量ではないが、分布域が冒頭の密集地点から外れる土坑もある点は、注意を要する。また規模の点では、長・短軸比がほぼ1.2～1.5：１の範囲に収まっている。

なお、各土坑の掘削深度については、10cm以下～100cm弱のものまで多様であるが、前述したように当時の構築・掘削面を把握できないものが大半であり、第23・24表に掲示した深度についてもその実態を直接反映していない点に留意されたい。

各土坑の機能・用途を考定する上で重要な要件となる埋没土の状況や遺物出土状況については、時期比定が可



第117図　第４面　部分図２　土坑１

能な土坑を中心として以下の記述の中で扱うが、伴出土器等の遺物が皆無の土坑中で、平面形態が楕円形・長方形状のものと、土器の大形破片や大・中形自然礫を伴う土坑を除けば、貯蔵穴としての用途が想定される。

以下、煩雑さを回避するために、伴出土器の細別時期を単位にして記述するが、規模・形状や重複関係等の詳細については第23・24表を参照されたい。

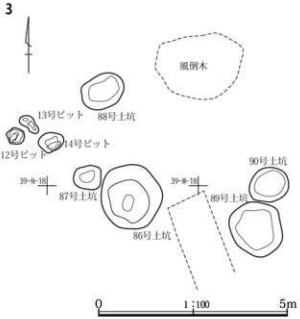
A．縄文時代前期

諸磯ａ式期　不整形状の１号１基が存在するのみである。底面は複数の凹凸により平坦ではなく、不整形な平面形状も考慮すれば、倒木痕等の土壌攪乱痕の可能性が高い。埋没土中から諸磯ａ式土器１片（第127図１坑１）が出土しているが、当土坑の構築時期を反映しているか否かは不明である。

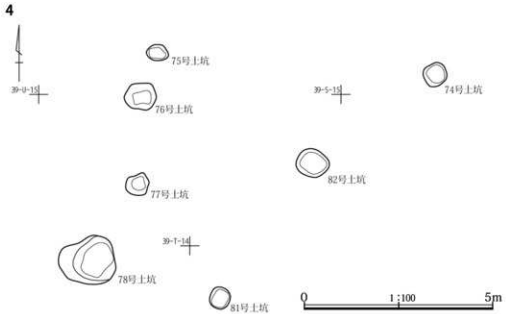
十三菩提式期　円形土坑の81号１基が存在するのみである。直径56㎝×深さ15㎝の小形土坑だが、小礫混じりの黒褐色土の単一層で埋没している。出土遺物には埋没土中からの十三菩提式土器片３点と黒曜石剥片１点があり、その内の土器片２点（第129図81坑１・２）を資料化した。当該土器を重視すれば十三菩提式期に比定し得るが、いずれも小破片であり確定的ではない。なお、黒曜石剥片については蛍光Ｘ線分析による産地同定を行ったが、星ケ台産という結果を得ている。詳細については、148頁以下の「黒曜石製石器の原産地同定」を参照されたい。

B．縄文時代中期

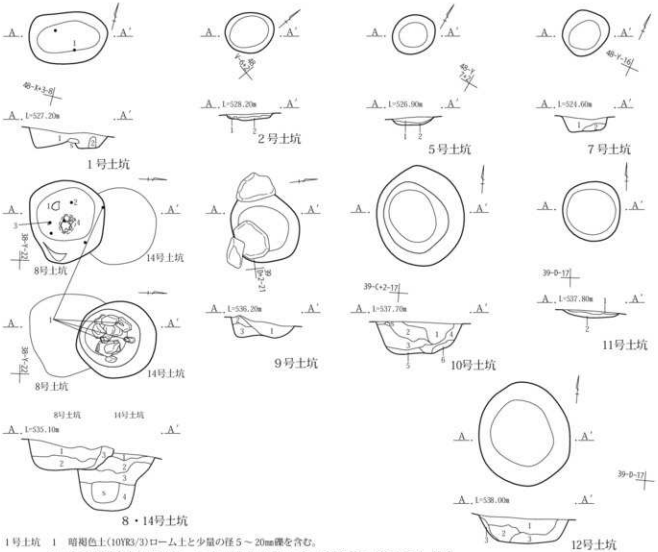
五領ヶ台式期　円形状の74号と楕円形状の78号の２基が存在するのみである。74号は直径61㎝×深さ21㎝の小形土坑であり、底面にはⅦ層内の大形亜角礫が露出している。出土遺物は、底面から９㎝浮遊した五領ヶ台式土器片１点（第129図74坑１）のみであるが、長径10～30㎝の亜角礫５点が底面にほぼ密着して出土しており、注意を要する。78号は上縁部の西側が突出してやや不整形な楕円形状を呈するが、底面形状を重視すれば直径130㎝前後の正円に近い形状を持ち、深さ98㎝の規模で他に比



第118図　第４面　部分図３　土坑２

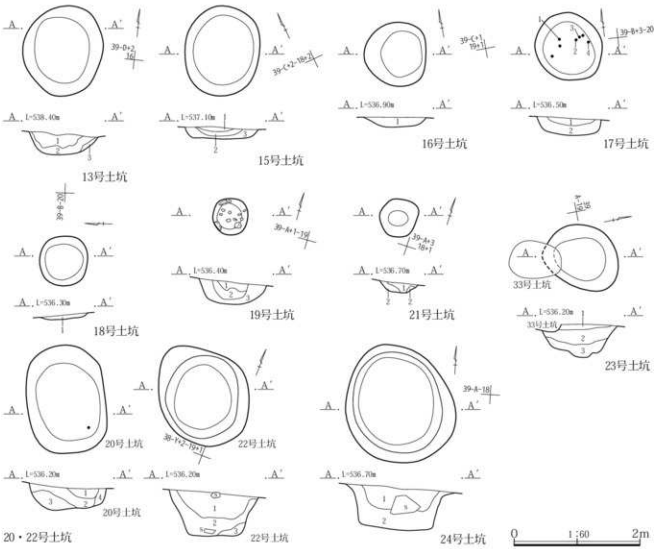


第119図　第４面　部分図４　土坑３



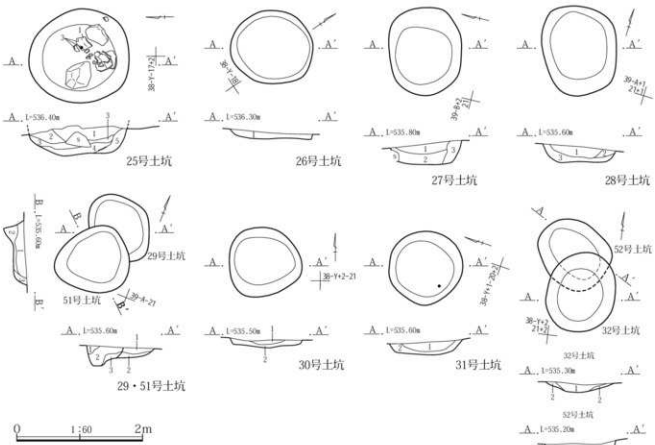
1号土坑　1　暗褐色土(10YR3/3)ローム土と少量の径５～20mm礫を含む。
　　2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック15%と径３～５mmの礫を含む。締まりあり。粘質。
2号土坑　1　灰黄褐色土(10YR4/2)白色軽石粒を微量含む。締まり・粘性あり。
　　2　黒褐色土(10YR3/2)黄色粒を微量含む。１層より締まり弱く粘性あり。
5号土坑　1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)径３～８mmの礫を少量含む。硬く締まる。やや粘性あり。
7号土坑　1　黒褐色土(10YR3/2)径５～10mmの礫を少量含む。やや締まり弱くやや粘性あり。
　　2　褐色土(10YR4/4)ローム土を含む。締まり弱い。
8号土坑　1　暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック10%と少量の白色軽石粒・径20～30mm礫や微量の炭化物片を含む。硬く締まる。粘質。
　　2　黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック20%と数個の径５～10cm礫を含む。１層より締まり弱くやや粘性あり。
　　3　暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック15%と微量の白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘質。
9号土坑　1　黒褐色土(10YR3/2)少量の径３～10mm礫と微量の白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土(10YR3/3)白色軽石粒を微量含む。締まりあり、やや粘質。
　　3　黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10%と微量の径３～５mm礫を含む。締まりあり、やや粘質。
10号土坑　1　暗褐色土(10YR3/4)ローム土10%と径５～10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
　　2　暗褐色土(10YR3/3)ローム土５%と少量の径５～50mm礫を含む。締まり・粘性あり。
　　3　暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック10%と径５～40mmの礫を含む。やや締まり弱く粘性あり。
　　4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック15%含む。締まりあり、やや粘質。
　　5　黒褐色土(10YR3/2)ローム土10%含む。締まり弱く粘性あり。
　　6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム土20%を含む。締まり・粘性あり。
11号土坑　1　黒褐色土(10YR3/2)径３～５mmの礫を少量含む。締まりあり。粘質。
　　2　黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック５%や少量の径３～10mm礫を含む。締まり・粘性あり。
12号土坑　1　黒褐色土(10YR3/2)ローム土５%と少量の径10～30mm礫や黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。
　　2　暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック20%と少量の径10～30mm礫を含む。硬く締まる。やや粘質。
　　3　暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック30%と径10～40mmの礫を含む。締まりあり、やや粘質。
14号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2ローム土５%、径３～20mm礫を少量含む。硬く締まる。
　　2　暗褐色土 10YR3/4ロームブロック30%、径２～15mm礫を多量に含む。硬く締まる。
　　3　黒褐色土 10YR3/2ローム土10%と径３mm礫を少量含む。硬く締まる。
　　4　黒褐色土 10YR3/2ローム土15%と径３mm礫を少量含む。硬く締まる。

第120図　第４面　土坑１



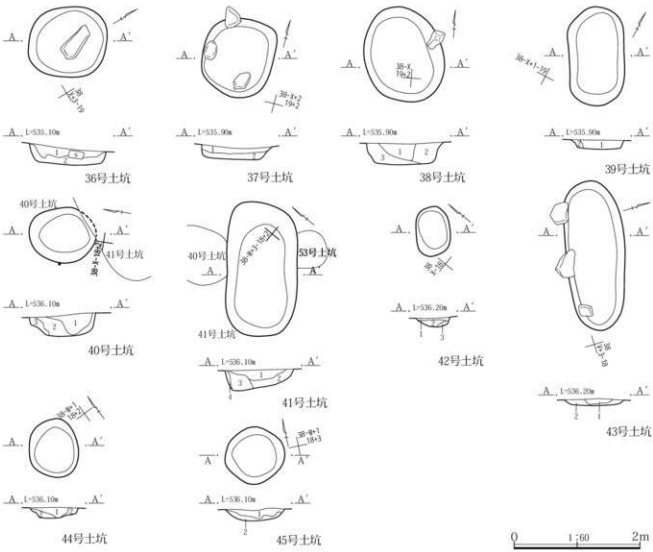
13号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、径10 ～ 30mmの礫や黄色粒を少量含む。締まりあり、やや粘質。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック20％含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　3　褐色土 10YR4/4　ロームブロック30％、径30mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。
15号土坑　1　褐色土 10YR4/4　径５mmの小礫を２％含む。締まり弱い。攪乱層か。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、径１～３mmの黄色粒僅かに含む。やや粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ローム土10％含む。締まりやや強い。
16号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％、径５～ 10mmの礫を２％含む。やや粘性あり。
17号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％含む粘質土。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土15％含む。締まりやや強く粘性あり。
18号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％、径５～ 10mmの礫２％含む。やや粘性あり。
19号土坑　1　暗褐色土 10YR3/4　径５mm前後の礫少量含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％含む。締まり弱くややや粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％、少量の礫・黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
20号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％含む。硬く締まる。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック10％含む。締まり強い。
　　3　黒褐色土 10YR2/2　ローム土５％含む。締まりやや強く粘性あり。
　　4　にぶい黄褐色土 10YR4/3　土質均質。締まりやや強く粘性あり。
21号土坑　1　暗褐色土10YR3/4と黒褐色土10YR3/2の混土。ローム土５％、白色軽石粒微量含む。締まりある粘質土。
　　2　褐色土 10YR4/4　ロームブロックを30％含む。締まり・粘性あり。
22号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック10％、少量の径５～ 10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、少量の黄色粒および径５～ 10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ローム土２％、少量の礫・黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
23号土坑　1　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロックを10％含む。締まり強い。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック５％、微量の径５～ 10mmの礫を含む。締まり強い。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロックを10％含む。締まりやや強く粘性あり。
24号土坑　1　黒褐色土 10YR2/2　ローム土５％、微量の径10 ～ 20mmの礫を含む。締まりやや強く粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロックを15％、微量の径10 ～ 30mmの礫を含む。締まり強い。

第121図　第４面　土坑２



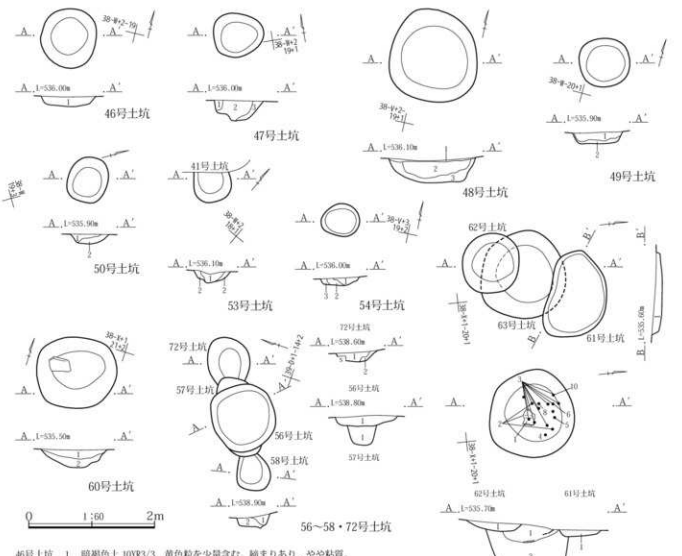
25号土坑　1　黒褐色土 10YR3/1　ローム土５％、少量の褐色粒や径７～ 20mmの礫を含む。締まりやや強くやや粘質。
　　2　黒褐色土 10YR3/1　ローム土10％、少量の白色軽石粒・径７～ 20mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ローム土15％、少量の褐色粒・径５～ 10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
　　4　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック30％、少量の褐色粒を含む。締まり・粘性あり。
　　5　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック20％、少量の黒褐色土・黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
26号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック５％、少量の白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
27号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、径５～ 10mmの礫２％含む。やや硬く締まる。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土２％、径５～ 10mmの礫１％含む。やや締まる。
　　3　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロックを20％含む。締まりやや強く、粘性あり。
28号土坑　1　黒褐色土 10YR2/2　ローム土２％、微量の径３mmの礫を含む。硬く締まる。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　土質均質。硬く締まる。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロックを20％含む。締まりやや強く粘性あり。
29号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　径10mmの礫を僅かに含む。締まり強い。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックを20％含む。締まりやや強く粘性あり。
30号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％、径５～ 10mmの礫を２％含む。やや粘性あり。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロックを30％含む。粘質土。
31号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10％、径10～ 20mmの礫を２％含む。締まりやや強く粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロックを30％含む。締まり強い。
32号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　径５～ 10mmの礫を２％、ローム土を僅かに含む。やや粘性あり。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックを20％含む。締まり強い。
33号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、白色軽石粒微量含む。やや締まり弱くやや粘質。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　黒褐色土、ロームブロックの混土。黄色粒微量含む。締まりあり、やや粘性あり。
34号土坑　1　褐色土 10YR4/6　ローム土や白色軽石粒を少量含む。硬く締まる。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　少量のローム土・褐色粒、白色軽石粒微量含む。硬く締まる。やや粘性あり。
35号土坑　1　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロック５％や径５～ 10mmの礫２％、微量の炭化物を含む。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロックを２％含む。締まりやや強く粘性あり。１層との差は僅少。
51号土坑　1　暗褐色土 10YR3/4　径５～ 10mmの礫を５％、ローム土を２％含む。締まりやや強い。
　　2　黒褐色土 10YR2/2　径５～ 10mmの礫を僅かに含む。締まり強い。
　　3　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロックを10％含む。締まりやや強く粘性あり。
52号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロックを15％含む。締まり強い。
　　2　明黄褐色土 10YR6/6　ロームブロックを40％含む。締まり強い。

第122図　第４面　土坑３



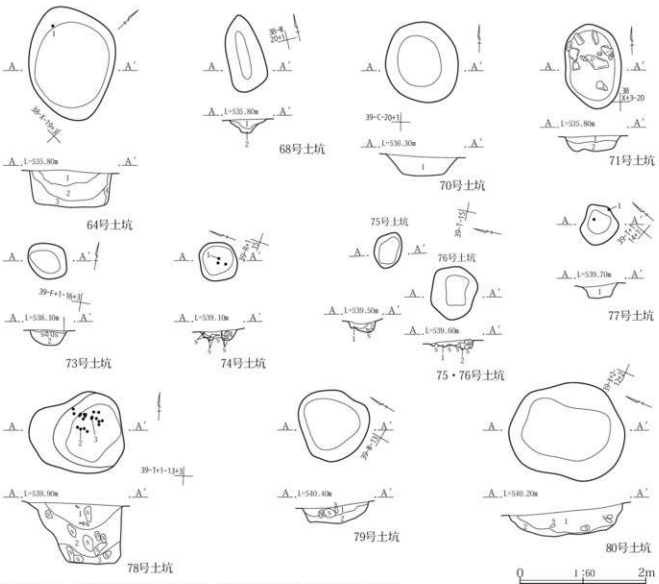
36号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５％、微量の黄色粒・褐色粒を含む。締まり・粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック15％、少量の径５～ 20mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
37号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土10％、少量の径５～ 15mmの礫や褐色粒を含む。硬く締まる。やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土15％含む。締まりあり。粘質土。
38号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10％、少量の白色軽石粒や微量の径５～ 10mmの礫を含む。硬く締まる。やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック15％、少量の径３～５mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　黄色粒を多く含む。硬く締まる。やや粘性あり。
39号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５％、少量の径５～ 10mmの礫を含む。硬く締まる。やや粘性あり。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロック20％含む。締まりあり、やや粘性あり。
40号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土10％、径３～ 10mmの礫少量含む。締まり・粘性あり。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック15％、少量の径50 ～ 100mmの礫や白色軽石粒を含む。締まり・粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック30％、微量の黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
41号土坑　1　黒褐色土 10YR3/1　ロームブロック10％、少量の径５mmの礫や白色軽石粒・黄色粒を含む。硬く締まる。やや粘性あり。
　　2　褐色土 10YR4/4　黒褐色土、ロームブロックの混土層。白色軽石粒微量含む。締まり・粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック30％、少量の黄色粒・白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　4　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロック20％、少量の白色軽石粒を含む。やや締まりあり、やや粘性あり。
42号土坑　1　黒褐色土 10YR3/1　ローム土10％、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　黒褐色土 10YR3/1　ロームブロック20％、褐色粒を含む。締まりあり、やや粘質。
　　3　黒褐色土 10YR3/1　黒褐色土、ロームブロックの混土層。締まり・粘性あり。
43号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土10％含む。硬く締まる。やや粘質。
　　2　暗褐色土 10YR3/4　ローム土20％含む。硬く締まる。やや粘性あり。
44号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック15％、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック30％、白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘質。
45号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック10％、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック30％、白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘質。

第123図　第４面　土坑４



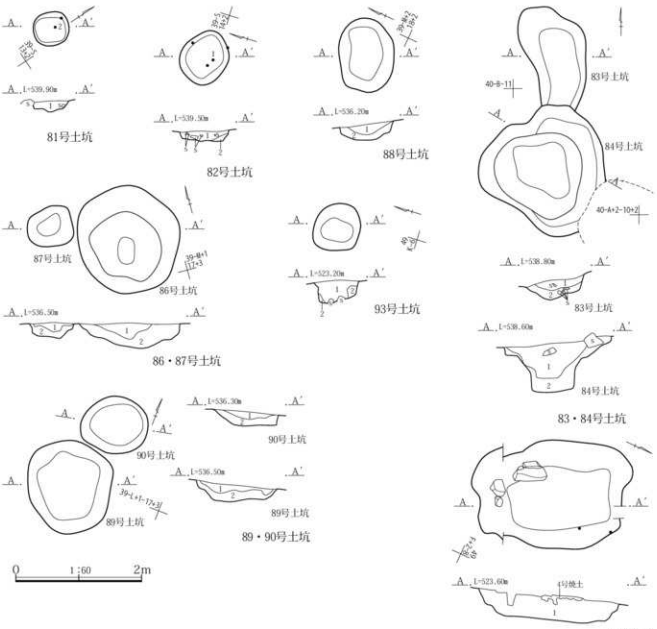
46号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　黄色粒を少量含む。締まりあり、やや粘質。
47号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土10%、白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック15%、微量の黄色粒を含む。硬く締まる。粘性あり。
　　3　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック30%含む。硬く締まる。やや粘性あり。
48号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　黄色粒微量含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック５%、少量の径５～ 10mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　3　暗褐色土 10YR3/4　ロームブロック10%、少量の径30 ～ 60mmの礫を含む。締まりあり。粘質上。
49号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土２%、少量の径５～ 10mmの礫や白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘質。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５%含む。締まり・粘性あり。
50号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５%含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土10%含む。締まり・粘性あり。
53号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　径20 ～ 30mmの礫少量含む。著しく締まり弱くやや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土５%、微量の黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
56号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　褐灰色細砂粒を10%、径10mmの礫を２%含む。締まりやや強い。
54号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　黄色粒微量含む。やや締まり・粘性あり。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR5/4　ロームブロックを主体に黒褐色土20%混入。硬く締まる。粘質上。
　　3　黒褐色土 10YR3/2。ローム土５%含む。やや締まり・粘性あり。
57号土坑　1　黒褐色土 10YR2/2　灰ロームブロックを含む。締まりやや弱い。
58号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ローム土を20%含む。締まりやや強い。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５%含む。締まりやや強く粘性あり。
60号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10%、微量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック20%含む。締まりあり、やや粘質。
72号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５%含む。硬く締まる。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　黒褐色土、ロームブロックの混上。締まりやや強く粘性あり。
61号土坑　1　黒褐色土 10YR2/1　ロームブロック10%、少量の径３～ 10mmの礫や褐色粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
62号土坑　1　黒褐色土 10YR2/1　ローム５%、少量の径10mmの礫や褐色粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
63号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土２%・炭化物１%・径10mmの礫を２%含み、遺物多数出上。締まり強い。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロックを10%含む。締まり強い。

第124図　第４面　土坑５



64号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土10%、微量の炭化物を含む。締まり強く粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土20%、径10 ～ 30mmの礫２%含む。締まり強い。
　　3　黒褐色土 10YR3/2　ローム土５%含む。硬く締まり強い。
　　4　灰黄褐色土 10YR4/2　ロームブロック30%、微量の炭化物を含む。締まりやや強い。
68号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土10%、少量の径５～ 10mmの礫や白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ローム土15%、少量の径５～７mmの礫を含む。締まりあり、やや粘質。
70号土坑　1　黒褐色土 10YR2/2　ローム土５%含む。締まりやや強く粘性あり。
71号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック20%、少量の径２～５mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック30%、少量の径20 ～ 50mmの礫を含む。締り・粘性あり。
73号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土10%、径５～ 20mmの礫を10%含む。締まりやや強い。
　　2　灰黄褐色土 10YR4/2　ローム土20%、径５～ 10mmの礫20%含む。締まりやや弱い。
74号土坑　1　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと褐色土の混土。長径10 ～ 20cmの亜角礫を多量に含む。軟質。
75号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック20、炭化物をブロック状に含む。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　黒褐色土とロームブロックの混土層。
76号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック15、炭化物をブロック状に含む。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　黒褐色土とロームブロックの混土層。
77号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロックを10%含む。締まりあり。
78号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10%、長径10 ～ 30cmの亜角礫少数含む。やや軟質。
　　2　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック20%、長径10 ～ 30cmの亜角礫多数含む。締まり弱い。
　　3　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロック30%、10 ～ 20cmの亜角礫少数含む。締まり弱い。
79号土坑　1　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ローム土10%、中・小礫や炭化物を含む。軟質。
　　2　黒褐色土 10YR3/2　ローム土20%、小礫を含む。１層より締りあり。
80号土坑　1　黒色土 10YR2/1　少量の炭化物と小礫を含む。やや締まりあり。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。小礫を含む。

第125図　第４面　土坑６



81号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土20%、ブロック状の炭化物や長径10 ～ 20cmの礫を多量に含む。締まり弱い。
82号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック５、長径10 ～ 20cmの礫を多量に含む。やや軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。
83号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10%、長径10cmの小礫を含む。全体に粗粒で軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。
84号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック20%、長径10 ～ 20cm礫を含む。粗粒・やや軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。
86号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック５%、少量の礫を含む。全体に粗粒で軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。
87号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロックを20%含む。全体に粗粒で軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。
88号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム10%、小礫を含む。やや締まり弱い。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。やや締まり弱い。
89号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ローム土20%、小礫を含む。やや軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。軟質。
90号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロック10%、少量の小礫を含む。やや軟質。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロックと黒褐色土の混土層。軟質。
93号土坑　1　黒褐色土 10YR3/2　やや砂質で締まり強い。
　　2　にぶい黄褐色土 10YR4/3　ロームブロック10%、径10cm角礫や黄色軽石を少量含む。砂質。締まり強い。
95号土坑　1　暗褐色土 10YR3/3　ロームブロック５%、炭化物粒・角礫・黄色軽石を少量含む。砂質。締まり強い。

第126図　第４面　土坑７

第23表　第４面　土坑１

番号	グリッド	平面形	規模（cm）			長軸方位	時期	備　　考	掃図		PL.		発掘時名称
			長径	短径	深さ				道構	遺物	道構	遺物	
1	48-X- 8	不整形	124	81	33	N-75°-E	諸磯ａ式期		120	127	30	51	1区1号土坑
2	48-V- 6	円形	77	65	12		晩期末葉		120		31		1区2号土坑
5	48-Y- 7	円形	71	60	13		不　明		120		31		1区5号土坑
7	48-Y-16	円形	73	67	23		不　明		120		31		1区7号土坑
8	38-Y-22	円形	135	128	42		晩期末葉	14坑を切る。底面から10cm前後浮遊した深鉢と浅鉢の大形破片が各1点。黒曜石片1点。	120	127	31	51	2区8号土坑
9	39-D-21	円形	119	108	28		不　明		120		32		2区9号土坑
10	39-C-17	円形	159	139	50		不　明		120		32		2区10号土坑
11	39-C-17	円形	96	91	13		不　明	攪乱土痕の混認か。	120		32		2区11号土坑
12	39-D-17	円形	165	144	47		晩期末葉		120	127	32	51	2区12号土坑
13	39-D-16	円形	144	124	38		不　明		121		33		2区13号土坑
14	38-Y-22	円形	122	120	83		称名寺１式		120	127	33	51	2区14号土坑
15	39-C-18	円形	142	118	18		不　明		121		33		2区15号土坑
16	39-C-19	円形	101	98	15		不　明		121		33･34		2区16号土坑
17	39-B-19	円形	114	102	29		晩期末葉	底面から10cm浮遊して長径10 ～ 30cmの垂角礫。	121	127	34	51	2区17号土坑
18	39-B-19	円形	82	80	11		不　明		121		34		2区18号土坑
19	39-A-18	円形	116	103	40		不　明		121		34		2区19号土坑
20	39-A-19	楕円形	171	123	44	N-28°-W	勝坂2式期	中形垂角礫1点。	121	128	34･35	52	2区20号土坑
21	39-A-18	円形	63	61	17		不　明		121		35		2区21号土坑
22	38-Y-19	楕円形	173	143	73	N-59°-W	不　明		121		35		2区22号土坑
23	38-Y-19	不整円形	121	98	48		晩期末葉	33坑に切られる。	121	128	35	52	2区23号土坑
24	39-A-17	円形	192	169	73		不　明	上～中位に垂角礫2点。	121		35･36		2区24号土坑
25	38-X-17	円形	161	147	42		晩期末葉	底面や10cm前後浮遊して3個体の深鉢上器大形破片や、長径40 ～ 50cmの大形垂角礫2点。	122	127	36	52	2区25号土坑
26	38-Y-18	円形	130	115	16		不　明		122		36		2区26号土坑
27	39-B-21	円形	139	115	40		不　明		122		36		2区27号土坑
28	39-A-21	楕円形	142	118	29	N-22°-W	後　期		122		37		2区28号土坑
29	39-A-21	円形	117	(55)	23		不　明	51坑に切られる。倒木痕の可能性あり。	122		37		2区29号土坑
30	38-Y-21	円形	119	115	16		不　明		122		37		2区30号土坑
31	38-Y-20	円形	118	114	31		晩期末葉	堀之内1式4点,加曽利B2式1点あり。	122	128	37	52	2区31号土坑
32	38-Y-21	円形	127	107	19		晩期末葉	52坑を切る。	122	128	37	52	2区32号土坑
33	38-Y-18	円形	82	60	12		晩期末葉	23坑を切る。	122	128	38	52	2区33号土坑
34	38-Y-18	楕円形？	127	89	19	N-48°-E	晩期末葉？	35坑を切り、８ピットに切られる。東側奥壁底面に長径10 ～ 15cmの垂角礫2点。	122		38		2区34号土坑
35	38-Y-18	楕円形	204	118	97	N-48°-E	晩期末葉	34坑・８ピットに切られる。	122	128	38	52	2区35号土坑
36	38-X-19	円形	132	117	36		晩期末葉	底面中央部に約５cm浮遊して斜位の長径65cmの棒状扁平河床礫1点。中位に上器破片。	123	128	38	52	2区36号土坑
37	38-X-19	円形	125	111	21		晩期末葉	長径30cmの扁平円形河床礫1点と長径40 ～ 50cmの垂角礫2点。	123	128	39	52	2区37号土坑
38	38-X-19	楕円形	154	123	36	N-29°-W	晩期末葉	削器1。	123	128	39	52	2区38号土坑
39	38-X-19	楕円形	155	89	19	N-27°-W	不　明		123		39		2区39号土坑
40	38-W-18	円形	106	89	38		不　明	41坑と重複。	123		39		2区40号土坑
41	38-W-18	楕円形	212	111	37	N-53°-E	不　明	53坑を切り、40坑と重複。	123		40		2区41号土坑
42	38-W-18	円形	78	53	16		不　明		123		40		2区42号土坑
43	38-W-18	楕円形？	237	94	25	N-78°-W	不　明	プラン不明瞭、攪乱土痕か。南側奥壁沿いに径20 ～ 50cmの垂角礫3点。	123		40		2区43号土坑
44	38-W-18	円形	93	88	16		不　明	プラン不明瞭、攪乱土痕か。	123		40		2区44号土坑
45	38-W-18	円形	89	88	19		晩期末葉		123	128	40･41	52	2区45号土坑
46	38-W-18	円形	94	87	19		不　明		124		41		2区46号土坑
47	38-W-19	円形	80	69	33		不　明		124		41		2区47号土坑
48	38-V-19	円形	154	144	44		不　明		124		41		2区48号土坑

第24表　第４面　土坑２

番号	グリッド	平面形	規模（cm）			長軸方位	時期	備　　考	挿図		PL.		発掘時名称
			長径	短径	深さ				遺構	遺物	遺構	遺物	
49	38-V-20	円形	79	78	22		晩期末葉		124	128	41	52	2区49号土坑
50	38-V-20	円形	72	63	17		不　明		124		42		2区50号土坑
51	39-A-21	円形	118	105	21		不　明	29坑を切る。倒木痕の可能性あり。	122		42		2区51号土坑
52	38-Y-21	円形	118	100	31		晩期末葉	32坑に切られる。	122	128	42	52	2区52号土坑
53	38-W-18	円形	59	(49)	18		不　明	41坑に切られる。	124		42		2区53号土坑
54	38-W-19	円形	60	54	15		不　明	攪乱土痕の誤認か。	124		43		2区54号土坑
56	39-D-14	円形	109	105	14		不　明	57坑を切る。	124		43		2区56号土坑
57	39-D-14	楕円形	128	58	44	N-58°-E	不　明	56坑に切られる。	124		43		2区57号土坑
58	39-D-14	円形	(57)	54	23		不　明	57坑に切られる。	124		43		2区58号土坑
60	38-X-21	隅丸正方形？	127	113	44	N-65°-E	不　明		124		43・44		2区60号土坑
61	38-X-20	円形	141	91	16		晩期末葉？	63坑を切る。	124		44		2区61号土坑
62	38-X-20	円形	97	90	18		晩期末葉？	63坑を切る。	124		44		2区62号土坑
63	38-X-20	円形	141	137	8		晩期末葉	61・62坑に切られる。上～中位に5個体の大形破片を主体に多数の土器破片。黒曜石片3点。	124	128・129	44・45	52・53	2区63号土坑
64	38-X-19	楕円形	183	137	58	N-32°-W	晩期末葉	黒曜石片4点。	125	129	45	53	2区64号土坑
68	38-W-20	楕円形	120	59	22	N-2°-E	晩期末葉		125		45		2区68号土坑
70	39-B-20	円形	131	117	37		不　明	底面に板状摂理の安山岩6点を積上げ、その上位に石皿状の薄みを持つ灰白色安山岩を載せる。	125		45		2区70号土坑
71	38-X-20	楕円形	135	90	23	N-10°-W	不　明	中位～底面に長径10 ～ 40cmの亜角礫10点と長径40cmの斜位棒状河床礫1点。	125		46		2区71号土坑
72	39-D-14	円形	(63)	67	20		不　明	57坑に切られる。	124		46		2区72号土坑
73	39-F-16	円形	69	67	21		不　明	多数の小形亜角礫を含む埋没土。	125		46		2区73号土坑
74	39-R-15	円形	61	58	21		五領ヶ台式期	中・大形亜角礫5点。	125	129	46・47	53	3区1号土坑
75	39-T-15	円形	53	43	11		不　明	ブロック状の炭化物層。焚火行為を伴うか。	125		47		3区2号土坑
76	39-T-15	円形	84	71	18		加曽利E2式期	ブロック状の炭化物層。焚火行為を伴うか。	125		47		3区3号土坑
77	39-T-14	円形	64	61	25		加曽利E2式期	北壁際に中形亜角礫1点。一括埋没。	125	129	47	53	3区4号土坑
78	39-T-13	楕円形	153	129	98	N-78°-W	五領ヶ台式期	多数の小・中形亜角礫を含む埋没土。	125	129	47・48	53	3区5号土坑
79	39-W-13	円形	115	113	34		不　明	底面から10cm浮遊して長径20cmの亜角礫1点。	125		48		3区6号土坑
80	39-X-12	楕円形	183	155	54	N-27°-W	不　明		125		48		3区7号土坑
81	39-S-13	円形	56	53	15		十三菩提式期	一括埋没。	126	129	48	53	3区8号土坑
82	39-S-14	円形	84	74	19		晩期末葉		126	129	48	53	3区9号土坑
83	40-A-11	円形	(156)	106	34		不　明	84坑に切られる。	126		48・49		3区10号土坑
84	40-A-10	不整形	207	201	89	N-4°-E	不　明	83坑を切る。攪乱土痕の誤認か。	126		49		3区11号土坑
86	39-M-17	円形	169	162	62		不　明		126		49		3区13号土坑
87	39-M-18	円形	72	63	29		不　明	攪乱土痕の誤認か。	126		49・50		3区14号土坑
88	39-M-18	円形	117	87	28		不　明		126		50		3区15号土坑
89	39-L-17	円形	148	135	35		不　明	上面中央部に長径20cmの亜角礫1点。	126		50		3区16号土坑
90	39-L-17	円形	107	91	28		不　明		126		50		3区17号土坑
93	49-K- 6	円形	75	74	30		不　明		126		50・51		4区3号土坑
95	49-G- 8	隅丸長方形	259	172	53	N-29°-W	不　明	中世の4号焼土の痕跡が理上上位に存在。	126		51		4区5号土坑

べてかなりの高深度となる。埋没土は多量の中・小亜角礫やロームブロックを含んだ黒褐色土を主体にしており、人為的な埋墳の可能性もある。出土遺物は、諸磯ｂ式土器５点(第129図78坑１)と五領ヶ台式土器片２点(第129図78坑２・３)および黒曜石・流紋岩・赤碧玉の石器剥片各１点があり、帰属時期は74号と共に五領ヶ台式期と想定されるが、いずれも底面より70㎝以上浮遊しており確定的ではない。また、各土坑の機能・用途についても確定的ではないが、74号の場合は「抱石葬」的な状況を想定することもできよう。78号も人為的な埋墳状況を重視すれば、墓としての用途が推定される。

勝坂２式期　楕円形状の20号１基が存在するのみである。長軸171㎝×短軸123㎝×深さ44㎝の中形土坑で、かなり多量のローム土が混在した暗褐色土が堆積することから、人為的な埋墳の可能性が高い。出土遺物は、埋没土中からの勝坂２式土器片３点(第128図20坑１)が存在し、他に埋没土上位より長径約20㎝の亜角礫１点が出土している。機能・用途については確定できないが、埋没状況を重視すれば墓の可能性もある。帰属時期については確定的ではないが、勝坂２式期と想定される。

加曽利E2式期　円形状を呈する76・77号の２基が存在する。いずれも直径が１ｍ未満で周壁高も25㎝以下の小形土坑であり、全体的に残存状態は悪い。共にロームブロックを少量含む黒褐色土で埋没しているが、いずれも薄層であることから、人為か自然かの判別は困難である。出土遺物は、共に加曽利E2式の土器片が各１点(第129図77坑１)のみであるが、76号の土器片について風化が著しいために割愛した。また、76号では西壁に接して埋没土の中位より長径20㎝の亜角礫１点が出土している。帰属時期については、確定的ではない。

Ｃ．縄文時代後期

称名寺Ⅰ式期　円形状の14号が１基存在するのみである。直径122㎝×深さ83㎝の中形土坑であり、４層の黒褐色・暗褐色土で埋没しているが、第２層中には多量のロームブロックが混在し、人為的な埋墳が想定される。出土遺物は、埋没土中からの称名寺Ⅰ式の土器片１点(第127図14坑１)のみであるが、底面の10㎝上位から中位にかけて長径20 ～ 30㎝大の扁平な亜角礫11点が重畳的に出土している。人為的な埋没状況を考慮すれば、多数の礫を用いた「抱石葬」による墓坑の可能性もある。帰属時期については出土土器片により称名寺Ⅰ式期に比定したが、確定的ではない。

その他　後期前半と推定される無文部の土器片２点を出土した、楕円形の28号が存在する。黒褐色土を主体に自然埋没状況を示す。

Ｄ．縄文時代晩期～弥生時代前期

ここでは、主に出土土器が小破片のために、明確な時期比定が困難な17基や重複関係により当該期とした３基を含む23基について、一括して記載する。

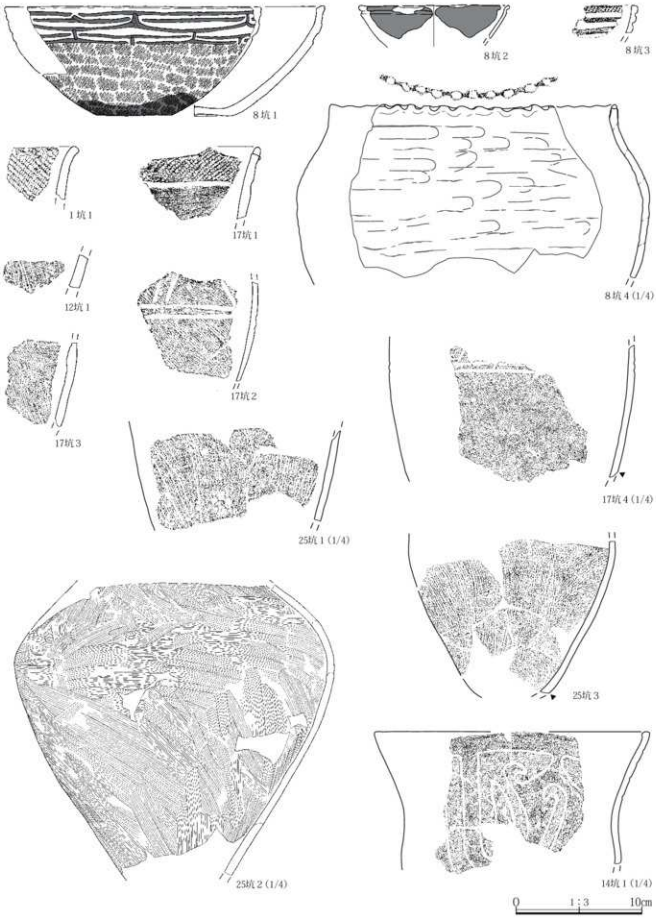
分布　当該期土坑は円形状が17基、楕円形状が５基、不整円形が１基の合計23基が存在し、その分布状況は38-Ｗ～Ｙ-17 ～ 22グリッドから39-Ｂ～Ｄ-17 ～ 19グリッドの範囲に、全体の91％に当たる21基が密集している。

規模・形状　形態別にその詳細を見ると、円形状の場合、直径が１ｍ未満の小形土坑が２・33・45・49・62・82号の６基、150㎝未満の中形が８・17・31・32・36・37・52・61・63号の９基、150㎝以上の大形が12・25号の２基であり、中形が主体を占める。楕円形状では、長軸が120㎝の中形から200㎝を超える大形までかなりの差異があるが、１ｍ未満の小形は存在しない。ちなみに長径100 ～ 149㎝の中形は34・68号の２基、同150㎝以上の大形は35・38・64号の３基である。

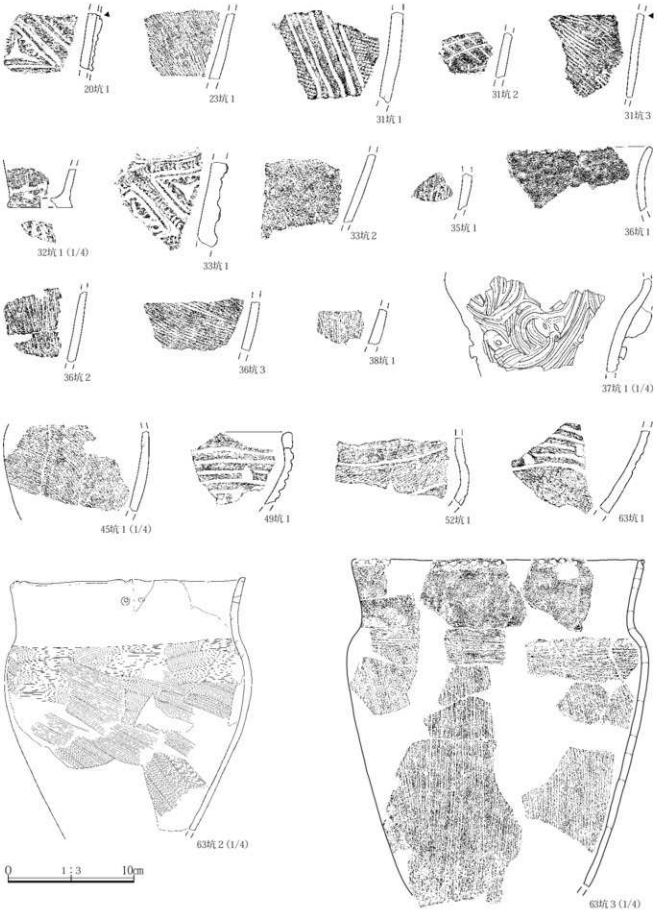
埋没土　埋没土の状況では、黒褐色土や暗褐色土を主体として１～２層で埋没するものが17基と全体の74％を占めるが、８・12・23・25・28・64号の６基は３～５層で埋没している。これらの中で、20 ～ 30％のロームブロックを含む暗褐色土を主体にして埋没するものに、8・12・17・23・25・31・36・38・45・52・61・64号の12基があり、これらは人為的な埋墳状況を示す可能性が高い。

方位　34・35・38・64号などの楕円形状土坑の主軸方位を見ると、34・35号はＮ-48°-Ｅであるが、これに対して38・64号は約90度西方にずれたＮ-29 ～ 32°-Ｗの方位をとっている。このような様態は、縄文遺跡での墓坑群に多見される現象であり、基本的に埋葬遺体の頭位方向の「双方向性」として認識されている。従って、この４基についてもそうした関係性が存在していた可能性があるだろう。

遺物　各土坑の出土遺物は、第34表に一括したように土器破片を主体とするが、その大半は埋没土中からの出



第127図　土坑出土遺物１（１・８・12・14・17・25号土坑）



第128図　土坑出土遺物２(20・23・31～33・35～38・45・49・52・63号土坑)

土である。土器では完形品は無く、いずれも小～大形の破片類であり、５点以下の出土が12基と全体の過半数を占め、10点以上を出土するものに17・25・63・64号がある。石器では、38号から削器類１点が出土するのみで、他は63・64号で黒曜石剥片を各々３・４点出土する程度である。また、底面付近より直径30～60cm前後の大形河床礫や亜角礫を出土するものに、17・25・36・37号がある。

これら遺物の出土状況を観察すると、先ず底面付近から土器の大形破片を多出する８・25・63号の３基が注目される。８号では、口唇部上面に指頭圧痕状の刻みを施した、口径約30cmの粗製深鉢土器の大形破片（第127図８坑４）や口径20cmの浅鉢（第127図８坑１）が底面から10～20cm前後浮遊して出土している。25号もこれに近似するが、底面から約10cm前後浮遊して長径30～50cmの２点の亜角礫と共に大形破片に分割された３点の深鉢や壺形土器（第127図25坑１～３）が、南側の壁際に内面側を上に向けて積み重ねられた状況で出土している。いずれの個体も50％前後の破片が欠落して完形には復元できないことや、細密条痕文を施す２の土器は大形破片に分割される前段階に口頸部を割り取り、破断面部を疑似口縁状に調整加工しているなどの点で注意を要する。また63号の場合は、58点の土器破片を出土しているが、その代表的なものが第128・129図の10点（63坑１～10）である。いずれも半完形品や破片であり、土坑底面より60cm以上浮遊した埋没土の中～上位層内に密集していたことから、土坑自体がある程度自然埋没した段階でほぼ同時的に投棄されたと考えられる。なお、48点の土器破片を出土する64号も、63号とほぼ同様の状況である。

他方、底面付近より直径30～60cm前後の河床礫や亜角礫を出土する、17・25・36・37号の事例にも注意する必要があろう。17・25・37号の３基は、直径30～50cmの楕円形状の河床礫や亜角礫を２～３点出土し、いずれも円形状の形態を呈する点で共通している。また、これらとは出土状況が異なるが、36号では底面から５cm浮遊して長径65cm×短径25cmの長方形扁平河床礫が斜位に出土しており、標石的に立っていた可能性もある。

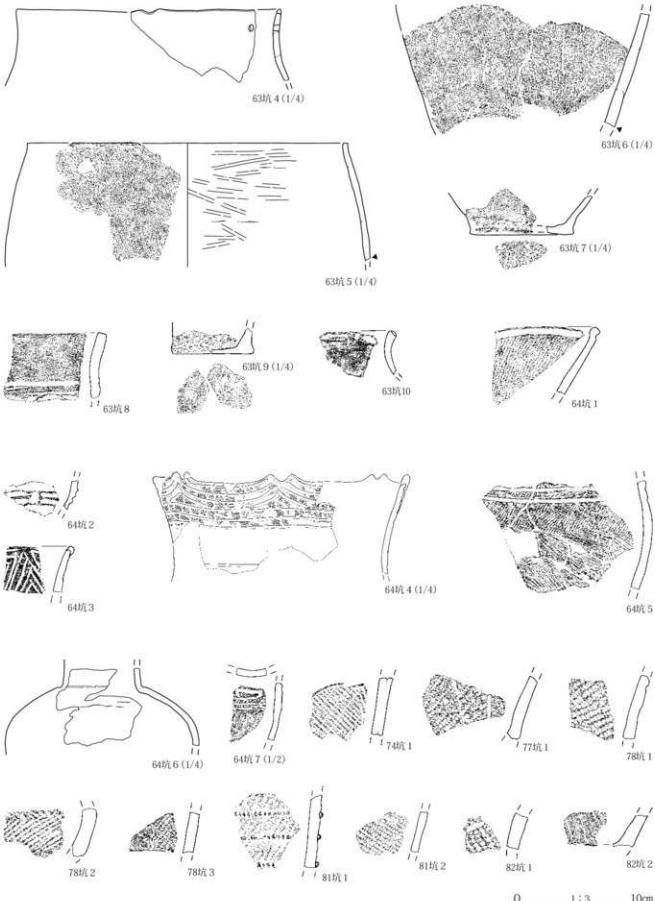
なお、63・64号の埋没土中から出土した黒曜石剥片７点については、蛍光Ｘ線分析による産地同定を行ったが、それらの全てが星ケ台産という結果を得ている。その詳細については、148頁以下の「黒曜石製石器の原産地同定」を参照されたい。

時期　各土坑の帰属時期については、出土土器から判断できるものは少ないが、その主なものを上げれば次のようになる。先ず、低平化した浮線文ながら降線手法を基調とした匹字文や工字文を構成する第127図の８坑１の浅鉢や肩部の張りが強い25坑２の壺は、大洞A'式併行かそれ以降に比定されよう。また、三角連繋文＋条痕文を施す同図17坑２～４の深鉢や無文口頸部＋胴部細密条痕文の第128図63坑２・３の甕と、口縁部に弧線文・横線文＋LR縄文充填の第129図64坑４の深鉢などは、弥生時代前期の沖Ⅱ式段階に比定されると思われる。他土坑の出土土器については、僅少量の小破片のために判然としないが、上記と類似した条痕文土器を伴出する12・23・31～33・35～38・45・49・52・68号や、これらを切って構築されている34・61・62号は、およそ晩期末葉～弥生時代前期に帰属すると考えられる。

所見　各土坑の性格・用途については、明確に判断できるだけの材料に乏しいが、かなり多量のロームブロックを含む埋没土の状況から人為的な埋墳が想定される８・12・17・23・25・31・36・38・45・52・61・64号の12基は、墓としての可能性がある。また、平面形状を重視すれば楕円形状の34・35・38・64・68号の５基も、同様に墓としての用途が推定される。

一方、土坑底面付近に複数の大形礫を出土する17・25・37号の３基は、縄文時代前～後期の事例に照らせば「抱石葬」の墓坑としての用途が推定され、特に17・25号については上述の人為的埋墳状況も加味すれば、その可能性はより強まる。ただし、当該期では藤岡市沖Ⅱ遺跡に代表されるように、土器棺を土坑内に埋設した再葬墓としての「土器棺墓」と一次埋葬施設の「土坑墓」が多見され、こうした動向との関連性も無視できない。当遺跡では、沖Ⅱ遺跡のような整然とした完形土器の出土状況は確認できず、大形土器破片が土坑底面付近や埋没土上層から出土する25号や63・64号などの事例にとどまる。こうした状況を考慮しつつ上記の土坑群を墓として認定した場合は、遺体を直接埋葬するような土坑墓か、あるいは再葬墓の「土器棺墓」が欠落する、一次埋葬施設としての「土坑墓」群と考えることもできよう。

こうした墓としての機能・用途が想定し得る土坑を再



第129図　土坑出土遺物3 (63・64・74・78・81・82号土坑)

度まとめれば、帰属時期の明瞭な８・12・17・25・34～38・52・64・68号の12基を数える。その分布域は、38-Ｘ～Ｙ-17～20グリッドの範囲に全体の８割強に当たる10基が密集しており、集団墓的な様相を看取することも可能だろう。

Ｅ．時期不明

土器等の伴出遺物が存在しないことや、時期判定可能な土坑との重複関係が認められないために、明確な時期同定ができない土坑が50基存在する。この中には不整な形態や埋没土の状況などから、風倒木痕や小動物による土壌攪乱を含めた自然的要因で形成されたと想定される11・29・43・44・51・54・84・87号などの８基も含まれる。これらの土坑を除外した42基の形態別内訳は、円形が34基、楕円形が６基、隅丸方形が２基となる。形態別に見た詳細は、円形状については直径が１ｍ未満の小形土坑が５・７・18・21・42・46・47・50・53・58・72・73・75・93号の14基、150㎝未満の中形が９・13・15・16・19・26・27・30・40・56・70・79・88・89・90号の15基、150㎝以上の大形が10・24・48・83・86号の５基であり、小・中形が主体を占める。楕円形状では１ｍ未満の小形は存在せず、長軸が長径100～149㎝の中形が57・71号の２基、同150㎝以上の大形は22・39・41・81号の４基であり、大形の41号は200㎝を超える。

各土坑の機能・用途については不明確なものが多数を占めるが、埋没土中に20～30％のロームブロックを含む40～42・71～73号の６基は、人為的な埋墳が想定される。また、坑内に大・中形礫を出土するものとして43・70・71・79・89号の５基があり、この内の71・79・89号は長径20～40㎝の棒状礫が土坑上位に樹立されていた可能性がある。こうした様相を考慮すれば、上記の10基については墓としての機能・用途を想定することもできよう。また、楕円形や隅丸方形状の形態を持つ土坑の中で、その主軸方位がＮ53～65度Ｅの41・57・60号と、これらとは約90度西方にずれるＮ27～29度Ｗの方位を持つ39・80・95号の両グループには、注意を要する。こうした長軸方位に関わる２グループの存在は、上述の縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の墓坑に確認された方位数値を含めた「双方向性」とほぼ同一であり、これを重視すれば共に晩期末葉～弥生時代前期の墓坑に比定される可能性が高い。なお、39号では黒曜石剥片１点が出土している。

第25表　土坑出土遺物観察表１

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値				胎土	成形・整形の特徴
第127図 PL.51	1坑1	縄文上器 深鉢	1坑1 +21㎝	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－	D12	肌縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第127図 PL.51	8坑1	縄文上器 浅鉢	8坑 +11㎝	口縁部～底部 1/3	口径 器高	(20.5) 8.7	底径	6.0	D3	口縁部の横線文に隔剖技法を施して隆線化し、抉り状の刺突を加えて推定４単位の匹字文と工字文を構成。体部～底部に細密な LR縄文を横位・多段に施文。口縁部の沈線文内と体部下位～底部の幅２～３㎝に赤色塗彩。内面丁寧な横位磨き。外面全面に煤状炭化物付着し、黒色光沢を帯びる。
第127図 PL.51	8坑2	縄文上器 浅鉢	8坑 +32㎝	口縁部1/5	口径 器高	(12) －	底径	－	B4	丸棒状の口唇部直下に一条の横線文を施す。内外面共に横位磨き後に、赤色塗彩すると想定される。
第127図 PL.51	8坑3	縄文上器 浅鉢	8坑 +32㎝	口縁部1/4	口径 器高	(12) －	底径	－	B1	棒状具のやや深い横線文を複数条施し、隔剖的な研磨手法により隆線文化。一部に同具の縦位刻みを施し、匹字文を構成。角頭状の口唇部直下に LR縄文を充填縄文。内面横位磨き。
第127図 PL.51	8坑4	縄文上器 深鉢	8坑 +17㎝	口縁部～胴部中位1/4	口径 器高	(30.5) －	底径	－	E6	口唇部に棒状具により指頭圧痕状の刻みを施す。内外面共に指頭圧痕の整形痕を残す粗い横位施撫で。内外面共に胴部下半被熱風化・一部剥落。無文粗製深鉢上器。
第127図 PL.51	12坑 1	縄文上器 深鉢	12坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B11	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い礫・斜位磨き。半精製深鉢小上器。
第127図 PL.51	14坑 1	縄文上器 深鉢	14坑 +60㎝	口縁部～胴部上位1/4	口径 器高	(29.2) －	底径	－	B10	内面側へ折返し状にやや肥厚する口唇部。主にキザ化した丁字文外縁の沈線区画文内に、細密な LR縄文を充填施文。内面丁寧な横位磨き、口縁部と胴括れ部下位に煤状炭化物付着。
第127図 PL.51	17坑 4	縄文上器 深鉢	17坑 +1㎝	胴部中位1/5	口径 器高	－ －	底径	－	B10	横歪状具の細密条痕文を斜位施文し、胴部上位に円線状の浅い沈線文で三角形状の意匠を構成か。内面やや粗い横位撫磨き。半精製深鉢上器。
第127図 PL.51	17坑 1	縄文上器 深鉢	17坑 +7㎝	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B7	口唇部に由形の小突起を付す角頭状の波状縁。口縁部に LR縄文を横位・帯状に施文し、下位に浅い凹線状の横位沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。半精製深鉢上器。
第127図 PL.51	17坑 2	縄文上器 深鉢	17坑 +2㎝	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A15	細密条痕文を斜位施文し、胴部上位に円線状の浅い沈線文で三角形状の意匠を構成か。内面横位撫磨き。17号土坑３と同一個体。半精製深鉢上器。

第26表　土坑出土遺物観察表２

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値				胎土	成形・整形の特徴
第127図 Pl.51	17坑 3	縄文上器 深鉢	17坑 底面直上	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A17	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い撫で状の横・斜位筋磨き。17号土坑２と同一個体。半精製深鉢上器。
第128図 Pl.52	20坑 1	縄文上器 深鉢	20坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	E7	隆帯文の両側に半截竹管状具の平行沈線文を施し、それらの区画内に同具の刺突文や三叉状隙刻文を施文。
第128図 Pl.52	23坑 1	縄文上器 深鉢	23坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B11	細密条痕文を斜位に施文。内面筋磨で状のやや粗い斜位筋磨き。内外面共にやや被熱風化。粗製深鉢上器か。
第127図 Pl.52	25坑 1	縄文上器 深鉢	25坑 +1cm	胴部中位1/4	口径 器高	－ －	底径	－	D6	櫛状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内外面共に被熱風化・剥落、一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢か。
第127図 Pl.52	25坑 2	縄文上器 壺？	25坑 +10cm	肩部～胴部下位 3/4	口径 器高	－ －	底径	－	D6	肩部から胴部にかけて細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横位磨き。壺または甕的な半精製上器。
第127図 Pl.52	25坑 3	縄文上器 深鉢	25坑 +2cm	胴部中位～下位 2/3	口径 器高	－ －	底径	－	D2	櫛歯状具の条痕文を縦・斜位に施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第128図 Pl.52	31坑 1	縄文上器 深鉢	31坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B12	複数状の単沈線文を斜位に施し、1区画文を充填的に縦位施文する。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。
第128図 Pl.52	31坑 2	縄文上器 深鉢	31坑 埋土中	頸部破片	口径 器高	－ －	底径	－	E3	頸部に単沈線文を斜格子状に施す。内面横位磨き。
第128図 Pl.52	31坑 3	縄文上器 深鉢	31坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	E3	櫛歯状具のやや粗い条痕文を斜位に施文。内面やや粗い斜位撫で。粗製深鉢上器。
第128図 Pl.52	32坑 1	縄文上器 深鉢	32坑 埋土中	底部1/5	口径 器高	－ －	底径	(7.0)	D3	胴部に細密条痕文を縦位に施文。底外端部が突出し、外底面に網代痕が存在。内面撫で状の横位磨き、内外面共に被熱風化・一部剥落。粗製深鉢上器。
第128図 Pl.52	33坑 1	縄文上器 深鉢	33坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A18	連続爪形文を施した隆帯による三角形区画文内に半截竹管状具の刺突文や三叉状の隙刻文を施文。内面やや被熱風化・一部剥落。
第128図 Pl.52	33坑 2	縄文上器 深鉢	33坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B9	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い斜位筋撫で、外面一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢上器。
第128図 Pl.52	35坑 1	縄文上器 深鉢	35坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A5	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い横位筋撫で、外面煤状炭化物付着。
第128図 Pl.52	36坑 1	縄文上器 深鉢	36坑 埋土中	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－	E1	無文の半精製深鉢上器か。内外面共に横位磨き、やや被熱風化。
第128図 Pl.52	36坑 2	縄文上器 深鉢	36坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	B6	櫛状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内面横位磨き、内外面共に煤状炭化物付着。半精製深鉢か。
第128図 Pl.52	36坑 3	縄文上器 深鉢	36坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A6	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。半精製深鉢上器。
第128図 Pl.52	37坑 1	縄文上器 深鉢	37坑 埋土中	胴部上位～中位 1/5	口径 器高	－ －	底径	－	A1	両末端に眼鏡状突起を配した曲隆線文の両側に沿って、棒状具の深い単沈線で半内郎的な曲線文を施す。外面に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化。
第128図 Pl.52	38坑 1	縄文上器 深鉢	38坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	E2	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い横撫で。内外面共に一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢か。
第128図 Pl.52	45坑 1	縄文上器 深鉢	45坑 埋土中	胴部中位1/4	口径 器高	－ －	底径	－	E4	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横・斜位撫で。内外面共にやや被熱風化。粗製深鉢か。
第128図 Pl.52	49坑 1	縄文上器 浅鉢	49坑 埋土中	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A16	口唇部に山形状の小突起を付す波状縁。尖頭状の棒状具により深目の横位沈線文を施し、沈線間は丁寧に研磨されて準隆線文的な効果を表出。また、上下に三角形状の抉り込みを加えて対向する匹字文を構成。内面横位磨き。
第128図 Pl.52	52坑 1	縄文上器 鉢	52坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	D12	２条の横線文を施し、その区画内にやや細密なL縄文を横・斜位に充填施文。内面やや粗い横位磨き。
第128図 Pl.52	63坑 1	縄文上器 浅鉢	63坑 +72cm	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－	A18	棒状具のやや深い横線文を複数条施して隔刻的な研磨手法により隆線文化し、抉り込みを加えて上下に対向する匹字文を構成か。内外面共に丁寧な横位磨き。
第128図 Pl.52	63坑 2	縄文上器 深鉢	63坑 +59cm	口縁部～胴部下位1/2	口径 器高	(25) －	底径	－	A13	口唇部に浅い切込みを入れた起伏の少ない双頭状突起を推定５単位に施す。括れ部から胴部にかけて細密条痕文を横・斜位に施文。外面口頸部と内面全体は、かなり丁寧な横位磨き。外面胴部被熱風化・荒れ。内面胴部下位の一部に煤状炭化物付着。口縁部に外面→内面への直径７～３㎜の焼成後穿孔。半精製深鉢。
第128図 Pl.53	63坑 3	縄文上器 深鉢	63坑 +67cm	口縁部～胴部下位1/3	口径 器高	－ －	底径	－	C2	口唇部外端に隆状具の抉り取り的な刻み目を施す。口頸部は無文であり、櫛歯状具により括れ部に横位、胴部には縦位の条痕文を施す。内面輪積み痕や指頭圧痕を残した粗い横撫で。内外面共に被熱風化・剥落、煤状炭化物付着。粗製深鉢上器。
第129図 Pl.53	63坑 4	縄文上器 深鉢	63坑 +60cm	口縁部1/5	口径 器高	(28) －	底径	－	A13	口唇部に浅い切込みを入れた起伏の少ない双頭状の波状縁。内外面共に横位磨き、やや被熱風化。口縁部に直径５㎜の焼成後穿孔。半精製深鉢。

第27表　土坑出土遺物観察表３

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値				胎土	成形・整形の特徴
第129図 PL.53	63坑 5	縄文土器 深鉢	63坑 +69cm	口縁部1/4	口径 器高	(34) –	底径	–	B8	口唇部は角頭状整形時の粘土が外面側にはみ出す。外面に刷毛目状の条痕文を斜位に施文、煤状炭化物付着。内面は整形時の砂粒移動痕を残すやや粗い横位毛羽磨き。粗製深鉢。
第129図 PL.53	63坑 6	縄文土器 深鉢	63坑 +67cm	胴部中位1/4	口径 器高	– –	底径	–	A1	細密条痕文を縦位に施文。内面撫で状のやや粗い横位磨き。内外面共に被熱風化・剥落、一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢。
第129図 PL.53	63坑 7	縄文土器 深鉢	63坑 +64cm	底部1/4	口径 器高	– –	底径	(11)	D10	細密条痕文を縦位に施文。底外端部が外側にやや突出する。内面粗い横撫で、一部に被熱風化・剥落、煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	63坑 8	縄文土器 深鉢	63坑 +62cm	口縁部破片	口径 器高	– –	底径	–	A2	角頭状の口唇部。括れ部に２条の横線文を施す。内面刷毛目状の横・斜位撫撫で。内外面共に風化・荒れ。
第129図 PL.53	63坑 9	縄文土器 深鉢	63坑 +59cm	底部1/2	口径 器高	– –	底径	8.5	D9	底外端部がやや突出し、底外面に木葉痕が存在。内外面共に著しい被熱風化・荒れ。粗製深鉢上器か。
第129図 PL.53	63坑 10	縄文土器 壺	63坑 +61cm	口縁部破片	口径 器高	– –	底径	–	A16	口端部に棒状具のやや深い１条の横線文や刺突文を施し、隔的な研磨手法により隆線文化する。外面横位磨き、内面風化・荒れ。
第129図 PL.53	64坑 1	縄文土器 浅鉢	64坑 +24cm	口縁部破片	口径 器高	– –	底径	–	A9	細密なLR縄文を横位施文し、口唇下に１条の横線文を施す。内外面および側破断面部に赤色塗彩。内面丁寧な横位磨き、内外面共に煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	64坑 2	縄文土器 浅鉢	64坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	B6	３本の横位隆線を研磨して浮線文化し、抉り取るような刺突を施す。外面施文部位に赤色塗彩、内面丁寧な横位磨き。
第129図 PL.53	64坑 3	縄文土器 壺	64坑 埋土中	口縁部破片	口径 器高	– –	底径	–	A11	口唇部に瘤状の小突起を付す。口縁部に単沈線による重層的な山形文または弧線文を施文か。外面赤色塗彩、一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き、やや風化。
第129図 PL.53	64坑 4	縄文土器 深鉢	64坑 埋土中	口縁部～胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	A8	推定５単位の双頭状の波状口縁。口縁部と括れ部に棒状具の弧線文や横線文を施し、各沈線文間に細密なLR縄文を充填的に施文。一部の沈線文をなぞり返す。内面やや粗い横位筋磨き、外面口縁部の一部に煤状炭化物付着。断面および外面は燃べ焼きによる黒灰色。半精製深鉢上器。
第129図 PL.53	64坑 5	縄文土器 深鉢	64坑 埋土中	括れ部～胴部上位1/5	口径 器高	– –	底径	–	D1	胴部上位に細密LR縄文を横位、下位に細密条痕文を斜位に施文し、括れ部付近に横線文を施す。内面やや粗い横位磨き、一部に煤状炭化物付着。半精製深鉢上器。
第129図 PL.53	64坑 6	縄文土器 壺	64坑 埋土中	頸部～胴部中位1/4	口径 器高	– –	底径	–	F2	無文の精製壺形上器。内外面共にやや粗い横位磨き。
第129図 PL.53	64坑 7	縄文土偶 土偶？	64坑 埋土中	胴部破片？	口径 器高	– –	底径	–	B4	細密条痕文を縦位に施文し、上半部に沈線の隔刻技法による隆線文と笠状具の羽状刻みを付加した横位細沈線文を施す。外面赤色塗彩、内面輪積み痕を残した粗い横位撫で。上側の胴部破片の可能性もある。
第129図 PL.53	74坑 1	縄文土器 深鉢	74坑 +9cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	C5	半截竹管状具の沈線区画文内に集合沈線文や単沈線文を斜格子状に施す。内面横位磨き。
第129図 PL.53	77坑 1	縄文土器 深鉢	77坑 +9cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	E6	RL縄文を縦位施文し、やや細い沈線懸垂文を施す。内面やや被熱風化、煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	78坑 1	縄文土器 深鉢	78坑 +96cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	E9	やや粗雑なRL縄文を横位施文。内面横位磨き。
第129図 PL.53	78坑 2	縄文土器 深鉢	78坑 +69cm	口縁部破片	口径 器高	– –	底径	–	D7	半截竹管状具の斜行集合沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。
第129図 PL.53	78坑 3	縄文土器 深鉢	78坑 +70cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	A10	末端自縄自縛のRL＋L結節縄文を相互に間隔を置いて縦位施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	81坑 1	縄文土器 深鉢	81坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	A14	LR縄文を横位・多段に施文し、横位の結節浮線文を複数本施す。内面横位磨き、内外面共にやや風化。
第129図 PL.53	81坑 2	縄文土器 深鉢	81坑 +5cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	A16	RL縄文を横位・多段に施文。
第129図 PL.53	82坑 1	縄文土器 深鉢	82坑 +16cm	胴部破片	口径 器高	– –	底径	–	A11	LRL縄文を縦位施文し、沈線区画文を施す。
第129図 PL.53	82坑 2	縄文土器 深鉢	82坑 +6cm	底部破片	口径 器高	– –	底径	–	A4	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い撫撫で状の横位磨き。半精製深鉢か。

第４項　遺構外の出土遺物

当遺跡では、調査工程の都合上、便宜的に１～４区の調査区を設定して遺構や包含層の調査を実施した。以下で扱う遺物は、各調査区の遺物包含層である厚さ約35～40cmのⅥ層内から出土した土器・石器類であり、若干の弥生時代遺物が混在するものの、その大半は縄文時代および同未葉～弥生時代前期に比定される。

出土遺物の内容や数量に関しては、土器は147頁第35表に各調査区・型式別の数量を、また石器については146頁第33表に同じく調査区・器種別の数・重量を掲載した。ちなみに、出土土器は縄文時代前期～後期および晩期末葉～弥生時代前期にかけての破片類825点と、弥生時代中期の７点がある。また、石器は縄文時代と想定される未製品１点を含む石鏃３点や削器１点・剥片類34点と、弥生時代の石鏃１点である。出土遺物の中で大多数を占める土器の時期別内訳は、縄文時代前期22点、中期244点、中・後期の分別不能な21点を含む後期158点と、最多を占める晩期末葉～弥生時代前期の399点である。

これら土器の分布状況については、各調査区を単位に集計した第35表によりその数量的動向を見ると、１区では合計６点のみであるが、時期的には縄文時代前期と中期中葉ともに各３点で、後・晩期が欠落する。２区では前期が皆無であり、中期189点、後期122点、土偶２点を含む晩期末葉～弥生時代前期381点と各区を通じて最多の合計692点を数える。３区では縄文時代前期19点、中期46点、後期27点、晩期末葉～弥生時代前期15点の合計107点であり、２区に次いで多数を占める。４区では２区と同様に縄文時代前期が欠落するが、他期も中期１点、後期９点、晩期末葉～弥生時代前期５点と合計15点に過ぎない。なお、弥生時代中期の土器は７点の全てが２区から出土している。

一方、石器類に関しては出土点数が僅少であり、全体的傾向を云々できる状況ではないが、主に「打製系列」の石鏃・削器・打製石斧などの石材として多用される黒曜石や黒色頁岩・細粒輝石安山岩の調整剥片が存在している点は、当遺跡内で石器製作が行われたことを示唆しており、活動痕跡の一つとして注目される。

以上のように、遺構外の包含層より出土した土器を主体とした遺物が晩期末葉～弥生時代前期を中心として２区に集中している点に関しては、当遺跡の主体をなす遺構が２区に存在する晩期末葉～弥生時代前期の土坑(墓坑)群であることと相関性を有すると考えられる。また、縄文時代中・後期の土器も２区に集中する傾向が明瞭だが、３区にも73点が検出されており、同様に中・後期に比定される14・20・74・76・77号土坑などの存在がその背景にあると想定される。

なお、僅少ではあるが弥生時代の中期に比定される土器片や石鏃の存在は、明確な遺構を伴わないものの、当遺跡において何らかの活動を行った結果と考えられる。特に刃部磨耗を伴う石鏃の欠損状況は、農耕作業等で破損した可能性を示唆するものだろう。

これら土器・石器の中で特徴的なものを抽出し、縄文時代～弥生時代前期の土器44点・土偶２点と弥生時代中期の土器７点を第130・131図に、また縄文時代の石鏃２点と弥生時代の石鏃１点を第132図に各々掲載した。以下に、その概要を時代・時期や型式・器種別に記述するが、個々の遺物の詳細は143～145頁の遺物観察表を参照されたい。

Ａ．縄文時代～弥生時代前期の土器

ａ．前　期

総数22点が存在し、３区に集中している。細別内訳は諸磯ａ式６点、同ｂ式併行13点、同ｃ式２点、十三菩提式１点である。ここでは諸磯ｂ式併行１点を掲載した。

諸磯ｂ式併行(第130図１・PL.54)　合計13点の破片を数えるが、いずれも同一個体である。箆状具により左斜め方向から連続した爪形文を横位・多段に器面を周回して施文しており、浮島式の貝殻腹縁文を模した施文と考えられる。口縁部を欠損するが、器形は鉢または浅鉢と推定される。胎土は、長石の粗・細砂を多量に含む特徴的なＥ類である。

ｂ．中　期

総数244点が存在し、２区での分布を主体に３区がこれに次ぐ。細別内訳は五領ヶ台式30点、勝坂２式20点、同３式２点、新巻類型９点、焼町土器44点、型式不分別の中期中葉134点、唐草文土器系５点であり、加曽利Ｅ式土器は皆無である。ここでは五領ヶ台式と勝坂３式・唐草文土器系を各１点、勝坂２式を３点、焼町土器・中期中葉を各２点の合計10点を掲載した。

五領ヶ台式(第130図２、PL.54)　内削ぎ状の口唇部上

面や口縁部に、細い半截竹管状具の横位沈線文と斜格子状の集合沈線文を施す。胎土は、多量の雲母粗・細砂を含む特徴的なＡ類である。

勝坂２式(第130図３～５、PL.54)　共に低平な曲降線文の区画に沿って連続爪形文や半截竹管状具の連接した刺突文を施す。胎土は、共に多量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含有するＢ類である。

勝坂３式(第130図６、PL.54)　半截竹管状具の平行沈線によるパネル状の区画文内に、同具の平行沈線文を充填的に施文する。胎土は多量の軽石礫・粗砂を含むＦ類であり、結晶片岩を含む勝坂２式のＢ類とは異なる。

焼町土器(第130図７・８、PL.54)　共に眼鏡状突起を配した曲降線文の両側に沿って、尖頭状の箆状具または棒状具の深い単沈線で半肉彫的な曲線文を施す。胎土は多量の長石粗・細砂を含むＥ類である。

中期中葉(第130図９・10、PL.54)　やや雑然としているが、９はＬ縄文を10は０段多条のRL縄文を縦位方向に施す。10の胎土は、雲母の粗・細砂を含むＢ類である。

唐草文土器系(第130図11、PL.54)　胴部にＬ縄文を縦位施文し、頸部に横位隆帯文を、口縁部に縦位の単沈線文を充填的に施す。胎土は灰白色岩片・長石・輝石の粗・細砂を含むＤ類である。

ｃ．後　期

型式判別の不能な中期中葉～後期前半の21点を含めて、総数158点が存在する。分布状況は、中期と同様に２区を主体に３区がこれに次いで多く、１・４区では皆無またはそれに近似した状況を呈する。細別内訳は、堀之内１式が128点と最多を占め、同２式４点、加曽利B2式７点、高井東式１点、後期中葉１点であり、断続的ながら前葉～中葉段階の土器で構成され、後半段階以降が欠落する。ここでは、堀之内１式６点、同２式２点、加曽利B2式２点、高井東式１点の合計11点を掲載した。

堀之内１式(第130図12～18、PL.54)　口頸部が無文で頸部が強く括れる12・16・18等の口縁部破片と、単沈線のＳ字状渦巻文や懸垂文を施してLR縄文を充填施文する14・15等の胴部破片が目立つ。これらは「小仙塚類型」や「矢太神沼類型」に比定される一群と考えられる。胎土には、灰白色・赤色岩片や輝石・長石・角閃石等の礫および粗・細砂を含むＤ類が主体を占めるが、13のように雲母の粗・細砂を含有するＡ類も僅少ながら認められる。

堀之内２式(第130図19、PL.54)　口唇部が「く字状」に短く内折し、口縁部に沈線の横帯文を施してLR縄文を充填施文する。胎土は雲母の粗・細砂を含むＡ類である。

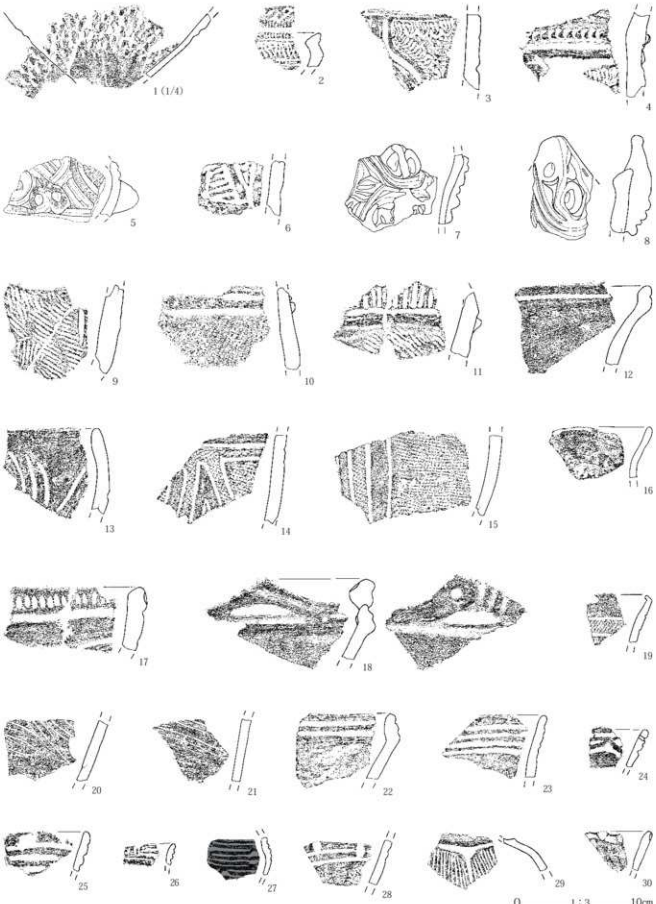
加曽利B2式(第130図20・21、PL.54)　20・21は同一個体であり、頸部に半截竹管状具のやや密集した斜線文を施す。胎土は雲母の粗・細砂を含むＡ類であり、上述の堀之内２式を含めて後期中葉段階にも一定量が確認できる点は注目される。

高井東式(第130図22、PL.54)　く字状に内折する口縁部に２条の横位沈線文を施す。

ｄ．晩期末葉～弥生時代前期

土偶２点を含めて総数399点が存在するが、その内の95％に相当する381点が２区に集中し、他区は皆無に近い状況となる。こうした状況の背景については前述したが、当該期の土坑(墓坑)群が２区に集中立地することに関連性を持つと考えられる。第34表に示したように、文様を基準に分類すれば沈線文９点、浮線文13点、条痕文211点、無文166点となる。浮線文は基本的に鉢や浅鉢土器と関連し、同様に条痕文は深鉢土器との関連性が強いと考えられるが、沈線文については鉢・浅鉢と共に深鉢との関連性もあり、明確には区分できない。また、無文についても明確な区分はできないが、粗製の破片が多数を占めることから、深鉢土器との関連性が強いと思われる。各土器とも小破片であり明確な型式比定は困難であり、ここでは土坑出土土器との関連性を加味して、便宜的に晩期末葉～弥生時代前期段階の土器群として扱うと共に、各文様を中心にして特徴的な土器を掲載した。ちなみに、浮線文土器は６点、沈線文７点、条痕文５点、無文４点である。以下、文様を中心にして記述する。

浮線文(第130図23～28、PL.54)　いずれも口縁部に複数条の横線文を施し、陽刻技法により隆線化した断面形がやや低平な蒲鉾状の浮線文であり、三角形状を呈するものは認められない。個別の文様では、24・27が匹字文を構成するが、27は上下に対向して配置される。25・26・28は、浮線文に抉り状の刺突を加えて工字文を構成する。27は口縁部に横帯状の浮線文を施す。23の深鉢を除いて、他は浅鉢である。胎土については、23・24が花崗岩起源と推定される雲母の粗・細砂を含むＡ類、25・26・28が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むＢ類であり、先述の後期土器に比べてＡ・Ｂ類の占める比率が高



第130図　遺構外出土遺物1

い点は注目される。

沈線文(第130・131図29～35、PL.54・55)　口縁部や頸部に横位の沈線文を施すものを一括した。30は口唇部直下に凹線状の浅い沈線文を横位施文し、同部外端に抉り状の刺突を加える。31は双頭状の波状口縁を持ち、細密条痕文を斜位に施文する。また、波頂下に棒状具の短沈線状の刻みを加え、以下に篦状具の横線文を５条施す。32は口頸部が無文で、くびれ部に横線文を１条施す。34・35は、口縁部に１条の横線文を施し、LR縄文を充填的に施文する。複合口縁の33もこれに類するが、横線文を欠く。壺の可能性がある29を除いて、他は半精製または粗製の深鉢土器と想定される。胎土は29・31・32が雲母の粗・細砂を含むＡ類で、34が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むＢ類である。

条痕文(第131図37～41、PL.55)　胴部から底部にかけて条痕文を縦・斜位に施すものを一括した。やや粗い櫛歯状具を用いる39を除いて、他は細密な条痕文を施す。器面調整状態は、40が半精製的なかなり整った磨きであるが、他は撫でに近似した粗い磨きであり、粗製深鉢土器と考えられる。器面の内外には、顕著な被熱風化・剥落や煤状炭化物付着が見られる。胎土は、37が雲母の粗・細砂を含むＡ類、41が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むＢ類であるが、主体となるのは灰白色・赤色岩片と長石・輝石等を含むＤ類である。

無　文(第131図36・42～44、PL.55)　器面の内外を含めて文様の確認できないものを一括した。36は口唇部に小突起を付した半精製的な壺、42・43は半精製的な鉢か小型深鉢、44は粗製の深鉢と考えられ、43・44は外底面に木葉痕を持つ。胎土は、42が雲母の粗・細砂を含むＡ類、36・43が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むＢ類であり、粗製深鉢の44はＤ類となる。

土　偶(第131図52・53、PL.55)　２点を検出した。いずれも中空土偶であるが、体部破片のみのために全体形状は不明である。52は、外面に丁寧な磨きを施して肩部に２条の沈線を巡らせ、腕部の装着部近縁のみに細密な刺突文を充填施文する。内面は横位の撫で整形。頭部を欠くが、当初から作出されなかった可能性もある。53は、外面に丁寧な磨きを施して沈線文を縦・横位に施し、内面は指頭圧痕を残す粗い横位篦撫でとなる。胎土は、52が長石の粗・細砂を主体に含むＥ類、53が雲母の粗・細砂を含むＢ類である。

Ｂ．縄文時代の石器

縄文時代に帰属する石器類に関しては、未製品１点を含む石鏃３点と削器１点の打製系列石器の他に、第33表に掲示した剥片類34点がある。前者の石器の出土位置は、石鏃が２区１点と３区２点であり、削器１点が２区となる。後者の剥片類では、２区からの出土が21点と全体の62％を占め、３区の９点、４区の４点がこれに次ぐ。両者ともに出土数量は僅少であるが、前述した土器の分布傾向と軌を一にしていると言えよう。

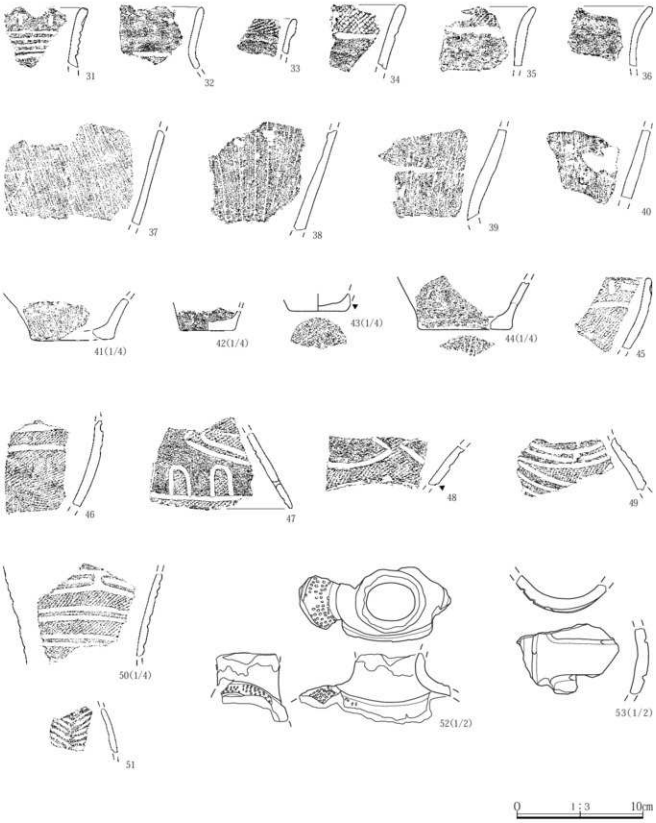
以下、石鏃の製品・未製品各１点を図化・掲示してその特徴を記述するが、詳細については145頁の石器観察表を参照されたい。

石　鏃(第132図54・55、PL.55)　54は２区出土の黒曜石製の凹基無茎鏃で、表裏面共に押圧剥離により作出される。55は３区出土の裏面に打瘤を残す赤碧玉の縦長剥片を使用した未製品であり、右側縁部にはやや粗い加工痕が認められる。第33表のように、黒曜石の調整剥片類は２区でも11点確認できることから、54は遺跡内に石核または素材剥片を持ち込んで加工された可能性が高い。55の赤碧玉の剥片類は検出されていないが、五領ヶ台式期の78号土坑内から１点検出されており、同様に遺跡内での加工が想定される。

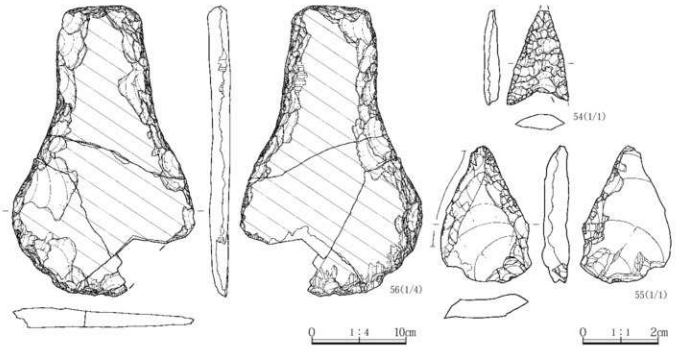
剥片類　図としては資料化していないが、第33表に掲示したように２～４区において、34点が検出されている。量的には２区を中心として３区→４区の順となるが、石材別では黒曜石19点、流紋岩９点、黒色頁岩３点、細粒・粗粒輝石安山岩・ガラス質安山岩が各１点となる。この黒曜石は石鏃に多用される石材であるが、0.2～5.9ｇまでの素材・調整剥片類が認められる。この他に、黒色頁岩や流紋岩・細粒輝石安山岩も、石鏃・削器・打製石斧などの石器類に多用される石材であり、当該調査では検出できなかったが、調査区域外での存在も想定される。また、粗粒輝石安山岩は後述する弥生時代の石鏃に多用される石材であり、縄文時代に帰属しない可能性もある。

Ｃ．弥生時代の土器(第131図45～51、PL.55)

弥生時代中期に帰属すると推定される土器は、２区から出土した７点のみであり、その全てを第131図45～51に掲載した。45～48は浅鉢と推定されるものであり、横線文やＵ字状・楕円状の沈線区画文を施し、LR縄文を



第131図　遺構外出土遺物２



第132図　遺構外出土遺物３

充填施文すると共に、沈線文や縄文施文部に赤色塗彩を施すなど共通した要素が認められる。また、47は左端上部に補修孔と思われる焼成後の穿孔が存在する。49は、壺の肩部に３本単位の横位沈線文を施し、沈線間に浅い抉り状刺突を加えた工字文を構成する。下位では連携三角文あるいは菱形文を構成すると推定される。沈線文間には、やや細密なLR縄文を充填施文する。50は初現的な筒形土器であり、２～３本単位の横線文を多段に施して、その間隙を陽刻技法により隆線化している。また、文様間にはやや細密なLR縄文を横位に施文する。51は、壺の肩部に縦位の羽状沈線文を施し、外面全体に赤色塗彩する。胎土は、46・47・51が雲母の粗・細砂を含むＡ類、48 ～ 50が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むＢ類であり、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器群と同様にＡ・Ｂ類の占める比率が高い点は注目される。

Ｄ．弥生時代の石器（第132図56、PL.55）

第132図に掲載した２区出土の56の石鏃１点が存在するのみである。粗粒輝石安山岩を用材とした長さ31cm×幅19cm×厚さ2.3cm×重さ1.4kgの大型品であり、側辺部全体に両面加工を施している。また、刃部先端には使用に伴う磨耗痕が、左右両側辺の上方及び裏面の左側上方には着柄痕と推定される摩滅痕が認めらる。刃部から体部にかけて欠損や割れが存在するが、使用時における垂直方向の衝撃に起因すると考えられる。なお、表裏面は転石や水流等による円滑面や磨耗痕が皆無の節理面で構成されており、厚さ20mm前後の板状節理で構成された粗粒輝石安山岩の露頭から石材を採取している可能性が高い。この原産地については特定できないが、長野原町の吾妻川右岸域でもその露頭を確認している。

時期については、県内の弥生時代中期以前を中心とする多数の遺跡からの出土例があり、当該期に帰属することはほぼ確実である。また、前述の２区から出土している土器片７点が弥生中期に比定されるとすれば、当石鏃も同期となる可能性がある。

第28表　遺構外出土遺物観察表1

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値					胎土	成形・整形の特徴
第130図 PL.54	1	縄文土器 浅鉢？	遺構外	体部下位2/3	口径 器高	－ －	底径	－		A7	箆状具により左斜め方向から連続した爪形文を横位・多段に器面を周回して施文。浮島式の貝殻腹縁文を模した施文・文様構成か。
第130図 PL.54	2	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B12	内側更状の口唇部上面や口縁部に、細い半截竹管状具の横位沈線文や斜格子状の集合沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	3	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B8	低平な曲隆線文の直下に沿って連続爪形文や半截竹管状具の連接した刺突文を施す。内面やや被熱風化。
第130図 PL.54	4	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		E8	隆帯文上やその区画内に半截竹管状具の爪形文を施す。内面横位磨き。
第130図 PL.54	5	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		E1	半截竹管状具の平行沈線によるパネル状の区画文内に、同具の平行沈線文を充填的に施文。内外面共に被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	6	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A19	連続爪形文を施した眼鏡状突起や曲線文に沿って半截竹管状具の半肉厚的な沈線文を重畳施文。内面横位磨き。
第130図 PL.54	7	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		C6	眼鏡状突起を配した曲隆線文の両側に沿って、尖頭状の筒状具または棒状具の深い単沈線で半肉厚的な曲線文を施す。内面一部に被熱剥落。
第130図 PL.54	8	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D13	口縁部の突起部分。やや捻転した眼鏡状突起や曲隆線文に沿って単沈線の曲線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	9	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D8	L縄文を縦・横位に施し、単沈線を縦位に施文。内面横位磨き。
第130図 PL.54	10	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D8	0段多条RL縄文を斜位に施文し、横位の隆帯文を施す。内外面共に被熱風化、内面荒れ・剥落。
第130図 PL.54	11	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A18	L縄文を縦位施文し、頭部に隆帯文を、口縁部に縦位の単沈線文を充填的に施す。内外面共にやや被熱風化、内面一部被熱剥落。
第130図 PL.54	12	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D1	く字状に内折する口端部に横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き。
第130図 PL.54	13	縄文土器 鉢？	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D5	口縁部に単沈線の垂弧した弧線文を施す。内外面共にやや被熱風化。
第130図 PL.54	14	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A14	胴部に沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面やや粗い横位磨き。
第130図 PL.54	15	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D7	沈線懸垂文を施し、LR縄文を縦・斜位に充填的施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第130図 PL.54	16	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D11	口唇端部に外面側への短い折返し状の整形痕を残す。口頸部は無文で、括れ部に僅かな沈線文が見られる。外面やや風化、内面横位磨き。
第130図 PL.54	17	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A3	口唇部がく字状に短く内折する。沈線の横帯区画文内にLR縄文を充填施文。内外面共にやや風化・荒れ。
第130図 PL.54	18	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B6	口端部がく字状に内折する波状口縁。口端部に浅い円形刺突文や円線状の横線文を施す。内面にも同様の刺突文や沈線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨き。
第130図 PL.54	19	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B5	半截竹管状具の斜線文を施す。内面一部に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きによる暗灰色を呈する。20と同一個体。
第130図 PL.54	20	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A2	半截竹管状具の斜線文を施す。内面に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きによる暗灰色を呈する。19と同一個体。
第130図 PL.54	21	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		C3	口縁部に棒状具による刻み目状の縦位短沈線や、幅広の横線文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	22	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B2	波状口縁。く字状に内折する口縁部に2条の横位沈線文を施す。内外面共に横位磨き、やや被熱風化。
第130図 PL.54	23	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D10	口縁部に4条の横線文を施し、隔刻技法により隆線化。内面横位磨き、外面被熱風化。半精製深鉢土器。
第130図 PL.54	24	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		D10	口縁部の横線文に隔刻技法を施して隆線化し、一部に抉り状の刺突を加えて匹字文を構成。左側の破断面に直径4mmの焼成前穿孔。内外面共に横位磨き。
第130図 PL.54	25	縄文土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A16	口唇下に浅い抉り状の刺突や口縁部に3条の横線文を施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	26	縄文土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径 器高	－ －	底径	－		A16	口縁部の横線文に隔刻技法を施して隆線化し、工字文を構成。部分的にLR縄文が残存。器厚5mmと薄い。内面横位磨き。
第130図 PL.54	27	縄文土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B1	口縁部の横線文に隔刻技法を施して隆線化し、抉り状の刺突を加えて上下に対向する匹字文を構成。外面赤色塗彩、内面やや粗い横位撫で。
第130図 PL.54	28	縄文土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B1	体部に数条の横線文を施し、抉り状の刺突を加えて工字文を構成か。内外面共に横位磨き。
第130図 PL.54	29	縄文土器 壺？	遺構外	肩部破片	口径 器高	－ －	底径	－		B4	櫛歯状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。浅い凹線により丁字状の意匠を構成し、その上位には隔刻技法的に擬隆起線文を作出。内面横位箆磨き、外面一部に煤状炭化物付着。

第29表　遺構外出土遺物観察表２

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値					胎土	成形・整形の特徴
第130図 PL.54	30	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		B4	口唇部直下に円線状の浅い沈線文を横位施文し、当部外端に抉り状の刺突を加える。内外面共に横位撫で。粗製深鉢上器か。
第131図 PL.55	31	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		D1	双頭状の波状口縁。細密条痕文を斜位に施文。波頂下に棒状具の短沈線状の刻み を加え。以下に撚状具の横線文を５条施す。内面やや粗い横位磨き、内外面共にやや被熱風化。半精製深鉢上器か。
第131図 PL.55	32	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		A2	括れ部に横位の細沈線文を１条施す。内外面共に横位磨き。
第131図 PL.55	33	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		A2	口縁部がやや肥厚する複合口縁。口縁部にLR縄文を横位施文。内面横位磨き、やや被熱風化。半精製深鉢上器。
第131図 PL.55	34	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		B10	口縁部にLR縄文を横位施文し、下位に横線文を施す。内面横位磨き。半精製深鉢上器。
第131図 PL.55	35	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		E2	小波状口縁か。口縁部にやや細密なLR縄文を横位施文し、下位に横線文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化。半精製深鉢上器。
第131図 PL.55	36	縄文土器 壺？	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		A11	山形状の小突起を付す波状口縁。口頸部は無文。内外面共に横位磨き。半精製的な壺か。
第131図 PL.55	37	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		B7	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横位磨き、被熱風化・一部剥落。粗製深鉢上器か。
第131図 PL.55	38	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		B3	細密条痕文を縦位に施文。内外面共に被熱風化・一部剥落、内面下位に煤状炭化物付着。
第131図 PL.55	39	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		E2	櫛歯状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内面撫で状の粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化。
第131図 PL.55	40	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		A11	細密条痕文を縦位に施文。内面横位磨き、外面被熱風化・一部剥落。
第131図 PL.55	41	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/4	口径	－	底径	(9)		D12	細密条痕文を縦・斜位に施文。底外端部が外側にやや突出。内外面共に被熱風化・荒れ。粗製深鉢上器か。
第131図 PL.55	42	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/2	口径	－	底径	5.7		A20	外面横位磨き、内面撫で状の横位筋磨き。内外面共にやや被熱風化。
第131図 PL.55	43	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/2	口径	－	底径	(6.0)		D4	外周面に接合痕残る。外底面に木葉痕。内面横位磨き。
第131図 PL.55	44	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/4	口径	－	底径	(10)		E5	底外端部が外側にやや突出。内外面共に被熱風化・荒れ。外底面に木葉痕。無文の粗製深鉢上器か。外面粗い縦・斜位筋磨き、内面やや粗い縦・横位筋撫で。
第131図 PL.55	45	弥生土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		F1	細密な LR縄文を横位・多段に施文し、口縁部に四線状の浅い沈線文を縦・横位に施して工字文的な意匠を構成。沈線文部分に赤色塗彩。内外面共に燻べ焼きによる黒色を呈する。内面やや丁寧な横位磨き。
第131図 PL.55	46	弥生土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		A12	やや細密な LR縄文を横・斜位に施文し、口縁部に横線文を複数巡施す。沈線内中体部下位の縄文施文部に赤色塗彩。内面丁寧な横位筋磨き。
第131図 PL.55	47	弥生土器 浅鉢？	遺構外	口縁部破片	口径	－	底径	－		A21	口縁部から体部にかけて沈線の横線文やU字文・曲線文を施し、LR縄文を充填施文後に沈線をなぞり返す。縄文と沈線文の施文部位に赤色塗彩。内外面共に燻べ焼きと丁寧な磨きにより黒灰色の光沢を帯び、一部に煤状炭化物付着。左側の破断面際に直径５mmの焼成後穿孔あり。
第131図 PL.55	48	弥生土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		C4	弧線文や横線文を施し、LR縄文を充填縄文。沈線文を含む縄文施文部に赤色塗彩。内面横位筋磨き、内外面共に一部に煤状炭化物付着。
第131図 PL.55	49	弥生土器 壺	遺構外	肩部破片	口径	－	底径	－		B6	３本単位の横位沈線文を施し、上位の沈線間に浅い抉り状刺突を加えて変形工字文の意匠を構成。下位では連携三角文あるいは菱形文を構成か。沈線文間にやや細密なLR縄文を充填施文し、沈線文をなぞり返す。内面横位磨き。
第131図 PL.55	50	弥生土器 筒形土器	遺構外	胴部上位～中位 1/4	口径	－	底径	－		E10	胴部に横線文を施し、隔切技法により隆線化。沈線区画間にやや細密なLR縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き、外面一部に煤状炭化物。初期的な筒形上器か。
第131図 PL.55	51	弥生土器 壺？	遺構外	肩部破片	口径	－	底径	－		A8	肩部に棒状具による縦位の羽状沈線文を施し、全面に赤色塗彩する。内面風化・剥離。
第131図 PL.55	52	縄文土偶 土偶	遺構外	頭部～肩部2/3	口径	－	底径	－		C1	頭部や胴部以下が欠落するが、頭部については作出されなかった可能性もある。肩部に２条の沈線を巡らせ、腕部の装着部近縁のみに細密な刺突文を充填施文。外面丁寧な磨き、内面横位撫で。
第131図 PL.55	53	縄文土偶 土偶	遺構外	胴部破片	口径	－	底径	－		A16	縦・横位の沈線文を施す。外面丁寧な磨き、内面指頭圧痕を残す粗い横位筋撫で。土偶の胴部破片か。

第30表　遺構外出土遺物観察表3

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					石材	成形・整形の特徴	備考
第132図 PL.55	56	打製石器 石鏃	38-X-20 4/5	長 幅	30.6 19.2	厚 重	2.3 1396.0		粗粒輝石安山岩	側辺部全体に両面加工が認められる。表裏面の先端刃部付近に摩滅痕が認められ使用痕の可能性がある。左右両側辺の上方及び裏面の左側上方には摩滅痕が認められ茎柄痕の可能性がある。表裏面には節理面が広範囲に認められ板状節理の露頭から石材を採取していると考えられる。	
第132図 PL.55	54	剥片石器 石鏃	38-Y-20 4/5	長 幅	(2.5) (1.6)	厚 重	0.4 1.3		黒曜石	面的な二次加工が表裏面の全体に認められる。	
第132図 PL.55	55	剥片石器 石鏃未成品	3区 完形	長 幅	3.7 2.4	厚 重	0.8 5.0		赤碧玉	右側辺の全体に両面加工が認められ形態的特徴から石鏃未成品と判断した。素材剥片の主要剥離面が大きく認められるが背面側の左側辺には微細剥離痕が集中する。	

第31表　縄文・弥生土器の胎土分類1

分類		特徴	備考
A類	A1	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片や石英と微量の雲母・長石・角閃石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として雲母を含有するグループ
	A2	少量の円磨度の進んだ珪質な乳白色・黒色岩片や長石・角閃石・石英・灰白色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A3	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や長石・石英・角閃石の粗・細砂と中量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A4	少量の長石・角閃石や円磨度の進んだ赤色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A5	少量の長石・石英・雲母や円磨度の進んだ赤色岩片と微量の輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A6	中量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂と少量の長石・輝石・角閃石・赤色岩片や微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A7	中量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂や長石の粗・細砂と少量の雲母・角閃石・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A8	中量の長石や少量の円磨度の進んだ輝石・角閃石・石英および珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A9	中量の円磨度の進んだ赤色岩片や少量の珪質乳白色・灰白色・黒色岩片および微量の雲母・長石・輝石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A10	中量の円磨度の進んだ赤色岩片と少量の珪質乳白色・灰白色・黒色岩片や角閃石・石英の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A11	中量の長石や少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・赤色・黒色岩片と角閃石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A12	中量の長石・雲母の粗・細砂と少量の円磨度の進んだ花崗岩礫や石英・輝石および珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A13	中量の円磨度の進んだ黒色岩片や少量の珪質乳白色・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・角閃石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A14	中量の円磨度の進んだ珪質な乳白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石や灰白色・赤色岩片の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A15	多量の長石や中量の角閃石、円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片と少量の輝石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A16	多量の長石と少量の角閃石・石英や円磨度の進んだ灰白色・赤色・黒色岩片および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A17	多量の長石と少量の輝石・角閃石や円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片および微量の雲母の粗・細砂と中量の赤色岩片礫・粗砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A18	多量の長石・雲母と中量の円磨度の進んだ石英や少量の角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A19	多量の円磨度の進んだ石英や長石・雲母と中量の角閃石および少量の珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A20	多量の長石や中量の円磨度の進んだ石英・雲母と少量の珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A21	多量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂や雲母粗・細砂と中量の長石および少量の輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
B類	B1	少量の円磨度の進んだ結晶片岩・輝石・長石・石英や珪質の黒色・乳白色岩片と灰白色・赤色岩片および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として結晶片岩を含有するグループ
	B2	少量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や雲母・石英および珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	B3	少量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂と長石・石英・輝石や珪質乳白色・赤色・黒色岩片の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B4	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片と少量の石英・赤色岩片および微量の輝石・角閃石・雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B5	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色・赤色岩片、輝石・角閃石の粗・細砂および雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B6	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や少量の珪質黒色・乳白色岩片の粗・細砂と少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B7	中量の円磨度の進んだ結晶片岩・珪質黒色岩片の礫・粗砂と少量の珪質乳白色・赤色岩片や石英の粗・細砂および少量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B8	多量の円磨度の進んだ結晶片岩や中量の珪質乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色岩片・輝石・雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B9	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩の粗・細砂や少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B10	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩・赤色岩片の粗・細砂や少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B11	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩や灰白色・赤色岩片の礫・粗砂および少量の角閃石粗・細砂や雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B12	多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片の礫・粗砂と多量の雲母・長石および少量の輝石、灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	

第32表　縄文・弥生土器の胎土分類２

分類		特　徴	備　考
C類	C1	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や長石・輝石・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として灰白色・珪質乳白色岩片や長石・輝石・石英・角閃石等を含有するグループ
	C2	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・黒色岩片や微量の長石・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C3	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の珪質乳白色岩片・長石・輝石・石英と微量のチャートの粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C4	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片と少量の珪質乳白色・黒色岩片、輝石・角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C5	中量の円磨度の進んだ石英・輝石・赤色岩片と少量の珪質乳白色・灰白色岩片や長石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C6	多量の円磨度の進んだ輝石や中量の長石・灰白色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
D類	D1	少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色・黒色・珪質乳白色岩片や角閃石・輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主としてC類＋赤色岩片を含有するグループ
	D2	少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色・珪質乳白色岩片や輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D3	少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色岩片や輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D4	少量の円磨度の進んだ赤色岩片礫・粗砂と珪質乳白色・灰白色岩片や長石・石英・輝石・チャートの粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D5	中量の円磨度の進んだ輝石や少量の赤色・珪質乳白色岩片と長石・石英の粗・細砂および少量の灰白色岩片礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。	
	D6	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や輝石と少量の赤色・珪質乳白色岩片および少量の長石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D7	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂と少量の赤色・珪質乳白色岩片や角閃石・輝石・長石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D8	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や輝石粗・細砂と少量の赤色・珪質乳白色岩片および長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D9	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片・輝石と少量の灰白色、赤色、黒色岩片や石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D10	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や少量の灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・石英および赤色、黒色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D11	中量の円磨度の進んだ赤色岩片礫・粗砂や少量の灰白色岩片・長石・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D12	中量の円磨度の進んだ黒色・赤色・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D13	多量の円磨度の進んだ輝石や中量の長石・灰白色岩片と少量の赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
E類	E1	中量の円磨度の進んだ長石・輝石や少量の角閃石・石英と灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として長石を含有するグループ
	E2	中量の長石と少量の円磨度の進んだ石英・角閃石や珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E3	中量の円磨度の進んだ長石・輝石・灰白色岩片や少量の赤色岩片・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E4	中量の長石や円磨度の進んだ灰白色岩片と少量の赤色岩片・角閃石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E5	中量の長石や円磨度の進んだ珪質乳白色岩片と少量の輝石・角閃石、灰白色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E6	中量の長石や円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・黒色岩片および少量の角閃石・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E7	多量の長石や円磨度の進んだ輝石・灰白色岩片と少量の赤色岩片・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E8	多量の長石や中量の円磨度の進んだ輝石および少量の珪質乳白色・灰白色、赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E9	多量の長石・角閃石と少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E10	多量の円磨度の進んだ長石・輝石や少量の珪質乳白色・灰白色岩片および石英の粗・細砂と少量の赤色岩片の礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。	
F類	F1	多量の円磨度の進んだ軽石礫・粗砂や長石粗・細砂と少量の赤色岩片礫・粗砂および角閃石粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	主として軽石を含有するグループ
	F2	多量の円磨度の進んだ軽石(角閃石安山岩)や中量の長石と少量の赤色岩片の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	

凡　例

※各分類はルーペ等を使用した肉眼観察による相対的なものである。

※夾雑物の粒径分類については「新版 標準土色帳」の「土壌調査用チャート」に準拠した。

第33表　遺構外出土剥片石材別数・重量一覧

調査区	黒色頁岩		黒曜石		細粒輝石安山岩		粗粒輝石安山岩		流紋岩		ガラス質安山岩		合　計	
	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g
2	2	38.4	11	5.6	1	27.6	0	0	7	41.2	0	0	21	112.8
3	1	9.2	5	7.7	0	0	0	0	2	18.5	1	1.2	9	36.6
4	0	0	3	2.7	0	0	1	112.8	0	0	0	0	4	115.5
合　計	3	47.6	19	16.0	1	27.6	1	112.8	9	59.7	1	1.2	34	264.9

第34表　土坑出土土器数量一覧（縄文時代）

区	番号	遺構種別	前期 諸磯a	前期 諸磯b	前期 十三菩提	中期 五領ヶ台	中期 勝坂2	中期 勝坂3	中期 焼町	中期 加曽利E2	中期 加曽利E3	中期 中期後半	後期 後期	後期 称名寺Ⅰ	後期 掘之内1	後期 加曽利B2	後期 後期中葉	晩期末葉 縄文	晩期末葉 沈線文	晩期末葉 浮線文	晩期末葉 条痕文	晩期末葉 無文	晩期末葉 土偶	合計
1	1	土坑	1																					1
2	2	土坑																			1			1
2	8	土坑												1					1		4			6
2	12	土坑																			2			2
2	14	土坑												1										1
2	17	土坑															2	1			13			16
2	20	土坑					3																	3
2	23	土坑																			1			1
2	25	土坑				3															24			27
2	28	土坑											2											2
2	31	土坑													4	1					3			8
2	32	土坑																			1			1
2	33	土坑					1	1													1			3
2	35	土坑																			1			1
2	36	土坑																			6			6
2	37	土坑							1												2			3
2	38	土坑										1									5			6
2	45	土坑																			2			2
2	49	土坑																		1	1			2
2	52	土坑																	1		1			2
2	63	土坑													1			5	2	2	40	8		58
2	64	土坑																2	21	1	18	4	2	48
2	68	土坑																				5		5
3	74	土坑				1																		1
3	76	土坑								1														1
3	77	土坑								1														1
3	78	土坑		5		2																		7
3	81	土坑			3																			3
3	82	土坑									1										1			2
合計			1	5	3	6	4	1	1	2	1	1	2	2	5	1	2	8	25	4	127	17	2	220

第35表　遺構外出土土器数量一覧（縄文時代）

区	前期 諸磯a	前期 諸磯b	前期 諸磯c	前期 十三菩提	中期 五領ヶ台	中期 勝坂2	中期 勝坂3	中期 新巻	中期 焼町	中期 中期中葉	中期 唐草文系	中期～後期	後期 掘之内1	後期 掘之内2	後期 加曽利B2	後期 高井東	後期 後期中葉	晩期末葉 沈線文	晩期末葉 浮線文	晩期末葉 条痕文	晩期末葉 無文	晩期末葉 土偶	合計
1	3									3													6
2					1	19		9	41	119	5		118	2	2			8	12	193	166	2	697
3	3	13	2	1	29		2		3	12		14	5	1	5	1	1	1	1	13			107
4						1						7	1	1						5			15
合計	6	13	2	1	30	20	2	9	44	134	5	21	124	4	7	1	1	9	13	211	166	2	825

第７節　自然科学分析報告

第１項　自然科学分析の概要

当遺跡では、縄文時代晩期大洞Ａ式並行期の遺物を出土する８・63・64号土坑から、黒曜石剥片計８点が出土した。当該期の遺構は周辺地域を含め発見例が少なく、黒曜石に関しても分析事例が極めて乏しい。このことから、当遺跡のみならず、群馬県域における黒曜石の供給・流通実態を解明する上で必要なものとして、以下の６項目の方法及び条件の下、株式会社パレオ・ラボへの委託業務として黒曜石の産地同定分析を実施した。分析担当者は、同社竹原弘展氏である。

（１）原産地分析に係る各元素の測定は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析（非破壊法）による。

（２）分析試料は精製水で洗浄後、蛍光Ｘ線分析計で測定する。尚、表面の風化が著しい資料については、サンドブラスト（研磨剤を吹き付ける道具）を用いて新鮮な部分を作成する。

（３）測定元素は鉄(Fe)、カリウム(Ｋ)、マンガン(Mn)、ストロンチウム(Sr)、ルビジウム(Rb)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の７元素とする。

（４）Ｘ線照射範囲(分析範囲)については、CCDカメラ等の画像観察により原礫面を避けて平滑かつ新鮮な面を対象とし、真空雰囲気で行うものとする。

（５）原産地分析の基準資料として、最低限以下の原産地黒曜石を使用する。

北海道白滝・置戸・十勝三股、青森県出来島・深浦、岩手県折居、秋田県金ヶ崎・脇本、宮城県湯ノ倉・色麻・秋保、山形県月山、新潟県板山、栃木県高原山、長野県小深沢・男女倉・星ケ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島（恩馳島）、島根県隠岐（久見）

（６）原産地分析・同定は、７元素の測定結果をもとにした原産地資料群の判別図により行う。

第２項　西ノ上遺跡出土黒曜石製石器の原産地同定

１．はじめに

吾妻郡長野原町川原湯地内に所在する西ノ上遺跡から出土した縄文時代晩期の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

２．試料と方法

分析対象試料は、西ノ上遺跡より出土した黒曜石製石器８点である(第36表)。時期は、晩期末葉とみられている。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会

第36表　分析対象の黒曜石製剥片類一覧

番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	時　期
1	2区63号土坑	剥片	22	13	6	1.2	晩期末葉
2		剥片	25	9	7	1.1	晩期末葉
3		剥片	16	11	7	1.0	晩期末葉
4	2区64号土坑	剥片	21	15	4	1.4	晩期末葉
5		剥片	19	14	7	2.0	晩期末葉
6		剥片	26	16	8	2.4	晩期末葉
7		剥片	26	15	9	2.7	晩期末葉
8	3区81号土坑	剥片	21	14	5	1.3	晩期末葉

第133図　黒曜石産地分布図(東日本)

社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月，1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム（Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps；count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

１)Rb分率=Rb強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
２)Sr分率=Sr強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
３）Mn強度×100/Fe強度
４）log(Fe強度/K強度)

次に、これらの指標値を用いた２つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して、非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合は、log(Fe強度/K強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月，1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第37表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第133図に各原石の採取地の分布図を示す。

３．分析結果

第38表に石器の測定値および算出した指標値を、第134図と第135図には黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、８点すべてが星ヶ台群(長野県、諏訪エ

第37表　東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)，八号沢露頭(15)，赤石山山頂，八号沢露頭，黒曜の沢，幌加林道(36)
		白滝2	7の沢川支流(2)，IK露頭(10)，十勝石沢露頭直下河床(11)，アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・上木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三股(4)，タウシュベツ川右岸(42)，タウシュベツ川左岸(10)，十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊頃	豊頃	豊泉(10)
	旭川	旭川	近文台(8)，南裏台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	
		秩父別2	中山(65)
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
	留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)
		留辺蘂2	
	釧路	釧路	釧路市営スキー場(9)，阿寒川右岸(2)，阿寒川左岸(6)
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)，鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7)，八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9)，真城(33)
		北上折居2	
		北上折居3	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	相原	相原(4)
	仙台	秋保1	上蔵(18)
		秋保2	
	塩竈	塩竈	塩竈(10)
山形	羽黒	月山	月山沢前(24)，大越沢(10)
		櫛引	たらのき代(19)
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
	新津	金津	金津(7)
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七母沢	七母沢(3)，宮川(3)，枝持沢(3)
長野	和田	西餅屋	芙蓉パーライト上砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14)，東餅屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		上屋橋1	上屋橋西(10)
		上屋橋2	新和田トンネル北(20)，上屋橋北西(58)，上屋橋西(1)
		古峠	和田峠トンネル上(28)，古峠(38)，和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
		高松沢	高松沢(19)
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35)，星ヶ塔(20)
	蓼科	冷山	冷山(20)，麦草峠(20)，麦草峠東(20)
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)
		畑宿	畑宿(51)
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)
静岡	天城	上多賀	上多賀(20)
		柏峠	柏峠(20)
東京	神津島	恋隠島	恋隠島(27)
		砂糖崎	砂糖崎(20)
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6)，久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3)，加茂(4)，岸浜(3)

リア)の範囲にプロットされた。第38表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

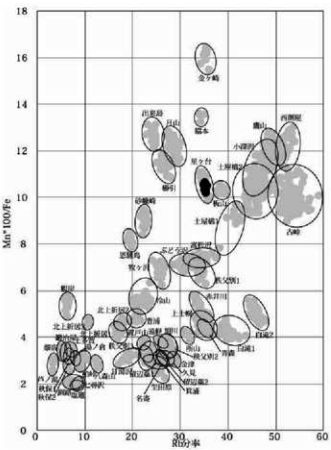
４．おわりに

西ノ上遺跡より出土した縄文時代晩期の黒曜石製石器８点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、８点いずれも諏訪エリア産の黒曜石と推定された。

引用文献
望月明彦(1999)上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書２―上和田城山遺跡篇―」：172-179、大和市教育委員会．

第38表　測定値および産地推定結果

分析No.	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	Mn*100/Fe	Sr分率	log(Fe/K)	判別群	エリア	分析No.
1	226.7	87.6	834.2	578.9	214.2	288.1	558.1	35.31	10.50	13.07	0.57	星ヶ台	諏訪	1
2	224.1	89.6	875.9	556.0	208.9	273.7	535.0	35.33	10.23	13.28	0.59	星ヶ台	諏訪	2
3	281.6	113.4	1066.5	727.2	272.2	364.2	706.1	35.13	10.64	13.15	0.58	星ヶ台	諏訪	3
4	290.5	113.8	1101.8	764.2	286.4	380.2	745.9	35.11	10.33	13.16	0.58	星ヶ台	諏訪	4
5	310.6	123.8	1188.8	798.1	299.0	394.9	770.8	35.27	10.41	13.22	0.58	星ヶ台	諏訪	5
6	223.4	86.4	840.4	542.9	203.7	272.8	520.0	35.27	10.28	13.23	0.58	星ヶ台	諏訪	6
7	304.4	123.9	1179.2	763.1	285.8	378.0	727.1	35.43	10.51	13.27	0.59	星ヶ台	諏訪	7
8	269.6	105.7	1002.3	662.4	253.5	330.6	651.1	34.91	10.54	13.36	0.57	星ヶ台	諏訪	8



第３章　調査のまとめ

第１節　天明泥流下畑の調査

西ノ上遺跡天明泥流下畑の様相

八ッ場ダム地域の遺跡の特徴の一つが天明３年浅間山噴火に伴う軽石や泥流に覆われた畑や集落などの遺構群である。畑遺構の調査では、畝・畝間溝の形状や耕作具痕跡等によって耕作方法や作物などを追求し、これに併せて地形や道、溝などに区切られた一団の畝・畝間溝群を抽出することにより、耕作単位や土地所有の単位を追求しようとする。厚い泥流とAs-A降下軽石に覆われた畑面は非常に保存が良いと共に、As-A軽石降下と泥流到達の時間差がこの間に行われた作業、行動の痕跡をも保存している。

本遺跡の調査でも、特に平成14年度調査に於いては詳細な地表面観察により畝・畝間溝の形状による畑面分類や作物の追求がなされた(1)。前報告では、

1　畝・畝間溝の状態

①畝・畝間溝の間隔が90 ～ 120cmの広い畑

②畝・畝間溝の間隔50 ～ 60cm内外の狭い畑

③畝・畝間溝が不明瞭な畑

2　As-A軽石降下後、泥流到達までの間の耕作行動

①畝の片側に土寄せを行っている畑

　a　畝の南側に土寄せ

　b　畝の北側に土寄せ

②畝の両側に土寄せを行っている畑

③畝が潰されている畑

④なにもしていない畑

⑤As-A降下前から耕作されていない畑

3　畝上面の形状

①畝上に１条の作物痕跡を持つ畑

②畝上に２条の作物痕跡を持つ畑

③作物痕は不明瞭だが畝上の凹凸が激しい畑

④作物痕は不明瞭だが畝上に凹凸が少ない畑

という観察視点により、1,430㎡ほどのさほど広くはない調査面積の中で、12区画18面の畑が記載された。さらに、平坦面や植物痕跡、畝構成土壌内の旧暦６月25日降下かとされる火山灰の存在についても注意されている。

今次発掘でも天明泥流下の畑が調査区のほぼ全面で見つかった。残念ながら残された図面、写真等からは、上記１以外の項目を読み取ることは困難であり、さらに上段の発掘区では被災後の耕地復旧にかかる復旧坑が掘削されていて泥流下の畑面が残されていない部分も多い。しかし下段の発掘区は泥流堆積が厚かったためであろう、復旧坑掘削が行われていないため旧地表面の攪乱が少なくなく、かつ平成14年度調査所見からの類推によって、畑面の状況の復元的な想定が可能である。

壬申絵図から見る西ノ上地区の畑

天明泥流下遺構のもう一つの特徴が、民俗資料や文献資料との直接的ともいえる対比が可能な点にある。浅間山天明噴火は大災害であったため、これにかかわる公私の文書が多く残されている。このため､噴火の経過や人々の行動を読み取ることができる。また、発掘された遺跡の状態と文書が対比されることによって、各地域で災害発生から復興にかかる対応が、更に詳細に明らかにされつつある(2)。畑遺構の検討に当たっては、伝統的な耕作法の聞き取り調査が作物の推定やヤックラ、土寄せなどの理解を進めた(3)。文書資料として直接的に天明３年の畑耕作の状況を示す資料は少ないものの、被災状況の報告文書や検地帳、明治初年の絵図を、発掘された遺構の状況と対比する試みも行われている(4)。

明治５年に壬申地券発行の達が出され、壬申地券地引絵図(以下壬申絵図)が作成される。群馬県立文書館蔵の壬申絵図吾妻郡川原湯村西ノ上・西ノ下部分を図に示した。本遺跡は遺跡名に採った字西ノ上地区の大部分を占めるが、ここは東を打越沢、西を大沢、北を吾妻川に画され、南も急傾斜地が背後に迫っていて、四囲が明確に区切られている。絵図は上が南を示していて、下端に帯状に吾妻川が描かれる。吾妻川対岸の見通しの良い地点から見下ろすような視点で描かれたのであろう。図の右下部分３筆は字「西ノ下」にあたる。東西の沢が示され、南には蛇行する道があって、これは発掘前の道路形状と良く対応する。泥流災害後のこの地域の復旧・復興が被災前の地割りをトレースするように復元したことが示されている。番付けは西南隅の275番から北に進んで字西

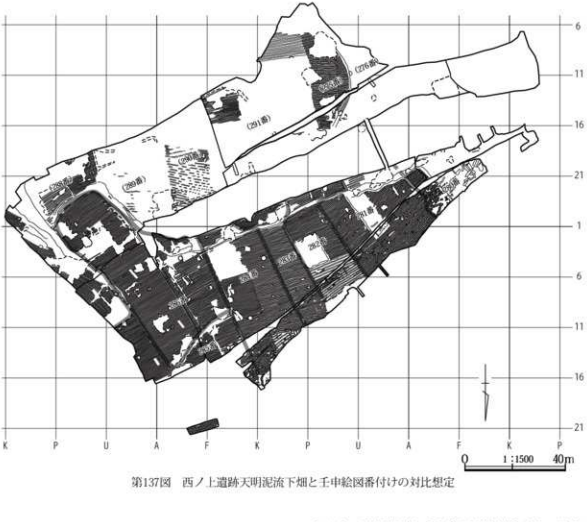
第136図　壬申地券地引絵図　西ノ上・西ノ下部分抜粋(上が南)

下の277番から279番を経て下段西から東に進み、北東隅の285番からは南に上り、上段287番からは西に戻って291番に至る。292番と293番は蛇行する道より南にある。

畑の地割りは中央近くで大きく南北に二分される。発掘区中央の傾斜部分がこの境界に当たるとと思われるが、傾斜部分も含めて畑として表現される。それぞれの畑の形状が南北に長い短冊状を呈する点、川寄りの下段が長く、上段が短く描かれる点なども発掘された畑遺構の様相との共通点が感じられる。ただし西ノ上地区全体の形状は、実際とかなり異なっている。現状の大沢-打越沢間が約200m、吾妻川岸から蛇行する道路の北端部までが約110mほどであるので、東西２、南北１の比率で横長の形状が描かれてしかるべきと思われるが、壬申絵図では東西１に対して南北1.5ほどと縦長の形状に描かれる。

貞享検地帳から見る西ノ上地区の畑

壬申絵図にはそれぞれ畑の所有者、等級、面積が記入されている。表に示したとおり、275・276番及び280番から293番までの16筆が西ノ上分として示されている。このうち275番と280番を除く14筆の面積、等級は長野原町保管の貞享３年検地水帳写(以下貞享検地帳)記載のそれと等しい。貞享の検地は、沼田藩領における真田信利による寛文検地時の無道な石盛からの更正を図る「お助け検地」として知られるが､川原湯村ではその埒外であって、寛文検地の石高60石１斗１升に対し貞享検地では73石７斗５合とされる。そしてこの貞享検地の石高は、元禄14年、天保５年の郷帳を見てもそのまま踏襲されている。従って天明３年の川原湯村の石高も73石７斗５合とされていたとみて良い。ひいては西ノ上の畑が、天明３年時点にあっても貞享検地帳に示されたそれと等しい



第137図　西ノ上遺跡天明泥流下畑と壬申絵図番付けの対比想定

ものとされていて、これが壬申絵図作成時にも(275番と280番を除いて)引き継がれていると考えることができる。

貞享検地帳の西ノ上・西ノ下にかかる畑面積７反９畝29分(約7,930㎡)、壬申絵図の畑面積８反８畝３分(約8,737㎡)に対して、平成14年度調査と今次発掘された畑の面積を足し上げると9,941.22㎡、１町８分相当となる。西ノ上地区の畑全域を発掘したわけではない発掘面積が、貞享検地帳記載面積の1.25倍にもなる。壬申絵図の292番と293番は発掘区外に当たるため、この分は更に減算されるべきであるから、その差は更に大きくなる。山林や荒れ地ならともあれ、畑地の「縄延び」の範囲は越えるもののように思われる。

壬申絵図作成に際しては、明治５年３月に群馬県による廻状が出されていて、検地帳・名寄帳を取りそろえ、調べておく等の指示があるが、現地の測量に関しては触れられない。おおよその形状と検地帳との対応が確認できればよしとしたのだろうか。先に挙げたように青木は玉村町大字福島における天明３年の災害復旧状況を考察する中で発掘遺跡と壬申絵図が比較的良く一致することを確認している。西ノ上ではこれとは様相が異なるようである。平野部の集落近傍の耕地と、人家から離れて孤立的にある、それも下畑、下々畑のみで構成される耕地との差が現れているかもしれない。

貞享検地帳記載畑と壬申絵図記載畑の比較検討

貞享検地帳と壬申絵図を比較すると、上記の通り壬申絵図275番下々畑５畝６歩と280番下々畑２畝28歩に相当する面積が貞享検地帳には見当たらない。275番は西ノ上の南東隅にあたり、また280番は西下との地境に当たるので、この部分は貞享以後の新開畑であろうか。これ以外の筆については同面積の畑が見つかる。

壬申絵図記載281番下々畑８畝８歩は、貞享検地帳記載惣兵衛所有下々畑８畝８歩、282番下畑６畝歩は、同じく惣兵衛所有下畑６畝歩、283番下々畑４畝20歩は同じく与兵衛所有下々畑４畝20分に相当するとみる。貞享検地帳によると281番相当地は幅15.5間×長16間(長短比1.03)、282番は幅12間×長15間(長短比1.25)、283番は

長10間×幅14間(長短比1.4)とある。３筆共に壬申絵図の吾妻川に近い北側列、すなわち発掘現場に合わせると発掘区の下段に相当する畑であるが、貞享検地帳では長短比の比較的近い長方形の畑として記載されている。ところが壬申絵図ではこの３筆が機械的に描いたかのように相似した南北に細長い形状で描かれる。長短比は281番8.13、282番7.63、283番9.38を示す。284番下畑８畝24歩は同与兵衛所有下畑８畝24歩に対応する。これは貞享検地帳でも12間×22間(長短比1.83)と比較的細長い形状が示されているが、絵図では長短比7.18で描かれていて、長短比の差は著しい。

上段の壬申絵図288番から291番についても、貞享検地帳記載値の長短比1.2 ～ 1.75に対して壬申絵図長短比2.2 ～ 4.24と差が認められるものの、かなり縮まっている。現地上下段間の傾斜面が、壬申絵図では下段の畑に即するものとして表現されていることが理解できる。

西ノ上遺跡畑から見た貞享検地帳・壬申絵図記載畑

壬申絵図における上下段の畑形状表現の差違は上記のように理解できるとすると、貞享検地帳記載畑の長幅は中段傾斜地を含まない畑面規模を反映しているものと考えられる。しかし発掘された天明泥流下畑と検地帳記載畑を比較すると、先述の通り泥流下で想定される畑面積が検地帳記載面積を大きく上回る。

この差の発生因として、一つには壬申絵図280番や275番相当地が天明３年時点で既に耕作されていた可能性があげられる。貞享検地帳記載畑のうち、下段に相当すると思われる畑(壬申絵図の281番から285番)の短辺長を総計すると57間、103.6mとなるが、平成14年度調査１号畑から今次調査12区画西端までは156mに及ぶ。西側への耕地拡大は既になされていたのだろう。また、各筆においても、川縁や傾斜地を切り開く南北方向への拡張がなされていただろう。壬申絵図284番は貞享検地帳での長が22間(約40m)とあり、記載された畑中最も長いのだが、発掘された畑を見ると、下段西部の畑はそろって、中間傾斜下端から発掘区北端まで40mを越えている。壬申絵図に近い状態までの耕地拡大が、貞享検地から天明３年までの間に成し遂げられていたと考えても良さそうである。

貞享検地帳・壬申絵図記載畑から見た西ノ上遺跡畑

再び壬申絵図281 ～ 284番を見ると、貞享検地帳記載の短辺長はそれぞれ15間半(28.18m)、12間(21.82m)、10間(18.18m)、12間(21.82m)とある。これらの筆は平成14年度調査４～12号畑、今次調査の第２～５区画のどこかに相当するものと考えられるが、3-２号畑が東西17.2mあるものの、単独の単位畑では各筆の幅にとても及ばない。いくつかの単位畑が集まって一つの筆を形成する、逆に言えば一筆の畑は発掘調査で見られるいくつかの単位畑を包含することになる。ところが、今次調査第３区画では、内部を区分する明確な境界を見いだせない。今次調査第２区画畑から第３区画１号畑及び平成

第39表　壬申絵図と貞享検地帳の畑記載対比

壬申絵図					貞享検地帳							
番地	字	等級	畝	歩	記載順	字	地主	等級	畝	歩	長（間）	幅（間）	面積（㎡）
275	西ノ上	下々	5	6									515.70
276	西ノ上	下々	1	10	97	西ノ上	惣兵衛	下々	1	10	16	2.5	132.23
277	西ノ下	下々	2	6	153	西ノ下	源右衛門	下々	2	6	5.5	12	218.18
278	西ノ下	下々		28	154	西ノ下	惣兵衛	下々		28	7	4	92.56
279	西ノ下	下々	1		155	西ノ下	惣兵衛	下々	1		10	3	99.17
280	西ノ上	下々	2	28									290.91
281	西ノ上	下々	8	8	152	西ノ上	惣兵衛	下々	8	8	15.5	16	819.83
282	西ノ上	下	6		151	西ノ上	惣兵衛	下	6		12	15	595.04
283	西ノ上	下々	4	20	149	西ノ上	与兵衛	下々	4	20	10	14	462.81
284	西ノ上	下	8	24	150	西ノ上	与兵衛	下	8	24	12	22	872.73
285	西ノ上	下	4	22	147	西ノ上	惣兵衛	下	4	22	19	7.5	469.42
286	西ノ上	下	8	12	148	西ノ上	惣兵衛	下	8	12	18	14	833.06
287	西ノ上	下々		22	96	西ノ上	久兵衛	下々		22	9	2.5	72.73
288	西ノ上	下	4		146	西ノ上	久兵衛	下	4		12	10	396.69
289	西ノ上	下々	6	27	145	西ノ上	源右衛門	下々	6	27	18	11.5	684.30
290	西ノ上	下々	9	16	144	西ノ上	源右衛門	下々	9	16	22	13	945.45
291	西ノ上	下	8	12	143	西ノ上	源右衛門	下	8	12	21	12	945.45
292	西ノ上	下々	1	26	98	西ノ上	権右衛門	下々	1	26	14	4	185.12
293	西ノ上	下々	2	6	99	西ノ上	権右衛門	下々	2	6	11	6	218.18

14年度調査４号・５号畑部分は壬申絵図の281番に、今次調査第３区画２号・３号畑及び平成14年度調査６・７号畑は壬申絵図282番相当かと思われるのだが、この両者を分かつのは今次調査第３区画１号畑と２号・３号畑間の畝・畝間溝端部の境界であって、溝や道ではない。第３区画１号畑と２号畑では畝幅も異なり、差違が明確に現れるが、１号畑と３号畑では、畑の畝・畝間溝は端部を突き合わせ、あるいは入り組むような部分さえある。以東の畑についても同様で、発掘された単位畑から筆や所有関係を導き出すのはなかなかに困難である。

さらに、この４筆の畑は南北に長く続いていて、285番、286番のように途中で分割されていない。従って、南北に並ぶ単位畑で様相が異なっていたとしても、あるいは東西に並ぶ単位畑で様相が異なっていても、同一筆内での変化ということになる。

第40表　壬申絵図記載畑と天明泥流下畑の面積対比

壬申絵図	天明泥流下畑			a/b
番地/面積a(㎡)	畑番号	面積b(㎡)		
280 番 290.91 ㎡	H14-1	30.7	263.76	1.10
	H14-2	120.1		
	H14-3	76.9		
	1	36.06		
281 番 819.83 ㎡	H14-4	221.8	974.92	0.84
	H14-5a	72.5		
	H14-5b	112.9		
	H14-5c	20.4		
	H14-5d	26.5		
	2	149.07		
	2-2	99.17		
	3-1	247.06		
	8	25.52		
282 番 595.04 ㎡	H14-6	76.3	728.41	0.82
	H14-7a	30.3		
	H14-7b	14.6		
	3-2	74.42		
	3-3	252.47		
	3-3-2	124.91		
	9-1	85.08		
	9-2	70.33		
283 番 462.81 ㎡	H14-8a	80	476.97	0.97
	H14-8b	38.6		
	3-4	320.97		
	9-3	37.4		
284 番 872.73 ㎡	H14-9	80.7	1106.86	0.79
	H14-10a	9.9		
	H14-10b	39.9		
	H14-11	112.7		
	3-5	404.97		
	3-6	265.57		
	3-6-2	152.85		
	9-4	40.27		
285 番 469.42 ㎡	H14-12	61.5	544.93	0.861
	4	126.24		
	5	103.6		
	6	253.59		
286 番 833.06 ㎡	3-7	470.28	2039.14	0.409
	3-8	1442.41		
	3-9	86.18		
	9-5	40.27		

先に281番相当とした部分には、第２区画の畝幅の狭い畑とその東のAs-A軽石降下後に畝を潰した畑の両者があり、３号道を挟んでまた畝幅の狭い第３区画１号畑がある。さらに３号道東西走部を挟んで南側の第８・第９区画畑もここに含まれる。平成14年度調査５-１・５-２号畑は畝幅の狭い畑でそれぞれ円形平坦面がある。282番相当とした部分にも、畝幅の狭い畑、広い畑、As-A軽石降下後に畝を潰した畑の三者がある。同一筆内でも様々な耕作行動が行われていることが理解できる。

281･282番は同姓ながら異なる人物の所有地であるが、真享検地帳では同じ惣兵衛所有地とされている。283番と284番は壬申絵図でも検地帳でも同所有者とされている。発掘時に設定された畑の単位は、所有を基礎とした畑区分としての筆とは独立した関係にあることが理解できる。平成14年度調査時に設定されたように、各種耕作行動の単位としての単位畑という観察視点が妥当であろう。

西ノ上遺跡の天明泥流到達時に、同じ筆の中でも様々な耕作行動が採られている状態であったことを確認した。耕作行動の差は耕作者の差、作物の差などを示すものであろう。これは現在の畑でもしばしば見られる事象であって、さほど異とするものではない。しかし、八ッ場ダム関連で調査され、大麻の大規模栽培が想定された東吾妻町上郷岡の原遺跡や長野原町石川原遺跡等で見られる、広大な面積で同形状の畑が連続する場面での耕作行動とは様相が異なるだろう。西ノ上遺跡では平成14年度調査で畑の詳細な観察を行っている。また、十分な記載には至らなかったものの、大麻ではない作物と思われる植物痕跡を確認している。これらを含め、八ッ場ダム地域各遺跡の調査成果を総合することによって、畑遺構の理解や当時の農業経に関する課題解決の道が開けることを期待したい。

注

（１）『久々戸遺跡（２）・中棚Ⅱ遺跡（２）・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2004

（２）公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『自然災害と考古学』148-202 上毛新聞社　2013　など

（３）関俊明『浅間山大噴火の爪痕-天明三年浅間山災害遺跡-』新泉社 2010など

（４）『下湯原遺跡（１）』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2018
青木利文「玉村町大字福島における天明三年の災害復旧」『群馬文化』332　47-64　群馬地域文化研究協議会　2018

第２節　縄文時代末葉～弥生時代前期の土坑群について

当該期に帰属する土坑については、第６節の129頁にて既述したように23基が存在し、その大半が墓と想定されることと、その主軸方位の「双方向性」やかなり密集した構築状況が認められることを等から、集団墓を構成していた可能性を指摘した。ただし、これら土坑内の出土遺物の主体は、条痕文を施文した半精製・粗製土器の破片類であり、言うまでもなく人骨を検出できなかった点で墓としての機能・用途は確定的ではない。こうした点に留意しつつ、大形の深鉢土器や甕などの大形破片複数点を出土した25号や63号について、当遺跡と時期的に近似する墓坑群を調査した藤岡市沖Ⅱ遺跡(1)の事例を参考にして、若干の分析をしてみたい。

当遺跡から南東に約45km離れた沖Ⅱ遺跡では、弥生時代前期の土坑内に「完形またはそれに近い土器」を埋置した「土器埋設土壙」27基と、こうした土器埋設を伴わない「土壙」57基が確認されている。「土器埋設土壙」の土器は、２個体の合口や蓋を意識したもの、頸部や胴部上位を打割した壺・甕等その出土状況はやや多様であるが、それらの分布状況から相互に近接したＡ・Ｂの２群に分別されている。「土器埋設土壙」の中でAU-18号の１基は、構築状況に他との大差は見られないものの、土器内から人骨片が検出されている。他方、「土壙」の中で21基は「土器埋設土壙」と同一地点に形成され、相互に重複関係を持つものも存在することや、他の「土壙」も「土器埋設土壙」と近接しており、立地的にも密接な関係が窺える。また、これらの「土壙」の中で注目されるのは、複数個体の人歯出土や複数回の掘り返し痕跡が確認されたAD-25号と、底面付近から甕の大形破片を出土するAD-20～22・25・29・39号であり、前者は遺体を埋葬した「一次葬」の場と想定されている。

こうしたAU-18号やAD-25号等の埋葬行為を明示する状態は、他の同種土坑に確認されてはいないが、構築状況の類似性から「土壙」を一次埋葬施設に、「土器埋設土壙」を「両葬墓」として位置付けられている。

上述した西ノ上遺跡における土器の大形破片を伴う25・63号土坑の様相は、この一次埋葬施設のAD-20～22・25・29・39号「土壙」に近似していると考えられる。その中で、25号出土の壺(第127図２)に見られる、口辺～肩部を打割して胴部の破断面を整形加工した行為は、沖Ⅱ遺跡の「土器埋設土壙」に埋置した、口辺～頸部を欠失する壺棺との共通性を看取することができる。ただし、土器の残存部位は全形の50％程度であり、南壁際に積み上げた状況も加味すれば、土器棺として土坑内に埋置された可能性は極めて低いだろう。こうした土器上半部の意図的欠損行為は、一次葬後の改葬人骨収納と関連性を持つと考えられるが、25号の壺も再葬墓に用いられた後に更に打割され、何らかの理由で当土坑内に埋置された履歴を想定することもできよう。

一方、当遺跡では再葬墓の「土器埋設土壙」の存在を含め、２分割されるような墓群の分布傾向は認められない。しかし、34・35・38・64号などの楕円形状土坑の主軸方位を見ると、34・35号のＮ48度Ｅに対して38・64号は約90度西方にずれたＮ29～32度Ｗの方位をとっている。このような様態差を埋葬遺体の頭位方向の「双方向性」と措定するならば、様相的には異なるものの共に類似した葬送観念の存在や双分的社会組織の一端を表象したものと理解することも可能だろう。

以上の諸点を勘案すれば、当遺跡では一次埋葬施設あるいは直葬墓のみで構成され、沖Ⅱ遺跡に顕著な再葬墓等の二次埋葬施設は形成されなかったか、あるいは場所を違えて調査区域外に存在したということが想定できよう。いずれにしても、八ッ場ダム建設に伴い調査された他の当該期遺跡の報告を待って、再検討を要する。

尚、弥生時代前期段階の63・64号土坑の埋没土中から出土した７点の黒曜石剥片の原産地同定については、先述したようにその全てが星ケ台産という分析結果を得ている。群馬県内における黒曜石の時期別産地動向に関しては、大工原豊を中心とした研究者により、後期から晩期にかけて吾妻川ルートを通じた星ケ塔系黒曜石の流通が活発であったことが論じられているが(2)、弥生時代前期においてもそうした流通動向が継続していたことを示唆するものとして注目しておきたい。

注・参考文献

(1)　荒巻実・若狭徹・他　1986『Ｃ11沖Ⅱ遺跡』藤岡市教育委員会
(2)　大工原豊　2011「縄文時代における黒曜石の利用と展開－北関東の様相を中心として－」『日本考古学協会2011年度栃木大会　研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会

写 真 図 版

1　遺跡遠景　平成27年度調査（5～9号復旧坑群）　北から

2　遺跡遠景　平成27年度調査　北から

3　遺跡遠景　平成27年度調査　南から

4　基本的な土壌堆積　南から

1　1号～4号復旧坑群　西から

2　1号～4号復旧坑群　上が南

1　1号・2号復旧坑群　東から

2　1号復旧坑群北部　南から

3　1号復旧坑群北部　西から

4　1号復旧坑群南部断ち割り状況　北から

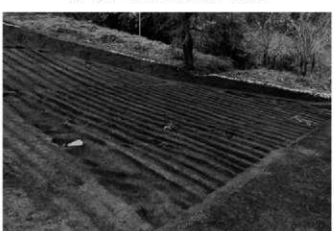
5　1号復旧坑群南部断面　西から

1　2号・3号復旧坑群北部　南西から

2　2号・3号復旧坑群北部　西から

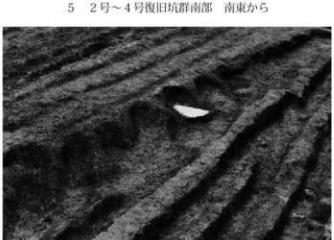
3　2号・3号復旧坑群南部　西から

4　3号復旧坑群北部　南から



5　2号～4号復旧坑群南部　南東から

6　2号～4号復旧坑群南部　東から

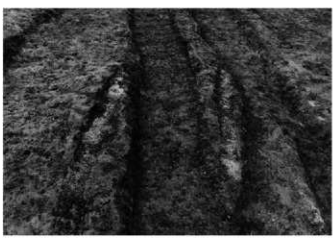


7　4号復旧坑群　東から

8　5号・6号復旧坑群　南から

1　7号～9号復旧坑群と第3区画畑南部　上が東

2　5号・8号復旧坑群　東から



3　5号復旧坑群と畑　東から

4　5号・6号復旧坑群と畑　西から

5　5号～8号復旧坑群　南から

1　8号復旧坑群と畑　西から

2　7号復旧坑群東端部断面　北から

3　7号復旧坑群断面　西から

4　8号復旧坑群断面　西から

5　1号炭窯　東から

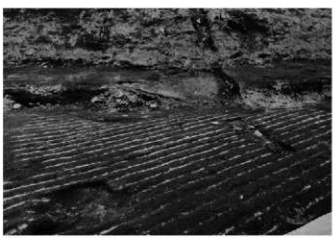
6　1号炭窯　西から

7　1号炭窯煙道部　東から

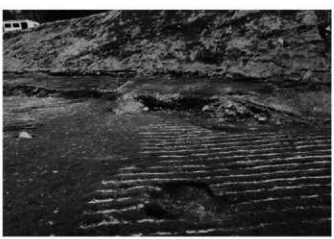
8　1号炭窯底部　西から

1　第２面　平成29年度調査　上が北

2　第１～３・８・９区画畑　西から



3　第１・２区画畑　２号道　北から



4　第２区画畑東部　南東から

5　第３区画１号～３号畑　北東から

1　第３区画４号畑以西　北東から

2　第３区画４号畑以西　東から

3　第３区画５号畑以東・第４・５区画　西から

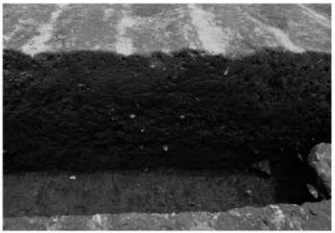
4　第３区画６号・７号畑　北から

5　第３区画４号～６号畑・第９区画畑　東から

6　第３区画７号畑　北から

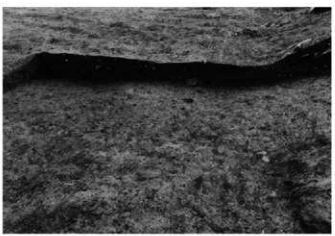
7　第３区画７号・８号畑・第９区画　北から

8　第３区画３号畑断面　西から



1　第３区画４号畑断面　東から

2　第３~第10区画間断面　北から



3　第３区画８号畑断面　北から

4　第３区画８号畑断面Ａライン　東から

5　第３区画８号畑断面Ｂ　東から

6　第３区画８号畑断面Ｃ　東から

7　第３区画８号畑断面Ｄ　東から

8　第３区画８号畑断面Ｅ　西から

1　第３区画８号畑Ｆ・Ｇ断面調査状況　北から

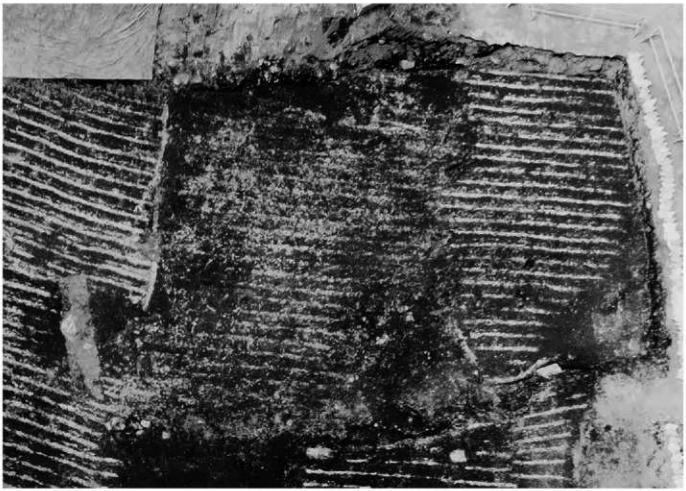
2　第３区画８号畑断面Ｆ　西から

3　第３区画８号畑断面Ｇ　西から

4　第３～第７区画畑　北から

5　第３～第７区画畑　南から

6　第４区画畑　北から



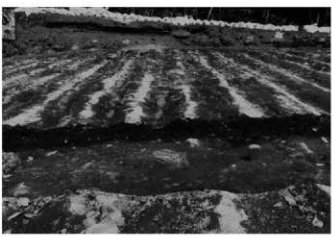
1　第4区画畑・第5区画畑西部　上が北

2　第5区画畑東部　1号石垣・1号溝

1　第５区画畑東部　北東から

2　第５区画畑東部　東から

3　第５区画畑断面Ａ　東から



4　第６区画畑断面Ａ　西から

5　第６区画畑断面Ｂ　西から

6　第６区画畑断面Ｃ　西から

7　第６区画畑断面Ｄ　西から

8　第７区画畑北部　南東から

1　第７区画１号畑　南西から

2　第７区画１号畑断面　南西から

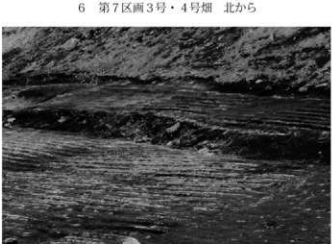
3　第７区画２号畑　北から

4　第７区画２号畑　南西から

5　第７区画２号畑断面　南から

6　第７区画３号・４号畑　北から

7　第８・９区画畑　東から



8　第９区画畑と第３区画畑　北から

1　第９区画３号畑　北東から

2　第９区画４号畑　北西から

3　第10区画１～３号畑　上が南

4　第10区画１号畑　北から

5　第10区画１～３号畑　南東から

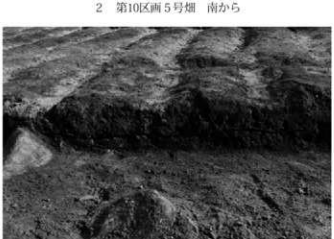
6　第10区画３号畑　南東から

7　第10区画３号畑　南から

1　第10区画５号畑　南東から

2　第10区画５号畑　南から

3　第10区画５号畑　南東から



4　第10区画１号畑断面　西から

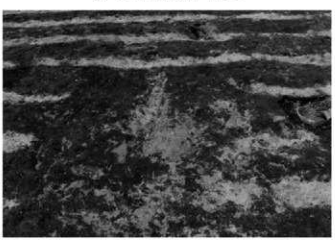
5　第10区画２号畑断面　西から

1　第10区画５号畑断面　西から

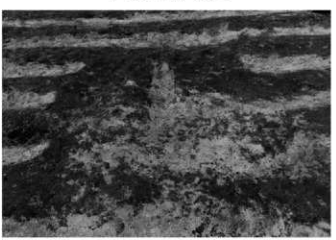
2　第11区画畑　西から

3　第11区画畑断面　西から

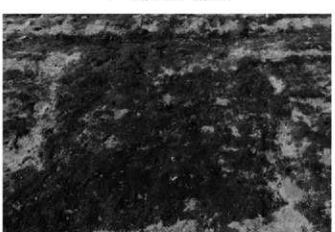
4　第12区画畑　東から



5　５号平坦面　南から



6　６号平坦面　南から



7　８号平坦面　南から

8　９号平坦面　南から

1　10号平坦面　北東から

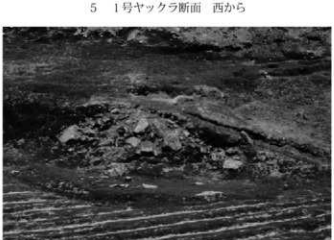
2　10号平坦面　北西から

3　12号平坦面　北から

4　1号ヤックラ　北から

5　1号ヤックラ断面　西から

6　3号・4号ヤックラ　西から



7　3号ヤックラ　西から

8　4号ヤックラ　西から

1　7号ヤックラ上面　北から

2　7号ヤックラ下面　北から

3　7号ヤックラ断面調査状況　北から

4　7号ヤックラ断面　西から

1

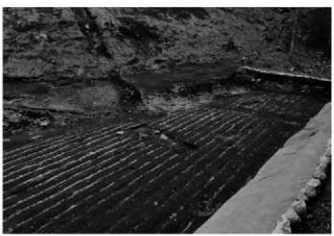
2

3

5　7号ヤックラ出土遺物

1　1号道　東から

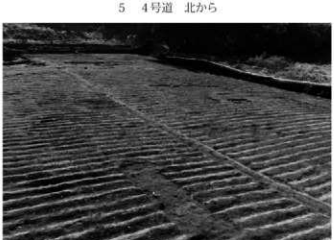
2　1号道　北から



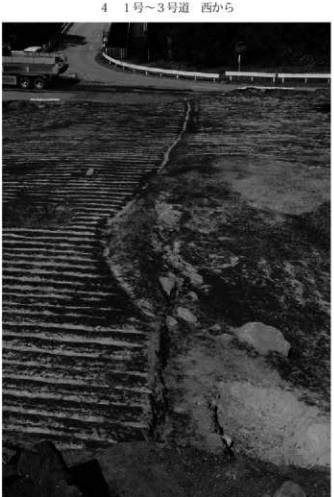
3　2号道　東から

4　1号～3号道　西から

5　4号道　北から



6　5号道　北東から



7　5号道　南から

1　5号道断面A　北から

2　5号道断面B　北から

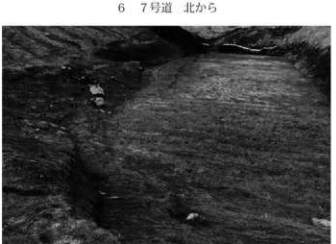
3　6号道・3号石垣　北から

4　6号道・3号石垣　東から

5　3号石垣　北から

6　7号道　北から

7　8号道　北から



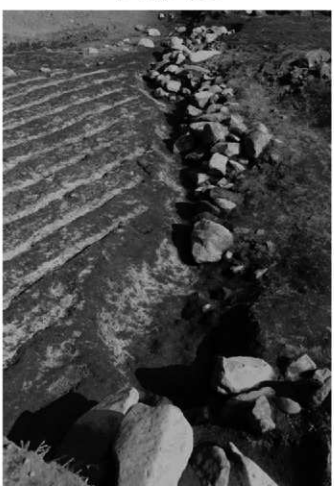
8　8号道　南から

1　10号道　西から

2　11号道　北から

3　12号道　東から

4　12号道断面　西から



5　1号溝・1号石垣　南西から

6　1号溝・1号石垣　南西から

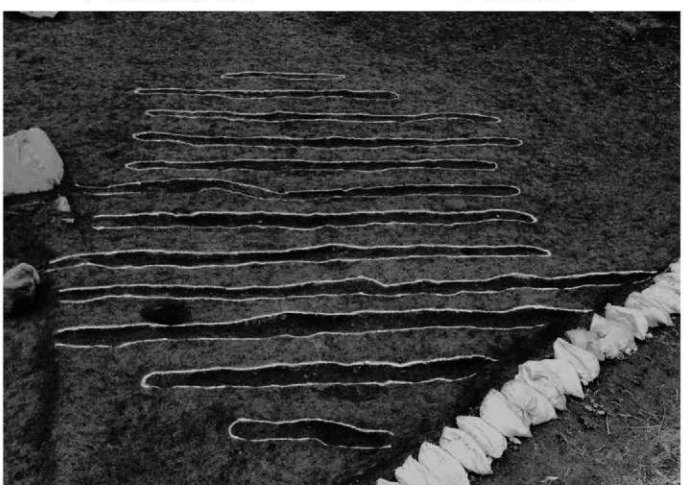
7　1号溝・1号石垣　西から

1　2号炭窯　北から

2　2号炭窯上部　西から

3　2号炭窯煙道部拡大　西から

4　2号炭窯　北から

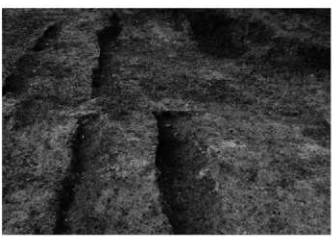


5　第3畑畑　北から

1　第3面畑　北から

2　第3面畑　南東から

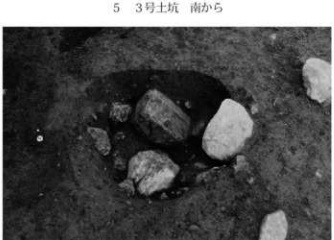
3　第3面畑　東から



4　第3面畑断面　南東から

5　3号土坑　南から

6　3号土坑断面　南から

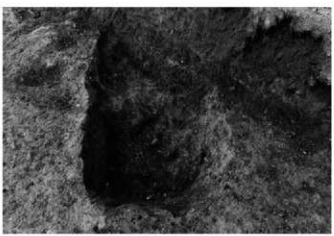


7　4号土坑　南から

8　4号土坑断面　南から

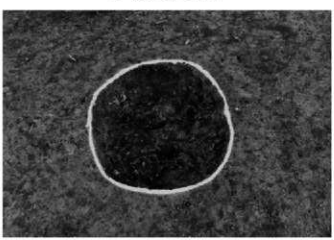
1　6号土坑　南から

2　6号土坑断面　南から



3　55号土坑　北から

4　55号土坑断面　東から

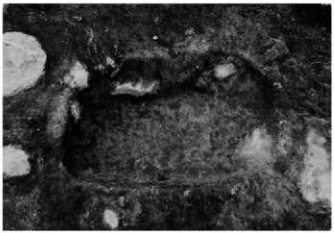


5　59号土坑　北から

6　59号土坑断面　南から

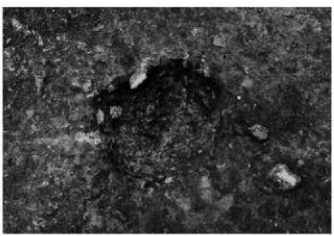
7　65号土坑　南から

8　65号土坑断面　北から



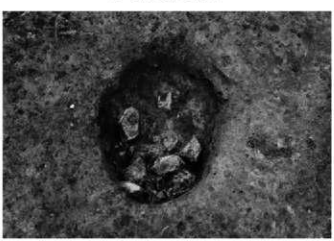
1　66号土坑　南東から

2　66号土坑断面　南西から



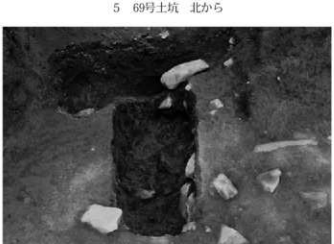
3　67号土坑　北から

4　67号土坑断面　南から

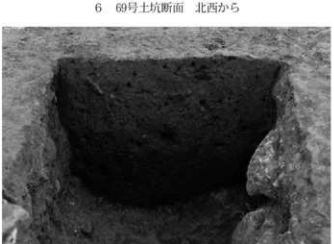


5　69号土坑　北から

6　69号土坑断面　北西から



7　85号土坑　北から



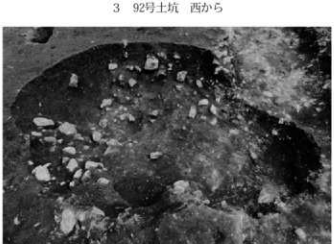
8　85号土坑断面　北から

1　91号土坑　北から

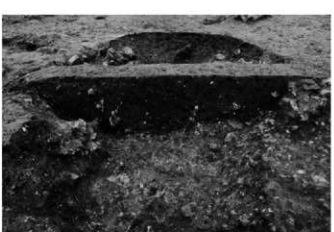
2　91号土坑断面　北から

3　92号土坑　西から

4　92号土坑断面　東から

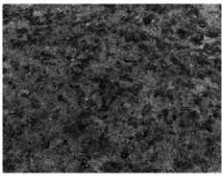


5　94号土坑　西から



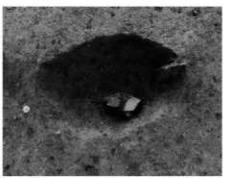
6　94号土坑断面　東から

1　1号焼土断面　南から



2　1号焼土除去後　南から

3　2号焼土断面　南から



4　2号焼土除去後　東から

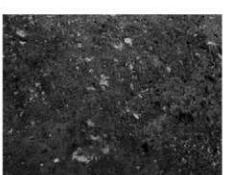
5　3号焼土　北から

6　3号焼土断面　西から

7　4号焼土西部　北から

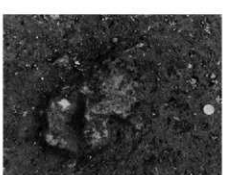
8　4号焼土東部　西から

9　4号焼土断面　東から



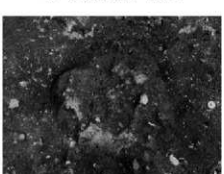
10　5号焼土　北から

11　5号焼土断面　西から



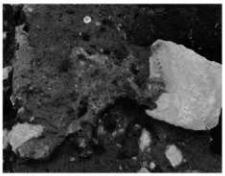
12　6号焼土　北から

13　6号焼土断面　北から



14　7号焼土　北から

15　7号焼土断面　西から



1　8号焼土　北から

2　8号焼土断面　西から

110図-1

110図-2

110図-3

110図-5

110図-6

110図-9

110図-10

110図-13

110図-15

111図-7

111図-9

111図-10

111図-13

111図-1

111図-14

111図-8

111図-11

111図-12

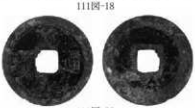
111図-15

111図-16

111図-17

111図-18

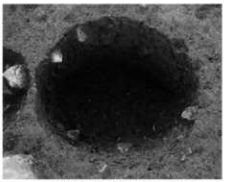
111図-19



111図-20

111図-21

3　第1～3面出土遺物


1　1号掘立柱建物Ｐ１　東から

2　1号掘立柱建物Ｐ１断面　南西から

3　1号掘立柱建物Ｐ２　東から

4　1号掘立柱建物Ｐ２断面　南西から

5　1号掘立柱建物Ｐ３　南から

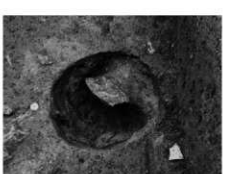
6　1号掘立柱建物Ｐ３断面　南から

7　1号掘立柱建物Ｐ４　南から

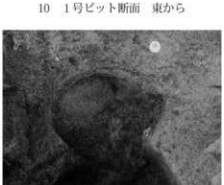
8　1号掘立柱建物Ｐ４断面　南から

9　1号ピット　東から

10　1号ピット断面　東から


11　6号ピット　西から

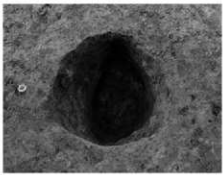
12　6号ピット断面　西から


13　7号ピット　東から

14　7号ピット断面　東から

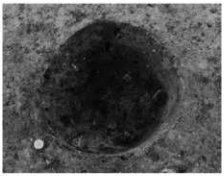
1　8号ピット断面　西から

2　9号ピット　南から



3　10号ピット　南から

4　10号ピット断面　南から

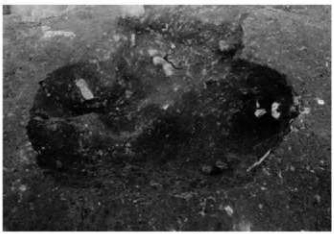


5　11号ピット　南から

6　11号ピット断面　南から

7　33号ピット断面　南西から

8　1区番号不明ピット　南から



9　1号土坑　南から

10　1号土坑断面　北から

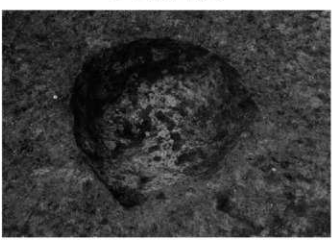
1　2号土坑　南から

2　2号土坑断面　南から

3　5号土坑断面　南から

4　7号土坑　南から

5　7号土坑断面　南から



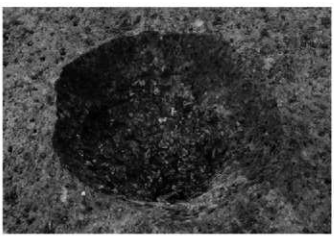
6　8号土坑　東から

7　8号土坑断面　東から

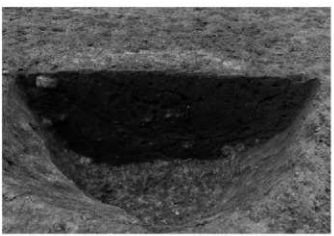
8　8号土坑遺物出土状況　西から

1　9号土坑　北から

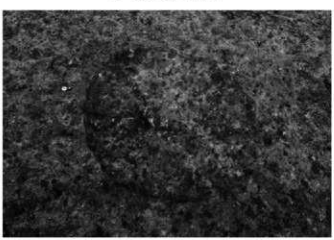
2　9号土坑断面　東から



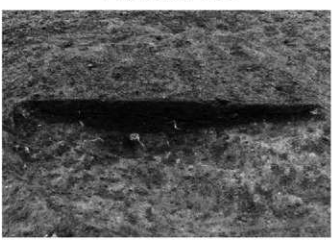
3　10号土坑　西から



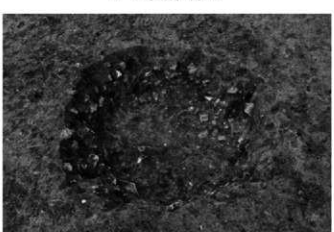
4　10号土坑断面　南から



5　11号土坑　南から

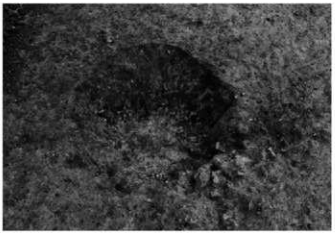


6　11号土坑断面　南から



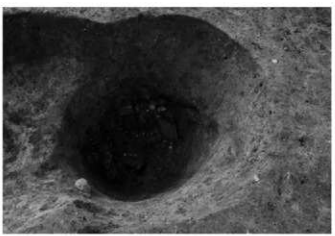
7　12号土坑　南西から

8　12号土坑断面　南西から



1　13号土坑　東から

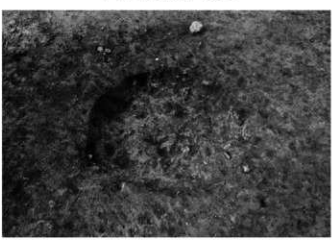
2　13号土坑断面　南西から



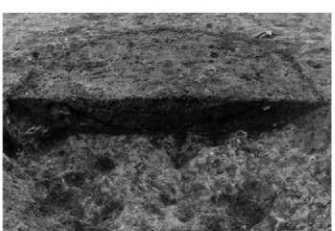
3　14号土坑　東から

4　14号土坑断面　東から

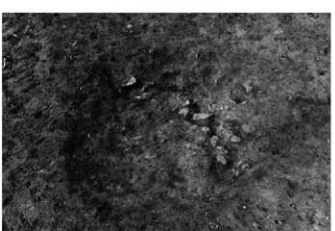
5　14号土坑遺物出土状況　東から



6　15号土坑　南から

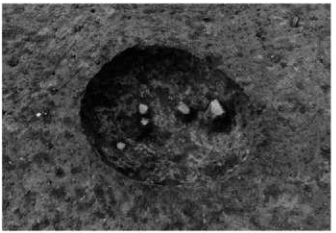


7　15号土坑断面　西から



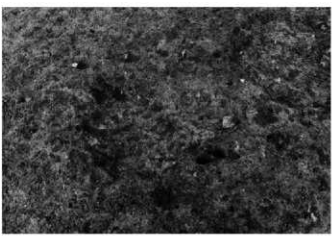
8　16号土坑　南から

1　16号土坑断面　南西から

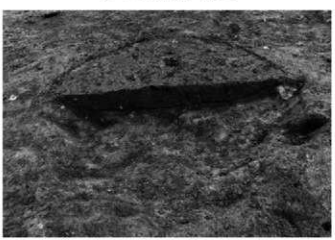


2　17号土坑　南から

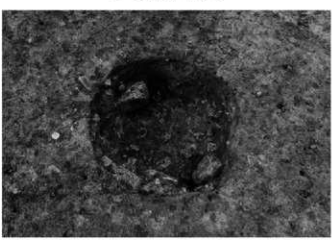
3　17号土坑断面　南から



4　18号土坑　西から

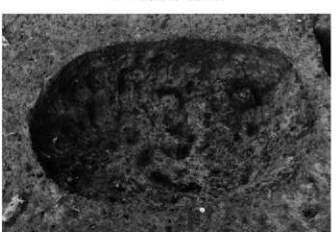


5　18号土坑断面　西から



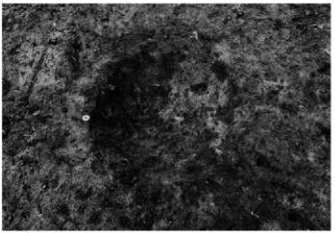
6　19号土坑　南から

7　19号土坑断面　南から



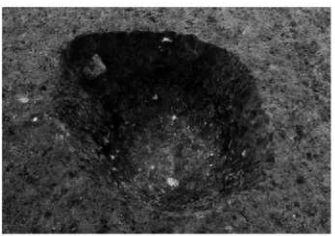
8　20号土坑　西から

1　20号土坑断面　南から



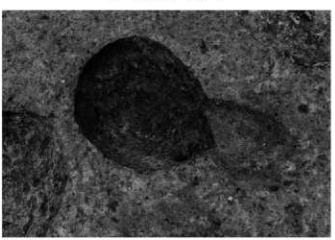
2　21号土坑　南から

3　21号土坑断面　南から



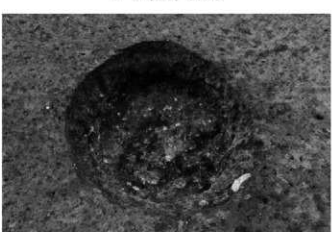
4　22号土坑　南から

5　22号土坑断面　南から



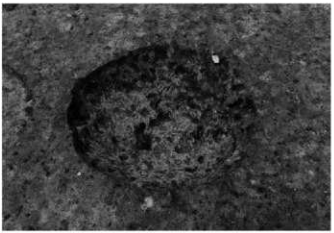
6　23号土坑　西から

7　23号土坑断面　南から



8　24号土坑　南から

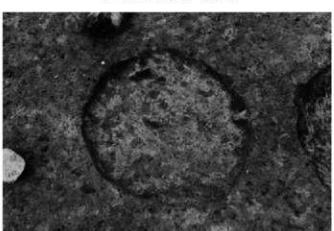
1　24号土坑断面　南から



2　25号土坑　西から

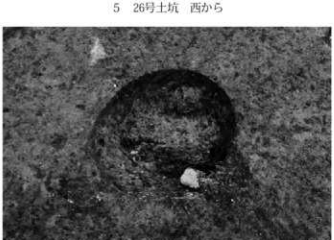
3　25号土坑断面　西から

4　25号土坑遺物出土状況　西から

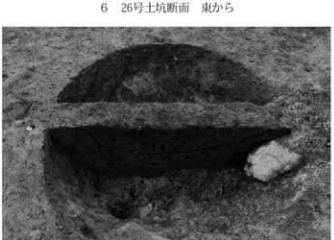


5　26号土坑　西から

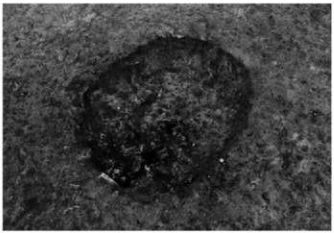
6　26号土坑断面　東から



7　27号土坑　北から

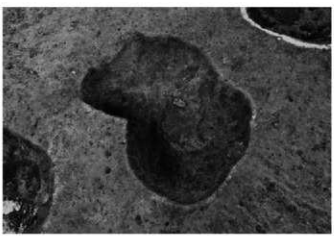


8　27号土坑断面　東から

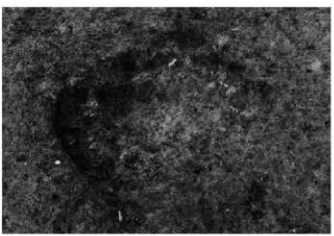


1　28号土坑　北から

2　28号土坑断面　南から

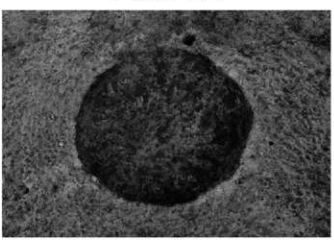


3　29号土坑　西から

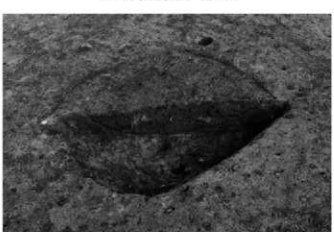


4　30号土坑　西から

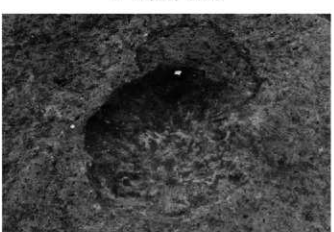
5　30号土坑断面　南から



6　31号土坑　西から



7　31号土坑断面　西から



8　32号土坑　南から

1　33号土坑　西から

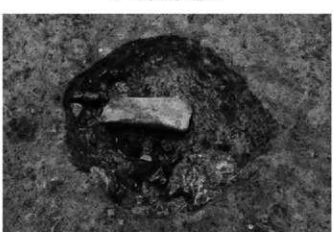
2　33号土坑断面　南から

3　33号土坑遺物出土状況　南から

4　34号土坑　西から

5　35号土坑　北から

6　35号土坑断面　北から

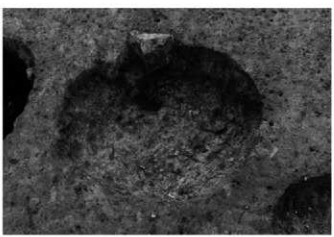


7　36号土坑　西から

8　36号土坑断面　北から

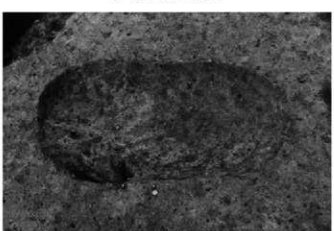
1　37号土坑　西から

2　37号土坑断面　南から



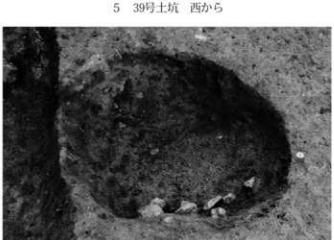
3　38号土坑　西から

4　38号土坑断面　南から

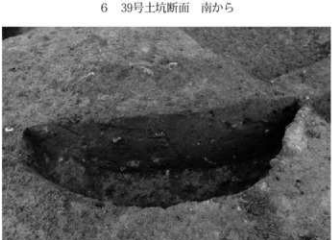


5　39号土坑　西から

6　39号土坑断面　南から



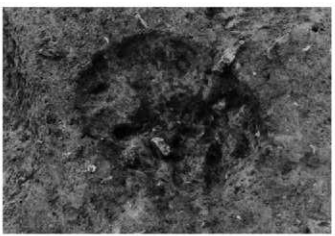
7　40号土坑　東から



8　40号土坑断面　西から

1　41号土坑　西から

2　41号土坑断面　西から



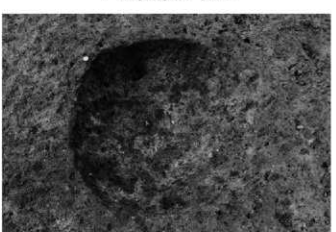
3　42号土坑　西から

4　42号土坑断面　西から

5　43号土坑　西から

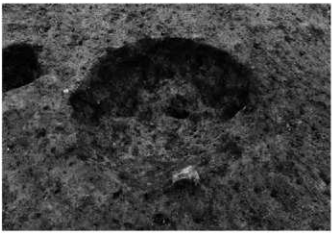
6　43号土坑断面　西から

7　44号土坑　南西から

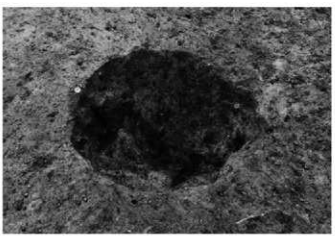


8　45号土坑　南から

1　45号土坑断面　南西から

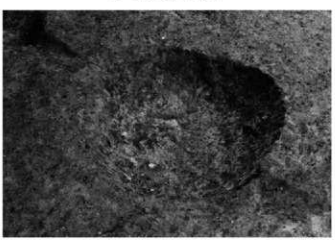


2　46号土坑　南から



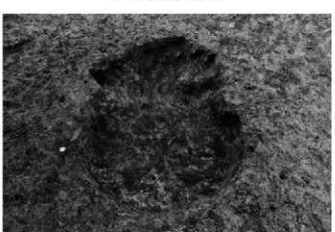
3　47号土坑　南から

4　47号土坑断面　南西から



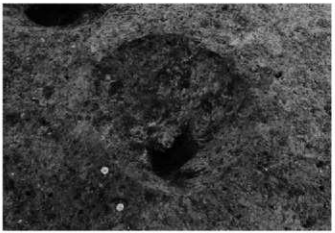
5　48号土坑　東から

6　48号土坑断面　南から



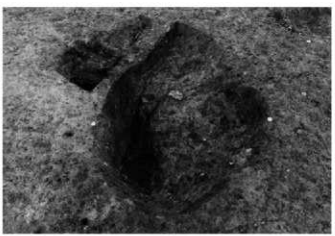
7　49号土坑　南西から

8　49号土坑断面　南から



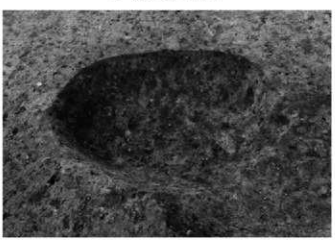
1　50号土坑　南から

2　50号土坑断面　西から



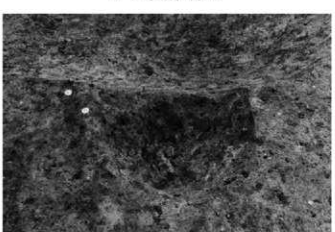
3　51号土坑　西から

4　51号土坑断面　東から



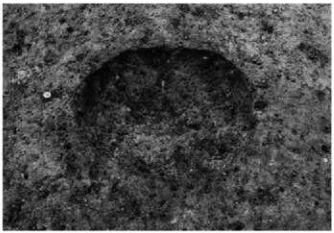
5　52号土坑　南から

6　52号土坑断面　南から

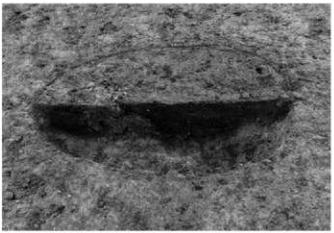


7　53号土坑　南から

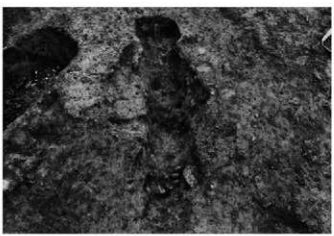
8　53号土坑断面　南から



1　54号土坑　南から

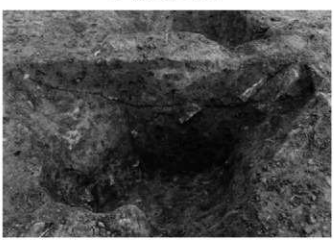


2　54号土坑断面　南から

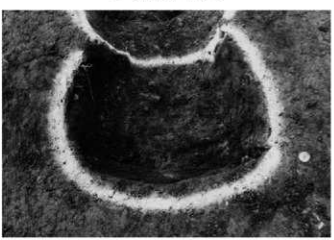


3　56号土坑　東から

4　57号土坑　西から



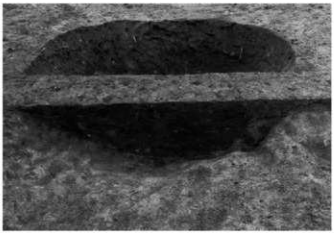
5　56・57号土坑断面　東から



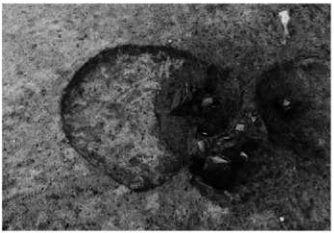
6　58号土坑　西から

7　58号土坑断面　西から

8　60号土坑　南から

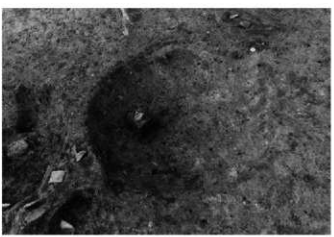


1　60号土坑断面　南から



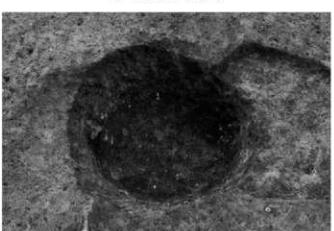
2　61号土坑　北から

3　61号土坑断面　東北から



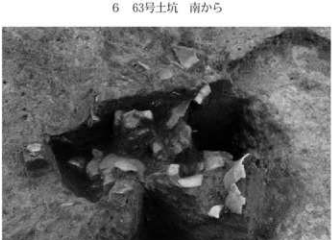
4　62号土坑　北から

5　62号土坑断面　東から



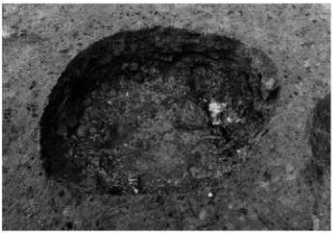
6　63号土坑　南から

7　63号土坑断面　南東から

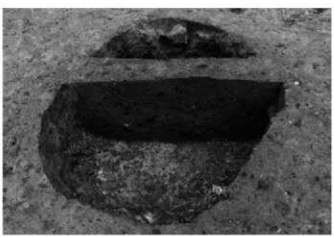


8　63号土坑遺物出土状況　南から

1　63号土坑遺物出土状況　南から

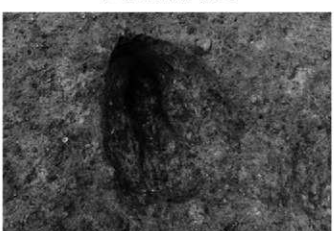


2　64号土坑　西から

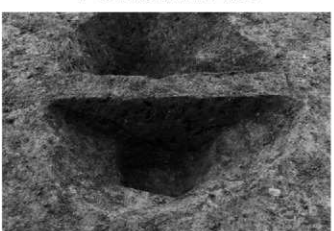


3　64号土坑断面　北から

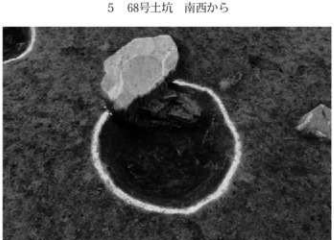
4　64号土坑遺物出土状況　東から



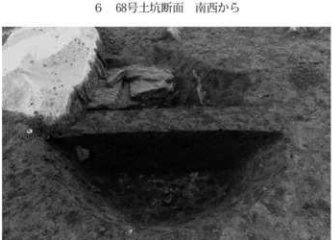
5　68号土坑　南西から



6　68号土坑断面　南西から



7　70号土坑　南から

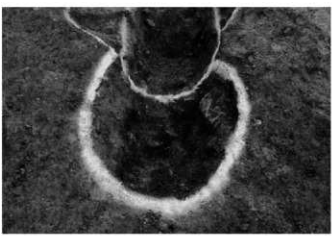


8　70号土坑断面　南から

1　71号土坑　北から

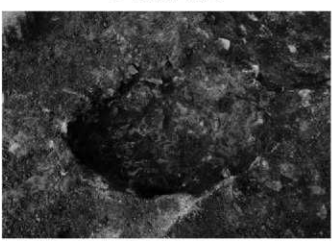
2　71号土坑断面　南西から

3　71号土坑礫出土状況　西から

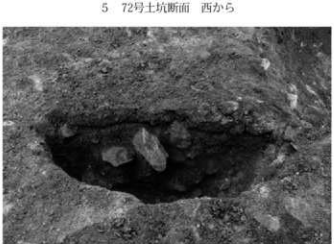


4　72号土坑　東から

5　72号土坑断面　西から



6　73号土坑　南西から



7　73号土坑断面　南から

8　74号土坑　西から

1　74号土坑断面　西から

2　75号土坑　西から

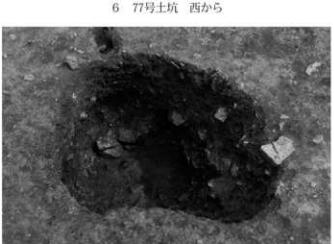
3　75号土坑断面　西から

4　76号土坑　西から

5　76号土坑断面　西から

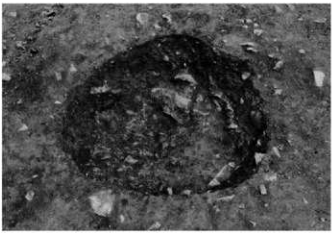
6　77号土坑　西から

7　77号土坑断面　西から



8　78号土坑　西から

1　78号土坑断面　西から

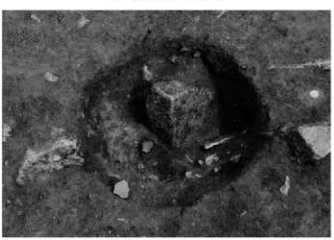


2　79号土坑　西から

3　79号土坑断面　西から

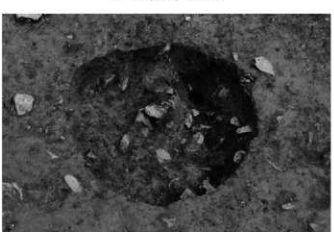
4　80号土坑　西から

5　80号土坑断面　西から



6　81号土坑　西から

7　81号土坑断面　西から

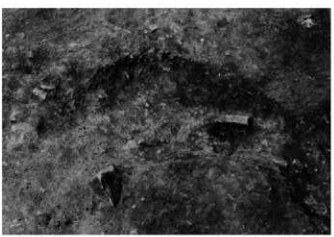


8　82号土坑　西から

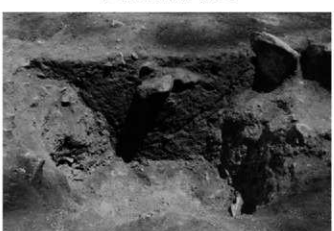
1　82号土坑断面　西から

2　83号土坑　西から

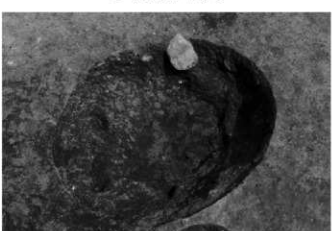
3　83号土坑断面　北から



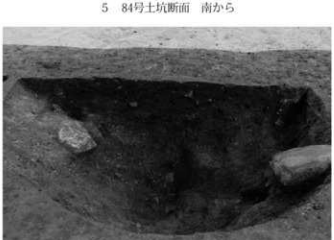
4　84号土坑　西から



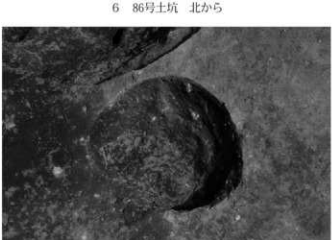
5　84号土坑断面　南から



6　86号土坑　北から

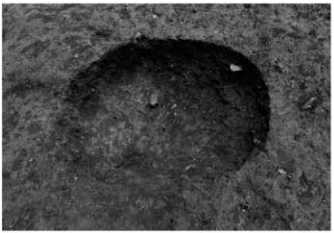


7　86号土坑断面　西から



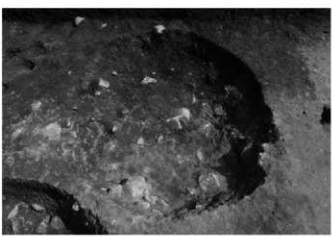
8　87号土坑　北から

1　87号土坑断面　西から

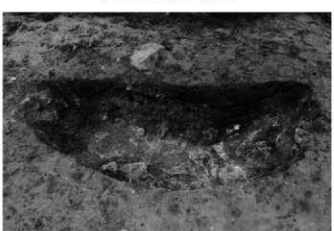


2　88号土坑　北から

3　88号土坑断面　西から

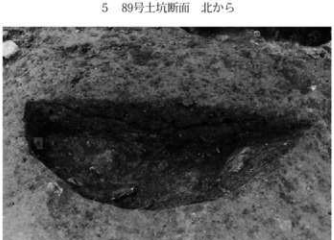


4　89号土坑　北から



5　89号土坑断面　北から

6　90号土坑　北から



7　90号土坑断面　北から

8　93号土坑　東から

1　93号土坑断面　東から

2　95号土坑　北から

3　95号土坑断面　東から

8坑1

8坑2

8坑3

8坑4

1坑1

12坑1

14坑1

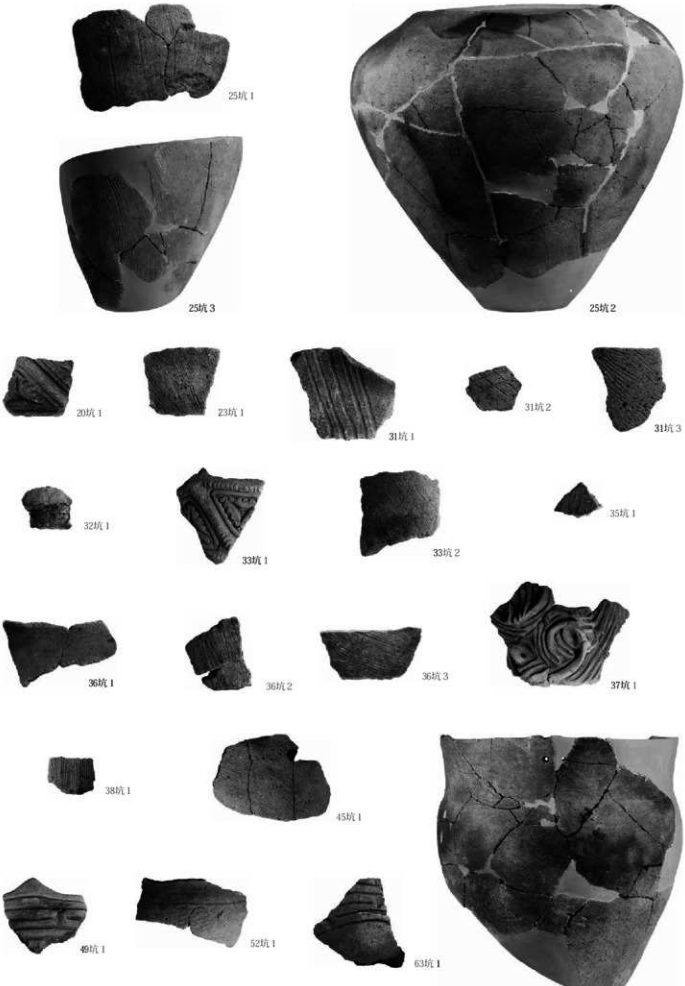
17坑1

17坑2

17坑3

17坑4

4　土坑出土遺物1


25坑 1
25坑 3
25坑 2
20坑 1
23坑 1
31坑 1
31坑 2
31坑 3
32坑 1
33坑 1
33坑 2
35坑 1
36坑 1
36坑 2
36坑 3
37坑 1
38坑 1
45坑 1
49坑 1
52坑 1
63坑 1
63坑 2

土坑出土遺物 2

63坑3

63坑4

63坑5

63坑6

63坑7

63坑8

63坑9

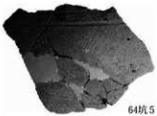
63坑10

64坑1

64坑2

64坑3

64坑4


64坑5

64坑6

64坑7

74坑1

77坑1

78坑1

78坑2

78坑3

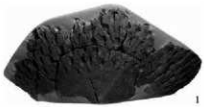
81坑1

81坑2

82坑1

82坑2

土坑出土遺物3


1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

遺構外出土遺物 1

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

53

52

51

56

54

55

遺構外出土遺物２

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	にしのうえいせき２
書　名	西ノ上遺跡（２）
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	64
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	651
編著者名	洞口正史・津島秀章・板垣泰之・石坂 茂・佐藤元彦・大西雅弘・竹原弘展
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20190215
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	にしのうえいせき
遺 跡 名	西ノ上遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらゆ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯
市町村コード	10424
遺跡番号	0212
北緯（世界測地系）	36.552
東経（世界測地系）	138.703
調査期間	20151001～20151231　20170301～20170331　20170401～20170630 20180109～20180117
調査面積	22,005㎡
調査原因	ダム建設
種　別	包蔵地／集落／墓／生産遺跡
主な時代	縄文・中近世
遺跡概要	集落-縄文－掘立柱建物２＋土坑82＋ピット23／包蔵地－縄文－土器＋石器－弥生－土器＋石器／生産遺跡－近世－畑33面＋復旧坑236＋平坦面12＋ヤックラ12＋道12＋溝１＋溝状遺構１＋石垣３＋炭窯２＋焼土遺構８＋陶磁器＋金属器＋石製品
要　　約	縄文時代から弥生時代中期の墓坑を含む土坑群、掘立柱建物、ピット、土器、土偶、石器。天明３（1783）年浅間山噴火に伴う泥流堆積物に覆われた畑、道、水路。中･近世の土坑、焼土遺構、炭窯など。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第651集

西ノ上遺跡（２）

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

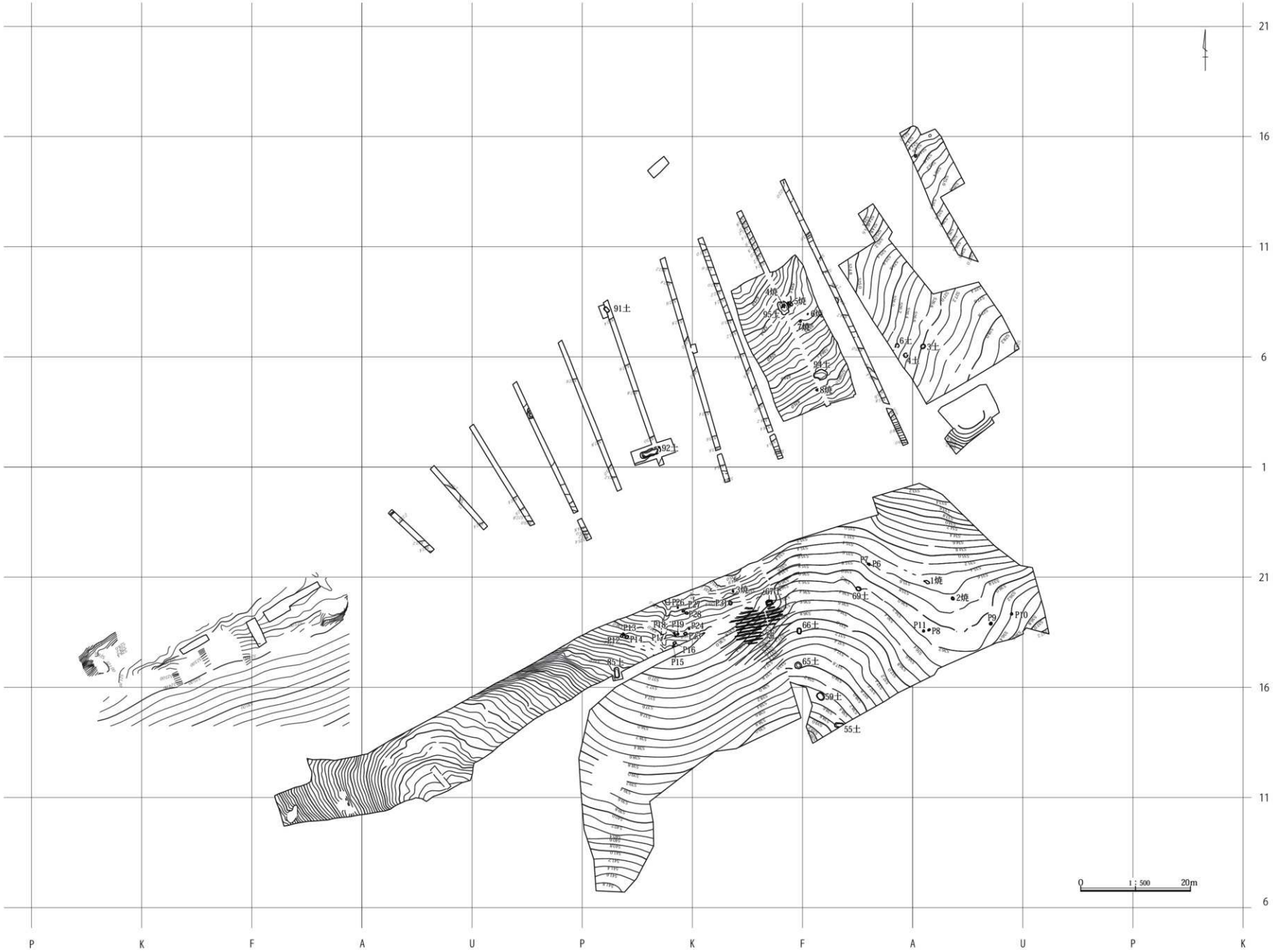
平成31(2019)年２月15日　印刷
平成31(2019)年２月15日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

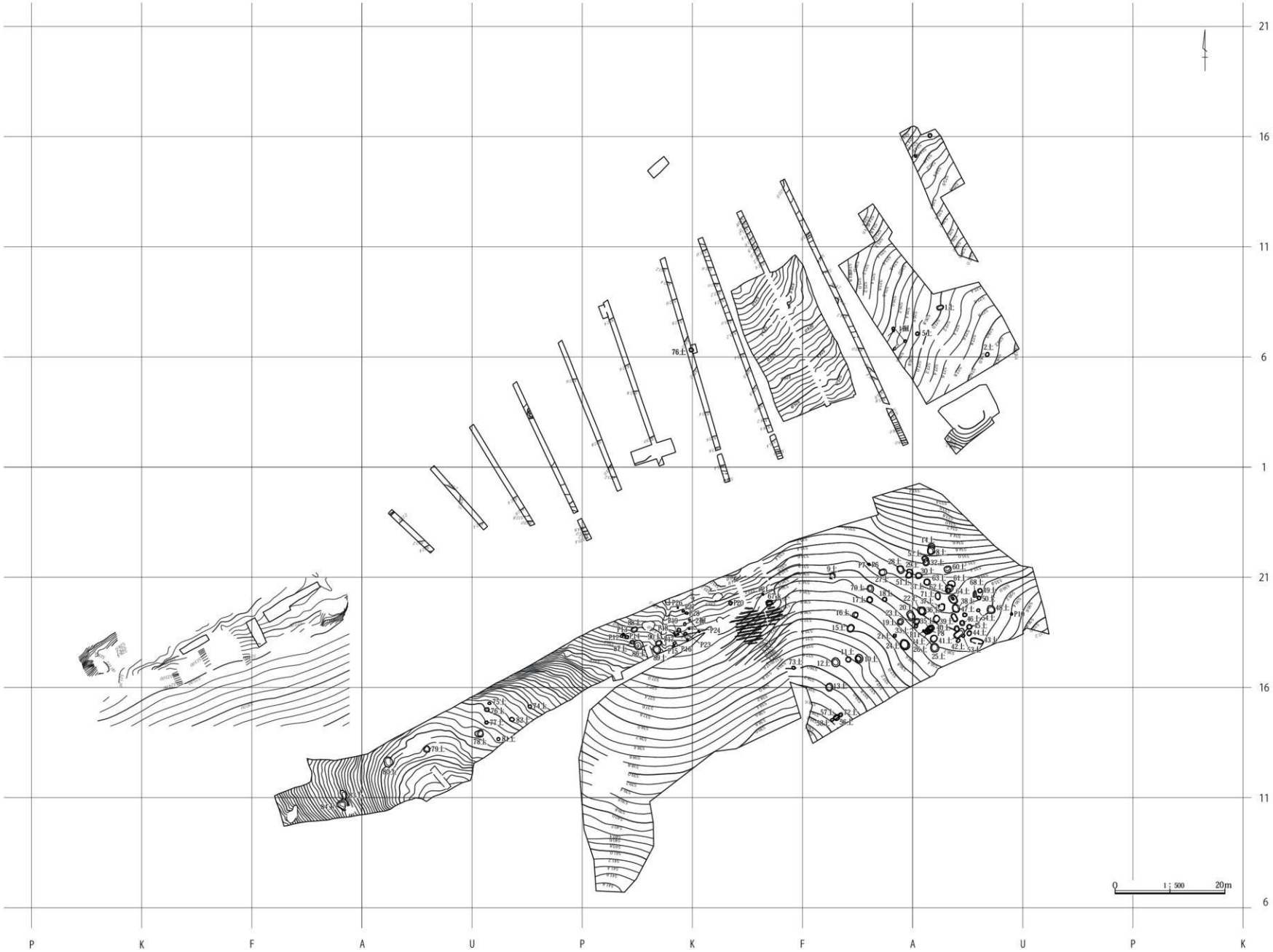
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／株式会社大塚カラー

付図１　西ノ上遺跡　第１・２面全体図



付図２　西ノ上遺跡　第３面全体図



付図３　西ノ上遺跡　第４面全体図